神谷茂著

アメリカ・ユダヤ人問題

國民評論社

序

支那事變勃發三ヶ月前の昭和十二年四月、私は偶々當時私に課せられた職務上の任務に關聯して、世界各國に於けるユダヤ人問題を系統的に調査研究すべく尨大なる計畫を立てた。昭和十三年に印刷に附された『防共獨・伊のユダヤ人問題』を最初として、その後全般的な問題に關する研究斷片を數次發表した。昭和十五年の春、大陸のユダヤ人問題現地調査のため中・北支、滿洲各地を視察した。

私はかねてからユダヤ人問題を單にユダヤ人のみの問題として他の一般的思想、文化、經濟乃至民族の諸問題から切り離して考察することを慊らず思つてゐた。そこで、大陸視察から歸來後間もなく出版した『協同史觀への志向』の一節に於て、世界史的見地から見たユダヤ人問題の妥當なる意義と地位とを規定しようと試みたのである。

ユダヤ人問題は、もはや單にヨーロッパに於ける特殊の民族鬪爭の問題ではなくなつた。

抗日支那の背後には英・佛・米・ソの魔手が動いてゐたことは早くから知られてゐたが、それら敵性諸國の利害關係の中には世界的、超國家的なユダヤ人の暗躍が織り込まれてゐたのである。これら背後の諸勢力は、支那事變の進展につれて次第にその假面を取つて表面に浮び上つて來たのである。

加ふにドイツ、イタリーの猛烈なるユダヤ人排斥による避難民の一部は、シベリヤ鐵道と南方航路によつて續々と滿洲、支那に渡來し、ユダヤ人問題は大陸の戰爭と建設に忙殺されつつあつたわが國にとつて、當面直接の現實問題として日程に上つて來たのである。

大東亞戰爭の勃發は、わが國に於けるユダヤ人問題の意義――同時にユダヤ人問題の世界史的意義――を決定的なものとなした。米・英はもはや背後の敵性國家ではなくて直接にして本源的な敵國である。英・米・ソを中心とする國際ユダヤ人に對する認識は、敵を知り敵を超克する上に於て必要不可缺の課題となつたのである。

今日ユダヤ人問題は、わが國民にとつては單なる客觀的對象であるばかりでなくて、また主體的に把握されなければならぬ直接の生きた對象となつてゐる。かくの如き緊要性にも拘

主體的に把握されなければならぬ直接の生きた對象となつてゐる。かくの如き顯現性に

らず、この問題はなほ一部智識層の間に於て極めて輕佛に考へられてゐる。それには別に積極的な根據があるわけではない。ただ既成の自由主義的見地とユダヤ人問題に對する無智とが支配してゐるといふだけのことであるやうに思はれる。

この問題に對する私の最初の計畫は到底その全部を實現することは出來さうもない。しかし、巷間すでに早くから各種の專門書が刊行されて居り、今後も續々と新しい研究が發表されるであらう。本書がそのために一つの捨石ともなるならば、私にとつては望外の仕合せであると云はなければならぬ。なほ本書中に誤記誤植等があれば讀者の御叱正をお願ひ致したいと思ふ。

昭和十七年盛夏

著者記

（附記）文中、ユダヤ人名及び團體名はイーディッシュ語――ドイツ語と各國語との混淆せる特

殊なるユダヤ語である――を使用したところが多いので、參考のために原語を挿入しておいた。發音については所によつて種々の違ひがあるが、本書に於ては文法的な發音によらず現地に於て呼稱されてゐるところに從つた。但し、慣用語として日本化されてゐるものはそれを使用した。

目次

第一章　アメリカ・ユダヤ人の歴史

第一節　アメリカ發見とスペイン領

アメリカのユダヤ人

アメリカ大陸に於けるユダヤ人の歴史は、アメリカが「新大陸」として世界文明の舞臺に登場した瞬間からはじまつた。卽ちそれはコロンブスのアメリカ發見にはじまつたのである。コロンブス自身はスペイン人であるが、彼の妻はユダヤ人であつた。コロンブスの母方はユダヤ系より出てゐるといふ說もあるが明瞭でない。

コロンブスは、先づポルトガルに於て彼の印度航行の計畫を立てたが、ポルトガルの Jaõa 王の顧問にしてユダヤ人であつたヴェチーノ（Vechino）がそれに反對したので、王の援助を得ることが出來なかつた。ポルトガルは當時アフリカ航路の確立による印度貿易獨占の計畫に熱中してゐたので、コロンブスの冒險を顧みなかつたのである。そこで彼はスペインに赴いたのであるが、そこではルイス・ド・サンダンゲル（Luis de Santangel）、ガブリエル・

サンチェズ（Gabriel Sanchez）、ジュアン・カブレロー（Juan Cabrero）等、スペイン王室に對して可なり影響力ある有力なユダヤ系の人々の斡旋によつて、遂にイサベラ女皇の援助を得てその大事業を遂成したのである。コロンブスの隨伴者中には多數のユダヤ人がゐたと見られてゐるが、その中の主だつたもの少くとも五名だけは確認されてゐる。卽ち通譯者ルイス・ド・トレス（Louis de Torres）、外科醫マルコ（Marco）、內科醫バーナル（Bernal）、アロンゾ・ド・カーレ（Allonzo de Calle）及び前記のガブリエル・サンチェズがそれである。そして第一にアメリカの土を踏んだヨーロツパ人は、實に通譯者たるユダヤ人ルイス・ド・トレスだつたのである。

新大陸の發見と共にユダヤ人は續々流入して來たが、特にこのアメリカ發見が、恰もスペインに於けるユダヤ人追放によつて三十萬のユダヤ人が世界各地に移住した時代に該當したので、アメリカへの流入も大規模であつたのである。

スペインのユダヤ人は、古代ローマ帝國の盛時から住んでゐたが、第七世紀頃にはすでにカトリック敎徒との間の宗敎上の紛爭が起つた。第八世紀の初葉にアラビヤのレーセンがス

ペインを征服したが、彼等はユダヤ人に對して宗教の自由と獨立裁判權を許容し、ただ人頭税を賦課するにとどめた。この回教支配の下に、ユダヤ人は市民として漸次勢力を獲得し、自由職業のみならず詩人、哲學者として頭角を顯はし、官吏として國家の顯職に就くものも多くなつた。

第十一世紀の末葉から十二世紀にかけて、スペインはゴート族の支配からキリスト教徒の勢力下に移つたが、當初は宗教的な迫害は見られなかつた。然るに支配を得たキリスト教徒は、その態勢を整へるや、遂にイスラム教を奉ずるムーア人及びユダヤ教を奉ずるユダヤ人に對して異教徒迫害を試みるに至つた。かうした封建制下の宗教的迫害の背後には、後に自由主義革命によつて遺憾なくその宗教的裝衣をかなぐり捨てた資本主義的利害の葛藤が隱れてゐたのである。少數民族たるユダヤ人の問題が、諸他の顯著なる宗教的諸分派の鬪爭と共に特に執拗な問題となつた所以は、ユダヤ教並にユダヤ人生活に於ける傳統的に强固なる暴利商業的、唯物的特性に基因するところ頗る大なるものがあるといふことが出來る。

一三九一年にセヴィラで起つた大虐殺事件は全スペインに波及し、ユダヤ人は身を以て國

外に逃亡し、或る者はキリスト敎に改宗した。この改宗者はマラノス（Marranos）と稱せられたが、その後長く假裝キリスト敎徒として疑はれた。スペインの異端糺問所（Inquisition）はローマのそれと共に有名であるが、それは一四七八年法皇シクスチュス四世の敎書によつて認められ、一四八〇年フェルチナンド王及びイサベラ女王によつてカスチラに初めて設置され、續いてスペインの屬領にも設けられた。一四八一年に、スペインの異端糺問所は遂にユダヤ人を拷問して僞キリスト敎徒也と判決し、多數のユダヤ人を炙殺の刑に處した。勿論イスラム敎徒たるムーア人もこの迫害を受けたのであるが、スペイン大審院長トーマス・ド・トーケマダ（Thomas de Torquemada）は、グラナダよりムーア人を追放し、次いで一四九二年には大藏大臣たるユダヤ人アブラバネル（Abrabanel）の反對を排してユダヤ人國外退去の勅令を布告せしめた。このため追放された三十萬のユダヤ人はモロツコ、イタリー、トルコ、ポルトガル等の近隣各地へ移住したが、そのうち多くのものが、またアメリカ大陸へ生活を求めて移住するに至つたのである。一五四一年にはスペインの屬領パレルモでもユダヤ人が處刑された。異端糺問所は異端者ばかりでなく、瀆神、重婚、その他の惡

徳をも裁判したので、風俗習慣の異るユダヤ人は單に宗教的な迫害といふ以上に人種的憎惡の感情からも排斥されたのである。

（註）スペインに於けるユダヤ人はヨーロッパのユダヤ人間に特殊な地位を占めるものであつて、彼等の家系は悉くユダヤ民族の最も高貴なる家族の後裔とされ、古くから貴族的意識を持つてゐた。彼等並にその子孫は、セファーディアム（Sepherdium）又はスパニオーレン（Spaniolen）と稱せられ、東部ヨーロッパのユダヤ人卽ちドイツ、ポーランド等のいはゆるアシュケナヂーム派（Ashkenazim）のユダヤ人に對して一種の優越意識を有してゐる。

「スペインに於けるユダヤ民族の歴史がをはるところに、アメリカに於けるユダヤ民族の歴史がはじまる。異端糺問所はピレネー半島に於けるユダヤ敎信仰告白の最後の章であり、西半球の大陸に於ける最初の章である」とカイザーリンク（M. Kayserling）は書いてゐる。スペインの追放によつて大量にアメリカへ流れ込んだユダヤ人等は、當初はここでも亦迫害と苦惱の生活を送らねばならなかつた。スペイン本國に於ける宗敎迫害の手はここにも延びて居た。新大陸では異端糺問の權利ははじめはメキシコやペルーへ派遣された僧侶に與へられてゐたが、一五七〇年にはじめて兩國に異端糺問所が設置された。さうした迫害にも拘ら

ずユダヤ人は大量に移住した。遂に十七世紀のはじめに至つて、スペイン王フイリップ三世は、反移民法を發布してムーア人及びユダヤ人が許可なくしてスペイン領アメリカへ移住することを禁止した。一六三〇年には多數のユダヤ人がペルーへ流れ込んだ。すでに十六世紀の終りにはチリー、アルゼンチン、カルタヂェナ及びラプラッタには夥しいユダヤ人が住んで居り、それらの地のキリスト教徒は次第に不滿を持つに至つた。當時の或る公文書によれば、ユダヤ人はこれらの王國のあらゆる商業を殆ど獨占的に支配するやうな地位にゐた。いはゆる「商人の街」はユダヤ人のみに歸屬してゐた。小商賣や運輸業等も彼等に獨占されてゐたのであつた。

第二節　アメリカに於けるポルトガル及オランダ植民地等のユダヤ人

スペインに於けるユダヤ人追放から數年の後、イサベラ皇后は後に彼女の女婿となつたポルトガルのマニュエル王に對して、ポルトガルの王國からユダヤ人を追放することを要請し

ルトガルのマニュエル王に對して、ポルトガルの王國からユダヤ人を追放することを要請した。王はスペイン王女と結婚することによつてスペインの全半島を支配しようと考へてゐたので、一四九七年遂にポルトガル王國からユダヤ人を驅逐した。但し、マニュエル王は四歳以上十二歳迄のユダヤ人の子供はその兩親の手から引取つて、王室の費用を以てキリスト教徒として養育することを命令した。これによつて數千の子供が强制的に洗禮を受けさせられた。そのために子供を殺して自分等も自殺する親が續出したといはれる。數千のユダヤ人が强制的に改宗せしめられて新キリスト教徒となつた。その他自發的な改宗者も續出した。しかし、これらの新キリスト教徒等はその後續々とポルトガルから去つた。國外移住者の數が餘りに太きくなつたので、遂に一四九九年に至つて、マニュエル王は今度は新キリスト教徒が許可なくして王國外へ移住することを禁止しなければならなかつた。二年後の一五〇一年にはリスボンで虐殺が起り、二千人以上のユダヤ人が炙殺せられたのでこの禁止令は一時緩和せられたが、一五二一年には再び效力を持つに至つた。一五五七年に卽位したセバスチヤン王は、代償を徵してマラノス（新キリスト教徒）に二十五萬の自由離國許可證を與へた。彼の在位

二十一年の間に、毎年二隻の船が犯罪人（主として宗敎的犯罪人）とユダヤ人とを滿載してブラジルへ向つた。マラノスとユダヤ敎ユダヤ人等は間もなく、すべてのポルトガル植民地へ移住した。そこで彼等は繁榮し、ユダヤ敎を恢復したのである。

「ポルトガル植民地に於けるユダヤ人の歴史は、ブラジルに於けるユダヤ人の歴史である」と『ユダヤ人アメリカに來る』の著者マッサーマンとベイカーは書いてゐる（註）。ブラジルは一四九九年、ポルトガル人が發見し、ポルトガル領となつたものである。ユダヤ人は早くから入り込んでゐたが、特にポルトガルの宗敎裁判のためにブラジルへ急速に移住した。スペインの植民地に反して、ポルトガル系のユダヤ敎信者はブラジルで處罰されないでリスボンの法廷に送られた。

一五八〇年ポルトガルがスペインの支配下に屬するやうになつてからも右のことは踏襲された。しかし宗敎的迫害は漸次增大した。ポルトガル系のユダヤ人は、一四九二年先づセント・トーマスに土着してこの地に砂糖工業を創始し、既に一五五〇年頃は同地の砂糖工業は甚だ殷盛となり、年々十五萬アローベン（一アローベンは二十五封度）の砂糖を產出する栽培地六十個所を有してゐた。彼等はアメリカ最初の大規模な植民地の所有者となり、その設立

地六十個所を有してゐた。彼等はアメリカ最初の大規模な植民地の所有者となり、その設立した多數の砂糖工場には三千名近くのニグロ奴隷が使用されてゐた。ここからか又はマディエラからか、ブラジルの砂糖工業は結局ユダヤ人によつて移植されたのである。

（註）"The Jews Come to America"—Masserman and Baker, New York, 1932.

ポーランドには一五九三年以前にはユダヤ人はゐなかつたが、フランス、スペイン、ポルトガル等に於けるユダヤ人壓迫の結果多數のものが移住するに至つた。彼等は間もなくオランダの商業や植民地貿易に勢力を得てオランダの隆昌に拍車を加へた。しかし、彼等は政治的經濟的に種々の拘束を受けてゐた。ユダヤ人は完全なる市民權を持たず、キリスト敎徒と結婚することが出來なかつた。彼等はまた小賣商や機械器具商等に從事することを禁ぜられてゐた。

一六二〇年頃から、オランダはブラジルに目をつけはじめた。一六二一年にはオランダ西印度會社が創設され、一六二四年にはオランダ艦隊がブラジル東岸のバヒア（Bahia）を占領したが同二五年再びポルトガルの手に奪還された。オランダが一六三一年に上部ブラジル

のレシフ（Recife）を確保した後、バヒア及びその他ブラジル各地のユダヤ人はここに流入し、バヒアに於て新世界最初のユダヤ人團が創設された。當初ブラジル人口の大部分はユダヤ人と犯罪人とであつたが、ユダヤ人は砂糖工業によつて巨富を築きブラジル最大の勢力者となつた。最初のブラジル總督はユダヤ人の祖先を持つてゐた。一六二九年頃には、該地のユダヤ人はキリスト教徒の二倍に達し、すべての商業は事實上ユダヤ人の手中にあつた。

一六五四年、遂にブラジルは完全にポルトガルの所領となつた。ポルトガルの總督は、ブラジルからユダヤ人の退去を命じた。ユダヤ人の中には郷里たるオランダのアムステルダムへ歸るものもあつたが、その大部分はアメリカに於ける他のオランダ植民地、イギリス植民地及び西印度諸島等へ移住した。一部のユダヤ人は更に北アメリカへ進出した。

アメリカに於ける英佛植民地に於てもユダヤ人は重要な役割をつとめてゐる。フランス植民地マルティニック（Martinique）、グァデループ（Guadeloupe）、サン・ドミンゴ（St. Domingo）に於ても、砂糖工業はその重要なる富源であるが、ユダヤ人はその砂糖工業並に砂糖貿易を支配してゐたのである。

第二章　北アメリカに於けるユダヤ人の歴史

第一節　合衆國獨立前

一六五四年、ブラジルを離れた二十三名のユダヤ人が、北アメリカのオランダ植民地に入らうとしてニューアムステルダム（現在のニューヨーク）に到着した。これより前にハドソン灣沿海植民地には富裕なユダヤ商人が在住してゐたとも云はれるが確定的ではない。當時ニューアムステルダムに於ては、インディアン、スウェーデン人、イギリス人等の間に紛爭があり、そこへ更にユダヤ人を入植せしめれば問題が一層面倒になると考へられてゐた。特にオランダ總督ピーター・ステュイヴサン（Peter Stuyvesant）はユダヤ人を好まなかつたので、彼はこの二十三人のユダヤ人の退去を要求した。そのことが未だ決しない中に他のユダヤ人等がオランダ本國から到着した。

これより先、ステュイヴサンはアムステルダムのオランダ西印度會社の重役に對してユダヤ人の處置について意見書を提出してゐたが、一六五五年四月二十六日附の重役よりの返書

に於て、「ユダヤ人はブラジルに於けるオランダの損害を輕減するために盡力し、且つオランダ西印度會社は巨額の資本を投下せる株主であるから、我々は次の決議をなした。………ユダヤ民族はニューネザーランド（北米オランダ植民地）に對しても、またその地に於ても旅行、交易をなし、生活を營むことが出來る。但し、彼等の中の貧困者が當會社或は社會に對して負擔を生ぜしめることなく、ユダヤ人自身の手で援助されることを必要とする」と述べられてゐる。これによつて、ステュイヴサンはユダヤ人の入國を許可するに至つたが、しかし、ユダヤ人が公職に就くこと及び小賣商業に從事することを禁止し、また彼等が自己の組織を持つことを禁じた。しかし、その禁令は次のやうな結びになつてゐた。「ユダヤ人は從前通り平穩に生業を營み、ニューアムステルダムの適當の場所に於てその住家を相接し、その家庭に於て平靜に自己の宗教に奉仕し得る……」。かくして北アメリカに於ける最初のゲットー（ユダヤ人街）が設定されたが、それはユダヤ人の立派な自治組織であつたのである。

小賣商業を禁ぜられたユダヤ人は海外貿易に向つて發展するに至り、この方面では彼等の不幸なる追放の歴史がもたらした幸運ともいふべき、世界各地特にヨーロッパのユダヤ人と

の連絡によつて、忽ち北アメリカの海外貿易を獨占して巨利を博したのである。またこれによつて、ニューヨークは遂にアメリカに於ける最大の貿易港となつたのである。

ユダヤ人等はこのニューアムステルダムを起點として、ロングアイランド、アルバニー、ロードアイランド、フィラデルフィア等北アメリカの諸地方へ擴がつて行つた。ユダヤ人は新植民地を經濟的に建設しようとして活潑なる活動を開始するに至つたのである。

一六六四年イギリス國王チャールズ二世の時代に、コロネル・ニコルス（Colonel Nicholls）の指揮する英國の艦隊はニューアムステルダムを占領した。爾來北アメリカの廣大な地域はイギリスの支配に屬することとなつたのである。その後一世紀の間ニューアムステルダムのユダヤ人は、イギリス國旗とヨーク公（Duke of York 後のゼームス二世）の下に臣事することになつた。はじめはキリスト敎徒との間に若干の問題があつたが、英領下に於けるユダヤ人は從前にも增して繁榮をつづけた。

革命（獨立戰爭）時代までは、ニューヨークのユダヤ人は、法律的には未だ充分とはいへなかつたが兎に角市民權を享有してゐた。ニューヨーク在住のユダヤ人は、前述のやうに、

大部分卸賣商人または貿易商人であつた。彼等は、その船舶をマディェラ、スペイン、インド、支那、アフリカ等々に送つた。西印度の貿易は殆ど全部彼等の手中にあつた。ルイス・ゴメッツ (Louis Gomez)、アブラハム・ド・ルシーナ (Abraham de Lucena)、ハイマン・レヴィ (Hyman Levy)、サンプソン・シムソン (Sampson Simson)、サミュエル・レヴィ(Samuel Levy)等は當時のニューヨークに於ける著名なユダヤ商人である。一七九二年に、ユダヤ人ベンジャミン・セイクサス(Benjamin Seixas)、エフレイム・ハルト(Ephraim Hart)の名はニューヨーク株式取引所の創立者のうちに見出され、デビッド・フランクス (David Franks)は佛印戰爭の間、北アメリカに於けるイギリス軍隊の委員であつた。しかし、ニューヨークに於けるユダヤ人口は餘り增加しなかつた。革命戰爭の直前にニューヨークにゐたユダヤ人は四百人を出でなかつたと云はれる。

しかるにニューヨークのユダヤ全人口は一七〇〇年の四千名から、一七七六年には二萬三千名に飛び上つてゐる(註)。この少數のユダヤ人が、ニューヨークのみならず、そこを通じて北アメリカ全體の經濟に於て重要なる役割を演じたのであつて、ゾムバルトもその著『ユ

ダヤ人と經濟生活』(Werner Sombart, "Die Juden und das Wirtschaftsleben" Leipzig, 1911.)の中で「合衆國をして今日あらしめたものは、北アメリカに於ける英國の植民地が四圍の事情にめぐまれて都合よく行つたため、遂に獨立存在を可能とするまでに有力となつたからである。………而してこの植民地がかくも大をなすに至つたについては、我々はユダヤ人が第一人者であり最も熱心なる事業の遂行者であつたことを知るのである」と書いてゐる。

（註） 一說によればワシントンの時代卽ち一七八〇年代にアメリカのユダヤ人口は四千人であつたといふ。その差が大きすぎるが、正確な標準がないので參考迄に附記しておく。

第二節　獨立革命時代のユダヤ人

獨立戰爭の革命に於て、ユダヤ人は可なり重要な役割を演じてゐる。ヨーロッパに於ける七年戰爭は舊大陸を極度の疲憊に陷れ、財政窮乏のイギリスはその植民地の收奪に拍車をかけた。これは獨立戰爭の近因となつたものである。十八世紀に於ける植民地獨立運動の重大

なる契機は、初期資本主義の特徴たる重商主義に基く本國政府の植民地收奪政策にあつたといふことが出來る。植民地は本國に對して本國に於て生産されざる物資を供給しなければならず、また本國の產業と競爭することについては勿論、外國との交易についても極度に本國の制約を受けた。更に植民地は本國の行政、軍事費を負擔せしめられてゐたのである。尤もこの本國の重商主義は當初に於ては植民地の産業發展に寄與するところもあつたのであつて、例へばイギリスはその必要とするカロライナの印度藍、ヴァージニアの煙草栽培、その他タール、ピッチ、大麻等の製造に奬勵金を與へてゐる。從つてこの方面に於けるユダヤ人の商業はイギリスの利害と一致してゐたのである。イギリスはその植民地に對して本國製品を強制的に購入せしめたので、植民地の貿易はつねに逆勘定となつて絶えず本國に向けて貨幣を流出しなければならなかつた。然るに北アメリカに於けるイギリス植民地のユダヤ人は、中南米特に西印度諸島やブラジルとの貿易によつて、その地方から産出する多量の貴金屬を獲得することによつて該植民地の貿易勘定を調整し、經濟の獨立を維持することに貢獻したのである。

しかし、ユダヤ人の經濟力が强大となるにつれてイギリスとの利害の喰違ひが增大するに至つた。アメリカに於ける帽子製造や毛織物の製造等はイギリス本國の當該產業を保護するといふ見地から種々の抑壓を受けた。鐵製品についても同樣である。通商貿易に對するイギリス本國の統制はアメリカ人特に商業民族であるユダヤ人には最も大きな苦痛となつた。一六五一年の航海條例はその後益々强化され、特に砂糖、煙草、棉花、印度藍、毛皮等をただイギリス本國に對してのみ輸出し得るといふ規定の如きは、この方面に於て特に多くの資本を動かしてゐたユダヤ人にとつて不利と感ぜられた。一七六四年の砂糖條例（Sugar Act）も亦イギリス本國とアメリカ植民地との利害の對立を激化した。

しかし合衆國獨立運動の眞の第一步ともいふべきは、一七六五年の印紙條例(Stamp Act)であらう。それはイギリス本國の植民地に對する租稅收奪の强化擴大であつた。これに對する同年のアメリカに於ける反對運動に於て"Non-Importations Resolutions"の署名者の中には九人のユダヤ人がゐた。一七七〇年の一層切迫した協定には六人のユダヤ人の名が見られる。かうした反對によつて一七六六年に印紙條例は撤回されまた砂糖條例も修正されたが、

イギリスと植民地との對立は激化する一方であつた、一七六七年にはタウンセンド藏相（C. Townsend）は、植民地の官吏の給費と防備費とを得んとして植民地に對して輸入税を課した。不平は愈々高まり、遂に一七七〇年には反對抑壓のためにボストンに派遣された軍隊は市民と衝突するに至つた。法律の改廢は頻繁に行はれたが、遂に危機を克服することは出來なかつた。そして戰爭が勃發した。かくて十三州の民衆はワシントンを戴いて起ち、一七七六年「獨立宣言書」を發布したのである。

獨立戰爭に於て、凡そ二十五名のユダヤ人がアメリカ大陸軍の軍人として戰つた。そのうち二十四名は將校で、四名は陸軍中佐、三名は少佐、少くとも十二名は大尉になつた。この戰爭で活躍したアメリカ・ユダヤ人の著名なるものは、就中デヴィッド・サリスバーグ・フランクス（David Salisburg Franks）、アイザック・フランクス（Isac Franks）、ソロモン・ブッシュ（Solomon Bush）、マニュエル・モルデカイ（Manuel Mordecai）、ハイム・サロモン（Hym Salomon）等である。マニュエル・モルデカイは十萬ドルの私財を、ハイム・サロモン（ポーランド生れ）は三十萬ドルを革命軍の財政に寄附してゐる。彼サロモンは革命

政府の戰時財政破綻の危機に際して自己の全財産を投じて公債に應募した。ゾムバルトによれば、北アメリカの諸植民地の國政が獨立し得るに至つたのは、唯これら二三の有力なるユダヤ商館の支持によつたものであつて、合衆國は戰時に於ける右のユダヤ人の物資供給並に必要なる資金の獻納によつてはじめてその獨立を計り得たのである。ゾムバルトはまた、ユダヤ人が近代資本主義國家の歷史に於て重要な役割をつとめたのは一般的な現象であつて、ひとり合衆國のみではないと付け加へてゐる。

この獨立戰爭の際、イギリスの軍人がニューヨークやニューポートに這入つて來たとき、ユダヤ人の大部分はフィラデルフィアに避難した。そして、そこで合衆國に於ける指導的なユダヤ人會議の一つを作つた。尤もその會員の大部分はポーランド系及びドイツ系のユダヤ人でいはゆるアシュケナヂーム派であつた。しかし革命後には多くのユダヤ人が再びニューヨークに歸つたので、フィラデルフィアのユダヤ人會議は急速に弱められた。會議の財政窮乏の結果、ユダヤ人のみならず非ユダヤ人からも救助を仰いだ。面白いことに當時ベンジャミン・フランクリンも五ポンドを寄附してゐる(註)。シェファーディアムとアシュケナヂー

ムとはしつくりと協同して行くことが出來なかつた。

（註）フランクリンは一七八九年の國會に於ける演説で、ユダヤ人の商業的、道德的惡德、その非同化主義、反キリスト教を攻擊し、ユダヤ人は「國中更に一つの國を作り、その一たび抵抗を受けるや、あらゆる手段を盡してその國を經濟的に滅さんとすることは、スペインやポルトガルの例に徵しても明かである」と云ひ、「ユダヤ人をわが憲法によつて排除せよ」と結んでゐる。

ニューヨークに歸來したユダヤ人は益々發展して行つた。彼等の或る者は多額の銀行預金や家財を所有するに至つた。一七九九年に於て二千ポンド以上の住宅を所有するニューヨーク人名簿の中には、ユダヤ人ベンジャミン・セイクサス、ソロモン・サンプソン、アレキサンダー・ツンツ（Alexander Zuntz）、エフレイム・ハルト等の名が見られる。毛皮貿易で大財産を作つたハイム・レヴイは、當時のニューヨークに於ける最も富裕なユダヤ商人の一人であつた。

ユダヤ人の本能はニューヨーク市をユダヤ商業上の樂園と感じたのである。同市は今やア

メリカ全輸出入の大貨物に對する課税の關門であつて、アメリカに於てなされた事業は、擧つてその資本家たるユダヤ人に朝貢する場所となつた、とヘンリー・フォードは書いてゐる("International Jews" 1920.)。ユダヤ人の大部分は富裕な貿易商であつた。彼等は決して事務的な職業にも農業にも從事せず、また製造工業勞働にも從事せず、ただ商人として製品の賣買に全力を傾注した。ユダヤ人が一般に生産に從事するやうになつたのはずつと後のことである。

第三節　アメリカ合衆國の創成と舊約の創世記

イギリスは一七八三年に至つて遂にアメリカの獨立を承認し、十三州の外にミシシッピ州以東の地をアメリカに讓渡した。アメリカは一七八七年に憲法を制定し、聯邦組織の共和政治、各州の自治、三權分立制度を實施した。第一次大統領にワシントンが選ばれ、首府をニ

ユーヨーク、次いでフィラデルフィア、最後にワシントンに定めた。北アメリカ植民地の獨立は近世自由主義運動の一大炬火となつた。イギリスはこれによつて重商主義の缺陷を覺り、その植民地政策に大轉換を來した。一七七六年アメリカ獨立の年にアダム・スミスの『富國論』が出版され、自由貿易主義の大口火を切るに至つたのである。アメリカの獨立がフランス革命に重大な影響を及ぼしたことは、すでに周知のことがらである。

獨立戰爭後の合衆國の成立について我々は次の如き興味あるユダヤ人の見解を見る。これは單に興味があるばかりでなく、また示唆に富む事柄である。

アメリカの著名な政治家でユダヤ人であるオスカー・シュトラウス・ソロモン（Oscar Straus Solomon, 1845—1926）は、「若し合衆國が共和國になつたとすればそれはヘブライの國家が表現した………民主主義共和國のモデルによつたものである」と書いてゐる。彼は合衆國のトルコ大使その他重要な地位に在つたことがあり、アメリカ・ユダヤ委員會の會員であつた。『ユダヤ人アメリカに來る』の兩著者は「アメリカ政府のヘブライ的起源」について次のやうに記してゐる。

アメリカに於けるユダヤ人は、個人的には長い間見下げられてゐたが、ユダヤ教そのものはアメリカ政府とデモクラシーの形成並に發展に於ける最も重要な要素の一つであつた。アメリカのデモクラシーは、ヨーロッパのキリスト敎國家でなく古代ヘブライ國家（Old Hebrew Commonwealth）の中にその敎師と敎訓者を見出した。アメリカの法律作成者達がアメリカの國家的基礎を築かねばならなくなつたとき、彼等は舊約聖書の中にその案内と敎示とを見出したのである。彼等は古代ヘブライ國家――士師記（Judges）の下に於けるヘブライ人の政府――の記事を讀み、この古代ヘブライの政府をアメリカの土地に移植しようとした。

ヘブライ國家は三つの部分から構成されてゐた。卽ち士師と呼ばれる選擧された長官（奉行）、サンケドリン（Sankedrin）として知られた七十人の長老會議、及び人民の總會がこれである。これはアメリカ政府の三つの部分、卽ち大統領、議會、聯邦大審院に照應する。

一六三七―三八年にマサチューセッツ（Massac usetts）のユダヤの被追放者等がニューポートサイド及びポーツマウスに植民地を見出したときに、彼等はコッディングトン（Coddington）氏を選擧して長官とし、「ユダヤ民族の間に長く存在してゐた政府の形態を模して」

士師の稱號を與へた。數ケ月後には三人の長老が彼の助力者として選ばれた。アメリカ政府の最初の形態は、明かに、そのあらゆる本質的な部分に於て、ユダヤの偉大な法律制定者モーゼの下にユダヤ人が組立てた政府の形態にならつて作られたものである。このアメリカの神權政體（Theocracy）は一六四三年から八四年まで四十一年間續いた。そして後日の十三州の聯邦の基礎となつた。

ユダヤ教と舊約とは單に政府の發展に對してのみでなく、またアメリカ民衆の生活と思想に對して極めて重要な意義をもつた。ニューイングランドの定住者等にとつては聖書は宗教に於ける案内者であり、政策に於ける教科書であつた。彼等は舊約を學び、それを實生活に適用した。彼等は彼等自身の困難と歷史とが、モーゼやヨシュアの下に於けるイスラエルの子等のそれに驚くべき類似を持つて居るのを知つた。彼等は自己の境遇を「エジプトの監禁」として特徵づけた。ジェームス一世は「ファラオ」と呼ばれた。大西洋とその危險とは「紅海」であると語られた。アメリカは彼等の「荒野」（Wilderness）であり、ワシントンとアダムスとは屢々彼等のモーゼやヨシュアに譬へられた。

清教徒等も新約よりは舊約の方を引證することが多かつた。彼等は自分達の子供に洗禮を施すのに、もはやキリスト敎聖者の名によつてでなく、ヘブライの豫言者やパトリアーチの名によつてした。ベンヂャミン、ダビッド、ヨナサン、ダニエル、アーロン、ヨシュア、イスラエル等が一般に男の子等の名となつた。女の子はラケル、レベッカ、エスターなどである。アメリカは、ヘブライ風にニュー・カナーン又はニュー・シオンと呼ばれた。

人々は舊約の精神だけでなく、文字をも採用した。ヘブライ語はアメリカ人の缺くべからざる敎養の資格とさへなつた。イギリスとの決裂の後はヘブライ語が英語の代用をなしたほどである。それは大學で敎授され、大臣等に理解された。

ピューリタンもユダヤ人と同樣に、安息日に料理や勞働をすることを禁じた。敎會ではシナゴークに於けると同樣に男女は別々に分離された。ピューリタニズムは舊約に關するプロテスタントのルネッサンスである。革命時代のアメリカは敎育設備を缺いてゐた。アメリカ人の敎養は敎會に於て作られた。敎會は學校であり、新聞紙であり、宗敎と政治に關する論議の中心であつた。そこで新時代を創成しつつあつた彼等は、舊約に於ける古代ユダヤの國

家からデモクラシーの精神を學んだのであつた。彼等は專制君主制に對して情熱的に戰つた。王の神權を說く理論を持つたヨーロッパは、彼等にとつては新しく建設されんとする初期の共和國に對する重要な障害物であり毒草であつた。民衆は根本的な屈服と柔順のこの奴隷的敎儀を非難して聖書の眞精神と眞の意義に反するものとなした。彼等はヘブライ國家の興亡を心に描いた。そしてサミュエルの警告と諫言を讀み、諸々の王の不正に對する豫言者等の言葉を讀んだ。

かくの如くして、アメリカ人の生活と政治の根はユダヤ敎の豐かな土壤の中におろされて行つた、——といふのである。

しかし、ベンジャミン・フランクリンはアメリカ國民に對して、この新生のアメリカ獨立國家を擁護せんがためにはユダヤ人を國外に追放しなければならぬと訴へ、「諸君にして、もし本憲法案に於てこのユダヤ民族を合衆國より排除しないならば、彼等は二百年を出でずしてわが國に群衆跳梁してこの國を支配するであらう。また彼等は我々アメリカ人がそのために血を流し、生命財産を擲つて獲得した自由を犧牲にし、我々が最善の理想を以て戰ひ取つ

たわが政體を忽ちにして變革するであらう」と云つてゐる。上記のユダヤ人著者の見解とフランクリンのそれとは矛盾するが、アメリカ人とユダヤ人との間のこの矛盾は、イギリスから解放されんとする當初の新大陸の植民者としては、その利害を共通にしてゐたために暴露されなかつたものである。獨立後の發展はアメリカの内的矛盾としての民族對立と階級對立とを漸次明かにしはじめたのである。

家からデモクラシーの精神を學んだのであつた。彼等は專制君主制に對して情熱的に戰つた。王の神權を說く理論を持つたヨーロッパは、彼等にとつては新しく建設されんとする初期の共和國に對する重要な障害物であり毒草であつた。民衆は根本的な屈服と柔順のこの奴隷的教儀を非難して聖書の眞精神と眞の意義に反するものとなした。彼等はヘブライ國家の興亡を心に描いた。そしてサミュエルの警告と諫言を讀み、諸々の王の不正に對する豫言者等の言葉を讀んだ。

かくの如くして、アメリカ人の生活と政治の根はユダヤ教の豐かな土壤の中におろされて行つた、——といふのである。

しかし、ベンジャミン・フランクリンはアメリカ國民に對して、この新生のアメリカ獨立國家を擁護せんがためにはユダヤ人を國外に追放しなければならぬと訴へ、「諸君にして、もし本憲法案に於てこのユダヤ民族を合衆國より排除しないならば、彼等は二百年を出でずしてわが國に群衆跳梁してこの國を支配するであらう。また彼等は我々アメリカ人がそのために血を流し、生命財產を擲つて獲得した自由を犧牲にし、我々が最善の理想を以て戰ひ取つ

たわが政體を忽ちにして變革するであらう」と云つてゐる。上記のユダヤ人著者の見解とフランクリンのそれとは矛盾するが、アメリカ人とユダヤ人との間のこの矛盾は、イギリスから解放されんとする當初の新大陸の植民者としては、その利害を共通にしてゐたために暴露されなかつたものである。獨立後の發展はアメリカの内的矛盾としての民族對立と階級對立とを漸次明かにしはじめたのである。

第三章　合衆國ユダヤ人の歴史

第一節　獨立革命後のユダヤ人

スペイン人、ポルトガル人のアメリカへの移住は、十六世紀の最後の十年間に始まつて十八世紀の最後の十年間迄續いた。即ちアメリカに於けるユダヤ人の歴史の最初の二百年間は殆どシェファーディック・ユダヤ人の歴史であつた。しかしその歴史は獨立戰爭を以て終つたのである。

革命後のユダヤ人は特に目立つた發展はしなかつたが、徐々に確固たる地盤を作つて行つた。合衆國成立の時代を通じて、ユダヤ人のアメリカへの流入は不斷に行はれた。舊世界の各國からの移民の中には必ず若干のユダヤ人が交つてゐた。合衆國の南部及び北部地方に於て、ユダヤ人は「農業植民者の間に於ける商業者の役割」を演じた。リッチモンドに於てもニューヨークに次ぐ發展を見た。しかし十三州中の他の諸州に於ては餘り發展を見なかつた。一八四〇年代には既にドイツ、ポーランドのユダヤ人が續々と合衆國に移住した。

ナポレオン戰爭後のヨーロッパには反セム主義が勃興した。「ウォーターローの戰はヨーロッパ・ユダヤ人にとつても亦ウォーターローであつた」（マッサー・マン）。メッテルニッヒと神聖同盟はユダヤ人を排斥し、その權利を剝奪したり制限したりした。ボヘミア、ポーランド、ドイツのユダヤ人は新大陸へ續々と避難し始めた。一八四〇年のルイ・ナポレオンの革命、特に一八四八年のパリー・コンミューンの革命の失敗と共にアメリカへのドイツ・ユダヤ人の移住の波が始まつた。この時代は又實にアメリカに於ける產業革命の時代であるといふことが出來る。

　アメリカは成長しつつあつた。領土と人口と科學文明は洪水のやうに增大した。新しい地帶が次第に聯邦の中に加はり、國境は徐々に太平洋とハドソン灣方面に擴がつた。一八〇三年にルイジアナがフランスからの買收によつてアメリカの領土となつた。ミシシッピ河を超えたスペイン領へも進出した。

　十九世紀の中葉迄にテキサスを獲得した。ケンタッキーは一七九二年に、四年後にはテネシーがステートとして認められた。一八一一年にはウェスト・フロリダが、その後間もなく

イースト・フロリダがスペインからの買收によつてアメリカ領土として宣言された。

合衆國に於ける人口がその領土の擴大と共に增加したことは云ふまでもない。しかし、アメリカ土人や既成移住民の增加は土地の增大には及びもつかなかつた。アメリカの領土の擴張は十九世紀の初葉から中期にかけてであつたが、その人口の著しい增大はむしろ中期以後のことである。その增加人員の大部分は新しい移住民である。世紀の初めには約四百萬であつたが中期には二千三百萬、その後は急激に增大した。舊大陸に於ける政治的不安や自由思想に對する抑壓、生活難等は新大陸の豐富なる資源に向けて移民の流れを發生せしめたのである。一八四八年カリフォルニアに於ける金礦の發見はこれに拍車をかけた。これらの移住民は合衆國に新しい民族と文化の多樣性を齎した。

この熱狂的な時代に、機械と科學と發見とが活動をはじめた。一八三四年ファラデーの電氣化學の等價量の法則が發表された。十年後にはモーズが電線の完成に成功した。印刷術と新聞雜誌の發展、動植物學上の發展、諸種の科學機關の設置、醫學特に外科手術の發展等々。大西洋には海底電線が敷かれた。種子と栽培法の改良による農業の發展、鐵道道路の建設に

よる交通運輸の發展等も隔世的なものがあつた。驚歎すべき産業上の發展は、これに照應した科學、文學、哲學、宗教等の發展改革と共に、やがてアメリカ合衆國自體に於ける近代自由主義革命卽ち南北戰爭を準備するものであつた。十九世紀の移住民はアメリカに巨大なる産業革命を齎し、近代資本主義の基礎を築いたのである。

ドイツ系ユダヤ人は、かかる時代にアメリカに到來し、この氣運に乘じて大いに發展すると共に、この氣運そのものをも大いに促進する力となつたのである。

はじめスペイン系のセファーディアムは、新來のドイツ系ユダヤ人を輕蔑してゐた。しかし、後者はやがて獨自のシナゴーグを作り勢力を増大すると共に、國際結婚によつてセファーディアムとの血液上の障壁とこれにまつはる貴族主義的な偏見を打破するに至つた。それはアメリカに於けるユダヤ敎の自由主義的改革をも意味するものといふことが出來る。ドイツ系ユダヤ人は西部地方に植民した。南部に流れ込み、北部に進出した。それはやがて北アメリカ合衆國の眞の統一革命とその後の發展に大きな役割を演ずるであらう。アメリカに於けるユダヤ人の歴史の第一期がスペイン系時代と云ひ得るなら、その第二期はまさにドイツ

系時代と名づけることが出來る。

第二節　南北戰爭と戰後のユダヤ人

アメリカ領土の大擴張と人口增加並に產業の發展は、ここに新たな全體の統一を必要且つ必然ならしめたが、それには種々の摩擦障害を克服しなければならなかつた。

獨立後の急激な發展によつて、合衆國は不斷に新しい土地、人種、文化等の多樣性を獲得し、そこに種々なる問題を惹起するに至つた。就中その最も重大なものは南部諸州と北部諸州との對立であつた。この對立は極めて根强いものであつて、ひとり南北戰爭といふ內部革命を勃發せしめたのみならず、我々が後に見るやうに第一次世界戰爭後に至つてもなほその明白な徵候を殘してゐるほどである。その經濟事情に於ても南北は著しく異り、北部は概して自由人を雇傭したが南部は奴隷（主として黑人）を使用してゐた。

獨立當時に於て北部には約四萬、南部のメリーランド、ヴァージニア、南北カロライナ、

ジョルヂヤには六十六萬の奴隷がゐた。北部は氣候や文化がヨーロッパに似て居り、移住者も多數で白人勞働者が多かつたし、その產業も商工業が主であつた。これに反して南部はその氣候白人の勞働に適せず、移民者數も少かつたので砂糖、棉花等の栽培には多數の黑人奴隷を使用するに至つたのである。政治的にも北部は共和黨、南部は民主黨が多く、相互に對立してゐたが、一八六〇年に至りかかる對立の極點に於て奴隷廢止論者リンカーンが大統領に選擧されるに及んで、南部十一州はユニオンから分離しようとして別個にアメリカ聯邦を組織して抗爭、遂に南北革命戰爭の勃發となつた。

ユダヤ人は元來その古代エジプトに於ける自己の奴隷的地位からの解放以來、一般に奴隷制には反對すべき傾向がありさうにも思はれるが、實際は必ずしもさうではなかつた。南米に於ける奴隷貿易等についても、ユダヤ人の活躍が顯著であることは見易き道理である。十七世紀のブラジルの砂糖工業に於てユダヤ人は多數のニグロ奴隷を使用してゐた。アフリカのニグロを奴隷として南米に輸入し、奴隷貿易によつて莫大な利益を得たものが主としてユダヤ人であつたことは、當時の商業が殆ど彼等の支配するところであつたことから容易に理

解されるところである。北米に於ても南部諸州のユダヤ人の多くは奴隷制度に同情的であり、自分でも奴隷を所有するものが多數存在した。農業特にユダヤ人が殆ど獨占せんとしつつあつた砂糖業には奴隷が澤山に使用された。

尤も南部のユダヤ人の中にも奴隷制反對者はゐた。「奴隷制反對アメリカ人及び外人協會」の報告（一八五三年）の中に、若干のユダヤ人が南部諸州に於ける「人間に對する財產權を拒否し南方人の奴隷所有をさへ拒否した」ことが見えてゐる。しかし、南部諸州の奴隷反對者は何もユダヤ人のみに限つたわけではないことをも注意しなければならない。第一、奴隷解放の戰は、勿論その中には大きな歷史的進化の意味が含まれてゐたことは云ふまでもないが、實際に於ては南部の貴族的、封建的支配に對する北部の近代資本主義的勢力の抗爭であつて、戰後南部のニグロが北部に於て近代賃銀奴隷として白人資本の收奪により從前にも增した苦しみに陷つたことを忘れてはならぬ。それは第一次世界戰爭後の經濟恐慌の時代に大衆的な血の鬪爭を惹起するに至つた。

この內亂の四十年も前から引きつづいてアメリカへ移住したドイツ系ユダヤ人の大部分は

奴隷制に反對してゐた。舊世界に於ける自由主義的諸運動は彼等の思想に强力な影響を及ぼしてゐた。彼等は熱烈なる共和黨の支持者となつた。一八六〇年にリンカーンによつて推薦された國民共和會委員のうちの二名モリッツ・ピナー（Moritz Pinner）、リューイス・ナフセイル・デムビッツ（Lewis Naphthale Dembitz）はユダヤ人であり、リンカーンの友人にもユダヤ人がゐた。リンカーン自身はユダヤ系フリー・メーソンの高級員であつたといはれてゐる。

奴隷廢止の戰爭に於て、ユダヤ人は財政、政治、宣傳等に可なり活動したが、直接戰鬪に參加したものも多かつた。合衆國のユダヤ人は、新たなる移住によつて一八四八年から一八六〇年の間に約十萬人增加した。この十二年間に特にドイツ系ユダヤ人はその數を著しく增加した。一八四〇年には合衆國には一萬五千名位のユダヤ人がゐたのみであるが、一八四七年には五萬に、一八六〇年（南北戰爭の開始時代）には實に十五萬近くのユダヤ人が存在したのである。

南北戰爭に軍人として參加したユダヤ人の數は明確ではないが、聯合軍（北軍）に一萬二

千、南方軍に一萬乃至一萬二千と見積られてゐる。或は北軍に從軍せるもの六千、南軍四千位にすぎなかつたともいふ。

一八六五年遂に南軍破れ、南北は統一された。これより二年前の一月一日リンカーンは有名な奴隷解放の宣言を布告し、同月三十一日合衆國憲法は「奴隷制度或は意志に反する使役の如何なるものも、合衆國内に存在すべからず」と修正されたが、戰爭の結果これは實現された。

戰爭終了後の十五年間卽ち一八六五―八〇年の間に合衆國のドイツ系ユダヤ人は合衆國の繁榮と共に異常の進歩を來した。新しい經濟と文化がもたらされた。寺院、シナゴーグ、協會、その他の設備、學校、ホーム等が創設され、ユダヤ人の子弟も多く大學に學んだ。

しかし、この期間にドイツからの移民は著しく減退した。それはドイツに於ける有利な事情がユダヤ人の海外移住を不必要としたからである。卽ち普佛戰爭に續いてプロシヤのヘゲモニーの下にあつたドイツ諸國は經濟、文化に未曾有の繁榮を來し、法律は一段と自由になり、ユダヤ人憎惡も減少した。ユダヤ人は、財政、產業、藝術等に於てすぐれた地位を占め

るに至つたのである。

合衆國に於けるドイツ系ユダヤ人の繁榮にも拘らず、新しいドイツ系ユダヤ人の移入の減少といふ特種な事情の下に、その後驚くべき大量のロシヤ系ユダヤ人がアメリカへ移住したことによつて、ここにアメリカ・ユダヤ人の新しき段階卽ちロシヤ系ユダヤ人の時代がはじまつたのである。

第三節　アメリカに於けるロシヤ系ユダヤ人

第一項　東部ヨーロッパのユダヤ人排斥とアメリカへの移住民

ロシヤ及びオーストリーのユダヤ人は以前から少しづつ流入してゐた。一八七〇年には合衆國のロシヤ系ユダヤ人は約五千名ゐた。一八八〇年頃には約五萬位になつた。それは全合衆國ユダヤ人口の五分の一である。當時ニューヨークには八萬のユダヤ人が住んでゐた。

一八八一年には、ロシヤ系ユダヤ人のアメリカへの移住の波の高調に於て、實に二百萬以上のものがなだれ込んで來たのである。これは合衆國に於ける先住ユダヤ人をその生活脅威の嵐の中へ捲き込むに足るものであつた。

ロシヤに於ては、その中興の英主ペートル大帝が智識を廣く世界に求め、ヨーロッパの文明を輸入すると共に、十五世紀中葉以來禁ぜられてゐたユダヤ人のロシヤ移住を再び許可するに至つた。その後、エリザベトはまたユダヤ人を追放（一七四三年）したが、カタリナ第二世に至つて三たび移住を許可した。一八〇五年以來ロシヤのユダヤ人は營業の自由を與へられ、高等の學府に入學することを許された。またユダヤ人自身の學校を經營することも許可せられた。ロシヤ政府は更にカウカサス及びジョルジヤ地方と同じくニコラエフにユダヤ植民地を設置することを許可したが、ニコラス一世は再びユダヤ移植民の自由に制限を加へた。

アレキサンダー二世（一八五五—一八八一）はユダヤ人の地位の向上につとめたが、彼の時代はロシヤの近代化への巨歩を踏み出した時代である。卽ち、一八六一年には農奴が解放された。尤もこの解放はまだ不完全なものであつて、農民に對する課税も苛酷であつた。

一八八一年、アレキサンダー二世は一虛無黨員の手で暗殺された。それと共にロシヤに於けるユダヤ人の「黃金時代」も去つたのである。宗教的對立が再び猛烈な鬪爭を開始した。爾來二十數年にわたる大ロシヤの「ポグロム」(pogrom. ユダヤ人狩り)、は、歷史上餘りに有名であるから私はここにその詳細を記述する必要を認めぬほどである。必要者はいつでも先づ辭書によつて、次いであらゆる種類の專門書によつて、容易にこれを知ることが出來るであらう。實に、「ロシヤ・ユダヤ人の三分の一は追放し、三分の一はキリスト教に改宗せしめ、三分の一は殺すこと」がアレキサンダー三世の對ユダヤ人政策であつたと云はれてゐるのである。

十九世紀に於けるロシヤ系ユダヤ人の合衆國への洪水の如き流入に比すれば、十七・八世紀のスペイン系及びドイツ系ユダヤ人の移住の如きは、一寸した夕立の雨量位に過ぎない。ロシヤ系ユダヤ人の移住と共にオーストリー・ハンガリー、ルーマニア、ドイツ等の東部ヨーロッパのユダヤ人も續々移入したが、それもロシヤ系ユダヤ人に比しては餘りに大きな懸隔がある。

今、これを諸種の統計によつて示さう。（數字は、すべて既掲 "The Jews Come to America" による）

（一）合衆國へのユダヤ移住民（自一八八一年 至一九一〇年）

年次	ロシヤ	オーストリー・ハンガリー	ルーマニア	英領大ブリテン北アメリカ	ドイツ	トルコ	フランス	その他	合計
一八八一	三、一二五	二、五三七	三〇						五、六九二
一八八二	一〇、四八九	二、六四八	六五						一三、二〇二
一八八三	六、一四四	二、五一〇	一七						八、七三一
一八八四	七、八六七	三、三四〇	二三八						一一、四四五
一八八五	一〇、六四八	三、九三八	八〇三		一、四七三		—		一六、八六二
一八八六	一四、〇九二	五、三二六	五一八		九八三			二五四	二一、一七三
一八八七	二三、一〇三	六、八九八	二、〇六三		七八〇			二〇〇	三三、〇四四
一八八八	二〇、二一六	五、九八五	一、六五三		七二七			三〇〇	二八、八八一
一八八九	一八、三三八	四、九九八	一、〇五八		七五八			二〇〇	二五、三五二
一八九〇	二〇、九八一	六、四三九	四六二		六三三			一二四	二八、六三九
一八九一	四三、四五七	五、八九〇	八五四		六三六			五六一	五一、三九八

一八九二	六四、二五二	八、六四三	七四〇			一、七八七			九五〇	七六、三七三
一八九三	三五、一六一	六、三六三	五五五			一、八二四			一、四二九	三五、三三三
一八九四	二〇、七四三	五、九一六	六一六			一、一〇九			七九一	二九、一七九
一八九五	一六、七二七	六、〇四七	五一八			一、〇二八			一、八七一	二六、一九一
一八九六	二〇、一六八	九、八三一	七四四			八二九			一、二七六	三二、八四八
一八九七	一三、〇六三	五、六七二	五一六			五八六			五三五	二〇、三七二
一八九八	一四、九四九	七、三六七	七二〇			二九六			三三二	二三、六五四
一八九九	二四、二七五	一一、〇七一	一、三四三	一七四	五	四〇五	八一	九	五二	三七、四一五
一九〇〇	三七、〇一一	一六、九二〇	六、一八三	一三三		三三七	一一四	一七	四九	六〇、七六四
一九〇一	三七、六六〇	一三、〇〇六	六、八二七	一一〇		二七二	一五四	二〇	四九	五八、〇九八
一九〇二	三七、八四六	一二、四八四	六、五八九	五五		一八二	一三八	九	二二	五七、六八八
一九〇三	四七、六八九	一八、七五九	八、五六二	四三〇		四七七	二二一	一一	七四	七六、二〇三
一九〇四	七七、五四四	二〇、二一一	六、四四六	八一七	八	六六九	三一三	三三	一九六	一〇六、二三六
一九〇五	九二、三八八	一七、三五二	三、八五四	一四、二九九	一一	七三四	一七三	三三七	七七二	一二九、九一〇
一九〇六	一二五、二三四	一四、八八四	三、八七二	六、一一三	四二九	九七九	四六一	四七九	一、二九七	一五三、七四八

一九〇七	一一四、九三七	一八、八八五	三、六〇五	七、〇三三	一、八一八	七三四	九一八	三〇六	九五二	一四九、一八二
一九〇八	七一、九七八	一五、二九三	四、四五五	六、二六〇	二、三九三	八六九	六三五	四二五	一、〇七九	一〇三、三八七
一九〇九	三九、一五〇	八、四三一	一、三九〇	三、三八五	二、七八〇	六五二	六九〇	三二五	七四八	五七、五五一
一九一〇	五九、八二四	一三、一四二	一、七〇一	四、〇九八	二、二六三	七〇五	一、三八八	三三九	八〇一	八四、二六〇
總計	一、一二九、〇五九	二二一、一五〇	六七、〇五七	四二、八九六	九、七〇六	二〇、四五四	五、二七六	二、二二九	一四、九〇三	一、五六二、八〇〇

（二）ロシヤ移民總數とロシヤ系ユダヤ移民（自一八八一年 至一九一〇年）

年次	移民總數	ユダヤ移民	百分比
一八八一	五、〇四一	三、一二五	六一・六
一八八二	一六、九一八	一〇、四八九	六一・五
一八八三	九、九〇九	六、一四四	六〇・九
一八八四	一二、六八九	七、八六七	六〇・〇
一八八五	一七、一五八	一〇、六四八	六二・〇
一八八六	一七、八〇〇	一四、〇九二	七九・二
一八八七	三〇、七七六	二三、一〇二	七五・一
一八八八	三三、四八七	二〇、三一六	六〇・四

一八八九	三三、九一六	一八、三三八	五四・一
一八九〇	三五、五九八	二〇、九八一	五八・九
一八九一	四七、四二六	四三、四五七	九一・六
一八九二	八一、五一一	六四、二五三	七八・八
一八九三	四二、三一〇	二五、一六一	五九・五
一八九四	三九、二七八	二〇、七四七	五二・八
一八九五	三九、九〇七	一六、七二七	三四・二
一八九六	五一、四三五	二〇、一六八	三九・二
一八九七	二五、八一六	一三、〇六五	五〇・六
一八九八	二九、八二八	一四、九四九	五〇・一
一八九九	六〇、九八二	二四、二七五	三九・八
一九〇〇	九〇、七八七	三七、〇一一	四〇・八
一九〇一	八五、二五七	三七、六六〇	四四・二
一九〇二	一〇七、三四七	三七、八四六	三五・三
一九〇三	一三六、〇九三	四七、六八九	三五・〇
一九〇四	一四五、一四一	七七、五四四	五三・四

一九〇五	一八四、八九七	九二、三八八	五〇・〇
一九〇六	二一五、六六五	一二五、二五四	五八・一
一九〇七	二五八、九四三	一一四、九三二	四四・四
一九〇八	一五六、七一一	七一、九七八	四五・九
一九〇九	一二〇、四六〇	三九、一五〇	三二・五
一九一〇	一八六、七九二	五九、八二四	三二・一
總計	二、三一五、八六八	一、一一九、〇五九	四八・三

(三) 合衆國への總移民とユダヤ移民との比較 (自一八八一年 至一九一〇年)

年次	總移民	ユダヤ移民	百分比
一八八一	六六九、四三一	五、六九二	九
一八八二	七八八、九九二	一三、二〇二	一・七
一八八三	六〇三、三二二	八、七三一	一・四
一八八四	五一八、五九二	一一、四四五	二・二
一八八五	三九五、三四六	一六、八六二	四・三
一八八六	三三四、二〇三	二一、一七三	六・三

一八八七	四九〇、一〇九	三三、〇四四	六・七
一八八八	五四六、八八九	二八、八八一	五・三
一八八九	四四四、四二七	二五、三五二	五・七
一八九〇	四五五、三〇二	二八、六三九	六・三
一八九一	五六〇、三一九	五一、三九八	九・二
一八九二	五七九、六六三	七六、三七三	一三・二
一八九三	四三九、七三〇	三五、三二二	八・〇
一八九四	二八五、六三一	二九、一七九	一〇・二
一八九五	二五八、五三六	二六、一九一	一〇・一
一八九六	三四三、二六七	三二、八四八	九・六
一八九七	二三〇、八三二	二〇、三七二	八・八
一八九八	二二九、二九九	二三、六五四	一〇・七
一八九九	三一一、七一五	三七、四一五	一二・〇
一九〇〇	四四八、五七二	六〇、七六四	一三・五
一九〇一	四八七、九一八	五八、〇九八	一二・一

一九〇二	六四八、七四三	四七、六八八	一二・一
一九〇三	八五七、〇四六	七六、二〇三	八・九
一九〇四	八一二、八七〇	一〇六、二三六	一一・八
一九〇五	一、〇二六、四九九	一二九、九一〇	一二・六
一九〇六	一、一〇〇、七三五	一五三、七四八	一三・四
一九〇七	一、二八五、三四九	一四九、一八二	一一・六
一九〇八	七八二、八七〇	一〇三、三八七	一三・二
一九〇九	七五一、七八六	五七、五五一	七・七
一九一〇	一、〇四一、五七〇	八四、二六〇	八・一
總計	一七、七二九、五六三	一、五六二、八〇〇	八・八

以上の數字について私は玆に特別な說明を加へることをしない。我々は、唯いかにこの年代に於けるロシヤ系ユダヤ人の合衆國への移住が、他の諸國からのそれに比して壓倒的に多數であるかを知れば足りるであらう。

なほ、ついで乍ら統計が存在するままにオーストリー・ハンガリー及びルーマニアからのユダヤ人の合衆國への移住狀況をも一覽して置かう。

（四）　オーストリー・ハンガリーからのユダヤ移民　（自一八八一年 至一九一〇年）

年次	ユダヤ移民	總移民との百分比
一八八一	二、五三七	九
一八八二	二、六四八	九
一八八三	二、五一〇	九
一八八四	三、三四〇	一・二
一八八五	三、九三八	一・四
一八八六	五、三二六	一・九
一八八七	六、八九八	二・四
一八八八	五、九八五	二・一
一八八九	四、九九八	一・八
一八九〇	六、四三九	二・三
一八九一	五、八九〇	二・一
一八九二	八、六四三	三・一
一八九三	六、三六三	二・三
一八九四	五、九一六	二・一
一八九五	六、〇四七	二・二
一八九六	九、八三一	三・五
一八九七	五、六七二	二・〇
一八九八	七、三六七	二・六
一八九九	一一、〇七一	三・九
一九〇〇	一六、九二〇	六・〇
一九〇一	一三、〇〇六	四・六
一九〇二	一二、八四八	四・六
一九〇三	一八、七五九	六・七
一九〇四	三〇、二一一	七・二
一九〇五	一七、三五二	六・二
一九〇六	一四、八八四	五・三

一九〇七	一八、八八五	六・七
一九〇八	一五、二九三	五・四
一九〇九	八、四三一	三・〇
一九一〇	一三、一四二	四・七
総計	二八一、一五〇	一〇〇・〇

（五）ルーマニアからのユダヤ移民（自一八八一年 至一九一〇年）

年次	ユダヤ移民	総移民との百分比
一八八一	三〇	〇
一八八二	六五	一
一八八三	七七	一
一八八四	二三八	三
一八八五	八〇三	一・二
一八八六	五一八	八
一八八七	二、〇六三	三・一
一八八八	一、六五三	二・五
一八八九	一、〇五八	一・六
一八九〇	四六二	七
一八九一	八五四	一・三
一八九二	七四〇	一・一
一八九三	五五五	八
一八九四	六一六	九
一八九五	五一八	八
一八九六	七四四	一・一
一八九七	五一六	八
一八九八	七二〇	一・一
一八九九	一、三四三	二・〇
一九〇〇	六、一八三	九・二

第三節　アメリカに於けるロシヤ系ユダヤ人

一九〇一	六、八二七	一〇・二
一九〇二	六、五八九	九・八
一九〇三	八、五六二	一二・八
一九〇四	六、四四六	九・六
一九〇五	三、八五四	五・七
一九〇六	三、八七二	五・八
一九〇七	三、六〇五	五・四
一九〇八	四、四五五	六・六
一九〇九	一、三九〇	二・一
一九一〇	一、七〇一	二・五
總計	六七、〇五七	一〇〇・〇

十九世紀末葉に於ける東部ヨーロッパ人（ユダヤ人を含む）の世界各地特にアメリカへの洪水の如き移住の最大原因は、西部ヨーロッパより後れて東部ヨーロッパに浸透し來つた產業革命の影響による封建的中小商工業者の轉落、その他の近代資本主義的社會不安である。當時東部ヨーロッパは世界ユダヤ人口の大多數を抱擁してゐたが、典型的な都市居住者として傳統的な中小商業及び手工業に從事してゐた彼等の大部分は、この新しい近代的機械產業によつて決定的な衝擊を與へられたのである。東部ヨーロッパに於ける產業革命の唯一の受難者がユダヤ人であるといふのは勿論誤謬であるが、ユダヤ人の受けた打擊が特に大きかつたといふことは、當時の主要な職業に於けるユダヤ人と非ユダヤの比率を示す次の數字によ

つても推知することが出來よう。

	ユダヤ人	非ユダヤ人
農業	四・九	五五・六
貿易及び工業	三二・八	二二・六
商業及び信託業	三五・八	五・〇
運輸	二・七	一・七
官吏及び自由職業	五・二	三・〇
其他の職業	一八・六	一二・一
合計	一〇〇・〇	一〇〇・〇

これは今世紀の初め、ロシヤ、ガリシア、ハンガリー、ドイツ及びルーマニアに於て行はれた國勢調査から抽出した統計の摘要である。（A. Revsky, "Jews in Palestine" London, 1935. に依る）

資本主義社會に於ける反セム主義は中世紀封建社會のそれと異つて、宗教的反感よりもむしろより多く經濟的根據に基くものであることをもう一度想起することが必要であらう。十九世紀末葉に至つて東部ヨーロッパの從來の農業諸國家は、彼自身の民族、國民の貿易業者、

商工業者、自由職業者の數を增大し、新しい民族資本の擡頭を見つつあつたので、彼等は必然に古くから地盤を持つたユダヤ人と衝突するに至つたのである。

われわれはまた、産業革命による多數のユダヤ中産階級の沒落の蔭に、一面實に巨大なるユダヤ暴利商業並に高利貸資本の集積が行はれたことを見失つてはならない。これらユダヤ財閥にとつては、産業革命は飛躍的な資本蓄積の時代であつたのである。世界的な聯繫を持つユダヤ人はいはば世界的な民族貿易會社を形成し、金貸業から發展した銀行、爲替の鞘取り、株式の仲買、手形仲介者等として國際的な規模に於て巨大な利益を獲得した。今日に於ける世界ユダヤ金融支配はこの時代にその重大なる基石を築いたのであつた。

第二項　ロシヤ系ユダヤ人の發展

上記の時代に合衆國へ渡來したロシヤ系ユダヤ移民は、大體に於てこれを三つの經濟的、社會的グループに區別することが出來る。第一は最も大きなもので、熟練勞働者及び職人のグループ、第二は實業家、商人、金貸し、第三はいはゆる智識階級で各種專門家及び學生の

グループである。

第一、第二のグループは大部分ロシヤ・ペール（Russian Pale）の小さい町々から來たもので、數百年の傳統によつて育まれた特殊の生活様式を持ち、宗教的にも固まつてゐた。從つて合衆國の新しい生活には仲々なじみ難いものがあつた。ロシヤ・ペールといふのは中世紀の巨大なゲットーであつて、西部及び西南ロシヤの十五地方を含んでゐる。卽ち、ヴィルナ（Vilna）、コヴノ（Kovno）、ミンスク（Minsk）、グロンドノ（Grodno）、モヒレフ（Mohileff）、ヴィテウスク（Vitebsk）、ヴォルヒニア（Volhynia）、チェルニゴフ（Cherni-gov）、ポルターヴァ（Poltava）、ポローディア（Polodia）、キエフ（Kiev, キエフ市を除く）、ベッサラビア（Bessarabia）、タウリダ（Taurida, ヤルタ市を除く）、ケルゼン（Khersen）、イェハトリノスラフ（Yehatorinoslav）及びポーランドの十州（Suvalk, Siedlec, Warsaw, Kalisz, Kielce, Lomza, Lublin, Petrihow, Plock, Radom.）がこれである。

智識階級の精神的傾向には大體二通りある。第一はヘブライの教育を受けた連中で、いはゆるマスキリム（Maskilim）がこれである。彼等はロシヤの高等學校や大學で教育を受け、

ヘブライの教課やユダヤ教典タルムードの眞劍な研究者ではあつたが、當時ヨーロッパに於て流行しつつあつた自由主義に影響されてその熱心な追求者となつてゐた。彼等は、傳統的、儀式的なユダヤ人生活の組織を革命した。彼等の或る者は不可知論者や無神論者になつた。第二のタイプは、高等學校や大學の學生で、智的にも文化的にもロシヤ化されたものである。或る者はロシヤ、ポーランド、オーストリー等の革命家の秘密結社に加入してゐた。そして、社會改革や勞働運動、或は社會主義、無政府主義について學んでゐた。又彼等の或る者はコスモポリタンであつた。彼等はその革命的活動の結果、シベリヤ追放の運命が身邊に迫つたのでアメリカへ逃れ來つたのである。彼等は、合衆國の勞働運動、改革運動、社會主義等々に於て可なり重要な役割をつとめるに至つた。合衆國の勞働運動或は社會運動は、南北戰爭後の產業の急激な發展によつて次第に重要な意義を持つに至つた。人口の增加は大都市の興隆と大工業の發展を齎し、近代自由主義的資本主義の矛盾たる勞資の階級鬪爭を結果するに至つたのである。

ロシヤ系ユダヤ移民の大部分は經濟的原因から移動したのであるが、智識層は多く理想主

義的、或は政治的な動機から移住したのである。彼等は合衆國に於て、ユダヤ人の農業植民地を建設した。これは、「自然に歸れ」といふ一種の農村理想主義の現はれであつた。若いロシヤ系ユダヤ人等は當時のロシヤに於ける著名な急進的思想家達の影響を強く受けてゐた。例へば、ロシヤ農民の素朴な生活を道德的なものとして理想化したトルストイや、彼と同じく農民を禮讃しミールやツァドルーガ等のロシヤ村落共同體の殘存物を理想化したナロードニキ（人民の友）の思想等がそれである。それは當時のパレスタインへの移住民にも信奉されてゐたところのものである。尤もかうした協同體的傾向は一面に於て千數百年來のユダヤ民族共同生活樣式に負ふところ極めて大である。（拙著『協同史觀への志向』第六章第二節參照——昭和十五年五月敎材社刊）

合衆國に於ては彼等ロシヤ系ユダヤ人は北・南ダコタ、オレゴン、ミシガン、コロラド等の植民地に於てこの理想を實現しようとした。しかし、農業運動は概して失敗であつた。ユダヤ民族は、一般的に云つて農業民族でないといふことはここでも亦證明された。彼等は都市に集中した。商人であり、工匠であつた。アメリカのユダヤ農民は、結局事務家になつた。

現在でもアメリカ合衆國には十數萬のユダヤ農民がゐるが、そのうちの多くは果樹園や避暑地の所有者である。「土はユダヤ人の身體から拔け出てしまつた」。自然に歸ることは失敗であつたのである。

そこで智識階級のユダヤ人はニューヨーク市の「コンミューン」に目をつけた。「ユダヤ勞働者聯盟」は一八八五年から八七年にかけて、アメリカに於ける社會主義プロパガンダの中心であつた。無政府主義者等は「自由王國の開拓者」や「自由王國の騎士」等の組織を作つた。社會主義者ではアベ・カーン（Abe Cahan）、ルイス・ミラー（Louis Miller）、エム・ザメトキン（M. Zametkin）、フィリップ・クランツ（Philip Kranz）、モーリス・ウィンチエヴスキー（Morris Winchevski）、モーリス・ヒルキット（Morris Hillquit）等、無政府主義者ではローマン・レウィス（Roman Lewis）、ゾロタロフ博士（Dr. Zolotaroff）、エス・ヤナフスキー（S. Yanafsky）、ジェー・モリソン博士（Dr. J. Moryson）、エッチ・ワインバーグ（H. Weinberg）、エム・カッツ（M. Katz）、マイケル・コーン博士（Dr. Michael Cohn）等が著名であつた。彼等の運動はいづれも後にアメリカのトレード・ユニオニズムの

からである。

をなした。ロシヤ系ユダヤ人の多くは工匠や呉服商人であつたので針仕事は習得し易かつた

發展の基礎をなしたのである。アメリカのユダヤ移住者の大多數は衣服商を營んで次第に產

宗敎的には、ロシヤ系ユダヤ人はいはばユダヤ敎の正統派であつた(註)。彼等は合衆國に於けるドイツ系ユダヤ人の宗敎的自由主義やアメリカ風を「ゴイム」(goyim. 豚、卽ち非ユダヤ敎者)と殆ど同視した。ドイツ系ユダヤ人も亦ロシヤ系ユダヤ人とは宗敎的に別個の行動を採つてゐた。そこで後者は、彼等獨自で集會、シナゴーグ、慈善團、ロッヂ、社交クラブ等を作つたが、勿論この對立は他民族に對するユダヤ人の協同を妨げるものではなかつた。

(註) 祭政一致を標榜するユダヤ民族にとつては、その信仰はその政治的、社會的、經濟的意義と不可分に結合してゐる。「ユダヤ正統主義は、はじめから宗敎といふよりもむしろユダヤ民族を保持するための、宗敎的裝衣を纏へる鬪爭組織といふべきものである」とシオニスト指導者アー・ルッピン博士は云つてゐる(A. Ruppin, "Die Juden der Gegenwart" 1904.)。このことはあらゆるユダヤ人の國體についても云へることである。

ロシヤ系ユダヤ人はアメリカに於て偉大な勢力を形成した。文化的には、彼等はアメリカ

に於て他のいかなる國の移民よりも大きな役割を演じた。彼等は著名な美術家、著述家、音樂家、敎師、科學者、思想家になつた。しかも多くの新機軸を出してゐる。アメリカのコンサートのステージにはロシヤ系ユダヤ人がゐた。彼等はハリウッドを所有し、アメリカの劇界を支配した。また大産業にも參加した。

第四節　第一次世界戰爭と合衆國のユダヤ人

第一項　大戰の勃發とアメリカ・ユダヤ人の發展

一九〇〇年のはじめから世界大戰の勃發した一九一四年の夏までに一、四四八、二二六人のユダヤ人が合衆國に移住した。卽ち平均一年に約十萬宛の移住民があつたわけである。そのうちの七十パーセントはロシヤ及びポーランド系で、爾餘の三十パーセントの大部分はルーマニア系とオーストリー・ハンガリー系であつた。

アメリカ・ユダヤ人の生活は、明かにロシヤ・タイプが支配的となつて來た。今やアメリカは世界に於ける最も巨大なユダヤ自由民の社會を持つやうになつた。アメリカン・ジュウイッシュ・コミッティーやケヒルが出來たのもこの時代のことである。

かくも尨大なるユダヤ人(特にロシヤ系)を擁し、しかもその中からアメリカ文化のあらゆる方面に於て重要な地位を占めるものを出した合衆國が、ユダヤ人特にアメリカ國籍のユダヤ人に對する帝政ロシヤ政府の待遇問題——(ロシヤでは一切のユダヤ人をユダヤ人として差別待遇した。アメリカ・ユダヤ人もアメリカ市民としてでなくユダヤ人としての待遇をなした)——に關聯して、一九一二年遂に米露條約を廢棄するに至つたのも當然といはざるを得ない。アメリカに於けるユダヤ人の政治的勢力は、最早や牢固として拔くべからざるものになつて來たのである。これが第一次世界大戰勃發直前の狀態であつた。

しかし、かくも大量の打續く移民の流入は流石に廣大なアメリカの領土を以てしても問題化せざるを得なかつた。先住民の生活脅威と云ふことが問題となつた。そこで移民條件に制限を加へはじめ、健康狀態や就職までの生活保證金額の決定、人頭稅の引上げなどが行はれ

を切斷した。

た。そして遂に移民制限法の制定を見るに至つたものである。大戰の勃發は一時移民の流入

一九一四年六月二十八日、ボスニアのサラエボに於てセルビヤの一青年が放つた銃彈は、遂に世界戰爭に發火した（オーストリー太公フェルヂナンド夫妻を射殺したプランシッフといふこの青年はユダヤ人であつた）。同年十一月、ロシヤの對トルコ宣戰布告によつて、その年のうちに殆どすべてのヨーロッパ諸國は武器を取つて立ち上つた。十八世紀以來ヨーロッパ諸强國の指導下に發展した世界資本主義、自由主義の矛盾、卽ち、各國內に於ける勞資の對立抗爭、資本の國際的對立、理想主義と現實主義の抗爭は、遂にその世界的破綻を惹起するに至つたのである。この第一次世界戰爭は、資本主義の必然的產物たる階級闘爭を國際民族的規模に於て實現するの結果を來した。この戰爭を契機として英佛米等の資本主義國家に對してロシヤに於ける勞働者獨裁の共產主義國家の出現を見、世界はここにその歷史の發展に一つの線を劃するに至つたのである。そしてこの戰爭は、アメリカのユダヤ人にとつても亦一つのエポックを劃するものであつた。アメリカのユダヤ人は、これによつて決定的に世

界ユダヤ民族の指導者となつたのである。アメリカ・ユダヤ人は全體としてのユダヤ民族の唯一の希望、唯一の救濟となつたのである。共產主義と資本主義の二股かけてのユダヤ人の奇怪な活動もここに世界的規模にまで姿を顯はしはじめた。

世界戰爭はヨーロッパのユダヤ民族にとつては、或る意味に於てスペインに於ける追放以來最大の破局であつた。何故なら戰爭の最も激烈であつた土地はユダヤ人の最大の定住地であつたからである。そこには實に六百萬からのユダヤ人が住んでゐたのであつた。彼等の大多數は家や土地を失ひ、數萬のものは軍人として戰場に立つた。

勿論この戰爭自體の勃發の原因としても、ユダヤ人は他の民族と同樣に、或はそれ以上に考慮さるべきものを持つことは明かである。何となれば、ユダヤ人の國際性と、その商業民族的功利主義並にこれから芽生えたユダヤ民族特有の「選民」意識に基くユダヤ世界支配の理想は獨特の意義をもつてゐるからである。またこの戰爭によつてヨーロッパのユダヤ人が完全に壞滅し去つたといふわけではない。この戰爭によつて最大の犧牲となつたユダヤ人は主として中流階級以下のものであつた。大ブルジョア・ユダヤ人は交戰各國の中に在り、ま

た交戰各國の間に介在して戰爭から莫大の利益を獲得したのである。

大戰前十年、卽ち一九〇三年にスヰスのバーゼル（Basle）に於て開催された世界シオニスト會議に於て、ユダヤ國家を建設せんとするユダヤ人は、世界戰爭を計畫して世界の有力民族を消耗せしめ、特にユダヤ迫害國たる帝政ロシヤ並にユダヤの勁敵ドイツ帝國を滅亡せしめなければならぬといふ決議を行つたと見られてゐる（勿論これは英國のヨーロッパ大陸政策に合致するものがあることは忘れてならない點である）。世界に於ける有力なユダヤ人が世界戰爭に乘じてユダヤの世界支配を遂行せんと企圖し、政治、經濟、文化のあらゆる面に於てその準備を進めてゐたことは想像に難くない。實際に於て巨大なるユダヤ國際資本は、各國に於ける新聞通信事業を支配して各國間の對立を巧みに使嗾利用し、銀行や兵器會社を支配し、各國の政府内に要位を占めるユダヤ人並にフリー・メーソンの會員に情報を提供し、その超國家的組織によつて、交戰諸國に尨大なる軍需品を賣り込んで國際的な巨利を博したのである。この戰爭によつて世界は四千億圓の富を消失し、一千萬の死傷者を出したが、ユダヤ人の利潤は少くとも二千億圓に達したとさへ云はれてゐる。ヘンリー・フォードの記す

ところによれば、當時ニューヨークに於ける戰爭成金の七十三パーセントはユダヤ人であつたといふ。

勿論大戰によつて利益を獲得したのは決してひとりユダヤ民族のみではない。周知のやうにわが日本もアメリカ合衆國と共に、當時極めて有利な地位に立つて未曾有の國運隆昌を見るに至つたのであるが、アメリカと日本とではその吸收した利益の絕對量に於て比較にならぬ差異があつたのである。

アメリカ合衆國はヨーロッパ諸國の需要に應ずる最大の供給者となり、又ヨーロッパ交戰諸國の海外市場を奪取して未曾有の產業界の發展を來し、鐵、石炭、石油、銅、農產物をはじめ、紡績、自動車製造、映畫等の企業方面に於ても「世界第一」を誇るに至つた。金融は勿論異常な好況を示し、戰前には世界に於ける大債務國の一つであつたアメリカは、戰爭終期には外債を全部買戾したのみならず、巨額の金を交戰國その他に貸付けて逆に世界一の債權國となつた。アメリカ金融資本の世界支配は大戰後の著しい現象であつて、世界金融の中心はロンドンのロンバード街を離れてニューヨークのウォール街に移つたと云ふことが出來

る。

しかし、アメリカのこの尨大なる富の集積は果して誰の手に歸したのであらうか。大戰による合衆國の未曾有の經濟的發展にも拘らず、アメリカ國家と大多數の國民大衆とは戰爭の末期に於ては經濟的負擔にあえいでゐた。あの沸騰する大景氣の中にあつて、合衆國政府は少しも富裕になつてゐないのみか、むしろ財政的危機に陷つてゐた。一九一四年に九六七、九五三、〇〇〇ドルだつたアメリカの國債は、大戰末期には二四、〇六一、〇〇〇、〇〇〇ドル卽ち前者の二十五倍弱に增大してゐる。アメリカ國民の間に於ける貧富の懸隔はもつと著しい。一九二九年に於ては合衆國の物質的富の五分の三は、國民のうち僅か二パーセントのものが所有してゐた。これこそ金權萬能のアメリカに於ける金融資本の獨裁的地位を物語るものであるが、それは『アメリカの六十家族』の著者ファーディナンド・ランドバーグ(Ferdinand Lundberg)によれば(註)、モルガン(J. P. Morgan)、ロックフェラー(John D. Rockfeller)以下の最も富める六十家族によつて支配され、これに次ぐ九十家族によつて支持され、これを中心として更に十萬ドル以上の所得を有する家族約三百五十家族が支配圏を

形成してゐるのである。

（註）"American's 60 Families" New York, 1937.――遠藤斌氏の部分譯編著（育生社版）及び木村禧八郎氏の部分譯『米國戰爭經濟の解剖』（科學主義工業社版）がある。

これらの大財閥は第一次世界戰爭によつて、南北戰爭以來の大好況に惠まれ、異常に尨大な利潤を吸收したのである。ほんの一二の例を擧げるだけでも、デュ・ポン家（Du Ponts）の支配するデュ・ポン商會は、一九一三年末の資產は七四、八一七、八二六ドルであつたものが、一九一八年には三〇八、八四六、二九七ドルとなり、五ケ年間に四十二倍弱に增加してゐる。またモルガン系のユナイテッド・ステーツ・スティールの資產は、一九一四年に一、七六五、二五七、四九二ドルであつたものが、一九一八年には二、五七一、六一七、一七五ドルとなり、七億六百萬ドル以上の增加を見せてゐる。モルガン商會の如きは大戰直前にはニューヨーク州の鐵道經營に失敗して沒落の危機に當面してゐたのであるから、戰爭による收穫は殆ど絕對的であると云へるであらう。かうした利潤集積の例を擧げれば際限がない。

第一次世界戰爭の原因は種々存在するにしても、かくの如き巨大な利益を獲得した巨大財

閥が、利潤の無際限な吸收を目的としてヨーロッパ大戰の誘發に力め、アメリカの參戰に拍車をかけたことは容易に推知されるところである。それはまた實際に於て戰後發表された種種の資料によつて今日では動かすことの出來ぬ確證を與へられてゐる。以上によつても世界戰爭の原因や大戰による巨大利潤の吸收が、決して單に獨りユダヤ人のみに歸せらるべきものでないことは明白であるが、しかもなほアメリカに於けるユダヤ人がこの戰爭によつて獲得した利益——直接の物質的利益のみでなく——は實に莫大なものがあつたのである。

ユダヤ人がこのやうに巨大な利潤を吸收し得る原因の主たるものは、前に繰返し述べたやうに、ユダヤ民族の商業的傳統並にその世界的分布、卽ち彼等の有力な國際的同族關係に在るのである。今試みにその具體的一例を示せば、ニューヨークの世界的大金融會社クーン・ローブ・エンド・カンパニー（Kuhn-Loeb & Co.）がある。この會社は今から約半世紀前に、ドイツ系ユダヤ人アブラハム・クーン（Abraham Kuhn）及びソロモン・ローブ（Solomon Loeb）とロシヤ系ユダヤ人ウォルフ（Wolf）によつて創立されたものであるが、これに入社せるドイツ系ユダヤ人ジェーコブ・シッフ（Jacob H. Schiff）の活躍によつて遂に

世界に於けるユダヤ金權の牙城の一つとなつたものである。シッフは創立者ローブの娘テレサ（Teresa）と結婚したが、シッフの娘フリーダ（Frieda）はドイツの大銀行家たるマックス・ウォーバーグ（Max M. Warburg）の兄弟フェリックス・ウォーバーグ（Felix M. Warburg）に嫁してゐる。さらにローブの三女即ちシッフの妻の妹ニーナ（Nina I. Loeb）はマックス・ウォーバーグの兄であるポール・ウォーバーグ（Paul M. Warburg）に嫁してゐる。ポール・ウォーバーグはクーン・ローブ會社の支配人であり、全米準備銀行の創立者であり、ウイルソン大統領の目附役として合衆國大藏省の實權を掌握してゐた。世界戰爭當時、シッフがアメリカの參戰を遲延せしめてドイツを援助する一方、直接聯合國側に多量の武器、彈藥、食糧等を賣却して巨利を博したのも、かくの如き超國家的な血族關係に負ふところ多大であつたのである。かうした國際的家族關係に對しては、流石に有力な非ユダヤ的アメリカ財閥も一籌を輸せざるを得なかつた。世界戰爭を契機としてモルガン、ロックフェラーその他のアメリカ巨人財閥が、ジェーコブ・シッフ、オットー・カーン（Otto H. Kahn）、ポール・ウォーバーグ等のユダヤ財閥と緊密な聯繫を結び、進んで姻戚關係に入るに至つたの

も決して故なきことではない。

大戰の終結後に出現したユダヤ・パレスタイン・ナシヨナル・ホームや國際聯盟の構成等を見ても、交戰諸國特に聯合國側に於けるユダヤ人の地位がいかに優勢なものであつたかを知ることが出來る。この二つのものには、イギリスと共にアメリカのユダヤ人が特に深い關係を持つてゐたのである。しかもこの戰爭によつて、ユダヤ人の人口數から云つてもまたその實質的な勢力から云つても、世界ユダヤ人の勢力はイギリスからアメリカ合衆國に移り、アメリカは世界第一のユダヤ人國家となつたのである。この戰爭を通じて諸他の國に於けるユダヤ勢力にも可成り大きな移動を見るに至つた。

第二項　アメリカ・ユダヤ人の大戰避難民救濟事業

大戰の勃發と同時にアメリカ・ユダヤ人間に於て第一の問題となつたことは、戰線の火中にあるヨーロッパのユダヤ避難民を救助することであつた。この救助事業は、戰爭によつて經濟的に極めて有利な地位にあつたアメリカのユダヤ人によつて上首尾に爲し遂げられた。

いち早く戰禍を避けてアメリカへ渡來したユダヤ人や、ヨーロッパのユダヤ人と個人的な親交或は姻戚關係にあるユダヤ人が多かつたためにこの救助作業は特に熱心に行はれた。シナゴーグを中心とする大會が盛んに持たれ、多數の救助團體が組織され、數百萬ドルの金が輸送された。大戰勃發後三ケ月の一九一四年十月二十四日には、すでにアメリカ・ユダヤ委員會（American Jewish Committee）（註）によつてユダヤ救助委員會（Jewish Relief Committee）が組織され、國民的規模に於ける救助運動が企てられた。それはルイス・マーシャル（Louis Marshal）を指導者とするユダヤ教改革派（Reform）の人々の運動である。同月、ユダヤ教正統派（Orthodox）によつて中央救助委員會（Central Relief Committee）が組織された。それに引き續いて、國會議員にして社會主義者たるメイヤー・ロンドン（Mayer London）を指導者として急進的勞働者等により人民救助委員會（People's Relief Committee）が組織された。かかる傾向を見ても、在アメリカ・ユダヤ人並にユダヤ避難民の間に種種なる分派や階級的差異が存在してゐたことが知られる。この他フェリックス・ウォーバーグの指導するアメリカ・ユダヤ聯合配給委員會（American Jewish Joint Distribution

Committee）をはじめ、ロッヂ、クラブ等に至るまで殆どすべての主要なユダヤ團體並に機關が活躍した。聯合配給委員會は、一九一四—二四年の十ケ年間に東部ヨーロッパのユダヤ人救助のため五千九百萬ドルを送つてゐる。

（註）アメリカ・ユダヤ委員會は一九〇六年合衆國に於て創立された。その目的は世界各地に於けるユダヤ人の社會的、宗教的諸權利の侵害を防ぎ、迫害によつて蒙る災禍を輕減するにある。委員會の最初の關心事は、後に述べる如くロシヤに於けるユダヤ人の地位にあつた。委員會は協力を希望するアメリカ各地方の代表者並に國民的ユダヤ諸團體の代表者から構成されてゐる。その事業は大體に於て博愛と社會敎育の二つであるとされてゐる。一九一四年の避難民救助事業に於ては、アメリカ・ユダヤ配給委員會の組織の主要な部分を形成するに至つた。一九一二年には、アメリカ市民たるユダヤ人に對するロシヤ政府の差別待遇に反對し、アメリカ政府を動かして米露條約を廢棄せしめることに與つて力があつた。それはまたパリー平和會議に委員を送り、平和條約に於ける少數民族の權利保證のために努力した。（"Vallentine's Jewish Encyclopedia" London, 1938. による）

救濟基金運動は、アメリカに於けるユダヤ人の派閥對立を一時的に緩和して共同の活動に

向はしめた。ロシヤ系ユダヤ人とドイツ系ユダヤ人も積極的に協力した。

救助戰線に活躍した主なるアメリカ・ユダヤ人は、上記の外にニューヨーク・ケヒラの首長にして組織者たるユダヤ法師ジュダ・レオン・マグネス(Juda Leon Magnes)(註)、ジューリアス・ローゼンワルド（Julius Rosenwald)、ネーサン・ストラウス（Nathan Straus)、ジェーコブ・シッフ、大使ではヘンリイ・モーゲンソー（Henry Morgenthau）やアブラーム・I・エルカス（Abram I. Elkus）等著名な人々がある。一九一七年には一千萬ドルの基金が集められたが、そのうちローゼンワルド一人だけで百萬ドルを寄贈してゐる。

（註）ニューヨーク・ケヒラ（New York Kehirrah 又は Kahar）――ケヒラとは國家、集會、管理等を意味するヘブライ語である。ケヒラはユダヤ人分散地に於けるユダヤ民族の特殊な行政形態であつて、自己裁判權を有し警察行政、衞生制度、學校管理等を自ら司る。フランクリンのいはゆる「國中國を作る」ユダヤ人の組織體がこれである。ケヒラは大戰後も東部ヨーロッパの各地に存在してゐたが、特にパリー平和會議はポーランド、ルーマニアに對してこれを設置することを認可した。ニューヨーク・ケヒラも同樣である。ニューヨーク・ケヒラは、アメリカ・ユダヤ委員會が全アメリカのユダヤ人組織であるのに對して、主としてユダヤ人のニ

●ニユーヨーク中央行政機關とも見らるべきものである●

大戰勃發後間もなく、アメリカの各ユダヤ團體は一致してユダヤ人會議（American Jewish Congress）を形成し（註）、「すべての國に於けるユダヤ民族の完全なる權利」を主張し、一切の反ユダヤ的法律を廢止するといふ理想を掲げた。この理想を實際的組織に移すについては種々の對立があつたが、結局最も民主的な諸團體が勢力を得て、一九一六年三月二十六日フィラデルフィアで大會組織委員會が開催せられた。その結果、ユダヤ人會議の出席者は全アメリカのユダヤ人の選擧によつて決定することとなつた。ユダヤ敎改革派や新正統派、左翼勞働團體、自由主義者、學生、僧侶、シオニスト等の間にヘゲモニーの爭奪戰が行はれた結果、一九一七年の六月に至つて漸く選擧が行はれた。ユダヤ人會議を最も熱心に支持したものはシオニストであつた。アメリカ政府がシオニズムに對して非常な援助を與へたのもこの時代のことである。選擧によつて出席者は決定したが、恰もアメリカがヨーロッパの大亂に參戰することとなつたので、會議は休戰の暫く後まで延期されることになつた。

（註）アメリカ・ユダヤ人會議は一九一七年正式に成立し、當初はヴェルサイユ平和會議へ派遣す

るユダヤ人代表を指名するといふ一時的目的を持つたにすぎなかつたが、一九二〇年に至つて恒久的な組織となつた。その目的は、何處でもユダヤ人の權利が脅威された場合にこれを防衞すること、並にユダヤ・ナショナル・ホームの發展を圖るにある。この會議は東部のユダヤ友愛諸團體の支持するシオニスト團によつて計畫發展せしめられたものである。一九一八年の休戰後、ユダヤ人會議はパリー平和會議へ委員團を派遣した。一九三二年、同會議はユダヤ世界會議の設置を提唱したが、外國のユダヤ人は一般にそれを支持しなかつた。三三年にそれはアメリカ・ユダヤ委員會並にブナイ・ブリス（B'nai B'rith）と協力して配給委員會の活動を行ふに至つた。（"Vallentine's Jewish Encyclopedia"）

ブナイ・ブリスはヘブライ語の「兄弟」の義である。これは純ユダヤ・フリー・メーソン秘密結社たる萬國組織で、世界を十一管區に分つて居る。ブナイ・ブリスは一八四三年アメリカで創立され、シカゴに本部がある。

アメリカ政府はユダヤ避難民の救助に積極的な援助を與へた。大戰勃發後間もなく、パレスタインに於けるユダヤ人の殆ど半數は、トルコ軍隊の命によつてその地を立ち退かねばならなかつた。その時アメリカの砲艦がそれら避難民をアレキサンドリヤへ運んだ。一九一五年、パレスタインのユダヤ人が飢餓に瀕してゐるとの報道があつたとき、再び合衆國の石炭

艦「ヴァルカン」は、九百噸の食糧と二人のアメリカ・シオニストを乘せて救助に赴いた。一九一七年には、ユダヤ醫師會の一團がアメリカからパレスタインへ派遣された。當時種々の要求によつて、合衆國國務省はアメリカ・シオニスト醫師會に對して、免許狀とその徽章たる「ダビデの楯」(Mogen David)とを與へた。それはこの醫師會をアメリカ赤十字社と同等の地位に置くものであつた。

第三項　アメリカの參戰とアメリカ・ユダヤ人

一九一六年十二月二十日、ウイルソン大統領は交戰諸國の代表者を招聘して、「戰爭終結の條件に關して各自の獨特の見解を開陳」させた。意見は一致しなかつた。當時休戰は殆ど問題にならなかつたのである。交戰諸國はアメリカを味方に引き入れようとしてあらゆる努力を試みた。アメリカ國内にも平和論と參戰論、ドイツ派と聯合國派との對立があつた。ユダヤ人のこれに對する態度は勿論のことであるが、資本主義全盛のアメリカにとつても、國策の決定は主として經濟的利益によつて左右された。アメリカにとつては、戰前中南米に於け

るドイツ商品の進出に徴しても、ドイツがその經濟戰の相手國となることは明かであつた。
また世界通商の覇を握つてゐた海國イギリスもアメリカの强力な敵手であつた。この兩敵手は一面に於て戰爭によつてアメリカ物資の大顧客ともなつてゐた。しかし、何と云つても聯合國は獨、墺、伊等の同盟國を包圍しアメリカとの交通を遮斷するに至つたので、アメリカの物資は漸次聯合國に對してのみ輸出されるに至つた。聯合國側に對するアメリカ債權の增大は聯合國の勝利に對するアメリカの期待を決定的なものにした。しかし參戰には道德的な口實が必要であつた。それは、ドイツ潜水艦のデスペレートな活動によつて與へられた。
一九一六年三月二十四日、イギリスの客船「サゼックス」がドイツ潜水艦によつて無警告擊沈され、多數のアメリカ人が被害を受けた。一九一七年二月二十六日には、同じくイギリスの汽船「ラコニア」が擊沈せられた。それには八人のアメリカ人が乘船してゐた。一週間後には母國へ向つて歸航中の三隻のアメリカ汽船が擊沈された。合衆國に於ける反獨感情は高調に達した。かくて同年四月六日、大統領ウイルソンは、「合衆國とドイツ帝國政府との間には戰爭狀態が存在する」との宣言を發したのである。

アメリカ最大級の財閥モルガン及びロックフェラーが、戰爭の當初から聯合國側を支持してゐたことは著名な事實であるが、アメリカ參戰の直前には、すでにユダヤ人を含むアメリカ財閥は殆どすべて參戰による利潤收取態勢を完了してゐた。彼等及びその代辨者はあらゆる機關を利用して反獨熱を煽り立てた。ユダヤ人の支配するアメリカの新聞がそのために演じた役割は特筆に價するものがある。大戰勃發後間もなく、モルガンを先頭とするアメリカ金融資本がウイルソン大統領をして聯合國公債發行を許可せしめるや、モルガン商會は英佛公債五億ドルを發行する銀行シンディケートの中心となつたが、この公債に對する個人最大應募者の中にはユダヤ財閥オットー・カーンの名が見られる。

合衆國の參戰とこれに對するアメリカ・ユダヤ人の立場については、更に次の二つの點を指摘して置く必要がある。それはパレスタインの建國と帝政ロシヤの崩壞である。

イギリスの首相ロイド・ヂョージが、パレスタインにユダヤ國家を復活せしめることを代償として、世界シオニストの領袖ワイツマン博士を通じて聯合國に對するユダヤ人の援助を得たことは有名な事實である。大戰の初期に於て、ドイツ政府がパレスタイン問題について

シオニストに支持を與へる可能性が存在したとき、中立國たるアメリカのユダヤ人は盛んにドイツ側に働きかけたものであるが、ドイツが聯合軍の重圍に陷るに及んで、ユダヤ人のドイツに對するこの希望は消散した。殘された道は聯合國に依存することであつた。一九三六年二月七日附『ロンドン・ジュウイッシュ・クロニクル』(London Jewish Chlonicle)に發表された大戰當時のイギリス政府宣傳部長ユダヤ人ナンドマンの手紙には次のやうな一節がある。「アメリカ大統領を動かして世界戰爭に參加せしめるには、ユダヤ・シオニストにパレスタインの復活を約束してその協力を得ることが唯一の途であつた。アメリカに於けるシオニストは、その使命の遂行に成功してアメリカを參戰せしめた」。以上一連の事實は英米外交の背後に在る世界シオニストの巧妙なる統一的活動を說明し盡して餘蘊がない。

次にロシヤ革命について述べよう。帝政ロシヤのユダヤ人差別待遇に對するアメリカ・ユダヤ人の反對運動が、米露通商條約の廢棄を齎す要因となつたことは既述の通りである。大戰の當初アメリカのユダヤ人が親獨的な傾向を持つた理由の中には、ロシヤに對する聯合國側のさうした反感が混入されてゐたことは明かである。ロシヤ革命によつてツァーリズムが

崩壞し、ロシヤが聯合國の陣營から離脱したために、ユダヤ人の聯合國に對する支持の傾向が强化した。アメリカ合衆國の聯合國側への加盟參戰は、殆どロシヤの離脱と入れ代へに行はれた。卽ち、ロシヤ革命は一九一七年三月に勃發してケレンスキー――彼もユダヤ人であると云ふ人があるが明瞭でない――の革命假政府が出現したが、その翌四月の六日にアメリカの對獨宣戰が布告されたのである。

「アメリカのユダヤ人は心の中で、ロシヤが長い間ユダヤ人に對して强制してゐた苦い藥の味をロシヤ自身が嘗めることを深く望んでゐたのである」と、『ユダヤ人アメリカに來る』の共著者たる二人のユダヤ人は書いてゐる。勿論、ロシヤの共產主義革命に對するユダヤ人の援助は、このやうに單なる報復意識からのみ爲されたのではない。それは解放を夢みる中產、無產ユダヤ人の一つの理想主義の現はれでもあつたし、またユダヤ金融資本の他民族からの利潤收奪の手段でもあつた。ユダヤ財閥がボルシェヴィズムを利用することには、他民族資本との世界制覇戰に於ける政治的戰略としての意味が含まれてゐる。それは國際資本主義鬪爭の背後に潛む最も無慈悲で且つ大規模な謀略の一つである。

ロシヤ革命資金の重要な部分がアメリカのユダヤ金融資本家から支出されてゐる事實については、一九一九年の初めアメリカ陸軍諜報部から駐米フランス高等辨務官に手交された移諜が明確に暴露してゐる。（長谷川泰造氏著『國際秘密力の話』政經書房刊參照）

それによると、ロシヤ革命が準備されつゝあつたことは一九一六年二月に知られてゐたが、この革命事業のために次の如き人物や會社が關係してゐた。即ちユダヤ人ジェーコブ・シッフ、ガッゲンハイム（Guggenheim）、マックス・ブライトゥング及びクーン・ローブ會社であるが、この會社の幹部はジェーコブ・シッフ、フェリックス・ウォーバーグ、オットー・カーン、モルティマー・シッフ（Mortimer Schiff）、ジェローム・H・ハーハウアー等であつた。

一九一七年のロシヤ革命にユダヤ人が特殊の援助、煽動を行つたことは疑ふ餘地がない。實際に於て、ジェーコブ・シッフはロシヤ革命が自己の財的援助によつて完成されたことを同年四月に公表してゐる。

一九一七年春、ジェーコブ・シッフはユダヤ人ブーロンシュタイン（又の名トロツキー）に資金を提供してロシヤ革命運動を組織せしめた。ニューヨークのユダヤ日刊誌『フォアウ

オード』も寄附金を提出した。マックス・ウォーバーグはストックホルムを通じて同樣にトロツキーに資金を供給した。ユダヤ人ボルシェヴィキとユダヤ富豪とのこの結合には、更にユダヤ・シンディケートのウェストファーリアン・レナン、ストックホルムのニイ銀行のオレーフ・アッシュベルク及びジヴォロフスキー等のユダヤ人が資金提供者として加はつてゐる。ジヴォロフスキーの娘はトロツキーの妻である。

一九一七年十月ソヴェートがロシヤ人の上に權力を確立したとき多數のユダヤ人が樞位を占めた。彼等はすべてロシヤ式の僞名を用ゐてゐた(註)。當時ユダヤ人ポール・ウォーバーグは合衆國内のボルシェヴィキと密接な聯繫を持つてゐた。

ユダヤ法師ジュダス・マグネはジェーコブ・シッフの親しい友でシオニストであり、アメリカ最初のボルシェヴィキ團體「人民の會議」の組織者である。一九一八年十月二十四日、彼はニューヨークのアメリカ・ユダヤ人會議の席上で自分がボルシェヴィキと密接な關係を持つてゐることを公表した。彼は資金をシッフから受け、シッフと協力してユダヤ人のケヒラを統轄し、シオニスト團及びユダヤ勞働黨の首領となつてゐる。玆でもユダヤ財閥とユダ

ヤ・プロレタリアートとの密接な聯繫を知ることが出來る。

當時勃發したドイツの社會革命はユダヤ人ローザ・ルクセンブルグが指導し、又ユダヤ人ハーゼは國際ボルシェヴィキ運動の主要なる指導者の一人となつてゐた。ドイツ革命もロシヤ革命と同樣に多數のユダヤ人が指導してゐる。

クーン・ローブ會社はドイツ系ユダヤ人のシンディケートたるウェストファリアン・レナン、パリーのユダヤ商會たるラザール兄弟商會及びペテルグラード、東京、パリーに於けるグンスブルグ商會と聯繫を持つて居り、更に上記各商會はロンドン、ニューヨーク、フランクフルトに於けるスパイエル商會並にストックホルムのニイ銀行と密接な關係を持つてゐる。これらの點からしてボルシェヴィズムの運動はユダヤ人の運動の一表現であり、一定のユダヤ銀行が該運動の組織化に關係してゐることが明かである。

（註）ロシヤ革命の首腦者たるユダヤ系統人名はその數が極めて多いし、本書にはこれを特に列擧する必要もないので省略する。希望者は長谷川氏の著書、又はR・コンモス原著、福迫勇雄氏譯『スターリン背後のユダヤ人』R. Konnmos, "Juden Hinter Stalin" を參照。

アメリカの參戰と共にアメリカの無產、中產ユダヤ人は續々と軍隊の召集に應じた。大戰中、殆ど二十萬近くのユダヤ人が合衆國軍隊に勤務してゐたと云はれる。そのうち四十八パーセントは騎兵に編入され、信號隊にも多數のユダヤ人がゐた。一萬人ばかりは士官で、そのうち約千名は海軍士官であつた。二千八百名以上のユダヤ軍人が戰死し、凡そ一萬人が負傷した。

銃後のユダヤ人について云へば、すでに述べた人々の他になほ次のやうな著名なものがあつた。卽ち、大戰中殆ど大部分をニューヨーク財務官の地位に在り且つ有名な醫師の息子であつたバーナード・M・バルーチ (Bernard M. Baruch) は戰時產業局の長官であつた。彼は軍需品の生產について合衆國の全產業に對して最後的な權力を持つてゐた。バルーチは戰時產業局とその委員會に彼及びユダヤ財閥と關係の深いウォール街の支配者、金融・產業資本家とその代理人を加入せしめた。その中にはユダヤ人ジューリアス・ローゼンワルドも交つてゐる。バルーチは年に百億ドルの政府資金を消費したので、戰後彼のやり方は下院のグラハム軍需產業查問委員會によつて詰問され、その結果バルーチは徵戒處分に附せられた。

しかし彼は實際上大統領ウイルソンの右の腕であつたのであつて、平和會議でもつねにウイルソンの身邊にゐたのである。イギリス首相ロイド・ヂョージは軍需省を作り、ユダヤ人エドウィン・モンターギュにこれが指導を委任したが、モンターギュはアメリカのバーナード・バルーチに對して多量の軍需品を註文してゐる。彼の存在がアメリカ・ユダヤ人特にユダヤ財閥の利得に貢獻するところ甚大であつたことは云ふまでもない。

また國民防衞會議の諮問委員七名のメンバー中三名はユダヤ人である。それは右のバーナード・バルーチ、アメリカ勞働協會々長サミュエル・ゴムパース（Samuel Gompers）及び世界最大の通信販賣商會シーアズ・ローバック會社々長ジューリアス・ローゼンワルド（Julius Rosenwald）である。オイゲン・メイヤー（Eugen Meyer）は戰時財源協同組合の職員で、後にその組合長になつた。ハーヴァード大學の教授フェリックス・フランクフルター（Felix Frankfurter）は陸海軍省の生産部門並に陸軍大臣の特別扶助者として活躍した。彼は更に船舶局の特別扶助者として勞働者間の鬪爭を調停した。マンニー・ストラウス（Manny Straus）は戰時貯蓄切手を考案し、ハーバート・ウォルフ（Herbert Wolfe）は戰時傷害保險

の計畫を實行した。

社會事業について云へば、一九一七年四月にユダヤ厚生團が組織され、陸軍當局の監督下に活動した。それはユダヤ兵士に對して宗教的な奉仕を爲し、その他あらゆる方法で援助を行つた。

第四章　アメリカ・ユダヤ人とパレスタイン問題

第一節　シオニズム

第一項　シオニズムの起源

紀元前より國家の滅亡と復興との歴史を繰返し、ローマ大帝國による征服以來遂に二千年の永きにわたつて亡國流浪の民と化し去つたユダヤ民族は、諸種の時代と國とに於て迫害と抗爭の歴史を續け、自民族の安泰を求め昔の夢を追ふ宗教的民族と化するに至つた。

シオニズムは、當初は異國の地に在つて生活の安全を求めるユダヤ人の渴望であつた。すでに生活の安全と保證とを獲たユダヤ人にとつては、それはユダヤ民族の結合と文化と歴史とのシムボルとなつた。パレスタインの聖地シオン山に對する憧憬と夢とは、一つの理想の象徴としてユダヤ人の精神の鎭痛劑となつたのである。

今日パレスタインにユダヤ王國を再建し、世界諸國家を轉覆滅亡せしめてユダヤの世界支

配を實現せんとするシオニストの陰謀は、果してどの程度までが現實であり、どの程度までがユダヤ人の夢であるかを明確に規定することは困難である。現實の可能と夢とを混同するのは、宗教的人間が往々にして陷る錯誤である。この誤れる確信が宣傳の翼を藉りて自由に飛翔するとき、世界の精神は恐るべき混亂に陷れられるのである。自己の惡魔的な神通力を確信し、これを世界に傳播することによつて、自己の力を現實以上に昂めることは可能である。これは最も獨善的な過信であると共に、また最も精練された精神的謀略ともなり得るものである。「一犬虚を吠えて萬犬實を傳ふ」といふことは、この種の心理的謀略の最大の效果であると云はなければならぬ。シオニズムの威力の過信は、その過少評價と同樣に警戒しなければならぬ。

勿論、祭政一致を標榜するユダヤ人にあつては、宗教を單に宗教としてその生活から切り離して見ることは出來ない。その意味に於ては、シオニズムの憧憬は高利貸的なユダヤ暴利商業や金融資本の現實的理想と緊密な聯繫を持つてゐる。

近代シオニズムの發端は、十九世紀の初葉モーゼス・ヘス（Moses Hess）とツェディ・ヒ

ルシュ・カリッシャー(Zedi Hirsch Kalischer)とによつて與へられた。プロシヤの革命家であつたヘスはプロシヤ政府によつて追放されてパリーへ亡命した。彼は、ユダヤ人はパレスタインへ復歸する以外に解放も獨立も望み得ないと說いた。カリッシャーはパレスタイン植民のためにユダヤ協會の設立を强調し、そのために聯合イスラエル大學はパレスタインのジャッファ(Jaffa)の近郊にユダヤ農學校を設立した。しかし右の兩人はその運動が充分なる實蹟を擧げないうちに亡くなつた。十八世紀に於けるヨーロッパ諸國の革命的な國民統一運動は、ユダヤ人の理想と情熱に油をそそいだ。特に封建的君主の特權的利益に對するドイツ、イタリーの國民運動の勝利は、ヨーロッパ諸大國によつて數世紀間抑壓されつづけてゐた少數諸民族に大きな希望を與へた。ユダヤ人のうち特に初等敎育以上の學校、大學等に學んでゐた靑年達は、さうした國民運動の勝利によつて魅惑せしめられた。彼等はユダヤ人の古い經濟的生活樣式の弱點を痛感した。彼等は當時新しく甦つた反セム主義によつて壓迫され、そのためにより强固な獨立的基礎の上にユダヤ人の生活を再建しようと考へ、その地をパレスタインに求めたのである。

一八八一年のロシヤに於ける極度の反セム運動は、シオニズムに對して新しい刺戟を與へた。ロシヤに於けるユダヤ國民主義の第一人者であつたペレッヅ・スモーレンスキン(Perez Smolenskin)は、他民族に同化することはユダヤ主義の目的となつてはならぬ、ユダヤ人は一定の文化、言語、生活樣式を持つ民族であり、これを飽くまで維持しなくてはならぬ、と宣言した。スモーレンスキンのこの考へはオデッサの醫師レオ・ピンスカー(Leo Pinsker)によつて發展せしめられ、一八八二年に出版された彼の著書『自己解放』(aut-Emancipation)に於て思想化された。彼はユダヤ・ナシヨナル・ホームの建設こそユダヤ人問題の解決だと結論したのである。彼はまた後に、初期パレスタイン・ユダヤ移民の大部分を占めた「シオンの愛者」(Lover of Ziou)運動の指導者となつた。「シオンの愛者」はロシヤの若いシオニスト達によつて作られた會の名である。

初期のシオニスト達は、反セム主義の勃興と同化の否定とによつてその信念を固めた。當時ユダヤ人の間には、「モーゼの信仰を持つゲルマン人」の生活をするものが多かつたが、シオニスト達はこれを以て最も不自然な怯情な現象と看做した。さうした同化生活への最も批

判的な分析は、ヘブライ哲學者アハド・ハアム（Ahad Haam）の著書に見られる。彼は同化者を「自由の王國に於ける奴隷」だと稱した。彼によれば、西ヨーロッパの上流ユダヤ人は内面的奴隷たることとの代價として外見上の解放を買つたのである。ピンスカーやハアム等は、東部ヨーロッパに於ける初期のシオニスト運動に對するインスピレーションとなつたのである。なほ、當時のロシヤに於けるトルストイやナロードニキの急進的思想が若いユダヤ人達のシオニズム運動に拍車をかけたことは既に述べた通りである。

以上述べ來つた諸種の原因或は思想運動の結果、パレスタインにナシヨナル・ホームを持つといふシオニストの運動は遂に實践的な段階に到達するに至つた。それはいはゆるビルウ運動であつて、大學生のグループが單純なる研究から抜け出して、自らパレスタインに於けるユダヤ植民地の開拓者となつたのである。

（註）ビルウ(Biiu)とはヘブライ語の Bet Yakov, Lchu Unelcho. の略稱であつて、その意味は「ヤコブの家に行かう」(House of Jacob, let's go.) といふことである。

一八八一年のロシヤに於けるポグロムの直後、ビルウ運動は急速に發展し、東部ヨーロッ

パのユダヤ人はアメリカと共にパレスタインへも大量に移住した。一八八二年、最初のビルウの一團がパレスタインへ到着した。當時パレスタインの人口は約三十五萬で、その大部分はアラビヤ人農民とアラビヤ人遊牧民とであつた。ユダヤ人は三萬人位しかゐなかつた。ビルウ運動は漸次東部ヨーロッパ各地に擴がり、パレスタインへの移住を見たが、荒蕪地での原始的農耕によるその生活は困難であつた。フランスのロスチャイルド男爵はこれら植民者に對して多大の援助を與へた。「シオンの愛者」も援助の手を差し延べた。かくて一八八九年には、パレスタインに二十二のユダヤ人セツルメントを持つに至つた。

しかし、シオニズム運動は、正確には一八九七年、ハンガリー系ユダヤ人テオドール・ヘルツル博士（Theodore Herzl）によつてシオニスト團が創立された時にはじまるといふことが出來る。ヘルツルは一八九六年その著『ユダヤ人國家』（Judenstaat）に於て、ユダヤ人はユダヤ國家を建設し得る土地へ集團的に移住しなくてはならぬ、その土地はユダヤ人自身のものでなくてはならぬ、と主張した。彼も亦、パレスタインこそ、その象徴的、歴史的意味から云つてユダヤ人の植民地として、他の如何なる土地よりも適はしいと述べた。彼によれ

ば、シオニズムは反セム主義の挑戰に對するユダヤ人の應戰であつた。

ヘルツルは特に東部ヨーロッパに於けるユダヤ受難者に關心を持つた。『ユダヤ人國家』及びそれに次いで出版された彼の著書『古く新しき土地』(Altneuland)は、ユダヤ人大衆の心に深い感銘を與へた。ヘルツルの傾向は「政治的シオニズム」であるといはれてゐる。古いシオニズムとヘルツルのネオ・シオニズムとの主たる相違は、パレスタインに於けるユダヤ植民について政治的考慮を要するといふヘルツルの見解である。ユダヤ人はその植民地に於て政治的權力を獲得しなければならぬ、單純なるパレスタイン移住はユダヤ人の生活の安全を永久に保證し得ない、といふのが彼の信念であつた。

政治的シオニズムは、世界のユダヤ人によつて認められた。一八九七年、卽ち『ユダヤ人國家』出版の翌年に、ヘルツルは全世界のユダヤ人代表をプラーグに招集して第一回シオン會議を開催した。この會議によつて、シオニスト運動の目的は次のやうに定式化された。

「シオニズムは、ユダヤ民族のために國際法によつて保證されるパレスタイン・ホームを創造するために努力するものである。會議はこの目的を達成するために次の如き手段を考慮す

る。

一、ユダヤ農民及び産業勞働者のパレスタイン植民のための適切なる諸方策の促進。

二、各國の法律に即應しつつ、各地方的或は國際的に適當なる機關を以てする全ユダヤ民族の組織及び結合。

三、ユダヤ國民感情並に關心の育成强化。

四、シオニズムの目的達成のため、必要と認められるところでは、政治的同意を獲得するためにする諸種の豫備手段」

この綱領によつて、古代に於て消滅したユダヤ國家に代る新しいユダヤ・ナショナル・ホームの概念が確立したのである。

因に、ユダヤの世界的陰謀の書として有名な『シオンのプロトコール』は、この第一回シオニスト會議に於て決定されたシオニズムの世界政策の綱領であると云はれてゐる。或はこのシオン會議に隨伴して開催されるのを例とする純ユダヤ・フリー・メーソンの世界的秘密結社ブナイ・ブリスの會議で採用されたものであるとも云はれてゐるが明かでない。プロト

コールの筆者についても、或はワイツマンと云ひ、或はアハト・ハームと云はれてゐるが、これも確定的ではない。但しプロトコールの内容は、ユダヤの聖典『タルムード』その他に照合すれば、疑ひもなくユダヤ的性格を盛つたものである。(註)

(註) この點については、拙著『協同史観への志向』第六章第二節「ナチス民族主義とユダヤ人問題」及び愛宕北山氏譯編『世界の秘密』(政經書房刊)第三部「シオンの議定書」第六部、C「シオンの議定書の成立、傳播、眞僞」を參照。

第一回シオン會議當時の世界シオニズム組織は約七萬八千人のメンバーを有してゐたが、一九〇五年には二十萬人となり——一説によれば最盛時には五十萬人に達したといふ——大戰直前の一九一三年には十三萬人に低下してゐる。

シオニズムの運動は、すでに述べたやうに、當初は極めて理想主義的、精神的なものであつたが、その後イギリス、ロシヤ、トルコ等に於て、その運動が幾多の現實的困難に遭遇して停滯し、徐々に現實的、實踐的なものに變化して來たのである。教育といふことはシオン團の最初り大問題となつた。一九一一年の第十回シオン會議に於ては、パレスタインに於け

る教育事業の費用をシオニスト基金から支援することを決議した。第十二回大會では、チャイム・ワイツマン博士（Chaim Weizmann）は、エルサレムにヘブリュウ大學を創設する議案を提出したが、その後それは壓倒的な支持を與へられるに至つた。

第一次世界戰爭の勃發はシオニズム運動を若干停滯させたが、これは歴史の波の一つの落差にすぎなかつたのである。

第二項　アメリカに於けるシオニズム

東部ヨーロッパから西方へ流れ入つた最初のユダヤ移住民の中には「シオンの愛者」に屬する若干のロシヤ系ユダヤ人が交つてゐた。すでに一八九〇年代には、合衆國にも「シオンの愛者」のグループが數個存在してゐたが、それはまだ統一戰線を形成するまでには至らなかつた。統一戰線結成の努力はなされたが失敗に終つたのである。

アメリカに於けるユダヤ・ナシヨナリズムの傳播は、一八九六年のヘルツル博士の『ユダヤ人國家』の刊行以來のことである。その頃から他の著述家達のユダヤ民族主義に關する著

書や新聞記事等が次々に現はれて、アメリカに於けるユダヤ國家主義の意識が急速に昂まつて來たのである。バーゼルで開催された第一回シオン會議の後しばらくして、アメリカの指導的なシオニスト十數名はニューヨークに會合して、「アメリカ・シオニスト協會」(Federation of American Zionists)を組織した。それらの人々は、ユダヤ法師ステフェン・エス・ワイズ(Stephen S. Wise)、グスターフ・ゴットハイル博士(Gustav Gottheil)及びその子リチャード・ゴットハイル博士(Richard Gottheil)——以上三名はユダヤ敎改革派の指導者であつた——、次にハーマン・ローゼンタール(Herman Rosenthal)、バーナード・ドラッチマン(Bernard Drachman)、ケイ・エッチ・サラゾーン(K. H. Sarasohn)、アダム・ローゼンバーグ(Adam Rosenberg)、デビッド・リカイツ(David Likaitz)、アイ・ディー・モリソン(I.D. Morrison)、アブナー・タンネンバウム(Abner Tannenbaum)、マックス・レイジン(Max Raisin)、エス・シャッファー(S. Schaffer)等であつた。この協會の成立以來、毎年引き續いてシオニストの例會が開かれるやうになつた。

アメリカ・シオニストのユダヤ國家建設運動に對して、ユダヤ敎改革派の多くの指導者及

びユダヤ法師の大部分が反對した。彼等によれば、シオニズムは廣い世界的な宗教と人道の領域にわたるイスラエルの使命を、狹隘な政治的、國民的領域へ閉ぢ罩めるものでイスラエルの「豫言」に違ふものであり、且つそれは、各國に於て迫害されつつあるユダヤ人を、愈愈非同化的な外國人と看做される結果に陷れ、その迫害の度を增大するに至るだらうといふのであつた。シオニズムに對するさうした反對は色々な方法で續けられたが、結局それは失敗に終つたのである。

シオニズムの宣傳を助長するために、二つの定期刊行物が發刊された。一つは英語の月刊雜誌『マッカボウ』(Maccabeau)で、今一つはイーディッシュ語(註)の週刊誌『イーディッシュの民』(Das Yiddische Folk)がそれである。

（註）イーディッシュ語（Yiddisch）はヘブライ語と他國語との混淆した言語であつて、元來はスラヴ諸國に行はれたユダヤ系ドイツ語（Judeo-German）を意味する。

アメリカのシオニズムは、バルチモアのハリー・フリーデンワルド博士（Harry Friedenwald）とニューヨークのルイス・リプスキー（Louis Lipsky）との指導下に二つの新しい

出發を持つた。この二つの組織は漸次發展して複雜となり、それを母體として更に新しい種種のグループが派生した。社會主義者のグループは「民衆シオン」(People Zion)を結成し、超正統派のシオニスト等は「ミツラーチ」(Mizrachi)といふ團體を組織した。後者は更に「ハダッシュ」(Haddash)と稱する婦人支部を持つてゐる。「シオンの秩序の子等」(The Order Sons of Zion)の結社は、保險と同胞關係のシオニズム組織を結集したものである。「青年ユダヤ」(Yong Judea)は青年シオニストの世話をする團體である。また「大學聯合シオニスト協會」(The Intercollegiate Zionist Association)は、綜合大學並に單科大學の學生代表の組織である。その他種々の團體やグループが存在したが、ここには一々名前を擧げない。

第一次世界戰爭の勃發と、戰爭によるヨーロッパに於けるシオニストの活動の崩壞によつて、アメリカのシオニストは世界シオニスト運動の指導者となり、シオニズムの主要なる希望となつた。壞滅に瀕した世界シオニズム運動の恢復點としてのアメリカ・ユダヤ人の地位は、「一般シオニスト問題臨時委員會」(The Provisional Committee for General Zionist

Affairs）の設置によつて一層强化せられた。この組織はシュメリア・レーヴィン（Schmarya Levin）の指導の下に、アメリカに於けるシオニスト活動の主要機關となつたものである。

一九一四年の大戰の勃發は、ひとりヨーロッパのシオニズム運動のみならず、またアメリカに於けるシオニズム運動にも障碍と停滯を齎す原因となつたのであるが、アメリカ政府内に於て有力な地位を占めてゐたユダヤ人特にルイス・デムビッツ・ブランデイス（Louis Dembitz Brandeis）の活躍は、この困難な時代にあつて飽くまで執拗にシオニズム運動を守り立てて行つたのである。ブランデイスは一九一二年の大統領選擧戰に當つて、ウッドロー・ウイルソン（Woodrow Wilson）を支持し、ウイルソンが大統領になるやその翌年直ちに撿事總長の地位を與へられた。彼がシオニズムに關心を持ちはじめたのは一九一〇年以來のことである。當初は單にアカデミックな關心を持つてゐたにすぎなかつたのであるが、世界戰爭によつてシオニズムの危機が來るや突然に變化して實際運動に移つたのである。彼は一般シオニスト問題臨時執行委員會の委員に選ばれ、また大戰處理委員會の委員長になつた。こ

の二つの組織は、アメリカ・シオニストに關する戰時諸問題を處理するために創設されたものである。

かくてブランデイスは、アメリカ合衆國に於けるシオニズム運動の指導的な立役者の一人となつたのである。彼の支配的地位は、一九一四年の九月から一九二一年の六月まで、殆ど七ケ年もの間續いた。その間にアメリカのシオニズムは、世界シオニズム運動の最も重大な要素となつたのである。ブランデイスは一九一六年十月に合衆國大審院の判事になつて以來、專らシオニズム運動に沒頭し、アメリカ・シオニズムのあらゆる勢力を集結統合した。この活動を通じて各種シオニスト團體の數とメンバーとは著しく增大した。

一九一七年には、シオニスト運動はアメリカ・ユダヤ人の間に於ける指導的な動力となつた。一九一九年の夏頃には、各種シオニスト團體のメンバーは總計一四九、〇一三人に達した。

第二節　バルフォア宣言

第一項　パレスタイン問題

ユダヤ人のパレスタイン植民の最初の數ケ年間、當時パレスタインを統治してゐたトルコ政府は比較的寛大で時には友誼的でさへあつたが、ユダヤ移民の數が增大するにつれてコンスタンチノープル當局は次第に警戒を始めた。一八九〇年にはロシヤ、ルーマニア、オーストリー諸國からのユダヤ人のパレスタイン移住を禁止する法律が發布された。またそれら諸國の公民へパレスタインの土地を移讓することも禁止された。

しかしトルコの政治機關の弱さと、惰性を以て擴がつた植民のために、右の禁止命令は充分に實行されなかつた。ユダヤ人は「一時的な訪問」といふ名目で引き續きパレスタインに移住した。實際大戰前には、パレスタインへ定住しようと思ふユダヤ人は、農業や商業を營

むに必要な手段さへ有して居れば、誰でも思ふままに移住することが出來たのである。

一九一三年ウィーンで開催された第一回シオニスト會議は、ユダヤ植民地に關する野心的な目論見を立てた。それから六ケ月の間に六千人のユダヤ人がパレスタインへ移住した。一八三九年にはパレスタイン在住のユダヤ人口は僅々一萬二千ばかりにすぎなかつたが、一八八〇年には三萬五千、一九〇〇年には七萬、大戰當初には八萬五千乃至十萬人に增加してゐたといはれる。そのうち半數はエルサレムに住み、エルサレムの人口の大多數を占めてゐたのである。一九一四年のはじめには、パレスタインに於けるユダヤ人の投資は、それ以前の如何なる時期よりも大きな金高に達する見込であつた。

かかる有利な發展の矢先へ世界戰爭が勃發したのである。

パレスタインをも戰場の一部として捲き込んだ第一次世界戰爭は、該地に於けるユダヤ人の活動を停止せしめ植民の發展進行を阻害した。のみならず多數のユダヤ人はパレスタインを退去せねばならなかつた。然らざるものはトルコの公民となつて戰爭の重荷を負擔しなければならなかつた。加ふるに戰爭が齎した飢饉と疫病はパレスタイン人口の死亡率を著しく

昂めた。さうした理由のために、パレスタインのユダヤ人口は一九一八年一月の休戰の時には戰前の半數に激減した。かくてパレスタイン・ユダヤ・ナシヨナル・ホームは又しても崩壞の危機に陷つたのである。それはユダヤ民族の世界支配のために世界戰爭を誘發せんとしたユダヤ人にとつては、自ら掘つた墓穴の前に立つたやうなものであつた。しかし、多數ユダヤ人の犧牲にも拘らず、否その民族同胞の犧牲の上に、巨人の如きユダヤ國際金融資本は益々その勢力を蓄積增大して行つたのである。この戰爭を超越した背後の國際的な力は、大戰を通じてパレスタインのより强固な發展のために着々とその準備を進めたのであつた。

トルコが戰爭に參加すると殆ど同時に、チャイム・ワイツマンは大英帝國の保護の下にパレスタイン・ユダヤ・ナシヨナル・ホームを建設すべきことを提唱した。彼は一九一四年十月にアーサー・ジェームス・バルフォア卿（Arthur James Balfour）と會見した。それから二年後の一九一六年十月、シオニストの指導者達はイギリス政府に對して公式に、「パレスタインの新行政とシオニスト運動によるユダヤ人のパレスタインへの再植民のための綱領」を提出した。この綱領の主眼點は、「パレスタインに於ける別個のユダヤ國籍の承認」と「パレ

スタインに居住するユダヤ人のための特許會社の設立」であつた。バルフォア卿とワイツマンとの交渉は可成り古いものであつて、バルフォア卿自身が「一九〇六年頃ワイツマン博士と對談したとき、私はすでにパレスタインがユダヤ人の鄕土として復活せらるべきものだと信ずるに至つた」と述懷をもらしてゐる。彼はまた、ポーランドのシオニストでワイツマンと共に活躍したナヒューム・ソコロフ博士（Nahum Sokolov）とも親交を持ち、ナヒューム・ソロコフの著作『シオニズムの歷史』に序文を書いてゐる。

シオニスト團とイギリス政府との間の交渉は引き續き行はれた。一九一七年七月、シオニスト代表者は、パレスタインに對する宣言を要求する公文書をイギリス政府に提出した。それは、パレスタインをユダヤ民族のナショナル・ホームとして認め、且つパレスタインの再植民及び經濟的發展のためにユダヤの國民的植民協同組合を設置することを要請したものである。イギリス政府當局は、これに對して別の文書で返事を送つた。それこそ後に「バルフォア宣言」(Balfour Declaration)として知られるに至つたものの基礎となつたものである。

イギリスはバルフォア宣言を發するについて實際的、功利的な目的を持つてゐた。その一

は、イギリスが聯合國の勝利のために世界のユダヤ人を利用し、その援助を得んとしたことであり、次に、もう一つはマンチェスターのオゥエン・カレッヂ化學教授であつたチャイムワイツマン博士がイギリスのために戰爭用の强烈な爆藥を發明したことに對する報酬を意味するものであつた。しかし更にもう一つ忘れてならぬことは、近東に於けるパレスタインそのものに對するイギリスの要求である。パレスタインはスエズ運河に接しこれを防衞すべき前衞地として、東地中海に於ける海空軍根據地として、インド及び東洋への空陸交通の要衝として、また今日のイラクから石油を地中海岸へ送る送油管の終點として、極めて重大な意義を持つてゐる。大戰前にドイツはいはゆる三B鐵道によつて、バルカンからトルコ領小アジアに進出せんとして、イギリス、ロシヤの勢力と對立してゐたのである。イギリスが大戰を機として、トルコ領からドイツを驅逐して自らパレスタインを占領し、戰後バルカンに諸小國を設けてドイツと近東との間に扉を作つたのは、さうしたパレスタインの重要性からに他ならないのである。

一九一七年十一月二日——そのときパレスタインはイギリス軍隊が占領してゐた——イギ

リス政府がシオニストの要求を入れた後、當時外相の地位にあつたバルフォア卿はロスチャイルド卿に宛てて次のやうに書き送つてゐる。

「親愛なるロスチャイルド卿

陛下の政府のために卿に對し、次のことを御通信申上げることは小生にとり甚だ欣快とするところであります。卽ち、內閣に提出され承認されたユダヤ・シオニストの切望に同情する次の宣言がそれであります。

『陛下の政府は、ユダヤ民族のためにパレスタインにナショナル・ホームを建設することに同意し、その目的達成を援助するために最善の努力を盡すであらう。これについては、現在パレスタインに在住する非ユダヤ人の公民權並に宗教的權利、及び他國に於てユダヤ人が享有してゐる政治的地位を侵害するが如きことのないことは明かである』

右の宣言をシオニスト協會に御紹介下さらば幸甚に存じます。

敬具

アーサー・ジェームス・バルフォア」

フランス、イタリー、日本はこの宣言とシオニスト問題に對するイギリス政府の態度に同

情を表明した。アジアに於ける新興國家としての日本が、その光輝ある肇國の精神と歷史的傳統とによつて、被抑壓民族の解放のために起ち、また起たざるを得なかつたことは云ふまでもないことである。日本はユダヤ的エゴイズムや唯物主義に對しては飽くまでも抗爭するものであるが、このことはユダヤ民族を絶滅し地上から抹殺し去るといふこととは自ら別個の問題である。

アメリカ合衆國はトルコに對する戰爭狀態には這入つてゐなかつたので、この宣言に對して公式の承認を與へるべき地位には立つてゐなかつた。しかしウイルソン大統領は、一九一八年八月三十一日附でユダヤ法師ステフェン・エス・ワイズへ宛てた手紙の中で、「パレスタインに於けるユダヤ民族ナショナル・ホームの建設に對する大ブリテンの贊助に關し、イギリス政府に代つてバルフォア氏がなした宣言以來合衆國及び聯合國に於けるシオニスト運動がなした進步」に對して率直に滿足の意を表明してゐる。それから約四年後の一九二二年に──當時の大統領はハーディングであつたが──合衆國の上下兩院は、「ユダヤ民族のためにパレスタインにナショナル・ホームを建設すること、但しこれは勿論パレスタインに於ける

キリスト教徒及び他のすべての非ユダヤ人の公民權、宗教的諸權利を傷つけるものでないこと、更にパレスタインに於ける聖所並に宗教的建造物、遺跡等は充分に保護されるものであることは明瞭である」といふ決議を滿場一致で採擇した。

第二項　バルフォア宣言とアメリカ・ユダヤ人

バルフォア宣言を發したイギリス側の意圖については前述した以外になほ種々の點が指摘されてゐる。批評家の中には、バルフォア宣言はロシヤに於けるケレンスキー假政府が崩壞の危機に陷つてゐたのを防衞するために急遽發せられたもので、聯合國にとつてはケレンスキー政府を維持することは極めて必要であつたと說く者がある。その理由は、或るイギリスの政治家が考へたやうに、シオニストに贊同する宣言を發すれば、ロシヤにある四百萬のユダヤ人を味方として動搖しつゝあるケレンスキーの支配を維持せしめることが出來、從つてそれは急迫せるボルシェヴィキ革命を防壓する力となるであらうといふのであつた。

今一つの點はアメリカ合衆國に關するもので、イギリスがシオニストに對して援助を與へ

ればアメリカのユダヤ人は聯合國を支持するであらうといふ忠告が、バルフォア宣言の前にアメリカからイギリスに與へられたといふのである。これはわれわれが旣に見たやうに事實を物語つてゐるのであるが、それ以上になほアメリカのシオニストはバルフォア卿と豫め直接の交渉さへ持つてゐたのである。

一九一七年のはじめ、アメリカのシオニスト指導者で政府の樞位に在つたルイス・ブランデイスはワシントンに於てバルフォア卿と會見し、「宣言」について打合せをしてゐる。それから數ケ月後に宣言が發せられるや否や、ブランデイスは直ちに豫定の計畫に基いて機械のやうに正確なシオニスト運動を開始した。ユダヤ志願兵團と醫師聯合が組織され、復興資金(Restoration Fund) の基礎が置かれた。一九一八年には、來るべき平和會議に於てユダヤ人が要求すべき事項を決定する目的を以て、パレスタインの歴史的な國境を踏調する調査團が組織された。同年六月、ピッツバーグに於けるシオニストの會合で次の如き綱領が採擇せられた。

一、われわれはパレスタインに於ける人種、性、或は信仰の區別なく、政治的並に文化

的平等のために宣言する。

二、われわれはパレスタイン・ユダヤ・ナシ■ナル・ホームに於ける機會均等を保證するため、現存の諸權利を正當に考慮しつつ、パレスタインのすべての自然的資源及び公共物を該地の全人民が所有し支配し得る如き政策を希望する。

三、全人民によつて所有され支配されるすべての土地は、所有の發展と繼續について充分の機會が保證される如き條件の下に貸借せられなければならぬ。

四、協同の原理は、農業、工業、商業及び金融等のすべての企業組織に於て實行の可能な限り採用されねばならぬ。

五、設置される自由なる公共機關のシステムは、敎育のすべての部門と等級とを包含しなければならない。

右の綱領はアメリカのシオニスト代表者等によつて一九一九年の平和會議へ運ばれた。それはアメリカのシオニストがヨーロッパの仲間に提議したパレスタイン委任統治の問題の基礎となつたものである。しかし平和會議ではこの綱領は却下された。

一九一八年は平和會議の準備の年であつた。パレスタインはイギリスの手中に在つた。そのイギリスはバルフォア宣言によつてパレスタイン・ユダヤ國家の建設を約束してゐたのである。ユダヤ民族二千年の夢が今にも實現しさうに思はれたのも無理からぬことであつた。

一九一九年二月二十七日、シオニスト團はパリー平和會議のうちの或る會議に於て、入念に作成したステートメントを提出した。その内容は大體に於て次の如くであつた。

第一　列强國はパレスタインに對するユダヤ民族の歷史的權利とパレスタインにユダヤ・ナシ■ナル・ホームを再建するの權利を承認すること。

第二　パレスタインは國際聯盟の委任により、大ブリテンによつて統治せらるべきこと。

第三　委任統治の條件として、パレスタインはユダヤ・ナシ■ナル・ホームの建設を保證し、究極に於て自治國家（an autonomous Commonwealth）が可能な政治、行政、經濟狀態に置くこと。但しパレスタインに現存するユダヤ人の市民權、宗敎權、或は他の諸國に於てユダヤ人が享有してゐる權利や政治的地位を傷つけることなきを明かにすること。

第四　委任統治者はパレスタイン及び世界のユダヤ人を代表する會議の協力を認めること。

第五　委任統治者はパレスタインに於けるすべての信條に對する宗敎的崇拜の完全なる自由と、パレスタインの住民の間に宗敎や種族による公民的身分或は公民權に差別を設けないといふ保證とを與へること。

これらの要求がいかに充足せしめられたかまたせしめられなかつたかは、今日に至るまで大きな問題を殘してゐる。これについては次の項でも觸れることにするが、とにかく右のやうなシオニストの活動の中でもアメリカのシオニストは極めて重要な役割をつとめたものである。

一九一九年の三月二日に、大統領ウイルソンはアメリカ・ユダヤ會議の委員達に對して次のやうに語つた。「自分は、わがアメリカ政府並にアメリカ國民の完全なる協力一致により、聯合諸國がパレスタインにユダヤ國家の基礎を造ることを承認せしめるやう努力されたいとの要求を受けたのである」と。右の委員といふのはマック判事、ユダヤ法師ワイゼ、ルイス・マーシャル、バーナード・リチャード等である。

第三項　イギリスのパレスタイン政策とアラビヤ、ユダヤ兩民族の對立

イギリスのパレスタイン政策は飽くまで謀略的であつた。パレスタインをめぐるイギリスのユダヤ人懐柔政策は、單に國際ユダヤ人を味方に引入れんとするためばかりでなく、また近東特にパレスタインそのものを目的としてゐた。後の目的のためにはパレスタインに於ける住民の大部分を占めるアラビヤ人の懐柔をも必要ならしめた。

パレスタインをめぐるアラビヤ人とユダヤ人との利害は種々の點に於て相容れないものがあつた。この對立を揚棄するには長い日時と歴史の目覺めとが必要であり、また幾多の折衝が必要であつた。しかし世界戰爭といふ當面の必要に驅られたイギリス——しかも資本主義的功利主義のイギリスにはさうした餘裕も誠意も無かつた。ここにイギリスのパレスタイン政策に於ける根本的矛盾があり背信があり、アラビヤ民族とユダヤ民族との血の悲劇の重大な契機があつたのである。

イギリスは大戰前よりトルコとドイツの接近に多大の關心を持ち、これが對策としてトルコ政府の壓制下に在つたアラビヤ人に對してその謀略の觸手を延ばしたのである。

一九一三年、當時エヂプトにゐたイギリス陸軍のキチナー將軍は、メッカ藩主セリフ・フセインの次男アブドゥラー（Abdullah）とその弟フェイザル（Feisal ibn Hussein）――兩人共にトルコ國代議院の議員であつた――と聯繫を持ち、大戰直前の一九一四年七月トルコ政府とアラビヤ人との間に生じた軋轢を機として更に政治的な會見を行つた。戰爭の勃發と同時にアブドゥラーは、キチナーを通じて知合となつたイギリスの政務官ストルスから父のフセインへ宛てた手紙を手交されたが、それには「イギリスはトルコ皇帝の手中にある敎主權が、アラビヤ人に恢復せられることに異議を持たぬ」との一節があつた。それから一ケ月後には、イギリスの陸軍大臣になつてゐたキチナーからフセインに對して、トルコがイギリスの敵國となつたのでイギリスはアラビヤ人に對して援助を爲すことが出來るとの旨を書き送つた。フセインはこれに對して沈默してゐたが、イギリス側の督促によつて一九一五年七月十四日に至りイギリス政府に公式の書翰を送り、「アデンを除く一切のアラビヤ人居住地域

に於けるアラビヤ人の獨立に對しイギリスより承認を與へられること」を條件としてアラビヤ民族はイギリス・に味方するであらうと答へた。イギリスはこれに對し、同年十月二十四日、エヂプト駐劄イギリス高等辨務官サー・ヘンリー・マクマホーン（Sir Henry Macmahon）の名により、「メルシナ、アレキサンドレッタ地方並にダマスカス、ホムス、アレッポ、ハマ各地方の西に位するシリヤの部分は、純アラビヤ人地域と云ひ難きを以て提案の範圍より除く」との修正を附して大戰終了後「アラビヤ人の獨立を承認、支持する用意あり」との言質を與へた。かくてフセインは遂に一九一六年六月トルコに叛いて起ち、四ヶ年にわたつて戰鬪を繼續したのである。

しかるにイギリスは右の誓約後七ヶ月目の一九一六年五月、フランスとの間にサイクス・ピコー秘密協定（the Secret Syskes-Picot Agreement）を締結して土地分配を約し「エルサレムを含むパレスタイン中部」について國際行政を施くことを決定した。それに續くものが一九一七年のバルフォア宣言である。この宣言は上述のイギリスの對アラブ誓約とは正面から矛盾するものであつた。アラビヤ人はこれに對して猛烈に反對した。一方フランスはフ

ランスで、イギリスに對してサイクス・ピコー協定の履行を迫つてゐた。

しばらくの間、回教世界は騷然たるものがあつた。トルコ帝國は崩壞の危機に瀕し、近東のみならずインドにまで不安が漲つてゐた。

かかる近東の情勢を調査研究するために國際聯盟から派遣された公式使節は、ユダヤ・パレスタイン・ナシヨナル・ホームについて不利な報告を齎した。問題と情勢の錯雜化につれて、パレスタインに於けるイギリス軍の總司令官とその幕僚等はバルフォア宣言を忘れられた大戰の一エピソードと看做し、パレスタインの將來については他の諸計畫を持つやうになつた。

バルフォア宣言に關してアラビヤ人の抗議があつたとき、イギリスは、パレスタインはダマスカスの西方に當る故を以てマクマホーンの聲明通りアラビヤの版圖から除外されてゐると主張した。これに對してフセインは、パレスタインはダマスカスの西方でないと主張した。はじめバルフォア宣言が發表されたとき、フセインは著しく妥協的で、アラビヤ、ユダヤ兩民族は元來共にセム族であるからパレスタインに於て相提携することが可能であると考へた。

一九一八年十一月七日、イギリス、フランス兩政府はシリヤに土着人の政府を建設することを援助する約束をしたので、シリヤはパレスタインを包含すると解したアラビヤ人は樂觀的であつた。かくて一九一九年一月三日、シオニストの代表者チャイム・ワイツマンとフセインとの間に、兩民族はバルフォア宣言の下にパレスタイン建設に協力すべしとの條約を締結したのであつた。アラビヤ人は、戰後の洪水の如きユダヤ移民の流入とその經濟的魔力を豫想することが出來なかつたのである。しかし民衆の不安動搖は蔽ふべくもなかつた。時と共に情勢は惡化した。

かかる狀態はユダヤ人にとつても亦、その輝かしい豫想に反して陰鬱なものであつた。バルフォア宣言に對するユダヤ人の信賴は著しく減退したが、しかしシオニストは飽くまで所期の目的に向つて努力を傾注した。イギリスの外務大臣カーゾン卿（Lord Curzon）がユダヤ人に對するイギリスの誓約を再確認し、陸軍大臣ローレンス（Lawrence）がシオニズムは「今日セム族の新しい近東を安定せしめる唯一の實際的手段である」との意見を發表したとき、シオニストは新しい勇氣を振ひ起した。しかしイギリス軍事內閣は一面に於てパレス

タインに於ける重要な地位に反シオニストを充てて居り、またアラビヤ人指導者等はゐたる所の主要都市で活躍してゐた。

一九二〇年三月、遂にパレスタインに於てユダヤ人に對するアラビヤ人の暴動が勃發した。同年のシリヤ議會はシリヤの獨立を宣言し、フェイザルをパレスタインを含むシリヤの王とし、その弟アブドゥラーをメソポタミアの王に奉戴することを決議した。フランスはシリヤに軍隊を派遣してフェイザルを放逐した。これに對しアラビヤ人は暴動を計畫的なクーデターに導き、ヘッヂャズの獨立を獲得した。この年にはパレスタインで屡々ユダヤ人が殺害せられた。

イギリスはフェイザルをイラク王にし、アブドゥラーをトランス・ヨルダンの首長(エミール)にしたが、パレスタインは依然としてその軍隊によつて占領されたままであつた。

アラビヤ人のクーデターは全世界のユダヤ人の抗議を喚び起した。ユダヤ人はその支配する各國の報道機關を通じて批判の矢を放つた。イギリスの主要諸新聞は、イギリス政府はユダヤ人に對する約束について適當な責任を負ふべきであると主張した。イギリスの議會並に

當時サン・レモに於て開催されてゐた聯合國最高會議に對して請願書が雨のやうに注がれた。ウイルソンと彼の內閣閣僚等はユダヤ人を援助するために出かけて行き、シオニストに對する彼等の友情を披瀝した。

ユダヤ人の活躍によるこれらの親ユダヤ的デモンストレーシヨンに影響されて、聯合國の委員會はフェイザルを召喚してアラビヤ人はパレスタインとシリヤを所領することは出來ぬ由を通達した。その結果フランスはシリヤに對して委任統治を行ふこととなり、またイギリスはパレスタインの委任統治國となつた。そしてバルフォア宣言は、同年八月十日フランスのセーヴルに於て調印せられたトルコとの條約に合體せしめられることになつた。イギリス首相ロイド・ヂヨージはユダヤ人サー・ヘンリー・サミュエル（Sir Henry Samuel）を高官に任用し、ここにも新しい希望がかけられるに至つた。

ニューヨークに於ては、これらの成果に對してシオニストの感謝デモンストレーシヨンが行はれた。

第三節　パレスタインの委任統治

第一項　パレスタインの委任統治條項

一九二二年七月二十四日、ロンドンに於て開催せられた國際聯盟理事會は、「パレスタインに對するイギリス委任統治條項」を作成公認し、これは翌年九月二十九日より實施せられた。この委任條項はシオニズムの歴史に於ける最も重要な文書となつたものである。その緒言に於てはバルフォア宣言が繰返され、さらに「パレスタインとユダヤ民族との歴史的聯繫並にパレスタイン・ユダヤ・ナシヨナル・ホーム再建の根據に對する承認」を與へることが附加されてゐる。委任條項の本文に於ては、ユダヤ・ナシヨナル・ホームの建設を支持する次の如き諸項目が見られる。

第二條

委任統治國は、緒言に於て述べたる如く、ユダヤ・ナシ■ナル・ホームの建設並に自治機關の發展を保證する如き政治、行政、經濟狀態の下に該地を置き、さらに、パレスタインに於けるすべての居住民に對し、種族及び宗敎の差別なくその公民權並に宗敎的諸權利を保護すべき責を負ふべきものである。

第四條

パレスタイン・ユダヤ・ナシ■ナル・ホームの建設並にユダヤ民族の利害に關聯し、つねに統治者の支配を受ける經濟、社會、その他の事柄についてパレスタイン政廳に忠告協力し、該地の發展を援助しこれに關與する目的のために、適當なるユダヤ・エイヂェンシーを公の機關として認めなければならぬ。

シオニスト團は、委任統治者に於てその組織機構を適當と認めるならば、これを右の如きエイヂェンシーとして公認すべきである。それはユダヤ・ナシ■ナル・ホームの建設に對して進んで援助せんとするすべてのユダヤ人の協力を確保するために、皇帝陛下の政府

との協議に參與せしむべきものである。

第六條

パレスタイン政廳は、該地人口の爾餘の部分の權利並に地位を傷つけざることを保證して、適當な條件の下にユダヤ移住民の便宜を圖り、第四條に規定されたユダヤ・エイヂェンシーと協力して、國有地並に公共目的のために必要とせざる荒蕪地を含む土地にユダヤ人を督勵移住せしめねばならぬ。

第七條

パレスタイン政廳は責任を以て國籍法を制定しなくてはならぬ。この法律の中には、パレスタインに永住するユダヤ人が公民權を獲得する便宜を受けるやうに作られた規定を包含しなければならぬ。

第十一條

政廳は、自ら直接に企畫するものは別として、公平正當なる條件の下に公共事業、奉仕、公益施設を創造實施し、或は該地（パレスタイン）の自然的資源の開發を爲すために、第

四條に述べたユダヤ・エイヂェンシーと打合せをせねばならぬ。

第二十二條

パレスタインの公用語は英語、アラビヤ語及びヘブライ語とする。パレスタインに於ける切手或は貨幣に關するステートメントまたは記載事項はヘブライ語で繰返されねばならぬ。そしてヘブライ語で記されたステートメントまたは記載事項は、アラビヤ語で繰返されねばならぬ。

第二十三條

パレスタイン政廳は、それぞれの社會の休日を、その社會の構成員のために合法的な安息日として認容しなければならぬ。

右の委任條項によつて、ユダヤ民族は二千年にわたつて祈念しつづけてゐたところのものを獲得したのである。但し、これによつてパレスタインへ移住したものは主として中流階級以下のユダヤ人であつて、これを援助した巨大なユダヤ財閥は決して自ら移住をしようとは

しなかつた。(これについては前掲拙著『協同史観への志向』を參照)

しかし兎に角パレスタイン委任統治の確定と共に、古代ユダヤの國土へ再び移住するために資金調達のプランが次々に作成された。アメリカではパレスタイン復興のために一億ドル調達の諸計畫が始められた。一九二二年合衆國でケレン・ヘイソッド(Keren Heyesod)によつて九百萬ドル復興資金運動が開始され、翌二十三年には三百萬ドルが調達せられた。一九二六年には五百萬ドル調達の運動が行はれた。

一九二二年にはアメリカのシオニスト諸團體の間に割れ目が生じた。即ち、ブランデイス派と世界シオニスト指導者ワイツマンを支持する一派との對立がそれである。一九二一年六月クリーヴランドで開催されたアメリカ・シオニスト團の會議に於て、ブランデイスのやり方に對する非難の聲が上つた。ブランデイスに反對した議長のジュリアン・マック判事(Julian W. Mack)と三名の有名な委員並に執行委員會のメンバーはその會議から引き上げてしまつた。その中にはジェーコブ・デハアース(Jacob Dehaas)、バーナード・フレクスナー(Bernerd Flexner)、フェリックス・フランクフルター博士、ハリー・フリーデンワル

ド博士（Harry Friedenwald）、ユダヤ法師マックス・ヘラー（Max Heller）並にホレース・カルレン（Horace M. Kallen）、ヒューゴー・パーム判事（Hugo Pam）、ユダヤ法師アッバ・シルヴァー（Abba Silver）、ネーサン・ストラウス、ユダヤ法師ステフェン・ワイゼ、ロバート・スツォールド（Robert Szold）、サミュエル・ワルドスタイン（Samuel E. Waldstein）等がゐた。

分裂の直接原因は、行政及び政策上の相違といふよりも寧ろ精神的な差違にあつたといふことが出來る。ワイツマンの追隨者達は主としてイーディッシュ語を話す東部ヨーロッパのユダヤ人であつた。これに對しブランデイスの支持者等は一般に同化したアメリカ人で西部ヨーロッパの系統であつた。この分裂以來、ブランデイスはシオニストの問題については積極的な役割を演じなくなつた。彼は個々のユダヤ人を接觸結合せしめる手段としてパレスタイン發展聯盟（Palestine Development Leagne）を組織し、またパレスタインに於ける協同事業に投資するためにパレスタイン協同會社（Palestine Cooperation Company）を造つた。更にこの兩者の事業を相聯繫させ、その統一を保つためにパレスタイン發展會議（Pal-

estine Development Council）を創設した。この他彼はなほ、遺贈財産や委託資金を取扱ふためにパレスタイン財源基金（Palestine Endowment Fund）を設立した。この最後のものを除いた他は後にすべて解消し；或は一八二五年にパレスタイン經濟協同組合（Palestine Economic Cooperation）に併合せられた。ブランデイスの夢は、パレスタインの發展についてシオニスト非シオニストを問はずすべてのユダヤ人の利益を圖らうといふにあつた。

一九二八年十月、アメリカのシオニストを中心に、ニューヨークでルイス・マーシャル（Louis Marshal）を議長とする會議が開かれ、ワイツマンは來賓としてこれに出席した。一九二九年八月にはスヰスのチューリッヒで遂にユダヤ・エイヂェンシーが設立された。このエイヂェンシーによつて、全アメリカのユダヤ人はパレスタイン建設に協力するために結合された。そして直ちに、一九三〇年内に六百萬ドルの資金を調達すべき計畫が立てられたのである。

第二項　アラビヤ、ユダヤ兩民族の抗爭

上記のユダヤ・エイヂェンシーが創設された數日後、パレスタイン全土にわたる虐殺のニュースが全世界に傳へられた。それはヘブロン（Hebron）とサーフェッド（Safed）のアカデミーで行はれた虐殺に於て最項點に達した。百名に餘るユダヤ人が殺害され、數百名は負傷した。テラヴィヴ（Tel Aviv）ではユダヤ人はアラビヤ人の襲撃に對して頑强な武力抵抗を行つた。これは「歎きの壁」（Wailing Wall）に關する論爭を直接の契機として、アラビヤ人のユダヤ人襲撃から兩民族の血の衝突となつたものである。「歎きの壁」はエルサレムに在るソロモンの宮殿の遺物と信ぜられてゐる壁である。ユダヤ人はこの壁の前で禮拜するのを習慣としてゐたが、恰もその附近には回敎の聖蹟オマル寺院があつて、ユダヤ敎徒と回敎徒とが同時に禮拜に集まるので種々の爭ひが起り、回敎徒は「歎きの壁」をアラビヤ人の所有に屬するものだと主張したのである。勿論衝突の原因はそれがすべてではなく、また聖地の暴動もこれが始めてではない。前に述べた一九二〇年三月の烽起をはじめ、一九二一年、二三年、二五年と暴動が勃發し、一九二九年以後に於ても三三年、三六年、三九年と血腥い鬪史が續いてゐる。小さい衝突に至つては殆ど每年のやうに續發してゐる。

衝突がアラビヤ人の攻擊にはじまるのは、アラビヤ人が過去一千年間といふものパレスタイン住民の大多數を占めてゐたところへ、新たにユダヤ人が侵入して來たといふ形をとつてゐるからである。大戰前パレスタインに居住してゐたユダヤ人は、その數も少く生活力も旺盛でなく、多くは世界各地の親戚その他からの仕送りで生計を立てて居り、その風俗も著しく土民化してゐたのでアラビヤ人との對立も少かつた。しかるに大戰後續々とパレスタインに移住したユダヤ人の數は莫大に上り、しかも彼等は近代的な能力を具へ且つ新國家建設の希望に燃えて著しく戰闘的であつた。

メッカ系のフセイン、フェイザルの妥協的態度にも拘らず、その後のユダヤ勢力の增大と共にアラビヤ人とユダヤ人の對立は次第に激化して行つた。この對立はすでに一九二二年にパレスタインがイギリスの委任統治となつて、同年九月一日にパレスタイン憲法が新たに制定されたとき、その運用についてはつきりと現はれたのである。同憲法は政務を民政總監及び行政會議に委ねると共に、民政總監及び二十二名の代議員から成る立法議會を設置した。而してその代議員中十名は民政總監これを任命し、殘る十二名は回敎徒八、キリスト敎徒二

ユダヤ教徒二の割合で選擧によつて決定することになつてゐた。

これにはアラビヤ、ユダヤ双方が反對し、一九二二年の最初の選擧に於てこれをボイコットしたのである。アラビヤ人は、この立法議會への參加は結局パレスタインの委任統治並にユダヤ・ナシヨナル・ホームの建設を承認する結果になるのでこれに反對したのである。なほアラビヤ人の議席數がその人口比率に比して著しく少く、總監指名の議員、キリスト教徒等はユダヤ人の策謀する餘地が多いこと、さらにイギリス人たる政府最高委員が最高の權限を握つてゐて議會はその承認なくしては何事もなし得ないといふことも反對理由となつてゐる。

ユダヤ人側の反對理由は、パレスタインは曾てユダヤ人の國土でありユダヤ人はこれを放棄してゐないこと、ユダヤ人は今日と雖もその民族的特性を保持してゐること、アラビヤ人が國際的に認められた委任統治とユダヤ・ナシヨナル・ホーム建設に反對してゐること等である。要するにアラビヤ人はユダヤ人の權利を保證する委任統治に反對してゐるのであるから、これを立法に參加せしめるのは危險でもあり不合理でもあるといふのがユダヤ人側の主張である。

イギリスはこの問題に關して協調點を發見せんとして種々努力したがその効なく、遂に一九三六年に至つて立法議會は否決されたのである。

「歎きの壁」をめぐる暴動について、ユダヤ人並に親ユダヤ的各國人はイギリスを非難した。イギリスはパレスタイン・ユダヤ・ナシヨナル・ホームに關するその約束を破棄したのだ、といふ攻撃が旺んに行はれた。ウラヂミール・ヤボチンスキーに指導された戰鬪的シオニスト等の批判は特に猛烈を極めた。ウラヂミールはイギリスがアラビヤ人の味方になつたと宣言した。イギリスでも、政府はその委任統治を廢棄したのかとの詰問が屢々行はれた。當時マクドナルド勞働黨內閣が政治を執つてゐたが、政府は委任統治を飽くまで遂行するといふ決意を再確認した。勞働黨政府はパレスタインに調査團を派遣したが、その報告は、暴動が「アラビヤ人側の政治的、民族的希望の喪失、並にその經濟的將來に對する憂慮によるユダヤ人憎惡」に基くものと斷定した。そこでイギリス政府は、急激なるユダヤ移民を緩和するため一九三〇年五月、ユダヤ移民を制限しまたアラビヤ人がユダヤ人に對して土地を賣却することを禁止した。「歎きの壁」については、同年イギリスが國際聯盟の承認を經て、スヰス、

オランダ、スウェーデン人より成る調査委員をして現地調査を行はしめた結果に基き、「壁そのものは回教徒の財産である。但しユダヤ人に自由出入を許す」と決定して一應の解決を見た。

勿論これは何等問題を根本的な解決に導くものではなかつた。一部のシオニストは、これを以て死の打撃であるとさへ看做した、單に精神的な打撃だけでなく、シオニズムは實際的にも衰滅の危機に陷つたのである。一九三〇年に於ける合衆國のシオニスト運動の低下は、パレスタイン建設資金の調達を著しく減退せしめた。チャイム・ワイツマンは、イギリスの欺瞞政策特にパレスタインへのユダヤ移民の制限に對する抗議と責任から、世界シオニスト團の團長の地位を退いた。同樣の理由によつて、フェリックス・ウォーバーグはユダヤ・エイヂェンシーの所長を辭任した。

かくの如き危機に當面して、アメリカに於ては一九三〇年ブランデイス派が再びシオニズムと協調し、ロバート・スツォールドが指導者となり、ブランデイスはその忠告者の役割をつとめ、マック判事及びユダヤ法師ステフェン・ワイズはその補助者となつた。ユダヤ敎改

革派もシオニズムに對するその見解を變更するに至つた。勿論ユダヤ法師の中にはシオニズムの思想を受容れないものも多かつたが、次第に暗默のうちにシオニズム運動を支持するものが增加して來た。目下合衆國には九個のシオニスト團體が存在してゐる。そのメンバーは總計十萬以上に達する。それは次の團體である。

アメリカ・シオニスト團（Zionist Organization of America）（註）、「ハダッサ及びシオンの秩序の息子」（Hadassah and Order Sons of Zion）、「靑年ユダヤ及びアヴカ」（Young Judaea and Avukah）アメリカ・シオン團（American Zion Commonwealth）、ユダヤ社會主義勞働黨ポアル・シオン（Jewish Socialist Labor Party Poale Zion）、ミツラーチ・ハッツォイル（Mizrachi Hatzoir）、アメリカ・ミツラーチ團（Mizrachi Organization of America）、ユダヤ・パレスタイン踏査會（Jewish Palestine Exploration Society）、パレスタイン・ヘブライ大學アメリカ委員會（American Committee of the Hebrew University in Palestine）、靑年ポアル・シオン（Young Poale Zion）、シオニスト勞働黨「ヒタチデューツ・ツェーレ・シオン・オヴ・アメリカ」（Hitachdut Zeire Zion of America）。

一九三一年の世界シオニスト會議に於て、ナヒューム・ソコロフがワイツマンの後任としてシオン團の團長に選ばれた。

（註）シオニスト・オーガニゼーション・オヴ・アメリカの總裁は、一九三八年七月、ユダヤ法師ステフェン・ワイズから同じくユダヤ法師ソロモン・ゴールドマン（Solomon Goldman）に交迭した。

第三項　パレスタインに於けるアメリカ・ユダヤ人

パレスタインに於ける最も重要な産業企業は、主としてロシヤ系及びポーランド系ユダヤ人がイニシアティーヴを採り、その資金も大部分ヨーロッパに於て調達されてゐる。それに對してはアメリカ合衆國からは殆ど何等の援助もなされてゐない。一般にアメリカ・ユダヤ人としては、世界ユダヤ人間に於けるその人口や資産の尨大さに比すれば、パレスタイン建設に對する彼等の實際的努力は大きくない。大戰後のシオニストの活動によつて、アメリカ・ユダヤ人は種々のシオニスト資金の寄附には參加したが、パレスタイン自體に於ては積極的

な活動を示してゐないと云はれ、資本家達もその投資には必ず擔保を要求して引込み思案であると評されてゐる。これは一九二一年に、パレスタインの土地購入及び私的植民を促進する目的で創立されたアメリカ・シオニスト團（Zionist Organization of America）の放漫な政策による失敗や、シオニスト・エイヂェンシーのアメリカ人執行委員やその他のパレスタイン諸機關の執行委員達の態度、方針等の影響であるとも云はれてゐる。

しかし、アメリカ・ユダヤ人も漸次パレスタイン建設に積極性を示しはじめ、特に一九二九年以來——アメリカに於ける經濟的不況の影響も手傳つて——アメリカ・ユダヤ人のパレスタインに對する經濟的活動は從來になく大規模、廣汎に行はれるに至つた。但し、パレスタインでのアメリカ・ユダヤ人自身の活動は依然として著しい進歩は見せなかつたが、それでも諸種の重要植民地並に產業企業に於て相當の發展を見せ、なほヨーロッパ・ユダヤ人の企業に對しても「サイレント・パートナー」として多額の資本を投資してゐる。

アメリカ・ユダヤ人が建設したパレスタイン最大の植民地は、地中海岸にあるテラヴィヴ北方十五哩の「ヘルツリア」（Herzliah）である。ヘルツリアの土地ははじめアメリカ・シオ

ン團（American Zion Commonwealth）が購入したものであるが、蜜柑、オレンジ等の栽培によつて發展してゐる。この植民地には、當初の失敗のためアメリカ・ユダヤ人は少數者となつてゐるが、それを含めて三千五百の人口があり、益々繁榮をつづけて行きつゝある。その土地も年々擴大され、近い將來にはシャーロン地方の果物栽培地として最大の植民地となる可能性を持つてゐる。

アメリカ・シオン團の建設事業の今一つの見るべきものは、豐饒なるエスドレロン溪谷の中心にある「イスラエルの町」（City of Israel）とその近隣にあるバルフォーリア（Balfouriah）の兩植民地である。前者は千人以上の人口を持ち、交通の便も良いので將來を囑望されてゐる。バルフォーリアには約三百人位しか居ない。アメリカ・シオン團はその全盛期に於て、ハイファ（Haifa）とアスレ（Acre）の間に横はるハイファ平原の廣大な土地、及びハイファとナザレ（Nazareth）の中間にある森林地帶の一部を購入したが、その後財政困難によつて兩方とも國民基金（National Fund）が引繼ぐことになり、移民を送つてゐる。

もつと小さいアメリカ・ユダヤ人の植民團體にニューヨーク・アチューザ・アレフ（New

York Achooza Aleph）がある。その加入者は主として中產階級に屬し、普通は直ちにパレスタインへ移住せず、最初に投資してから五六年經つて、栽培された果樹が實を結ぶやうになつてはじめて移住する。アチューザは土地購入、協同栽培をやり、また井戶、道路を作り村を建設し、公共建築物を建てたりして移住者の便を圖る仕組になつてゐる。この方法が成功したので、諸他の植民團もそれを模倣するに至つた。パレスタインに於けるアチューザの構成員は、テラヴィヴからヘルツリアに至る中途のラアナナ（Raananah）——人口千八百でその大部分はアメリカ・ユダヤ人である——とパレスタイン南部のガン・ヤヴネー（Gan Yavneh）に植民地を形成してゐる。以上の他にアメリカ・ユダヤ人の小植民團體は、ガン・ハダル（Gan Hadar）、ヘルース（Heruth）があり、なほそれら協同團體以外にもより資本主義的なグループや個人經營等がある。ガン・ハイム（Gan Haim）やテル・モンド（Tel Mond）等の如きがそれである。

今一つ注目すべき植民團體にアメリカン・ハルチム（American Halutzim）がある。それはアメリカに於けるユダヤ人勞働者のパレスタイン開拓組織である。既述の諸團體の構成員

は大部分中産階級に屬し、パレスタインへ移住後も大體に於てアメリカで行つてゐたのと略略同程度の生活を維持して行くが、ハルチムのメンバーは殆ど無一文で移住し、パレスタインの「プロレタリアート」として激しい勞働に從事する。彼等は主としてパレスタイン特有の集團農場たるキブチム（Kibutzim）を形成し、概して熱烈なユダヤ理想主義を信奉してゐる。その中にはアメリカに於ける大學卒業の青年男女も交つて居り、資本主義を排してユダヤ的協同體を樹立せんと努力してゐる。彼等はパレスタインに於けるユダヤ的ルネッサンスを成就しようと考へてゐるのである。

（註）パレスタインに於けるユダヤ的協同體——特にキブチム及びクヴツォト等の集團農場——の歴史的意義については拙著『協同史觀への志向』二九三頁以下を參照。

パレスタインの開拓者としてのアメリカ・ユダヤ人として特殊な範疇に屬するものにアメリカ人除隊兵がある。彼等は第一次世界戰爭中パレスタインに於ける軍隊に自ら入隊した義勇兵だつたもので、戰後そのまま定住してゐる。その數は多くはないが、南部で種々のグループをなして植民地を形成してゐる。

パレスタインに於けるアメリカ・ユダヤ人は、實際的な電氣技師、自動車工、煉瓦工、建築技師等として重要な役割を果してゐるといはれる。アメリカ・ユダヤ人の產業上の地位は益々重要なものになりつつある。しかし、われわれは正直なところ世界ユダヤ人にとつて、實際的意味に於けるユダヤ・ナショナル・ホームはパレスタインよりもむしろアメリカ合衆國そのものではないか、特にニューヨークこそ彼等の眞のエルサレムではないか、との疑問を禁ずることが出來ないのである。アメリカに於けるユダヤ人にとつてアメリカが何を意味するかは論ずるまでもないことである。パレスタインに於ける產業經營の僅か五パーセントがアメリカ・ユダヤ人に屬する。或は少くともアメリカ・ユダヤ人の資本によつて經營されてゐる。

最後に、アメリカ・ユダヤ人のパレスタイン建設に對する參加については、一九二五年にルイス・ブランデイスを中心として組織されたパレスタイン經濟協同組合（P. E. C.）の活動を見逃すことは出來ぬ。ブランデイスがアメリカのシオニズム運動に於てワイツマンの支持者等と分裂したことは前に述べたが、彼はワイツマン等の政治的シオニズムに對してむし

ろ經濟主義的な見地に立つたのである。パレスタイン建設についても、ブランデイスのグループは政治的、文化的關係よりも經濟的成果に重點を置き、パレスタイン植民に關するあらゆる希望をハルチム——それは國民基金運動によつて資金を提供されてゐた——に結びつけようとする當時流行の理想主義的傾向に反して、パレスタインの發展のために飽くまで個人的なイニシアティーヴを奬勵する現實主義的立場に立つた。パレスタイン經濟協同組合は、さうした見地から組織されたもので、當初はパレスタインに於て建築をしようとする人々にクレディットを提供することを目的としたものである。それはパレスタイン抵當銀行、協同機關中央銀行をはじめパレスタイン加里シンディケート、パレスタイン・ホテル株式會社等に株式所有者として投資してゐる。そのパレスタインに於ける投資額は約三百萬ドルである。

ブランデイスのグループは、近年になつて更にニューヨークに於てパレスタイン經濟委員會(Palestine Economic Committee)を創設した。この委員會はブローディ(Brodie)とスツォールド(R. Szold)の兩名の指導の下に、パレスタインに於ける經濟調査を行ひパレスタインへの移住や投資に關心を持つアメリカ・ユダヤ人に對する報告をやつてゐる。それは

テラヴィヴにリュゥイン・エプスタイン(R. Lewin Epstein)を所長とする事務所を設けたが、これはナチスのユダヤ人排斥によるドイツ・ユダヤ人のパレスタイン移住について重大な役割を演じてゐる。

第一次世界大戰後世界制覇を夢みるアメリカ合衆國はその傳統的モンロー主義を中南米にまで強要して、非アメリカ人に對してその門戸を閉ざさしめる政策を採ると共に、他方、滿洲、支那をはじめメソポタミア、イラン、イラク、パレスタイン、及び東洋に於けるオランダの植民地等に對して盛んに門戸開放を主張しはじめた。ユダヤ・パレスタイン・ナショナル・ホームは單にイギリス・ユダヤ人及びイギリス帝國の植民地たるのみでなく、またアメリカ・ユダヤ人及びユダヤ的アメリカの植民地となつてゐるのである。その背後にはメソポタミア油田に對するスタンダード・オイル會社の利權をはじめ、西南アジアに於けるアメリカの投資利權等が存在してゐることも忘れてはならない。

第五章　第一次世界戰爭後の
アメリカ・ユダヤ人

第一節　アメリカ・ユダヤ人の繁榮とアメリカのユダヤ化

第一項　シャイロック・アメリカ

世界戰爭は世界活動の中心をヨーロッパより合衆國に移し、戰後の世界資本主義の新しい出發はアメリカを中心としてはじまつた。大戰の結果築かれたアメリカ財界の基礎は磐石の如く、特に商工業の發展は著しかつた。戰後、民主黨を壓してハーディング、クーリッヂ（Coolidge）、フーヴァー（Hoover）の三大統領を出した共和黨は、主としてこの繁榮せる商工業者を背景としてゐたのである。大戰後共和黨の積極的對外政策により、アメリカは戰爭による列强の疲憊に乘じて中南米は勿論アジア、ヨーロッパにわたり世界的經濟發展を試みた。

南北アメリカ大陸については、モンロー主義の立場から汎アメリカ會議を設置して中南米

諸國の反感を金權によつて抑壓し、支那に關しては門戶開放、機會均等を唱へつつ、後進資本主義アメリカは何時の間にかアジア大陸に深くその根を下した。ヨーロッパに對しては政治的には飽くまで不干涉主義を標榜してゐるが、戰後に於けるヨーロッパ經濟の復興、或はドイツ賠償金の支拂等の解決はアメリカの尨大な資金援助なくしては達成され得なかつたし、また合衆國としてもヨーロッパ諸國に對する戰債並にその利子の回收といふ點からしてこれを放任することが出來なくなつたのである。しかし、このヨーロッパ經濟に對するアメリカの介入は——他の世界に對しても同樣であるが——飽くまでアメリカ金融資本の世界支配を目指す高利貸的態度を以て行はれたのであつて、これに對しては流石のヨーロッパ資本主義諸國も反感を抱き、フランスの如きはアメリカを以て二十世紀のシャイロック（Shylock）——シェークスピアの有名な戯曲『ヴェニスの商人』中に出て來る吸血鬼的なユダヤ高利貸——であると罵倒した。しかし結局に於てアメリカの巨大なるドル外交の前には、戰後の恢復に汲々たる病者の如き諸國はこれに對して叩頭するの他はなかつたのである。

かくて十八世紀以來の新大陸アメリカは、第一次世界大戰後共產主義ロシヤと並んでイギ

かくて十八世紀以來の新大陸アメリカは、第一次世界大戰後共產主義ロシヤと並んでイギリスと共に世界資本主義の矛盾の一大動因として、世紀末的な舊大陸化の傾向を濃化して來たのである。そしてそれはまた、一面に於てアメリカのユダヤ化、アメリカを根城とするユダヤ黃金王朝の世界支配の發展ともなつたのである。シャイロック・アメリカといふ批判は決して單なる譬喩ではなくて生きた現實を物語つたものであつた。

　世界戰爭の終末はアメリカのイスラエルの歷史にとつて新しい時代を劃するものであつた。アメリカのユダヤ人は戰爭の間に富み且つ繁榮した。殆どアメリカの全產業に於けるブーム狀態は、利に慧いユダヤ人の乘ずるところとなつた。多數ユダヤ人の從事する衣服商業は、何百萬となきユーニフォームの需要によつて未曾有の繁榮を來した。賃銀は狼煙のやうに高く上つた。あらゆるユダヤ・マヌファクチュアーや商店は好況を謳歌した。外國貿易の繁榮は云ふまでもない。その發展振りは驚くべきものであつて、「ユダヤ民族の歷史上未だ嘗てかくも多くのユダヤ人が繁榮したことはない」とユダヤ人自身が告白してゐる程である。
（"Jews Come to America"）

　戰爭の直後新しいユダヤ移民の一團が合衆國へ到來した。それは從來移住したユダヤ人と

は異つて一層高い階級のものであつた。彼等の多くは東部ヨーロッパに於て繁榮してゐたものであるが、戰爭及び戰後の革命や虐殺に遭つて放浪の旅に上つたのである。新しくアメリカへ移住したこれらのユダヤ人はその數凡そ三十萬で女子供を多く含んでゐた。彼等の夫や父親は戰爭中に彼等を連れて來ることが出來なかつたのである。

新しいユダヤ移民は以前のそれよりも遙かに容易に移住することが出來た。彼等は比較的富裕であつたし、またアメリカに親戚を持つてゐたので衣食に心配なく移住することが出來た。この新しい移民はアメリカ・ユダヤ人の勢力增大に大きな要素を附加したといふことが出來る。東部ヨーロッパのユダヤ人の危機を救ふために、アメリカのユダヤ人は實に何千萬、何百萬といふドルを送つてゐるのである。

大戰後東部ヨーロッパのユダヤ人の狀態は思はしくなかつた。ポグロムと虐殺とはユダヤ人の生活を戰慄させた。幾百萬ドルとなき金がこれらの諸國へ送られたが、それはユダヤ人の苦惱を緩和するには充分の役には立たなかつた。ロシヤ革命による混亂がやや安定しはじめた時、この革命によるユダヤ人犧牲者には中產階級の者が多いことが明かになつた。しか

し革命後のロシヤはユダヤ人に對して光明ある將來を約束した。これには革命政府内に占めるユダヤ人の有力な地位が多分に影響してゐる。

一九二六年、ソヴェート政府はクリミヤ及びウクライナの廣大な地域にユダヤ農民を多數定住せしめることを發表した。土地はロシヤ政府が提供したが、移住民に對する種々の供給物は主としてアメリカ・ユダヤ人が提供しなければならなかつた。他の諸國のユダヤ人は多く自分達が戰爭の受難者であつた。一九二六年ロシヤの提議があつて間もなく、二千五百萬ドル調達運動が合衆國で開始された。ユダヤ人ジューリアス・ローゼンワルドは五百萬ドルを引受け、ジョン・ロックフェラー（John D. Rockfeller・弟の方）が五十萬ドルを寄附した。この資金によつて數萬のユダヤ人家族が彼等に割當てられた農場に移住した。

ロシヤ政府はクリミヤとウクライナの他に、シベリヤのビーロビジャン（Biera Bijan）に於ける廣大な地域をユダヤ移住民のために開放した。これには主としてウクライナより手工業者並に農民ユダヤ人が移住し、一九二八年頃には約一萬の人口を持つに至つた。これが移住に要した資金の六十五パーセントは、アメリカを筆頭として、ドイツ、フランス、アルゼ

ンチン等のユダヤ諸團體から送られたものである。三十五パーセントをロシヤ政府が、そして殘りの十パーセントを移住者自身が負擔した。一九三六年、駐米ソヴェート大使トラヤノフスキー（ユダヤ人）は、ニューヨークに於けるユダヤ人の「對ビーロビジャン・ユダヤ移住委員會」の席上で、ユダヤ勞働階級のビーロビジャン移住をすすめる演說を行つた。その後で同委員會議長たるブナイ・ブリス團員ウィリアム・コーエンはソヴェート政府の提案に感謝の意を表した。アメリカ・ユダヤ人のビーロビジャン移住については種々の工作が行はれたが、しかしこの地の自然的な生活條件のためにアメリカのユダヤ人自身は極少數しか移住してゐない。ロシヤ政府は、この地へユダヤ人が充分に移住すれば新しいユダヤ共和國を建設するといふ計畫を立てた。

因にこのユダヤ・ビーロビジャン區は、アムール河流域ハバロフスクの西方、松花江（スンガリー）の對岸に作られたもので面積はパレスタインの約二倍位であるが、アムール迂回鐵道と連結するのみならず、シベリヤ鐵道によつてウラヂオストックに通ずる軍事的重要地點であつて、ソ聯邦極東重工業の一大綜合精煉所の建設が企圖されてゐるといふ。ドイツ陸軍大佐アルフレ

聯邦極東重工業の一大綜合精煉所の建設が企圖されてゐるといふ。ドイツ陸軍大佐アルフレッド・シュトッスによれば、このビーロビジャン區はアメリカの對日攻勢根據地の意義を持つものであつて、極東特に日本海及びオホーツク海沿岸に於てロシヤがアメリカに租界を提供するといふ問題は兩國間の多年の懸案であつたが、これによつて一擧に「ユダヤ植民地」といふ坑道が作られることになるわけである。(Alfred Stosz, "Der Kampf Zwischen Jude und Japan" München, 1934.)

（註）なほビーロビジャン・ユダヤ區については、外務省歐米局、野口氏の調書『ソヴェート聯邦猶太人植民地ビロビジャン區事情』（昭和七年）を參照。

アメリカ・ユダヤ人は多數ユダヤ人のロシヤ農場への移住の便を圖つたのみならず、種々の町でユダヤの工人が機械を購入し店舗を設けるための資金を寄附し、農民に慣れないユダヤ人のために金融組織を作つて他の生活を立てしめるやうに援助を與へた。彼等は、ポーランドその他の東部ヨーロッパ諸國に對してはユダヤ人商業學校や種々の教育補助金を寄贈した。かくてヨーロッパに於けるユダヤ人の生活は次第に恢復し、却つて從前よりも確實な發展をなし始めたのである。

かくの如きアメリカ・ユダヤ人の他の諸國に對する積極的援助は、一面に於て彼等がいかに戰後繁榮してゐたかを示すものであると共に、他面に於て、それはアメリカ・ユダヤ人の勢力が他の諸國へ浸透して行く過程であつて、これがアメリカの世界政策にとつて重要なる役割を演ずるに至つたことは云ふまでもないことである。

第二項　大戰後のユダヤ移民とその制限

アメリカの歴史を通じて、無制限の移入民に反對する聲はしばしば聞かれたところである。そして、これは多くの場合移民制限法の實施となつた。

第一次世界戰爭の終局と共に移民制限の聲は一段と高くなつた。戰爭の終結は熱狂的な好景氣に冷水を浴びせ、對外的にのみ向つてゐた力が一應對內的となり、國內整理のために失業や生活難が强くなると共に人口の過多が改めて問題となつたのである。移民を制限しなければさらでだに人口過剩のアメリカは洪水のやうに流れ込むヨーロッパの下層民で充滿するだらうと云ふ批判が昂まつて來たのである。

大戰中合衆國へ移住したユダヤ人の數は次の如くである。

年次	合衆國へのユダヤ移住人口
一九一五年	二六、四九七人
一九一六年	一五、一〇八人
一九一七年	一七、三四二人
一九一八年	三、〇八七人
一九一九年	三、〇五五人

戰爭終了直後の一九二〇年には一四、二九二人のユダヤ人が入國してゐる。これは戰前の移民數に比すれば小さい數であるが、戰後の經濟的不況は無制限の移民反對に口火をつけ、移民制限のアヂテーションは燎原の火のやうに擴がつた。一九二〇年、下院議員アルバート・ジョンソン（Albert Johnson）は合衆國への移民を二ケ年間中止すべしとの議案を提出した。數日後には上院議員ウィリアム・キング（William H. King）も亦同樣の議案を提出した。それから更に數日後には上院議員ウィリアム・ディリンガム（William P. Dillingham）が、すでに合衆國に移住した各國民の人口數の五十パーセント迄に移民を制限すべしとの議案を

提出してゐる。かくて種々協議の結果遂に折衷案が作成され、一九二二年六月三十日を以て終了するその年度に於て、一九一〇年に於ける合衆國在住各國籍者の三パーセント迄移民を制限することになつた。

これら議會に現はれた制限法に對して、種々のユダヤ國民的團體——アメリカ・ユダヤ委員會、アメリカ・ユダヤ會議準備會、勞働者サークル、合衆國ヘブライ・トレード、ヘブライ避難民並移住者援助會等——の代表者にして下院議員たる人々は嚴重な抗議を行つた。しかし議會ではこの抗議は問題にされず、議案は遂にウイルソン大統領のもとに送附されたのである。ウイルソンの背後にはシッフをはじめとして有力なユダヤ人がゐた。ウイルソンは種々の移民制限法案を抑留してゐた。ユダヤ人の最後の目的はウイルソンの任期中に、彼のポケットの中でこの法案を握り潰すことであつた。實際に於てウイルソンは右の第三移民法案をも否認してしまつたのである。勿論移民制限に反對したのは獨りユダヤ人のみではなかつたが、ユダヤ人の反對は有效適切であつた。

戰後の混亂に乘ずる左右兩翼の鬪爭については後節で述べるが、兎に角職業的な右翼團體

や愛國主義(ショーヴイニズム)や、或は無定見な暴力團迄が移民反對の運動を起した。移民反對にも相當な理由がある。われわれは「百パーセント・アメリカ人團」や「ク・クルックス・クラン」(Ku Klux Klan)などの國粹主義に必ずしも贊同するものではないが、彼等の移民反對やユダヤ人排撃は、決して單に大戰後の反動とのみ看做し得ない一面を持つてゐる。歷史の起伏の如何に拘らず、アメリカに於けるユダヤ人の勢力が增大し、移民がその重要なる一原因となつてゐることは明かである。從つて、移民制限そのものがアメリカに於けるユダヤ人勢力の增大を物語るものであると云つても決して逆說にはならぬであらう。

ハーディングが大統領に就任して特別議會が召集されると共にまた移民制限法が提案されて問題となつた。その法案はウイルソンが握り潰したものと略々同じ內容のものであつたが、それは上下兩院を通過してハーディングの署名を要求して來た。ユダヤ敎改革派の指導者にしてアメリカ・ユダヤ委員會の委員長たるルイス・マーシャルは、この法案についてハーディング大統領に强硬な抗議をなした。彼の抗議は次のやうなものであつた。卽ち、アメリカ合衆國はその傳統的政策を拋棄しつつある、該法案は明かに不公平であり、家族的結合を妨

害するものである。その移民制限法は西半球の諸國を除外してゐるから差別的である。國籍に基く移民の制限は不健全で、それはやがて大きな不正と不平とを齎すであらう。この法案の通過を必要とするいかなる理由も存在しない。等々。しかし乍らマーシャルの抗議やユダヤ人達の反對にも拘らずハーディングは遂に移民制限法案に署名した。

右の法案は移民の割當てを、合衆國に於ける一九一〇年の各國籍住民の三パーセントと規定したものである。その大綱は北歐及び西歐諸國に有利であつて、スカンヂナヴィア、ドイツ、イギリス等に區分され、東歐及び南歐には不利で、ロシヤ、ポーランド、イタリー等に分れてゐる。この制限法は一九二一年六月三十日から一九二二年六月三十日迄有効となる筈であつたが、一九二二年二月に至つて國會はこれを更に一九二三年六月三十日迄延期することを決議した。これは東部ヨーロッパのユダヤ人にとつては大打撃となつた。

數萬となきユダヤ人がウクライナ及びロシヤからポーランド、ルーマニア及びその他の諸國へ逃亡してアメリカへ渡る機會を狙つてゐたのである。中產階級以下のものは、財產を賣りヨーロッパを逃れ去るために最後の一錢迄費ひ果したものが多い。ポーランドはこれらの

ユダヤ人を排撃し、船舶は彼等を再びロシヤへ運び返した。多數のユダヤ人はパレスタインやドイツへ轉出した。數百名はキューバとメキシコへ赴き、またカナダへ行くものも多かつた。

ポーランドのユダヤ人の歷史は古い。十字軍及び黑死病時代に西部ヨーロッパから追はれたユダヤ人はポーランド、リトアニア、ハンガリー等に流れ込み、そこで貴族と奴隸との間の中間階級としての待遇を受けた。ポーランド國王は彼等を保護し各種の自治を與へた。但し職業の選擇には嚴重な制限を加へられ、また土地所有並に手工業組合（ハンドクラフト）への加入を禁止されてゐた。しかし十五世紀から十七世紀にかけて、ポーランドのユダヤ人は最大の自由を享樂してゐたのである。ポーランドがその大部分をロシヤにその他をオーストリーとプロシヤに三分されて以來、該地のユダヤ人も三分され且つ自治を廢止された。ヨーロッパ大戰の結果ポーランドの復興が成熟したとき、都市人口の三分の一はユダヤ人であつた("Nineteenth Century" March, 1938.)。戰前ポーランド商人の十中九迄はユダヤ人で、ポーランド人は主として地主或は農夫であつた。しかしポーランド人自身の商業が發展するに至つて、ユダヤ人

との對立は宗教的相違の域を脱して漸く激化して來た。既に一九一二年――帝政ロシヤとの分離以前――ユダヤ商人並に手工業者に對する排斥運動が行はれたが、大戰の勃發は一時これを抑壓した。戰爭の終局と共にユダヤ人排擊は頓に激烈となり、一九一八年にはユダヤ商人に對する組織的なボイコットが行はれ、一九一九年初頭にはユダヤ人虐殺の波が押し寄せ、數百名が殺された。同年末以來排ユダヤ運動はやや緩和したが、それでもなほ一九二三年には、ポーランド人商店の扉には「犬とユダヤ人は入るべからず」といふビラが貼られてゐたことは有名である。

戰後のウクライナでも亦未曾有の流血の慘事が行はれた。ウクライナには當時百萬のユダヤ人がゐたが、その四分の一は殺傷され、一萬のユダヤ人は飢餓とチブスとのために斃れたといふ。虐殺を逃れたユダヤ人は、數萬、數十萬と雪崩を打つて國外に逃走した。三百年以上ユダヤ人の中心であつたウクライナは、逆に最も後退した地位に追ひ込まれることになつたのである。ルーマニアも百萬近くのユダヤ人口を持つに至つてゐたが、ここでもユダヤ人排斥運動が激化して來たのである。

問題が少し横に外れたが、かうしたヨーロッパの情勢は益々ユダヤ人のアメリカ移住心を促進したのであるが、恰もこの時、例の移民制限法が實施されるに至つたのである。その結果は次の數字によつて一目瞭然たるものがある。

年次	合衆國へのユダヤ移住人口
一九二一年	一一九、〇三六人
一九二二年	五三、五二四人
一九二三年	四九、七一九人
一九二四年	四九、七一九人

一九二四年五月二十七日、時の大統領クーリッヂは別個の新しい移民制限法案に署名した。その法案は、一八九〇年の合衆國に於ける各國籍ユダヤ人口の二パーセント宛割當ててこれを一ヶ年の許可數としたもので、それは北歐移民にとつては甚だ率のよいものであつた。この法案は同時に「除外例の外は歸化權なき外國人の入國禁止」を含んでゐたもので、これは從來歸化權のない東洋人は日本人のみであつたため、人口過剰に惱むわが國にとつては重大問題となり、當時のわが埴原駐米大使はアメリカ議會に抗議書を送つたが、その中に日本と

アメリカの間に「重大なる結果を生ずるであらう」との一節があつたため、一層大問題となつた。當時カリフォルニアの勞働者達が、傭銀の安い勤勉な日本人の移住に脅威を感じて、猛烈な排日運動やボイコットを行つたことも有名な事實である。これを見ても移民制限法は、ひとりユダヤ人のみに對する制限ではないが、日本人移民の數に比べれば、ユダヤ人の數は餘りに大きかつたので、その打擊も亦大きかつたと云へる。一九二五年に右の法律が實施された結果、ユダヤ移民數は前移民制限法による三パーセント割當の五分の一に切りつめられることとなつたのである。その實狀は次の數字に現はれてゐる。

年　次	合衆國へのユダヤ移住人口
一九二五年	一〇、二九二人
一九二六年	一〇、二六七人
一九二七年	一一、四八三人
一九二八年	一一、六三九人
一九二九年	一二、四七九人

それでも尙、移民制限のアヂテーションと諸活動は續いた。一九三〇年、三一年に於ける

金融恐慌と尖鋭化した失業狀態とを背景として、移民制限の聲は次第に白熱化し、一層嚴重な傾向を示すに至つた。一九三一年の議會に提出された一法案は、過去の割當法の下で許されてゐた移民數の九十パーセントを削除せんとするものであつた。この法案どころではなかつた。移民を全的に中止せよとの聲が益々旺んになつて來たのである。これは極度の失業狀態に在つたアメリカ人勞働者を保護する非常手段として提唱されたものである。フーヴァー大統領は遂にアメリカ領事に對して實施命令を發し、アメリカへの移民を全的に中止してしまつた。かうした移民制限運動と相呼應して、合衆國内部に於て猛烈なアンチ・セミティズム運動が行はれたのであるが、これについては後節で詳述する。

かくの如き移民制限或は中止が――中止は勿論一時的であつたが――東部ヨーロッパに於けるアメリカ移住希望の數千のユダヤ人にとつて重大な打擊となつたことは云ふまでもあるまい。一九三八年にアメリカ・クェーカー教徒が配布した「避難民に關する事實」なるパンフレットによれば、一九三三年ナチス政府のユダヤ人排斥が開始されてから一九三八年六月末に至る約六ケ年の間にアメリカに流入した避難民は總計四三、〇四二人で、一ケ年平均六、

六二二人に過ぎなかつた。そのうち三十一パーセントはキリスト教に改宗せる者であつた。
移民制限は合衆國内のユダヤ人の生活にも可成りの影響を與へた。それは國外からの生新なユダヤ意識と生活との移入を弱め、加ふるに國内の反ユダヤ主義運動と相俟つて、或る程度そして或る意味でのユダヤ人のアメリカ化と同化とを促進した。大戰後の平和熱と國際的孤立主義——各國は戰後の世界恐慌の波から自己を防衞せんとした——によつて、從來「諸民族の坩堝」(Melting-pot of races)と稱せられたアメリカにも、國家主義の擡頭により「國民のアメリカ化」運動が發展したのである。移民制限はまたユダヤ教正統派の勢力を弱め、ゲットーを分散せしめた。それは特にユダヤ系ドイツ語新聞にとつて重大な打擊となり、ドイツ系ユダヤ人の勢力を著しく減退せしめたと云はれてゐる。

第三項　平和會議とアメリカ・ユダヤ人

一九一八年十一月十一日、フランスのコンピェーニュに於て、ドイツ全權は聯合國の提出した諸條件に基き休戰條約に調印した。この休戰會議に出席した各國の將軍の背後には、必

した諸條件に基き休戰條約に調印した。この休戰會議に出席した各國の將軍の背後には、必

要に應じてカハルを動かすことの出來るユダヤ人達が存在してゐた。イギリスのヘイ將軍の背後にはサッスーン・ロスチャイルド(Sassoon Rothchild)、フランスの將軍達の背後にはドレフュス(Dreyfus)、レイナック(Reinach Theodore)及びベネディット(Benedite)が居り、その他各國の參謀本部、陸軍省、徵兵事務所、食糧事務所、その他軍需・武器事務所等に於てもユダヤ人が重要な地位を占めてゐた。

一九一九年一月十八日から、パリーのフランス外務省で平和會議が開かれた。會議の首腦は、司宰者たるアメリカ合衆國大統領ウイルソン、議長たるフランス首相クレマンソー、及びイギリス首相ロイド・ヂョージの三名であつた。他の聯合國側二十四ケ國は總會以外の重要會議から除外され、また敗北した同盟國側四ケ國は全然討議に參加することを許されなかつた。當初は、重要事項はアメリカ、フランス、イギリス、イタリー、日本の五大國代表による秘密會議で決定されることになつてゐたのであるが、日本は利害關係が薄いといふ理由で三月に至つて除外され、またイタリーはフィウメに對する要求が容れられぬため、四月に會議から退場してしまつた。かくて平和會議はイギリス、アメリカ、フランスの三國によつて決定

權を握られることになつたのである。しかも、この平和會議を牛耳る三人の立役者の周圍には各々有名なユダヤ人がゐたのである。クレマンソー内閣の陸軍大臣アブラハム（Abraham）はユダヤ人であり、ロイド・ヂョージ首相の任期中には樞密顧問のうち四人迄ユダヤ人であり、その他検事總長、警視總監等の地位にもユダヤ人がゐた。アメリカの陸軍大臣バッカー（Backer）、海軍大臣ダニエルス（Daniels）、外交及び軍暗號電報係フリードマン（Freedman）等もユダヤ系であつた。一九一九年六月二十八日に締結されたヴェルサイユ條約とユダヤ人との關係を推知する一端となるであらう。

ウイルソンは平和會議に於ける最大の立役者であつた。ウイルソンがさうした主要な役割を果し得たのは、究極に於ては大戰を通じて世界諸民族を自己の債務者たらしめたアメリカ金融資本の力であるが、この點については、我々はまた、この大戰を契機としてアメリカが世界最大のユダヤ勢力を内藏するに至つたといふ事實を再び想起しなければならない。平和會議は全世界數十ケ國の利害得失に關する會議であり、且つその背後に複雜多岐な事情を持つてゐて對立錯綜してゐたので、比較的自由な立場に立つアメリカの大統領にして理想主義

者たるウイルソンが、これを司宰するに最適任であつたといふ見方も或は妥當であらう。しかし、最初に擧げた理由を看過するものは遂に歴史の眞實に觸れることが出來ないであらう。ウイルソンの側近に、ウイルソンが大統領に當選するについて重大な援助を與へ、戰爭中アメリカ兵器委員長として合衆國の戰時經濟を切り廻してゐたユダヤ人バーナード・バルーチがゐたことは既に述べたところである。彼はまた、ウイルソンがプリンストン大學總長時代に生じた婦人關係について秘密の鍵を握つてゐたとも傳へられてゐる。

平和會議は、締約國が相互に戰爭に訴へざる義務を負ひ、「公明正大なる國際法の原則」に基いて、各國間の平和的協力を促進するために、ヴェルサイユ條約をはじめ各種の媾和條約を締結した。ヴェルサイユ條約はドイツと聯合國との間の條約であつて、ドイツ以外の同盟側三國は各別々に媾和條約を締結したのである。この各媾和條約の第一篇には、條約の目的達成の機關たる國際聯盟に關する規約二十六ケ條を協定してゐる。この聯盟規約はウイルソンが心血を注いだもので、彼の理想を盛つたものだと云はれてゐるが、これについて一九三二年八月二十五日シオン會議の執行委員會議長ナヒューム・ソコロフは「國際聯盟はユダヤ

の思想に成るものだ」と告白してゐる。また平和會議に於けるユダヤ全權使節にして聯盟代表となつたルシアン・ウォルフ（Lucien Wolfe）は、「國際聯盟は、一九一九年パリーに於けるイギリスとアメリカのユダヤ人代表によつて丹念に築き上げられなかつたら、恐らく崩壞し去つたであらう」と云つてゐる。

休戰條約締結後間もなき一九一八年十二月十五日、フィラデルフィアでアメリカ・ユダヤ人大會が開かれた。新大陸のユダヤ人が世界の他の部分へ自己の眞の代表團を派遣するといふことは、ユダヤ人の歴史上はじめてのことである。フィラデルフィア會議の議長にはジュリアン・マック判事が選ばれ、ルイス・マーシャルは副議長に、そしてジェーコブ・H・シッフは會計方になつた。協議の結果、パリー平和會議への派遣委員として、ジュリアン・マック判事、ユダヤ法師ステフェン・ワイズ、ルイス・マーシャル、ジョゼフ・バロンデス（Joseph Barondess）及びモーリス・ヴィンチェヴスキー（Morris Winchevsky）等が指名された。これらの委員は、本會議から、ロシヤ、ルーマニア、ポーランド及びバルカンに於けるユダヤ人の公民權と宗敎的自由とを要求すべしとの指令を受けた。またこのユダヤ人會議

るユダヤ人の公民權と宗教的自由とを要求すべしとの指令を受けた。またこのユダヤ人會議は次の如き決議をも通過せしめた。それは、右のユダヤ人委員は更にパレスタインに關するユダヤ人の歷史的要求並に國際聯盟のために行動する大ブリテンの委任統治下に、パレスタインに別個の政府を設けることを平和會議に承認せしめるため飽くまでシオン團と協力せよとの指令であつた。

右のユダヤ會議指名の委員の他に、アメリカ・ユダヤ委員會は、ルイス・マーシャルとサイラス・アドラー博士とを平和會議派遣の代表委員に指名した。その他シオニストのグループから若干名が平和會議へ同行することになつた。ルイス・マーシャルは、これらアメリカユダヤ委員團の總委員長になつた。

パリーに到達したアメリカのユダヤ人は、全世界ユダヤ民族のスポークスマンのやうな立場に立つた。彼等は、パレスタインがユダヤ民族の母國であるといふ證明に努力して多大の成功を收めた。彼等はまた、ポーランド、ルーマニア、その他の諸國家との條約の中に、戰前から存在するユダヤ人の諸權利のみでなく、また戰後に創設された諸權利をも保證するといふ條項を挿入することに成功したのである。

ウイルソンがポーランドに於ける反ユダヤ的暴行に關する調査使節を任命したのも、この時代のことであつた。この調査團の團長には、前トルコ駐箚大使であり、且つ一九一六年のデモクラシー統轄運動の會計任務を引受けたヘンリー・モーゲンソー(Henry Morgenthau)が指名せられた。ポーランドに於ける數週間の滯在後、モーゲンソーが作成した報告は、ポーランド人の暴行は重大なものではないと云ふのであつた。そのためにアメリカのユダヤ人は勿論世界各地のユダヤ人は、モーゲンソーに對する非難と憤怒の言葉を浴びせかけた。かくて彼はアメリカに於ける最も不人氣なユダヤ人となつた。モーゲンソーは、さらに彼のシオニズムに對する終始一貫せる反對、特にシオニズムはアメリカニズムと兩立しないといふ彼の宣言によつて、シオニストからの猛烈な攻擊を受けなければならなかつた。彼はアメリカに於ける反シオニストの指導者であつた。しかしこれによつて彼がユダヤ主義を放擲したと思ふのは大きな誤謬である。これについては後に述べる機會があるであらう。

一九一九年十二月十五日、アメリカ・ユダヤ人會議の委員は、合衆國國務大臣ロバート・ランシング(Robert Lansing)の許に訪れ、ウクライナに於ける過激な反ユダヤ運動に對し

てアメリカから抗議を發するやうにと請願した。これに對してランシングは、目下のポーランドの無政府狀態を以てしては合衆國は如何ともなし得ないが、しかし合衆國がウクライナを承認する時が來れば直ちに抗議を提出し、過去の不正の矯正と少數民族に對する公平なる待遇とを要請するであらう、と約束した。

一九二〇年五月にアメリカ・ユダヤ人會議が第二回大會を開催してゐるとき、平和會議へ派遣した委員からの報告書が到着した。このユダヤ人會議は當初は一時的なものとして作られたので、會議の目的が達成せられた以上これを解消すべしといふ意見が出たが、議員のうち六十六名はこれに反對した。しかし議長のジュリアン・マック判事は會議の解散を宣してしまつた。ユダヤ人會議が休會した後で、反對派は永久的な會議を創設するために假の團體を組織したが、これはやがて本格的な永久組織となつた。この會議は、ユダヤ人の權利を促進擴大し、ユダヤ人の權利の脅威、破壞を防衞し、なほその他ユダヤ人の利害に關する一切の事項を取扱ふことを目的とするものであつた。會議は每年開催されることになり、ユダヤ法師ステフェン・S・ワイズが一九三〇年迄引き續き議長となり、その後はバーナード・ド

イッチュ（Bernard S. Deutch）が議長の地位についた。

かくしてアメリカ・ユダヤ人は、二つの國際的な大組織を持つに至つたのである。即ち、アメリカ・ユダヤ委員會とアメリカ・ユダヤ會議（American Jewish Congress）とがそれである。

第二節　反セム主義の勃興

第一項　大戰後の勞働運動

アメリカのユダヤ主義が始めて猛烈な反セム主義を經驗しはじめたのは、彼等が戰爭の好景氣の夢から醒めやらぬ繁榮の中に於てであつた。休戰になつてから六ケ月後の一九一九年五月には、すでに、戰後十ケ年に及ぶアメリカ社會の變貌の兆が明確に現はれて來た。天井知らずの戰爭景氣は、戰爭の終結と共に忽ち底知れぬ奈落に落ち込んだ。資本主義經濟の無

知らずの戰爭景氣は、戰爭の終結と共に忽ち底知れぬ奈落に落ち込んだ。資本主義經濟の無計畫性の破綻である。アメリカはヨーロッパの諸國に比すれば戰後の極端な不況の慘禍を味ふことが少かつたが、それでも世界的恐慌の嵐はここにも吹き荒んだのである。戰時産業の平和産業への再編成替は巨大な犧牲を要請した。工場、會社の閉鎖倒壞、失業者の洪水、そして勞働階級と資本家階級間の對立鬪爭は極度に激化した。戰場からの歸還軍人の尨大な數は失業軍の勢に拍車をかけた。對外問題のために國民が一致團結した時代は去つて、國內に於ける利害の對立と國民の分裂が現はれた。ロシヤをはじめ、ドイツ、オーストリー、ハンガリー、フランス、イギリス等を襲つた革命的風浪、特にロシヤのボルシェヴィズムの影響は、アメリカに於ける階級鬪爭の嵐に一段の力を加へた。すでにウイルソンが國際聯盟論を高唱してゐた時に、合衆國では數百萬の人々が今にも共産主義革命や或はこれに對する反革命が起るだらうと考へてゐた。これを證明するかの如く、當時の經濟恐慌の動搖の中に於て巨大な勞働者群のストライキやデモンストレーションが續き、またこれに對して資本家側のロック・アウトや國粹主義者の反ボルシェヴィズム暴動が頻發した。

大戰中勞働運動は着々と勢力を得、且つ戰鬪的となつてゐた。資本家側も亦力に物を云は

せることを心得てゐた。實力に對する過信は自然的な弱肉强食の意識と相俟つて混亂を一層大きくした。それは戰爭そのものの影響によるところ甚大であり、要するに對外戰爭の狀態が、休戰と共に對內鬪爭に轉化したのである。戰爭中すでに數百件餘のストライキが遂行された。原因は主として生活必需品の價格騰貴に基く賃銀値上げの要求であつた。勞働者等が自己の團結の力を自覺したといふことも云へるが、當時の勞働運動は主として經濟主義的で、トレード・ユニオニズムの傾向が强く、對外戰爭の遂行中であつたため勞資妥協の傾向が强かつた。勿論それは妥協であつて眞の統一ではない。勞資の眞の統一は、第二次世界戰爭の切迫と共にはじめて現實の課題となりはじめたのである。如上の勞働運動の性格からして、アメリカ政府も亦、當初は生產力の擴充と產業的協調とのために集團契約を奬勵した。この重要な戰時勞働運動の重鎭こそ、有名なユダヤ人勞働運動者サミュエル・ゴムパース（Samuel Gompers）であつた。アメリカ政府は彼をトレントンの戰時委員會に於ける要位に据ゑ、アメリカの勞働者に對して平和が到來すれば新しい恩惠が與へられるであらうとの希望を持たせたのである。彼はまた後にパリー平和會議に於ける勞働立法委員會の會長となつた。

を持たせたのである。彼はまた後にパリー平和會議に於ける勞働立法委員會の會長となつた。

アメリカの勞働組合運動は、南北戰爭後間もなき一八六九年十一月フィラデルフィアで創立された「勞働の騎士」(Knights of Labour)を以て創始とするが、それは種々の內訌によつて瓦解してしまつた。これに續いて出現したのが「アメリカ勞働協會」(American Federation of Labour. 略稱 A. F. L.)で大戰當時最も活動したのはこの團體であつた。しかもこのA・F・Lこそはゴムパースその人の創立にかかるものなのである。彼は一八六三年十三歲のときイギリスからアメリカに渡來して、ニューヨークのイーストサイドの勞働者地域でタバコ工場の職工となり、タバコ製造者勞働組合を組織してその指導者となつた。この組合を中心に多數の勞働組合を統合結成して、一八八六年バルティモアに於てA・F・Lを創設した。かくて彼は一九二四年その死に至るまでA・F・Lの會長となり、同會がアメリカ勞働運動界の覇權を握ると共にゴムパースは「アメリカ勞働運動の父」と稱せられるに至つた。A・F・Lは勞資協調を目的とする改良主義に立脚し、戰爭中に急速な發展をなした。卽ち、同じくアメリカ勞働運動に於ける今一つの主要團體たるI・W・Wはアメリカの參戰に反對して反戰的な傾向を示したが、A・F・Lはこの戰爭を以て民主主義のための戰爭と

して承認し、ゴムパースはアメリカ政府への忠誠を誓つた。因にI・W・W卽ち世界産業勞働者同盟（Industrial Workers of the World）は一九〇五年ウィリアム・フォスター（William Foster）によつてシカゴで創立された左翼勞働團體であつて、戰後の革命的狀勢に乘じて盛んに勢力を擴大したが、その後景氣の恢復と共に稍々衰退した。

アーサー・ルッピン（Arthur Ruppin）は、アメリカに於ける勞働組合はユダヤ人勞働者の發案になるものだと述べてゐるが、これは確かに首肯されるところである。特に合衆國の創建以來ユダヤ人の多數が從事した被服業に於てユダヤ人勞働組合の發展が著しい。妥協的なA・F・Lに對して戰鬪的な罷業による勞働者の利益擁護を目的とする產業別團體會議（Congress of Industrial Organization. 略稱 C. I. O.）が存在するが、この團體の背後にはユダヤ人シドニー・ヒルマン（Sidney Hillman）が居る。彼はリトアニアに生れ、一九〇七年アメリカに渡來して勞働運動に從事し、一九一〇年より一四年までシカゴの被服工業勞働者組合の指導者となり、一九一四年ニューヨークの外套製造者組合の書記長及びアメリカ聯合被服工業勞働組合の指導者となつて、幾多のストライキを指導した。彼も亦ゴムパースと

同じく大戰中戰時國防委員會の委員に任命されてゐた。また國際婦人服工業勞働組合の指導者にはユダヤ人ベンジャミン・シュレジンガー（Benjamin Schlesinger）及びデビッド・デュビンスキー（David Dubinsky）——彼は後にA・F・Lの副會長になつた——が居り、布地・帽子・婦人裝身具工業勞働組合の指導者で後に帽子工業勞働者信用組合の副會長となり更にユダヤ國民勞働者同盟（Jewish National Workers Alliance）の主要メンバーとなつたロシヤ人マックス・ザリツキー（Max M. Zartsky）が居る。その他一九三七年にC・I・O系の織物工業勞働者組織委員會（Textile Workers Organization Committee）の主席顧問となつたリー・プレッスマン（Lee Pressman）、一九三五年アメリカ勞働者同盟の指導者となつたデヴィッド・ラッサー（David Lasser）がある。

かくの如く被服勞働に於けるユダヤ人の組織活動は特に顯著であつて、前記ルッピンによれば一九三七年度のアメリカ聯合被服工業勞働組合のメンバー約十五萬人の中五萬人がユダヤ人であり、また國際婦人服工業勞働組合メンバーの半數がユダヤ人であつたといふ（註）。勿論この被服工業のみを以て、全アメリカ勞働運動に於けるユダヤ人の壓倒的支配を云々す

るのは早計であるが、しかしこの勢力は、ユダヤ國際金融資本及び國際勞働と云ふ世界的な背景を持つてゐるので、表面的な現象以上に深く根強いものを持つてゐるのである。

（註）以上の點については、國際政經學會發行『猶太研究』六月號所收「アメリカの勞働爭議に對する一考察」を參照。

戰後の急迫した時代の勞働運動は、單に賃銀の引上げや勞働時間の短縮のみを目的とするだけでなく、新社會の實現を目指す革命的な社會主義、共產主義、無政府主義者の活動によつて一層險惡な樣相を呈するに至つた。彼等の運動はその自ら稱する如く少數者運動にすぎなかつたが、政治的、經濟的に浮動した客觀的狀勢に於てはその思想的、組織的影響も甚大であつた。戰後の恐慌の浪を切り拔けるためには、勞働者と同じく資本家も亦死物狂ひであつた。資本家は勞働者の要求に對して斷乎として反撥した。彼等は赤化思想をスラヴ人やイーストサイドのユダヤ人の撒布したものだと考へてゐた。資本家は勞働者の暴力に對抗するために右翼暴力團を金で買收した。しかし、左翼に對立したものの中には歸還軍人や純粹な愛國團體等も多かつた。

ロシヤに於けるボルシェヴィキ革命以來、アメリカに於ては特にユダヤ人が過激勞働運動に結びつけて考へられるやうになつたが、これはロシヤ革命政府に於て極めて多數のユダヤ人が樞要な地位を占めてゐたことによるのみでなく、またアメリカのユダヤ人がこれに對して種々な聯繫を持つてゐたことによるのである。人々は、ユダヤ人はボルシェヴィキであると同時に、アメリカに於てもプロレタリヤ獨裁を樹立せんとするものであり、究極に於てアメリカの富を獨占し、貧者を抑壓せんと企ててゐると考へたのである。

私はアメリカに於けるこれらの反ユダヤ主義者等の見解をそのまま受容れるべく、彼等自身の中にまた多くの「ユダヤ的」要素を認めるものである。例へば反セム主義者フォードの如きにしてもアメリカ資本主義の一典型として、シャイロック・アメリカの一要素であると考へてゐるのであるが、かかる一般的見地から一歩進んで具體的に追求すれば、國際ユダヤ人の特殊性が明確に理解されるのである。

アメリカに共產主義思想が輸入されたのは早くからのことであつて、すでに一八五〇年代にマルクスやエンゲルスは海を越えたアメリカの『ニューヨーク・トリビューン』紙へ屢々

論文や通信を寄せてゐる。すでに一八五一年三月にはニューヨークの『ドイツ・アメリカ民主主義新聞』にマルクス攻擊の記事が現はれてゐるから、マルキシズムのアメリカへの影響は相當古いものである。トリビューン紙との關係が出來たのは、一八四八年秋に同紙の編輯者の一人がマルクスを訪問した時以來のことである。しかし、アメリカに於ける共產主義が資本主義に對する明確な脅威として、その勢力を振ふに至つたのは大戰以來のことである。

クーン・ローブ會社を中心とするアメリカ・ユダヤ金融資本が、ロシヤ革命に對して大規模な資金工作を行つたことは既に見たところであつて、そこには、ユダヤ國際資本がボルシェヴィズムを利用して、非ユダヤ民族の國家や資本を倒壞しこれを自己の支配下に置かうとする意圖が充分に看取されるのである。

ユダヤ人ジュダス・マグネがシッフの資金によつて、アメリカに「人民の會議」なるボルシェヴィキ團體を作つたことも既述したが、一九一五年にエンマ・ゴールドマン（Emma Goldman）といふ女性はロシヤから渡米して無政府主義の宣傳に從事し、アメリカ無產黨を組織した。大戰前には世界赤化の眞の策源地は資本主義、自由主義の牙城イギリスであつて、

マルクス、エンゲルス、レーニンをはじめ有名な共產主義者の亡命地となつたものであるが大戰を通じて世界資本主義の重心がアメリカに移動しはじめると共に、世界赤化の醞釀地も亦アメリカへ移行しはじめた。戰後アメリカはソヴェートに次ぐ世界赤化勢力の大溫床となつたもので、アメリカ共產黨の活動は目覺ましく、特に東洋赤化についてアメリカは重要な役割を演ずるに至つた。

第二項　アメリカニズムと反ユダヤ主義

アメリカに於ける反セム主義は、ニューヨークが未だニューアムステルダムと呼ばれてゐた當時、オランダの總督ピーター・ステュイヴサンが二十三人のユダヤ人の移住を拒んだ時から始まつてゐる。アメリカ共和國の成立以來ユダヤ人排斥は種々の形で行はれた。ユダヤ商店に對するボイコットや、またホテル、クラブ、團體等のユダヤ人拒絕、宗敎的攻擊等が行はれた。

しかし、大戰後のユダヤ人排斥は新しい高調に達したのである。これはまた新しい異敎徒

排斥の時代でもあつた。從つてそれは單にユダヤ人に對する排斥のみならず、また黑人及びローマ・カトリック敎徒に對する反感と排擊をも伴つたのである。南北戰爭時代の予盾は、今日に至るもなほ解決されることなく殘つてゐるのである。アメリカ人の支配的な新敎徒のグループは、過激派だけでなく苟も外國的または「非アメリカ的」と看做される一切のものに對して、これを猛烈に攻擊した。

戰爭中の勞力不足に應じて、南方の黑人は幾十萬となく北部工場地帶へ入り込んでゐた。彼等は軍隊へも這入つた。黑人も白人も同じ人間であるといふ意識が彼等の間に成長して行つた。然るに平和の到來は忽ちにして彼等の職場を奪ひ、自尊心を破壞した。黑白人種の衝突、鬪爭は到る所で勃發した。白人優越論が擡頭し、黑人に對する白色民衆の私刑(リンチ)が續發した。シカゴやチュルサに於ける黑人の暴動は可なり大規模のものであつた。

新敎徒の間には聖書の無誤謬論が現はれ、自然科學や社會科學の無神論的傾向に對して鬪爭した。一九二一年には合衆國の約半數の州議會へ進化論敎授の禁止法案が提出され、テキサス、ルイチアナ、アルカンサス及び南カロライナ等の州議會では一院を通過したが他の一

院で否認された。しかしテネシー、オクラホマ、ミシシッピー諸州では遂に禁止法が實施されることになつた。これは黑人問題及びユダヤ人問題が特に重大な意味を持つた南方の諸州であつて、人間が下等動物より進歩せるものと云ひ、またあらゆる人種が平等であるといふ說を否認し、皮膚の色の異つた黑人及びユダヤ人に對する白人の先驗的優位を合理化せんとしたものである。

ローマ・カトリック敎徒も、その勢力の弱い所では純粹アメリカニズムの主張者によつて攻擊された。それは、ローマ・カトリック敎徒は世俗的權限を主張する外國――ヴァチカン――の法王の指揮を受けるといふ非難であつた。

ユダヤ人に對する攻擊は以上に劣らず猛烈であつた。ソヴェート・ロシヤやアメリカ赤色運動に於てユダヤ人が多數要位を占めてゐたために、排斥の理由も人心を捉へ易かつた。このユダヤ人憎惡はドイツから影響されたところが多分にあるが、それはアメリカのあらゆる階級に浸透し、特に智識階級、富豪並に政府の官吏の間にまで猖獗するに至つた。その結果、例の移民割當制限法の實施や、貴族血統の獨立といふドイツ的な北方理論――アリアン・ノ

ルディックの理論。これはナチスの指導理論となつたものである――の勃興を見るに至つた。後者は、はじめスカンヂナヴィア及びその近隣國から出て來た白人種のみが優秀な民族で、諸他のすべての種族は甚しく劣つてゐるといふ主張であるが、アメリカに於ても多くの追從者を生んだのである。

ユダヤ人は學校や官廳や病院へ這入るのに困難となつた。學校はユダヤ人の子女の入學を嫌つた。主なるカレッヂや綜合大學の或るもの――その中にはハーヴァード大學も含まれてゐた――は入學すべきユダヤ人學生の數を制限した。士官學校では學生達がユダヤ人を虐めるといふ噂が立つた。反セム主義は廣汎に擴がり、觀光ホテルや避暑行樂地などは、ユダヤ人がそのパトロンとなることを拒絶した。多くの地主や家主はユダヤ人に家屋、土地を貸すことを拒んだ。

反セム主義運動の背後には種々雜多な傾向のものがあつた。ヘンリー・フォード（Henry Ford）は、自己の週間雜誌『ディアボーン・インデペンデント』（Dearborn Independent.『貴族血統の獨立』）で盛んに反セム主義の宣傳をやつた。ユダヤ人は全世界を征服せんとし

て居り、アメリカに於ける一切の矛盾頽廢の原因はユダヤ人に原因するといふのがその主張である。フォードの宣傳によつて、ユダヤ人に對する非難はアメリカのステージやスクリーンや政治、道徳の方面に迄現はれるに至つた。同樣の線に沿つて活動したものに、或はもつと背後に於て活動したものに、前ツァーリストや黑手組や職業的反セム主義者が居た。

これはまたク・クラックス・クラン（Ku Klux Klan）の時代でもあつた。それは一九一五年にウィリアム・ジョセフ・シモンズ大佐（William Joseph Simons）によつて創立されたもので南部の理想主義と白人の優越を主張した。その綱領にはアメリカに於ける新教徒白人の至上性を掲げ、究極に於ては黑人やカトリック教徒やユダヤ人や、或はその他すべての外人をアメリカから排除せんとしたものである。特に東部地方に於てはK・K・K（ク・クックス・クラン）はその襲擊をユダヤ人に向けて集中した。この秘密結社の團員は、黑人、ユダヤ人、カトリック教徒等に對して、貸家の拒絕や經濟的ボイコットのみでなく、私刑、襲擊、デモンストレーション等を組織的に行つたのである。

フォードの『ディアボーン・インデペンデント』は一九二〇年五月から一九二七年の夏に

至る七ケ年にわたつて、アメリカに於ける主要な反ユダヤ宣傳の機關となつた。それに掲載された諸論文は、すべて熱狂的な、且つ暴露的なものであつた。それは世界戰爭の背後の力としてのユダヤ人の秘密を曝いた。『シオンのプロトコール』――ユダヤ人はそれを、一九〇五年に出版されたロシヤのツァーリストの僞作だと云つてゐる――を手に入れてこれを公開した。そして、ボルシェヴィズムは純粹にユダヤ人の運動でありユダヤ人が世界支配を實現するために計畫した手段の一つであつてアメリカはこのユダヤの陰謀に對して適當な對策を講じない限り彼等の術中に陷るの外はない、と主張した。それは更に、キリスト教會も亦ユダヤ人の影響を受けてゐると主張し、舊約聖書の字句にまで立ち入つて批判してゐる。

　キリスト教の歷史に於て舊約聖書が問題になるのは何もユダヤ人問題のみに關したことではない。『ディアボーン・インデペンデント』の聖書批判も單なるユダヤ人問題以上のものを含んでゐるのであり、新教（プロテスタント）と舊教（カトリック）との鬪爭をも反映して居り、また經濟的にはアメリカ財閥同士間の葛藤や有產無產の爭ひをも藏してゐたのである。從つて『ディアボーン・インデペンデント』の舊約批判や反セム主義に對しては、多くの著名なキリスト教徒達も抗議を提

出してゐる。

ジョン・スパルゴー（John Spargo）は反セム主義に對するキリスト教徒の抗議文を公開したが、それには大統領ウイルソン、前大統領タフト、及び法王廳樞機官オ・コンネル（Cardinal O'Connell）等が署名してゐる。勿論その背後にもユダヤ人の活動があつたのである。ユダヤ人は一切の反セム主義運動に對して全力を擧げて鬪爭した。特にブナイ・ブリス誹謗反對同盟（the Anti-Defamation League of the B'nai Brith）とアメリカ・ユダヤ委員會は猛烈な抗爭を展開し、日常生活に於てデモンストレーションを遂行した。また一方ユダヤ人達はユダヤ人の同化、アメリカ化を防ぐためにパレスタイン開拓事業に情熱的な活動を續け、パレスタインに對して數百萬ドルが寄贈、貸與、投資の形態で注入された。『ディアボーン・インデペンデント』誌が連載した反ユダヤ論文集を『國際ユダヤ人』（The International Jew.）と題する單行本として發刊した頃には、問題は極めて險惡化して來た。反ユダヤ・デモンストレーションやボイコットが勃發せんとする情勢であつた。農事協同生産團體の會員にして辯護士であつたアーロン・サピロ（Aaron Sapiro）は『ディアボーン・インデペンデ

ント』を相手取つて訴訟を提起し、それは數年後の一九二七年の春になつて法廷に廻された。最初の審議が終つてから數週間の後、フォードの側から代表者が出て問題は示談となり、『國際ユダヤ人』の發賣を停止した上六月末日に至つて謝罪の意を表明した。それから數日後に公表された謝罪文の中には、『ディアボーン・インデペンデント』はフォードの所有に屬するものであるが、彼は事務多忙のため一々その內容を注意監督することが出來なかつたので、その出版方針についてはこれを擔當者に一任する外なかつた、といふ附書をして次のやうな意味のことを述べてゐる。

「一般ユダヤ人特にアメリカに於けるユダヤ人は、これらの出版物を反セム主義の促進であると云つて憤慨するのみならず、また私（フォード）をユダヤ人の敵と看做してゐるが、これは甚だ遺憾なことである。……この度の問題について、私は特に當事者としての關心を拂はなければならなくなつた。それらの諸論文の正確な性質について調査の結果、私は、破壞でなく建設的な意圖を持つこの雜誌が、破壞的な假說――シオンの賢人のプロトコールを流布して、ユダヤ人が世界の資本と產業を支配し善き道德と公の秩序を破壞せんとする陰謀

流布して、ユダヤ人が世界の資本と產業を支配し善き道德と公の秩序を破壞せんとする陰謀

を持つと主張する——の媒體となつてゐるのを知つて甚だ殘念に思ふ。

私はこれを早く知つて居たら、これらの饒舌の流通を中止させるに一ヶ月と雖も躊躇しなかつただらう。何故なら私は、ユダヤ人とその祖先とが人類のために文明と商業と產業のためになしたことは全體としては道德的なものであるといふことを充分に知つて居り、ユダヤ人の眞面目さ、勤勉さ、慈愛心、並に公共の厚生に關する非利己的な關心等を充分よく知つてゐるからである。勿論いかなる民族でも暗い部分を持つてゐることは洋服に裏があるのと同樣に避け得ないところであるが、しかし一部のものによつて全體をそのやうに判斷するのは間違つてゐる。私が偏見を持たないことは、私を知る人々にはよく解つてゐる筈である。私は實はディアボーン・インデペンデントがこのやうな結果を齎したことによつて非常な衝動を受けてゐるのである。………

私は次のことを一個の名譽ある人間としての義務であると考へる。卽ち、仲間であり兄弟であるユダヤ人に對して爲された不正を訂正し、私が慮らずも犯した害惡に對してユダヤ人がこれを忘れて呉れることを願ひ、これらの出版物によつてユダヤ人の門戶に齎した不快な

事件を私の力の限り除去し、今後ユダヤ人が私に希求する友情と好意について絕對に裏切らないといふ保證を彼等に與へるものである」

この謝罪文にはヘンリー・フォードの署名がある。

フォードの著書の內容については、『世界のユダヤ人網』と題する邦譯解說書もあるので、玆には特に改めて紹介しない。フォードの謝罪文に見ても解るやうに、彼はその著作の全內容を否定したのではない。彼は「洋服の裏」といふ表現によつてこれを言ひ現はしてゐる。

フォードの財產は「正直に」取得されたものだといふ評判がある。彼の自動車は安く賣られるし、彼が自分の自動車工場で支拂ふ勞働賃銀は高い。ところがユダヤ人の暴利商業は古來定評がある。フォードは金錢に淡白だといはれる。從つて彼のユダヤ人攻擊は彼の商業道德とユダヤ人の暴利商業との對立だと見る人もある。ところがまた、フォードは彼の道によつて十億ドルの財產を作つたが、これはどうしたことだといふ人もある。粗雜なマルクス主義者なら民族資本と民族資本の對立だと云つて片づけるであらう。これはヨーロッパ的な見方であるが、ヨーロッパ化したアメリカに對しては、それも或る種の眞實性を持つと云はね

ばならぬ。しかしいづれにしても、上記のフォードとユダヤ人との爭ひは、實際には決して解決してゐない。これは決してフォードと一ユダヤ人との問題ではないのである。ユダヤ人とアメリカ人との對立であり、アメリカ人と黑人、舊教徒と新教徒との對立でもある。要するにそれは多數民族の坩堝たる資本主義、自由主義アメリカの內的矛盾對立であり、これを揚棄することなくしては解決することの出來ぬ問題である、但し、ユダヤ人問題が特殊の意義を持つことは飽くまでも忘れてはならない。ゾムバルトは、アメリカニズムはいはば蒸溜されたユダヤ精神以外の何物でもないと云つてゐる。今日では共産主義と資本主義の對立を克服せんとするナチズムのユダヤ排擊によつて、現代に於けるユダヤ人問題は、明かに一個の世界史的意義を持つことが知られるに至つた。（拙著『協同史觀への志向』參照）

第六章　アメリカに於ける
ユダヤ人の地位

第一節　アメリカのユダヤ人口

われわれは愈々近々數ケ年のユダヤ人狀況について語るべき段階に到達した。それは直ちに、現在全世界を蔽つてゐる第二次世界戰爭の戰雲に捲き込まれて行く段階である。そこで私は、ルーズヴェルト政府の成立からアメリカの參戰を契機とする第二次世界大戰勃發の危機に至るまでの展開を試みる前に、ここで一應今迄述べ來つたアメリカ・ユダヤ人の歷史の總成果としての狀態について槪觀して置かうと思ふ。

現在――大體に於て一九三九年を中心として――全世界のユダヤ人口は約一五、六二二五、〇〇〇人とされ、その中約九、二五〇、〇〇〇人はヨーロッパ大陸に居住し、四、七五〇、〇〇〇人はアメリカ大陸に、八二〇、〇〇〇人はアフリカに、七七五、〇〇〇人はアジアに、そして三〇、〇〇〇人はオーストラリアに居住してゐる。

これを世界各國別に見れば次の如くである（統計は一九三九年『ユダヤ年鑑』、"The Jewish Year

Book" 1939. に依る)。表中精密な数字は最近の國勢調査に基くものであり、その他は一九三九年の概算である。

(ABC順)	
エチオピア	五一、〇〇〇人
アフガニスタン	四、〇〇〇
アルジェリア(一九三一年)	一一〇、一二七
アラビヤ	三二、〇〇〇
アルゼンチン	三〇〇、〇〇〇
オーストラリア(一九三三年)	二三、五五三
ベルヂューム	六〇、〇〇〇
ボリヴィア	二〇〇
ブラジル	五〇、〇〇〇
イギリス帝國	六九五、〇〇〇
ブルガリア	五〇、〇〇〇
ビルマ	一、五〇〇

ビルマ	一、五〇〇
カナダ	一五六、七二六
チリー	一二、〇〇〇
支　那	二〇、〇〇〇
コロンビア	二、五〇〇
コスタリカ	三五〇
キューバ	一二、〇〇〇
チェコ・スロヴァキア（一九三五年）	三五六、八三〇
デンマーク	六、〇〇〇
エヂプト	七〇、〇〇〇
アイルランド自由國	四、〇七五
エクアドル	二五〇
エストニア（一九三六年）	四、三八一
フィンランド	二、〇〇〇
フランス	二七五、〇〇〇
ドイツ（オーストリーを含む）（一九三八年）（註一）	五五〇、〇〇〇
グレート・ブリテン及びノース・アイルランド	三七〇、〇〇〇

ギリシヤ	八〇、〇〇〇
グアテマラ	一、〇〇〇
ハイチ	一五〇
ハンガリー	四四四、五六七
印度（一九三一年）	二四、一四〇
イラン	四〇、〇〇〇
イラク	七二、七八三
イタリー（一九三一年）（註二）	四七、八二五
日本	二、〇〇〇
ユーゴースラヴィア	七二、〇〇〇
ラトヴィア	九三、四七九
リトアニア	一七〇、〇〇〇
ルクセンブルグ	三、〇〇〇
マレー聯邦	七〇三
メキシコ	二〇、〇〇〇
モロッコ	一四一、一七二

モロッコ	一四一、一七二
オランダ	一二〇、〇〇〇
ニュージーランド（一九三六年）	二、六五三
ニカラグァ	一〇〇
ノルウェイ	二、五〇〇
パレスタイン	四〇〇、〇〇〇
パナマ	三五〇
パラグワイ	一、五〇〇
ペルー	一、五〇〇
フィリッピン群島	一、五〇〇
ポーランド	三、三二五、〇〇〇
ポルトガル（キリスト教への改宗者を含む）	三、〇〇〇
ルーマニア	九〇〇、〇〇〇
ソ聯邦	
中央ロシヤ	七〇〇、〇〇〇
白ロシヤ	四〇〇、〇〇〇
ウクライナ	一、六五〇、〇〇〇

第一節　アメリカのユダヤ人口

アジアロシヤ	一二〇、〇〇〇
合　計	二、八七〇、〇〇〇
スペイン	六、〇〇〇
シリヤ	二五、〇〇〇
スウェーデン	八、〇〇〇
スヰス	一七、九七三
トリポリ及びキレナイカ（一九三七年）	二九、一六六
チュニス（一九三六年）	五九、四八五
トルコ	八五、〇〇〇
南アフリカ聯邦（ローデシアを含む）（一九三六年）	一〇五、〇〇〇
アメリカ合衆國	（註三）四、二二八、〇〇〇
ウルグワイ	一七、五〇〇
ヴェネゼラ	一、〇〇〇

（註一）一九二五年には、ドイツのユダヤ人口は約五六四、〇〇〇人、オーストリーは一九二、〇〇〇人であつたが、ナチスのユダヤ人追放によつて斯くの如き減少を見たのである。

（註二）一九三八年の種族國勢調査によれば、五八、四二五人である。

（註三）　一九三九年のアメリカ・ユダヤ委員會の發表によれば最近の合衆國ユダヤ人口は四、八三一、一八〇人となつてゐる。

右によれば、世界各國中最大のユダヤ人口を擁する國はアメリカ合衆國であり、第二位ポーランド、第三位ソヴェート・ロシヤ、第四位ルーマニア、第五位イギリス帝國、第六位ドイツ（オーストリーを含む）、第七位ハンガリーとなつてゐる。ドイツを中心とするヨーロッパ各國の如上の數字は、その後のドイツをはじめ防共諸國のユダヤ人排斥運動、並に特にこの度の第二次ヨーロッパ戰爭の勃發によつて急激且つ大量の變化を生じつつあるが、アメリカは益々その抱擁するユダヤ人口を増大する一方であつて、この點でもユダヤ的アメリカの色彩は一層濃化されてゐる。この點を確認するために、もう一つ世に於ける主要都市別ユダヤ人口表を掲げよう。（前掲一九三九年『ユダヤ年鑑』に依る）

一、ヨーロッパ

アムステル ム	六七、〇〇〇人
アントワープ	二二、〇〇〇
ベルグラード	八、九三六

ベルリン（一九三五年）	一四三、五〇〇
ブラッセル	二〇、〇〇〇
ブダペスト	二一七、五四五
ブカレスト	五〇、〇〇〇
コペンハーゲン	五、八七五
チェルノウィッツ	四三、五五五
クラカウ	五六、五〇〇
ダンチッヒ	一〇、四四八
ホメール	三七、七四五
イスタンブール	四七、一七三
ハリコフ	八一、一三九
キエフ	一四〇、二五六
コヴノ	二五、〇四四
レムベルグ	九九、六〇〇
レニングラード	八四、五〇三
リスボン	二、〇〇〇

ロッヅ	二〇二、五〇〇
ルブリン	三九、〇〇〇
メーメル	三、〇〇〇
ミラン	七、五〇〇
ミンスク	五三、六八六
モスコウ	一三一、七四七
パリー	一八五、〇〇〇
プラーグ	三五、四六三
オデッサ	一五三、二四三
オスロー	八五〇
リガ	三九、四五九
ローマ（一九三一年）	一一、二八〇
サロニカ	五五、〇〇〇
ソフィア	二〇、八九五
トリエスト	四、七〇〇
チュウリン	三、七五八

第一節　アメリカのユダヤ人口

ウィーン	一七八、〇三四
ワルソー	三五三、七〇〇
ウィルナ	五四、五九六
ザグレブ	八、七〇二
チューリッヒ	六、〇八一

二、アジア（パレスタインを除く）

バグダッド	五〇、〇〇〇
ダマスカス	一二、〇〇〇
ハルビン	一〇、〇〇〇
イスパハン	六、五〇〇
スパナア	五、〇〇〇
上　海	五、五〇〇

三、アフリカ

アレキサンドル	三三、〇〇〇
アルジェー	二三、五五〇
カイロ	三五、〇〇〇

カイロ	三五、〇〇〇
フェヅ	七、八二六
マラケシュ	二一、六〇七
モガドル	五、四六八
タンヂール	七、〇〇〇
テチュアン	六、二四八
トリポリ	一五、五九〇
チュニス（一九三六年）	三二、三八四

四、アメリカ（二萬以上のユダヤ人口を有する都市）

バルチモア	六八、〇〇〇
ボストン	八五、〇〇〇
ベノスアイレス	一三〇、〇〇〇
シカゴ	三〇〇、二五一
クリーヴランド	八五、〇〇〇
デトロイト	七一、〇〇〇
ハートフォード	二七、〇〇〇
ロサンゼルス	六五、〇〇〇

ミルウォーキー	二五、〇〇〇
ニューヘヴン	二五、〇〇〇
ニューヨーク	一、七六五、〇〇〇
ニュージャアシー	六五、〇〇〇
フィラデルフィア	二四七、〇〇〇
ピッツバーグ	四五、〇〇〇
リオデジャネイロ	二〇、〇〇〇
ロチェスター	三三、〇〇〇
セントルイス	五〇、〇〇〇
サンフランシスコ	三八、〇〇〇

五、イギリス帝國（人口二萬以上）

リーズ	三〇、〇〇〇
ロンドン	二三三、九九一
マンチェスター及びサルフォード	三七、五〇〇

以上のやうにニューヨークを第一位とし、ワルソー、シカゴ、ブダペスト、ロッヅの順位であるが、第一位のニューヨークは第二位のワルソーの四倍以上のユダヤ人口を有し、兩者

の差は實に四一二、三〇〇人の多きに及んでゐる。一九三八年の調査によれば、ニューヨーク市の總人口は七、四九七、九〇〇人であるから、その二十四パーセント弱はユダヤ人である。實際には大體ニューヨーク住民の三分の一はユダヤ人であると云つて差支へない。ニューヨークのユダヤ人についてはまた後に述べるが、兎に角以上によつて明かなやうに、アメリカ合衆國は世界一のユダヤ人口を擁するのみならず、世界第一の大都市たるニューヨークも亦世界一のユダヤ人都市となつてゐるのであつて、この點だけから云つてもアメリカのユダヤ化といふことが、決して單なる形容でないことが解るのである。これを、一六五四年に二十三人のユダヤ人がはじめてニューアムステルダムに到着した當時から見れば、實に驚異的な發展であると云はなければならぬ。

次に合衆國に於けるユダヤ人の各州別分布の統計を掲げてこの節を終る。

一九二七年合衆國に於ける州別ユダヤ人口表（『アメリカ・ユダヤ年鑑』
第三十二卷、"American Jewish Year Book" vol. 32.）

州	總人口比（一九三〇年）	ユダヤ人口（一九二七年）	ユダヤ人口比（一九二七年）	ユダヤ人分布比
アラバマ	二、六四四、四七七	一二、八〇一	〇・五〇	〇・三〇
アリゾナ	四二一、六四一	一、四五五	〇・三二	〇・〇三
アルカンサス	一、八五三、九八一	八、八五〇	〇・四六	〇・二一
カリフォルニア	五、六四二、二八二	一二三、二八四	二・七八	二・九一
コロラド	一、〇〇三、一五六	二〇、三二一	一・八九	〇・四八
コネティカット	一、六〇二、二三六	九一、五三八	五・五九	二・一六
デラウェア	二三六、八五八*	五、三一〇	二・一八	〇・一二
コロンビア地方	五五二、〇〇〇	一六、〇〇〇	二・九六	〇・三八
フロリダ	一、四六五、〇〇〇	一三、四〇二	〇・九八	〇・三二
ジョルジヤ	二、九〇二、一二七	二三、一七九	〇・七三	〇・五五
アイダホ	四三七、四四〇	一、一四一	〇・二一	〇・〇三
イリノイ	七、六三〇、二八三	三四五、九八〇	四・七四	八・一八

インディアナ	三、二二五、四一八	二七、二四四	〇・八六	〇・六四
アイオワ	二、四六七、九〇〇	一六、四〇六	〇・六八	〇・三九
カンサス	一、八二二、五一八	七、七九二	〇・五九	〇・一八
ケンタッキー	二、六〇三、〇三一	一九、五三三	〇・七七	〇・四六
ルイジアナ	二、〇九八、八七六	一六、四三二	〇・八五	〇・三九
メイン	七九九、六六二	八、四八〇	一・〇七	〇・二〇
メリーランド	一、六二五、二七九	七〇、八七一	四・四四	一・六七
マサチューセッツ	四、三五四、九七二	二二五、六三四	五・三二	五・三三
ミシガン	四、八一八、三七一	八九、四六二	一・九九	二・一一
ミネソタ	二、五五八、二六五	四三、一九七	一・六一	一・〇二
ミシシッピ	二、〇〇七、七四三	六、四二〇	〇・三六	〇・一五
ミズリー	三、六一九、一七六	八〇、六八七	二・三〇	一・九一
モンタナ	五三三、五一九	一、五七八	〇・二二	〇・三七
ネブラスカ	一、三八六、六七九	一四、二〇九	一・〇二	〇・三三
ネヴァダ	九〇、五五九	二六四	〇・三四	〇・〇一
ニューハンプシヤ	四六三、七四六	二、七七九	〇・六一	〇・〇六

ニュージャアシイ	三、八二一、〇〇〇*	二二五、三〇六	六・〇一	五・三三
ニューメキシコ	四一八、九三二	一、〇五二	〇・二七	〇・〇二
ニューヨーク	一二、六〇九、五五五	一、九〇三、八九〇	一六・六七	四五・〇三
ノース・カロライナ	三、一六五、一四六	八、五二五	〇・二八	〇・二〇
ノース・ダコタ	六八一、二七三	二、七四九	〇・三四	〇・〇六
オハヨー	六、六二九、三七三	一七三、九七六	二・五九	四・一一
オクラホマ	二、三八八、九五五	七、八二三	〇・三三	〇・一八
オレゴン	九五一、七九〇	一三、〇七五	一・四七	〇・三一
ペンシルヴェニア	九、八五四、〇〇〇*	四〇四、九七九	四・一六	九・五八
ロード・アイランド	六八七、〇二〇	二五、〇〇三	三・五六	〇・六〇
サウス・カロライナ	一、九三二、二七一	六、八五一	〇・三七	〇・一六
サウス・ダコタ	六九一、〇〇八	一、五八四	〇・二三	〇・〇三
テネシー	二、六〇九、六三七	二二、五三二	〇・九一	〇・五三
テキサス	五、八一〇、六八三	四六、六四八	〇・八六	一・〇一
ユター	五〇二、六四〇	二、八五七	〇・五五	〇・〇六
ヴェルモント	三五九、〇九二	二、〇三六	〇・五八	〇・〇五

ヴァーヂニア	二、四一八、〇七五	二五、六五六	一・〇一	〇・六〇
ワシントン	一、五五七、五四〇	一四、六九八	〇・九四	〇・三五
ウエスト・ヴァーヂニア	一、七二八、五一〇	七、四七一	〇・四四	〇・一七
ウイスコンシン	三、〇〇〇、三八八	三五、九三五	一・二三	〇・八五
ワイオミング	二二四、六九三	一、三一九	〇・五五	〇・〇三
合計	一二二、〇〇〇、〇〇〇	四、二二八、〇二九	三・五八	一〇〇・〇〇

＊一九二七年

第二節　文學、劇界のユダヤ人

ユダヤ人特有の文學としてイーディッシュ文學がある。これは一般のアメリカ人に對しては直接の影響を與へることは少いが、アメリカに於けるユダヤ人の文學を語るには等閑視することの出來ぬものである。

シヨローム・アッシュ（Sholom Ash）、シヨローム・アライヒェム（Sholom Aleichem）、

デヴィッド・ピンスキ（David Pinski）、ペレッツ・ハーシュバイン（Peretz Hirshbein）、アイザック・ローブ・ペレッツ（Isaac Loeb Peretz）、モーリス・ローゼンフェルド（Morris Rosenfeld）、レオン・コブリン（Leon Kobrin）等は有名なイーディッシュ文學の大家であるが、彼等はアメリカに在住してゐてもアメリカ人ではなかつた。ペレッツはロシア人として生れロシヤ人として死んだユダヤ藝術の批評家であり、詩人であり、劇作家である。

イーディッシュ文學がアメリカへ這入つたのは十九世紀の末葉であるが、一八八〇年代のアメリカ・ユダヤ人はこれに重大な關心を寄せなかつた。第一回のロシヤ系ユダヤ人の移住時代にゼンザー（Zenzer）、シャイケウィッツ（Shaikewitz）、セイフェルト（Seifert）、ゴールドファーデン（Goldfaden）等が渡米してイーディッシュ語の著述に從事したが成功しなかつた。後に述べるイーディッシュ・ジャーナリズムはこの時代に發展したのである。一八九九年にロシヤからアブナー・タンネンバウム（Abner Tannenbaum）が移住して盛んにドイツ、フランスの小説を飜譯し自分の創作をも發表した。その數年前に渡米したゴイドウ（J. Goido）はゴーリン（B. Gorin）のペンネームによつて、フィラデルフィアでイーディッシュ

Goido）はゴーリン（B. Gorin）のペンネームによつて、フィラデルフィアでイーディッシュ新聞を發刊し、また著作や飜譯に從事した。ロシヤ生れのレオン・コブリンはレアリスティックな手法で下層階級のことを書いた。グレウィッチュ（Gurewitsch）はルービン（Z. Lubin）のペンネームでゲットー物語を書いた。ウィンチェヴスキーは『エメース』（The Emeth）といふウォークリーを發行し、ヴィクトル・ユーゴーの書をはじめフランス文學の傑作を飜譯した。

この時代の著作家等は多く雜誌や新聞を發行してゐる。クランツ（Krantz）、シャーカンスキー（Sharkansky）、ハーカヴィ（Harkavy）、ブディアーノフ（Budianov）、ファイゲンバウム（Feigenbaum）、カッツ（Katz）、ソロトコフ（Solotkov）、ドリツキー（M. M. Dolizki）、ウィールニック（Wiernik）、ブカンスキー（Bukanski）等は皆さうであつた。シローム・アッシュはアメリカ移住當初は「ジュウイッシュ・デーリー・フォアウォード」（Jewish Daily Forward）に就職し、後有名な創作を發表した。デヴィッド・ピンスキーはイーディッシュ劇作家としての第一人者である。

アメリカに於けるイーディッシュ劇の始祖は世界に於けるイーディッシュ劇場の父と云は

れるロシヤ系ユダヤ人エブラハム・ゴールドファーデン（Abraham Goldfaden）である。ユダヤ人狩りを開始したロシヤ政府が一八八三年九月イーディッシュ劇場を禁止したので、ゴールドファーデンも亦移民の一人としてニューヨークに渡つた。彼はアメリカでは積極的な活動はしなかつたが、それにも拘らずその影響は大きかつた。實際イーディッシュ劇はロシヤからアメリカへ移つたのである。アメリカに於けるイーディッシュ劇の眞の發展はボリス・トーマシェフスキー（Boris Thomashefsky）に負ふところが大きい。

教養ある、或はアメリカ化したユダヤ人等は、はじめの間はイーディッシュ劇場へは行かなかつた。劇團が組織されて地方巡業なども行はれたが困難は大きかつた。

一八九〇年、革命家でドラマの研究家たるジェーコブ・ゴーディン（Jacob Gordin）がヨーロッパから移住して新しい戯曲を書き、イーディッシュ劇の中へレアリズムを齎して新紀元を作つた。レオン・コブリン、ゼーリッヒ・リビン（Zelig Libin）等も盛んに脚本を書いた。

俳優で最も優れたものはジェーコブ・アドラー（Jacob Adler）であつた。彼は先づゴー

ディンの戯曲を上演し、引き續いてシェークスピア、シルレル、ゲーテ、トルストイ等の大物の上演をやつてインテリゲンチャの注意を惹いた。イーディッシュ劇はイーディッシュ文學と同樣に、ニューヨークのイーストサイドを中心にして發展したのであるが、アドラーの出し物と演技のためにアメリカ人批評家等もイーストサイドの劇場を見物して劇評を書くやうになつた。ブロードウェイからも監督がやつて來て、バーサ・カリッシュ（Bertha Kalisch）、モーリス・モリソン（Morris Morrison）、ルドルフ・シルドクラウト（Rudolph Schildkraut）等の俳優を引つこ抜いて行つた。かくしてイーディッシュ劇場のユダヤ人は次第に英語劇の舞臺に現はれるやうになつた。

第一次世界大戰後にはモーリス・シュワルツ（Maurice Schwartz）、ベン・アミ（Ben Ami）、ヘンリエッタ・シュニッツァー（Henrietta Schnitzer）、エマニュエル・ライヒャー（Emanuel Reicher）等の活躍によつて發展を續けて行つた。しかし最近までのところ、イーディッシュ文學もイーディッシュ劇も大きな發展は示してゐない。その理由としては在米ユダヤ人中の青年層が漸次アメリカ化したこと、新しい移民の制限、キネマの勃興、劇關係者の不協調、

經濟的不況等々があるが、要するにイーディッシュ文學乃至イーディッシュ劇は、アメリカ・ユダヤ人にとつては、ユダヤ移住者がアメリカの地理、人情、風俗になじむ迄の過渡的役割の外は原住地の回想を齎すといふ程の消極的意義しか持たぬために、絶えずヨーロッパからの新しい大量移民がない限り充分なる發展を見る可能性に乏しいのである。

しかし文學と共に劇に於ても、ユダヤ人は次第にアメリカの檜舞臺に登場するやうになつた。ジョン・カーノス（John Cournos）、ベン・ヘクト（Ben Hecht）、マクスウェル・ボーデンハイム（Maxwell Bodenheim）、ネーサン・アッシュ（Nathan Asch）等はこの轉換期の著名作家である。アンツィア・イェジールスカ（Anzia Yezierska）、アベ・カーン（Abe Cahan）、マイケル・ゴールド（Michael Gold）、ルードウィッヒ・レウィゾーン（Ludwig Lewisohn）等はアメリカに於けるユダヤ人の生活を、サミュエル・オーニッツ（Samuel Ornitz）はイーストサイドをテーマとした創作を發表した。その他著名なアメリカ文學家にエンマ・ウォルフ（Emma Wolfe）、サイラ・サムプター・ウインスロー（Thyra Sampter Winslow）、コンラッド・ベーコヴィッチ（Konrad Bercovici）、エドナ・ファーバー（Edna

Winslow)、コンラッド・バーコヴィッチ(Konrad Bercovici)、エドナ・ファーバー（Edna Ferber)、ロバート・ネーサン（Robert Nathan）等がある。ウォルフは女流作家である。

ドラマ作者では『トリスタンとイゾルデ』の著作者として有名なルイス・カウフマン(Louis Kaufman)、サミュエル・シップマン（Samuel Shipman)、オシップ・ダイモウ(Ossip Dymow)、ジョージ・カウフマン（George S. Kaufman)、マイケル・ゴールド等がある。サミュエル・ベールマン(Samuel Behrman)、エルマー・ライス(Elmer Rice)も同様である。

詩人ではルイス・ウンターマイヤー（Louis Untermeyer)、ジェームス・オッペンハイム(James Oppenheim)、諧謔詩ではアーサー・ギュイターマン(Arthur Guiterman)、ニューマン・レヴイ(Newman Levy)、サミュエル・ホッフェンスタイン(Samuel Hoffenstein)、ドロシー・パーカー（Dorothy Parker）がある。

文藝批評家ではイザーク・ゴールドバーグ（Isaac Goldberg)、劇評家としてはジョージ・ジャン・ネーサン（Goerge Jean Nathan)、アラン・デイル（Alan Dale)、ギルバート・セルデス（Gilbert Seldes）等が有名である。

エッセイストとして有名なのはスピノーザの研究者ベンジャミン・ドゥ・カッサーズ（Benjamin de Casseres）をはじめウォルター・リップマン（Walter Lippman）、ホレース・メイヤー・カレン（Horace Meyer Kallen）、ユダヤ法師リュイス・ブラウン（Lewis Browne）、ハーマン・バーンスタイン（Herman Bernstein）等がある。バーンスタインはロシヤ系ユダヤ人で、一九一六年から一九年迄『アメリカン・ヘブリュウ』誌（The American Hebrew）の編輯長並に大戰中『ニューヨーク・ヘラルド』紙（The New York Herald）の特別通信員として活躍し、一九二五年から二九年に亙つて『ジュウイッシュ・トリビューン』（Jewish Tribune）を發刊、翌三〇年にアルバニア駐箚アメリカ公使になつた人で多數の著書がある。

數年前には、ニューヨーク市の演劇界には少くとも二萬數千名のユダヤ人が關係して居つたが、そのうち七千名以上は俳優、一萬數千名は音樂家である（ヘルビン發行『ジュウイッシュ・ライフ』"Jewish Life" 第三十五號、一九三八年）。現在ニューヨークの歡樂境ブロードウヱイ（Broadway）に於て最も有名な人々の多くはユダヤ人である。

（Broadway）に於て最も有名な人々の多くはユダヤ人である。

前述のイーディッシュ劇から英語劇へ移つたバーサ・カリッシュ、ベン・アミ・ヴェラ・ゴードン（Vera Gordon）をはじめ、有名な女優ではアラ・ナヂモヴァ（Alla Nazimova）、フランシン・ラリモア（Francine Larrimore）等がある。その他デヴィッド・ウォーフィールド（David Warfield）、ルイス・マン（Louis Mann）、ロバート・ウォーウィック（Robert Warwick）、ケネス・マックケンナ（Kenneth Mackenna）、フロレンス・リード（Florence Reed）等々。

喜劇では断然ユダヤ人が勢力を持つてゐる。ジョージ・シドニー（George Sidney）とマルクス兄弟（Marx Brothers）はステージとスクリーンの両方面で有名である。ジョージ・ジェッセル（Goerge Jessel）、ジャック・パール（Jack Pearl）、エド・ウィン（Ed Wynn——本名はイスラエル・エドウィン・レオポルド（Israel Edwin Leopold）、エディー・カンター（Eddie Cantor）、アル・ジョルソン（Al Jolson）等はいづれも喜劇俳優のナンバー・ワン級である。寄席（Vaudeville）と音樂喜劇界はユダヤ俳優の名で飾られてゐる。ソフィー・ツッカー（Sophie Tucker）、ナン・ハルペリン（Nan Halperin）、ベル・ベイカー

(Belle Baker)、ノラ・ベイズ(Nora Bayes)、ユーヂーン・ハワード(Eugene Howard)、ヴィヴィアンヌ・シーガル(Viwienne Segal)等がある。シーガルは後に映畫女優になつた。

ユダヤ人は製作者、演出家、監督等として業界を獨占してゐる。サン・フランシスコ・ボールドウィン劇場の監督デヴィッド・ベラスコはまた製作者と脚本家を兼ねてゐる。劇・映畫の俳優で製作者でもあるハリウッドのエドガー・セルウィン(Edgar Selwyn)、ロシヤ・オペラのアメリカへの紹介者でありまたジムバリスト、エルマン、シャリアーピン等著名音樂家のマネジャーとなつたソロモン・ヒューローク(Solomon Hurok)、その他ダニエル・フローマン(Daniel Frohman)、ジェーコブ・シューベート兄弟(Jacob L. Shubert)、グスターフ・ブルーム(Gustav Bloom)、モーリス・グリーン(Morris Green)、アル・ウッヅ(Al H. Woods)等も錚々たる人々である。エディー・カンター、ダンカン・シスターズ(Duncan Sisters)、ヘレン・メンケン(Heren Mencken)、ジョージ・ジェッセル(George Jessel)、ジョージ・プライス(George Price)、リラ・リー(Lila Lee)、ベルト・ホィーラー(Bert Wheeler)、チャーリー・キング(Charlie King)、サミー・リー(Sammy Lee)等

(Bert Wheeler)、チャーリー・キング(Charlie King)、サミー・リー(Sammy Lee)等の花形俳優を指導監督したグス・エドワーヅ(Gus Edwards)もユダヤ人であつた。

アルバート・リュイス(Albert Lewis)、ホレース・リヴライト(Horace Liveright)は製作者、モーリス・シュレシンガー(Morris S. Schlesinger)は劇俳優、フランク・マンデル(Frank Mandell)は劇作家として知られ、ジョセフ・レブラング(Joseph Leblang)はニューヨークの數劇場を所有する劇投資家である。この他劇企業としてはマーク・クロー(Marc Klaw)、ジェッド・ハリス(Jed Harris)、モーリス・ゲスト(Morris Gest)、マイケル・フォーキン(Michel Fokine)がある。フォーキンはまたロシヤ・バレーの大家として有名である。

第三節　映畫、音樂、繪畫、彫刻とユダヤ人

映畫事業は僅々二十年足らずの間に世界に於ける主要産業の一つとなつた。アメリカが世界の映畫王國であることは周知の通りである。今日映畫事業は合衆國の五大産業の一つとな

つてゐるが、その支配は殆ど全部ユダヤ人の手中にあると云つても過言ではない。

映畫業を小さな仲見世や小屋がけの見世物から今日の大產業に仕立て上げたのはユダヤ人に負ふ所甚だ大なるものがある。特殊の宗教と風俗習慣を持つユダヤ人は、アメリカに於ても亦、社會生活や時には實務生活に於ても他のアメリカ人から孤立した生活を營み、アメリカ人はこれに對して一種嫌惡の情を持つてゐる。アメリカの大會社や銀行はユダヤ人に對して就職を拒んでゐる傾向がある。大工業も亦さうである。從つてユダヤ人は小賣商、仕立屋、劇場、活動小屋等に職を求め生活の糧を得るやうになつた。ところが、映畫の持つ大衆娛樂性とユダヤ人の商人的な宣傳や技能がマッチして忽ち隆々たる繁榮を見るに至つた。

メトロ・ゴールドウィン・メイヤー（Metro-Goldwyn-Mayer）はマーカス・リュー（Marcus Loew）、ルイス・メイヤー（Louis Mayer）、カール・レムレー（Carl Lemmle）の三人のユダヤ人が共營し、その姉妹會社たるリュー會社はマーカス・リューが初代社長となり後にニコラス・シェンク（Nicholas M. Schenck）がその地位についてゐる。次にコロンビア映畫會社（Columbia Pictures Corporation）はジョー・ブラント（Joe Brandt）、ヘリー・

コーヘン（Harry Cohen）が支配し、フォックス映畫（Fox Film）の前社長はハンガリー系のウィリアム・フォックス（William Fox）であり、二十世紀フォックスの社長はニコラス・シェンクの兄ジョセフ・シェンク（Joseph M. Schenk）である。パラマウント社（Paramount）は同じくハンガリー系のアドルフ・ヅーカー（Adolph Zukor）が經營してゐる。パブリックス・シアター・コーポレーション（Publix Theaters Corporation）の社長はユダヤ人サム・カッツ（Sam Katz）、R・K・Oプロダクションの所長はジョー・シュニッツァー（J. S. Schnitzer）であり、ユナイテッド・アーティスツ社（United Artists Corporation）はロシヤ系ユダヤ人ジョセフ・シェンクが支配し、ユニヴァーサル映畫社（Universal Pictures Corporation）はドイツ系のカール・レムレーが一九三六年まで支配してゐた。ワーナー・ブラザーズ（Warner Brothers）はポーランド系のアルバート・ワーナー（Albert Warner）が社長である。ポーランド系のサミュエル・ゴールドウィン（Samuel Goldwyn）もユナイテッド・アーティスツ社の支配者の一人である。アメリカ生れのベンジャミン・シュルバーグ（Benjamin P. Schulberg）はアーティスツ社とブレファード・ピクチュアーズ・

コーポレーション（Preferred Pictures Corporation）の創立者である。これ等のユダヤ人は殆どすべて貧乏な移住民として渡米したものである。現在、これらの映畫事業經營者は婚姻によつて血族的紐帶を作り出す傾向が見え、その映畫事業獨占の組織を生きた血によつて强化しつつある。

映畫俳優は前項に記した者の他に、イーディッシュ劇から移行した者にポール・ムニ（Paul Muni）、エリザベス・バーグナー（Elithabeth Bergner）、ダグラス・フェアバンクス（Douglas Fairbanks）があり、その他リカルド・コールテツ（Ricardo Cortez）、エドワード・ロビンソン（Edward G. Robinson）、ベン・ライオン（Ben Lyon）、ビーブ・ダニエルス（Bebe Daniels）、シルヴィア・シドニー（Sylvia Sidney）、チャールズ・チャップリン（Charles Spencer Chaplin）、ハロルド・ロイド（Harold Lloyd）、メリー・ピックフォード（Mary Pickford）、バスター・キートン（Baster Keeton）、アンナ・ステン（Anna Sten）、カーメル・マイヤース（Carmel Myers）、ジャッキー・クーガン（Jackie Coogan）等々枚擧に遑がない。

學に遑がない。

ユダヤ人はまた監督及びシナリオ・ライターとして有名なものが多い。監督ではノーマ・シェーラー（Norma Shearer）の夫アーヴィング・サルバーグ（Irving Thalberg）、エルンスト・ルビッチ（Ernst Lubitch）、ジャック・ワーナー（Jack Warner）、ジョゼフ・スタンバーグ（Joseph von Starnberg）及び前記のカール・レムレー等がある。彼等はいづれもナチス勃興前のドイツの映畫界に於て活躍した人々である。その他の監督にはアーサー・ルビン（Arthur Lubin）、エドガー・セルウィン（Edger Selwyn）、ジョージ・キューカー（George Cukor）等がある。

シナリオ・ライターには「ビッグ・パレード」や「群像」で知られたハリー・ベーン（Harry Behn）をはじめ、ポール・バーン（Paul Bern）、イサドル・バーンスタイン（Isadore Bernstein）、ヘルマン・バーンスタイン（Herman Bernstein）、モートン・ブルーメンストック（Morton Blumenstock）、アル・ボァスバーグ（Al Boasberg）、アルフレッド・コーン（Alfred A. Cohn）、レオポルド・ジェコブソン（Leopold Jacobson）、エドワード・カウフマン（Edward Kaufman）、エム・レヴィ（M. Levy）、サム・ミンツ（Sam Mintz）、

ポール・ショフィールド（Paul Schofield）、ミルトン・グロス（Milton Gross）等がある。
メトロ・ゴールドウィン・メイヤー、ワーナー・ブラザーズ、コロンビア等の監督陣の五十パーセント以上はユダヤ人である。R・K・Oは十九人の監督中二人がユダヤ人、ユナイテッド・アーティスツは十九人のうち四人、フォックスでは十八人のうち一人、ユニヴァーサルは十三人のうち二人、パラマウントは十五人中五人、ワーナー・ブラザーズでは二十一人中九人のユダヤ人監督がある。この數字は一九三八年に出版されたシドニー・サロモンといふユダヤ人の『ブリテンのユダヤ人』（"The Jews of Britain" by Sidney Salomon, London, 1938.）に據つたものであるが、サロモンはこれを、反セム主義者が「ユダヤ人は映畫界を支配してゐる」と主張するのに對して、これを反駁するために示してゐるのである。彼は更にシナリオ・ライターとしてのユダヤ人の非ユダヤ人に對する比はもつと少い、恐らく十分の一位のものだと云ひ、映畫出版者百八十人中ユダヤ人は七人、ハリウッドの俳優二、六八五人中僅か八十四人がユダヤ人であると書いてゐる。また映畫は製作者——現在八十五人のうち五十三人がユダヤ人である——や俳優や監督だけでなく、財的背景や映寫機や發聲機製作

所等に負ふ所大であるが、トーキーの大會社ウェスターン・エレクトリック會社（Western Electric）及びその補助機關たる「E・R・P・I」の二社はJ・P・モルガンやジョン・D・ロックフェラーが投資してゐるといふことを擧げて、極力映畫がユダヤ人の獨占でないことを示さうとしてゐる。

しかしサロモンの主張は一面的である。非ユダヤ人の監督、俳優或は投資者の存在は、ユダヤ人の映畫事業獨占といふ事實を些かも妨げるものではない。獨占的なユダヤ人經營者の組織は、俳優や監督に對して活殺自在の權力を握つてゐるのである。また上記ウェスターン・エレクトリックと共に世界の三大發聲映寫機製作會社たるR・C・A會社及びトビス會社（Tobis）はいづれもユダヤ人の經營にかかるものである。われわれはむしろ『ユダヤ人アメリカに來る』の二人のユダヤ人著者の「アメリカ映畫はユダヤ人が支配してゐる。彼等は、ハリウッドとロサンゼルスを作り、五十萬の男女從業員を持つ映畫界を牛耳つてゐる」といふ結論を正當と認めなければならない。

第一次世界戰爭後の經濟恐慌やそれに伴ふ尖銳的な階級鬪爭の革命情勢の時代が過ぎると、

戰爭による感能生活の重壓から解放されて反動的な享樂主義の氾濫時代を現出した。競馬、拳鬪、野球、庭球等のスポーツが「健全なる身體」の鍛錬といふよりはむしろそれを看板にして商業、賭搏、投機の對象として熱狂的に流行した。美人投票や衣裳比べが國會議員の選擧と同樣の關心を以て行はれ、肉慾的な獵奇や醜聞が誇りを以て撒き散らされ語り傳へられた。痲雀、クロス・ワード・パヅル、卑猥な俗歌やヂャズ音樂の氾濫、老若を問はず男女間の性的火遊び――一々擧げてゐたら際限がないが、とにかくさうした自由主義、資本主義の頹廢に對して、ラジオ、圖書、新聞、雜誌、劇、映畫、音樂等は大きな力を添へたのである。

特にアメリカは大戰中有利な條件に惠まれ、戰後世界各國が恐慌のどん底に喘いでゐた時に於てさへ、一時的な動搖を見たのみでその後は驚異的な經濟的繁榮を來したので、その享樂主義的傾向は特に著しいものがあつた。アメリカは世界の享樂主義の本場になつたのである。さういふ狀態の下にあつて、ラジオ、ジャーナリズム、音樂、劇、映畫等に早くから力を持つてゐたユダヤ人が急速にその力を增大して行つたのは當然である。ユダヤ人の經營的或は藝術的才能もさることながら、彼等商業民族特有の唯物的、肉慾的性格がこの時代の風潮

にヒットして今日の支配を築き上げるに至つたのである。從つてユダヤ人のみがこの自由主義爛熟時代の頽廢的な肉慾主義、刹那主義、ウルトラ・モダニズム等々の責任者であると主張する自己反省を忘れたヨーロッパ的反セム主義者の說は一面的であるが、それにしてもユダヤ民族獨特の性格と彼等の地位とがかかる風潮に對して巨大な拍車をかけたことは否定することは出來ない。しかもかかる傾向は、それがユダヤ民族主義指導者によつて政治的に利用されるに至つて最大の破壞力を發揮するに至つたのである。

ユダヤ人はまた音樂界に於て非常な名聲を博してゐるが、それは樂器製作者或は作曲家としてよりも、むしろ主として樂士及び指揮者としてである。

提琴界ではミシヤ・エルマン（Mischa Elman）――一八九二年ロシヤに生れ、十六歲の時アメリカでの初の演奏をした――ヤシヤ・ハイフェッツ（Jascha Heifetz）――一九〇三年リトアニアに生れ、アメリカでの初の演奏は一九一七年である――、エフレム・ジムバリスト（Efrem Zimbalist）――一八八九年ロシヤに生る――の三大ヴァイオリニストは特に有名である。彼等はいづれも在露中世界的音樂家たるロシヤ系ユダヤ人レオポルド・アウエル

（Leopold Auer）の指導を受けたものである。この三人に續いてイェフーディ・メニューヒン（Yehudi Menuhin）、サシヤ・ヤコブソン（Sacha Jacobson）、デヴィッド・マンネス（David Mannes）、ミシヤ・ミシヤアコフ（Mischa Mischakoff）、トシヤ・ザイデル（Tosha Seidel）、マックス・ローゼン（Max Rosen）等々數十人の著名なヴァイオリニストがある。

ピアニストとしてはハロルド・バウワー（Harold Bauer）、オシップ・ガブリロウィッチ（Ossip Gabrilowitch）、レオポルド・ゴドウスキー（Leopold Godowsky）、イグナス・フリードマン（Ignace Friedman）、マイラ・ヘス（Myra Hess）、ウラヂミール・ホロウィッチ（Vladimir Horowitz）、モリッツ・ローゼンタール（Moritz Rosenthal）、ミシヤ・レヴィツキー（Mischa Levitzky）、ジョゼフ・レーヴィン（Josef Lhevinne）、レオ・オルシュタイン（Leo Orstein）等いづれも第一流の人々である。

その他大オーケストラやバンドの有名な指揮者には前記ガブリロウィッチの他にモデスト・アルトシューラー（Modest Altschuler）、アルトゥール・ボダンスキー（Artur Bodansky）、

アルトシューラー（Modest Altschuler）、アルトゥール・ボダンスキー（Artur Bodansky）、ルイス・ハッセルマンス（Louis Hasselmans）等多數の人々がある。

映畫、ラジオの發展と共にこの方面の音樂でもユダヤ人は組織者として巨大な勢力を持つに至つた。ユダヤ人はまたライト・オペラ、ミュージカル・コメディーに於ても極めて多數の著名音樂士を出してゐる。

聲樂家ではローザ・レイザ（Rosa Raisa）、ソフィー・ブラスロウ（Sophie Braslau）等は世界的に知られてゐる。その他樂士ほどではないがアメリカ一流のユダヤ人聲樂家は極めて多い。

作曲家は割合少い。エルンスト・ブロッホ（Ernst Bloch）は何と云つても世界的な作曲家である。ブロッホに比べると一段下るが、ルービン・ゴールドマーク（Rubin Goldmark）、マナ・ヅッカ（Mana Zucca）、その他著名なものは十數名ゐる。

以上の著名音樂家や作曲家達はそれぞれアメリカに於ける上流社會の貴顯、富豪達をパトロンに持ち、公然の大衆的名聲の背後に於て更に隱然たる社會的影響力を有してゐる。アメリカでは男子は專門家や特殊の人を除いては一般に高級音樂に興味を持たず、聽衆は主とし

て婦人であるが、女權尊重のアメリカでは婦人に對する影響力は決して輕視することは出來ない。ユダヤ人はアメリカ最大の提琴家、指揮者、歌手を持ち、アメリカの音樂界を風靡しようとしてゐる。

繪畫に於ても有名なユダヤ人が少くない。十九世紀の末葉にはポーランド系のマックス・ローゼンタール(Max Rosenthal)、ニューヨーク生れのヘンリー・モスラー(Henry Mosler)、ニューヘヴン生れのエドワード・ローゼンタール(Edward Rosenthal)、クリーヴランド出身のジョージ・ペイクソット（George D. M. Peixotto)、フィラデルフィア出身のカザリン・コーヘン(Katherine M. Cohen)、クリーヴランド出身のルイス・ローブ（Louis Loeb)等がゐた。

現代畫家ではソルチア・バーンク（Solcia Bahnc)、サミュエル・ハルパート（Samuel Halpert)、テレサ・ベルンシュタイン（Theresa F. Bernstein)、ウィリアム・アウアーバッハ・レヴイ（William Auerbach Levy)、マックス・ウェーバー（Max Weber)、レオ・ミールチナー(Leo Mielziner)、チャールズ・ケルナー（Charles Kellner)、ウィリアム・メイ

ールヂナー(Leo Mielziner)、チャールズ・ケルナー(Charles Kellner)、ウィリアム・メイエロウィッツ(William Meyerowitz)、ユーヂーン・ポール・ウルマン(Eugene Paul Ullman)、ゲオルク・ダヴィッドソン(Georg Davidson)、モーリス・スターン(Mourice Sterne)、サミユエル・オストロウスキー(Samuel Ostrowski)、エミール・フックス(Emil Fuchs)、アーロン・ヘンリー・ゴーソン(Aaron Henry Gorson)、レオ・コーバー(Leo Kober)、その他著名な人が可成りゐる。

彫刻家では十九世紀後半には世界的に有名なモーゼス・ジエーコブ・エゼキール(Moses Jacob Ezekiel)がゐた。現代ではバルチモア出身のエフレーム・ケイザー(Ephraim Keyser)、ニユーヨーク出身のジヨー・ダヴィッドソン(Jo Davidson)、ロシヤ生れのエリー・ナーデルマン(Elie Nadelman)、前記モーリス・スターン(ワルソー生れ)、イシドール・コンティ(Isidore Konti)の五人が特に知られてゐる。

第四節　ジャーナリズムとユダヤ人

先づイーディッシュ語の新聞から述べよう。アメリカのイーディッシュ・ジャーナリズムは一八七〇年にヘンリー・ゲルソニー（Henry Gersohi）が發刊した『ユーディッシェ・ポスト』(Die Judische Post）及び同年カスリエル・サラゾーン（Kasriel H. Sarasohn）が發刊した『ニューヨーカー・イーディッシェ・ツァイトゥンク』(Die New-Yorker Yiddische Zeitung）の兩週刊紙から生れたと云つて差支へない。兩紙とも間もなく失敗して廢刊になつたが、サラゾーンは二年後に週刊紙『イーディッシェ・ガゼッテン』(Die Yiddische Gazetten）を發刊して成功し、それから更に一八八五年に至つてニューヨークで『イーディッシェス・ターゲブラット』(Yiddisches Tageblatt）といふ日刊新聞を發行した。それはアメリカに於ける最初のイーディッシュ日刊新聞であると同時に、また世界に於ける最古のイーディッシュ日刊新聞であつた。この『ターゲブラット』は又『ジュウイッシュ・デーリー・

ディッシュ日刊新聞であつた。この『ターゲブラット』は又『ジュウイッシュ・デーリー・ニュース』(Jewish Daily News)とも稱し、ユダヤ敎正統派の色彩を持つてゐた。サラソーンはロシヤ系ユダヤ人である。

イーディッシュ新聞は遲々たる發展を見せてゐたが、一八八〇年代の末から九〇年代にかけてロシヤに於ける「ユダヤ人狩り」(ポグロム)の結果大量のユダヤ移民が入米したのと、當時アメリカで漸く勢を得たマルクス主義やその他の社會主義思想の影響によつて俄かに大きな發展を來した。新しい移住者達は英語を知らなかつたので、新來の土地アメリカの諸事情や故國の狀態を知るためにイーディッシュ語の新聞を必要とした。實際に於て、イーディッシュ・ジャーナリズムは新しい移民をアメリカの地理、人情に順應せしめ、進んでは彼等をアメリカ化させるための媒體となつたのである。新移民の中には有名な文筆家や評論家も交つてゐたので、イーディッシュ・ジャーナリズムの發展に貢獻する所大なるものがあつた。

購讀者は主としてニューヨークのユダヤ人であつた。需要の增大につれて新聞の數も急速に增加したが、その後漸時整理され、現在ニューヨークでは『フォールヴェルツ』(Vorwaerts)、『モルゲン・ジュルナール』(Morgen Journal)、『ターゲブラット』(Tageblatt)、『ト

ッグ』(Tog)、『フライハイト』(Freiheit)の五紙だけが殘つてゐる。そのうち最大のものは『フォールヴェルツ』で、勞働階級や中產階級の下層を讀者に持つ中正社會主義的新聞で、シオニズムに對しては微溫的な態度を採つてゐる。『モーゲン・ジュルナール』は第二級の新聞で、政治的には共和黨の立場を採り、ユダヤ教正統派系でシオニズムの色彩がある。『トッグ』は『デー・ヴァールハイト』(Day-Warheit)とも云ひ、自由主義的、シオニスト的であるが政治的には無色である。『フライハイト』はアメリカ勞働黨及び共產黨の機關紙で、シオニズムには强く反對してゐる。それは『フォールヴェルツ』の讀者中の急進的な連中を摑んでゐる。

廢刊になつたイーディッシュ新聞は極めて多く、長いものは十數年短いものは一二年繼續した。『イーディッシェ・ウェルト』(Yiddische Welt)、『フィーラー』(Fihrer)、『ハイント』(Haint)、『ツァイト』(Zeit)、『アーベント・ブラット』(Abend Blatt)、『テークリッヘ・プレッセ』(Tegliche Presse)、『イーディッシェ・アーベント・ポスト』(Yiddische Abend Post)、『テークリッヘ・フォルクスツァイトゥンク』(Tegliche Vorkszeitung)、『コル・フォン・デア・ゲットー』(Kol Von Der Ghetto)、『アメリカーナー』(Amerikaner)、『モルゲンブラッ

ア・ゲットー』(Kol Von Der Ghetto)、『アメリカーナー』(Amerikaner)、『モルゲンブラット』(Morgenb'att)、『テークリッヒャー・ヘロルド』(Teglicher Herold)、『ヴァールハイト』等がそれである。

イーディッシュ新聞はニューヨークを搖籃として次第にユダヤ人の多い他の諸都市に發展して行つた。シカゴでは一八八七年に『テークリッヒャー・ユーディッシャー・クーリエー』(Taeglicher Juedischer Courier)、一八九〇年には『テークリッヒャー・イーディッシュ・コール』(Taeglicher Yiddischer Kol)、クリーヴランドでは一九〇八年に『イーディッシュ・ウェルト』及び一九二〇年に『ジュウイッシュ・ガーディアン』(Jewish Guardian)——それはイーディッシュ語並に英語の兩語を使用した日刊紙である——が發刊された。フィラデルフィアでは一九一四年に『イーディッシェ・ウェルト』が發行された。發行部數を見るに、一八九五年に存在した二つのイーディッシュ新聞『ターゲブラット』及び『ジュウイッシュ・ヘラルド』は、前者が約一三、四〇〇、後者は約二、六〇〇で、合計僅かに一六、〇〇〇であつた。次の五ケ年間に『フォルヴエルツ』『アーベント・ポスト』『モルゲン・ジュルナール』の三新聞が加はり、發行部數は一躍して總計六二、〇〇〇に跳ね上つた。一

九一〇年には『フォールヴェルツ』『モルゲン・ジュルナール』『ヴァールハイト』『ターゲブラット』の發行部數總計は三三六、〇〇〇となり、一九一五年には五二五、六九〇となつた。しかしその後間もなく、合衆國政府の移民制限、東部ヨーロッパに於けるポグロムの減退、及びアメリカに於ける社會主義運動の不振等のためにこれら新聞の發行部數は可成り減少した。イーディッシュ新聞は、イーディッシュ文學や劇と同樣に、絕えずヨーロッパからの新しいユダヤ移民の流入がなければ發展しない。それは單なる媒體であつて、アメリカに長く住んだユダヤ人は次第にアメリカ化して、英語その他の諸新聞を理解するやうになるからである。

ナチス・ドイツのユダヤ人排斥によるユダヤ人のアメリカ流入によつて、イーディッシュ・ジャーナリズムは再び新しい土壤を獲得しはじめた。

次にもつと一般の新聞について述べよう。一九三七年にはアメリカの日刊新聞はその數二千二百餘に達してゐるが、そのうちでもハースト系（Hearst）とハワード系（Howard）とが斷然大きな勢力を持つてゐる。

が斷然大きな勢力を持つてゐる。

現在世界の大通信社と云へばアヴァス（Havas Ltd.)、ロイテル（Reuters Ltd.)、A・P（Associated Press）及びU・P（United Press）の四社であるが、後二社は合衆國に存在する。アヴァス通信社は一八三五年フランスに於てルイ・アヴァス（Louis Havas）が創設したものである。彼にはベルンハルト・ウォルフ（Bernhart Wolf）及びヨザファート・ベールといふ二人のユダヤ人協力者がゐたが、その後ウォルフはベルリンで、またベールはイギリスで各々獨立の通信社を創立した。ベールが作つた通信社は後にロイテルと改稱された。A・P及びU・Pの兩社にはユダヤ資本が暗默の勢力を張つてゐる。合衆國にはこの他にI・N・S（International News Service）とユニヴァーサル・サーヴィス（Universal Service）といふハースト系の大通信社がある。

ハースト系諸新聞は全アメリカ新聞發行部數の三分の一を占め、その他はA・P、U・P系が大部分を分有してゐる。ハースト（William Randolph Hearst）はユダヤ人ではないが、彼の系統の諸新聞はユダヤ新聞、ユダヤ記者、ユダヤ購讀者、ユダヤ人廣告依賴者等と深い聯繫を持つてゐる。特に新聞に對する廣告依賴者の影響力は無視することの出來ぬものであ

る。廣告主としてのユダヤ人の力も大きい。一九三二年、イギリスで『ナショナル・グラフィック』誌がユダヤ財閥反對運動の記事を掲載し、またイギリス放送會社が多數ユダヤ人を使用してゐることを攻撃したために同誌の廣告者數が激減し、その翌月には早くも發行を停止するに至つたことがある。アメリカでも廣告依頼者としてのユダヤ人商人特に百貨店經營者の新聞に對する潜勢力は極めて大きいものがある。曾て『ニューヨーク・ヘラルド』紙（New York Herald）の社長ジェームス・ベネット（James Bennet）が、ニューヨーク一流の百貨店經營者たる一ユダヤ人から市長立候補について應援を依頼された時、その手紙を『ヘラルド』紙上で暴露したために同紙の廣告が激減して年々二百五十萬ドルの赤字を出して危機に陥つたことがある。ベネットの死後『ヘラルド』はユダヤ資本の支配下に入つたのである（『報知新聞』昭和十六年六月二十六日）。　また曾てハーストのソ聯邦排撃を阻止しようとしたユダヤ人が同系の有力新聞『ニューヨーク・アメリカン』（New York American）に對して廣告依頼や購讀をボイコットしたので廢刊になつた。今日ではハースト系諸新聞もユダヤ勢力によつて牽制されるところ大なるものがあると云はれる。ユダヤ人レオン・カルヴァロー

力によって牽制されるところ大なるものがあると云はれる。ユダヤ人レオン・カルヴァロー(Leon Carvalho) は長い間ハーストの巨大な新聞雑誌類の出版に關する重要な地位に就いてゐた。

現在合衆國に於けるユダヤ系新聞と稱せられるものには、『ニューヨーク・タイムス』(New York Times)、『ニューヨーク・ポスト』(New York Post)、『ニューヨーク・ヘラルド』『デーリー・ヘラルド』(Daily Herald)、『ニュース・クロニクル』(News Chronicle)、『デーリー・テレグラフ』(Daily Telegraph)、『サンデー・レフェリー』(Sunday Referee)、『フィラデルフィア・レコード』(Philadelphia Record)、『エヴリマン』(Everyman)、『ジュウイッシュ・テレグラフィック・エージェンシー』(Jewish Telegraphic Agency) その他がある。

イギリスの『ロンドン・タイムス』と並び稱され、アメリカ第一の大新聞である『ニューヨーク・タイムス』はユダヤ人アドルフ・オーチス (Adolph Ochs) の發刊にかかるものである。彼はユダヤ法師アイザーク・ワイズ (Isaac M. Wise) の養子であるが、生れつきの新聞人ともいふべき人で、二十歳の時その郷里チャッタヌーガ (Chattanooga) で『チャッ

タヌーガ新聞』を發行してゐる。それは今日でも南部での重要な新聞の一つとなつてゐる。オーチスがニューヨークに出て『タイムス』を手に入れた時はその讀者は僅か九、〇〇〇人で日々一千ドル宛の缺損を生じ壞滅に瀕してゐた。しかし彼は十五年の間にこの『タイムス』をアメリカ最大の新聞に發展せしめたのである。オーチスと肩を並べるものにニューヨーク生れのユダヤ人ポール・ブロッホ（Paul Bloch）がある。彼は十二の新聞を所有し、アメリカ最大の新聞所有者の一人である。彼の所有新聞の中には『ブルックリー・イーグル』（Bro-okly Eagle）や『トレードー・ブレイド』（Toledo Blade）が含まれてゐる。彼の新聞はハースト、ハワード、ガネット（Gannet）の諸系統と聯繫を持つてゐる。

小都市のジャーナリズムで有名なのはアイオワ州ダヴェンポート生れのユダヤ人アドラー（E. P. Adler）である。彼は西部中央で八つの新聞を支配してゐる。東部ではデヴィッド・スターン（David Stern）が『フィラデルフィア・レコード』及びニュージャアシーの數新聞を所有してゐる。

デヴィッド・ローレンス（David Lawrence）はワシントンに於ける『ユナイテッド・ス

デヴィッド・ローレンス（David Lawrence）はワシントンに於ける『ユナイテッド・ステーツ・デーリー』（United States Daily）の發行者である。同紙はアメリカで唯一の政府機關誌である。ローレンスはアメリカに於ける指導的な政治記者、政治解說者で、ウイルソン大統領と親しく、ウイルソンの傳記著者ボスウェル（Boswell）といふのは彼のことであると云はれてゐる。ユダヤ系のジョセフ・プリッツァー（Joseph Pulitzer）は、後に『ニューヨーク・テレグラム』（New York Telegram）に合併せられた東部の有力新聞『ニューヨーク・ワールド・ペーパーズ』（New York World Papers）の創始者である。『ニューヨーク・イーヴニング・メール』（New York Evening Mail）及び『ハーバート・ベイヤード・スウォープ』（Herbert Bayard Swope）の發行者で、『ニューヨーク・ワールド』の前編輯長であつたダニエル・ニコホル（Daniel Nicoholl）もユダヤ人であつた。マイケル・ハリー・ドゥ・ヤング（Michael Harry De Young）は『ニューヨーク・ワールド』及び『サンフランシスク・クロニクル』（San Francisc Ch onicle）の編輯者である。

　合衆國に於ける社會主義日刊英語新聞である『ミルウォーキー・リーダー』（Milwaukee Leader）の創始者であり、その死に至るまで編輯長であつたヴィクター・バーガー（Victor

Berger）もユダヤ人であつた。ヴィクター・ローズウォーター（Victor Rosewater）は長く新聞『オマハ・ビー』の發行者であつたし、A・コブラー（A. J. Kobler）は『ニューヨーク・デーリー・ミラー』(New York Daily Mirror）の發行者、シメオン・ストルンスキー（Simeon Strunsky）は一時『ニューヨーク・イーヴニング・ポスト』(New York Evening Post）の編輯長であつた。ウォルター・リップマン（Walter Lippmann）は思想家で曾て『ニューヨーク・ワールド』の主筆であつたが、現在では『ニューヨーク・ヘラルド・トリビューン』（New York Herald Tribune）に關係してゐる。因に『ニューヨーク・ワールド』は現在では廢刊になつてゐる。チャールズ・ミッチェルソン（Charles Michelson）はアメリカに於ける指導的政治記者の一人で『ナショナル・デモクラティック・コミッティー』(National Democratic Committee）の出版監督である。アイザック・マーコッソン（Isaac Marcosson）もまた有力な政治記者である。以上の他各種の有力新聞に腕利きのユダヤ人記者が澤山ゐる。

最後に英語のユダヤ新聞雜誌であるが、そのアメリカに於ける最古のものはアイザック・

M・ワイズの創刊したユダヤ教改革派の公的刊行物『アメリカン・イスラエライト』(American Israelite)で、これは現在も繼續してゐる。ウォークリーでは一八七九年創刊の『アメリカン・ヘブリュウ』(American Hebrew)、一八九〇年の『レフォーム・アドヴォケート』(Reform Advocate)、一九〇二年の『ジュウイッシュ・トリビューン』(Jewish Tribune)等があり、いづれも若いアメリカ化したユダヤ人を主要な讀者層としてゐる。その他隔週刊行物に『ニュー・パレスタイン』(New Palestine)、『ナショナル・シオニスト・オーガン』(National Zionist Organ)、青年シオニスト向きの『ヤング・ジュウディアン』(Young Judean)及び『アメリカン・ジュウイッシュ・クォータリー』(American Jewish Quarterly)、がある。

月刊誌ではメノラー協會(Menorah Association)の發行する『メノラー・ジャーナル』(Menorah Journal)、『レフレックス』(Reflex)、『ジュウイッシュ・フォーラム』(Jewish Forum)、『ジュウイッシュ・ファーマー』(Jewish Farmer)――これは英語、イーディッシュ語の兩語版がある――及び『ブナイ・ブリス・マガジーン』(B'nai Brith Magazine)があ

る。この最後のものは英語のユダヤ定期刊行物のうちで最も多くの讀者を有するものであるが、その大部分はブナイ・ブリスの會員である。なほブナイ・ブリスは『ブナイ・ブリス・メッセンジャー』（B'nai Brith Messenger）といふウヰークリーを發行してゐる。

一九三〇年には合衆國に八十二の英語ユダヤ定期刊行物があつた。特殊なものに『ジュウイッシュ・デーリー・ブレティン』(Jewish Daily Bulletin)がある。これは初めに掲げた『ジュウイッシュ・テレグラフィック・エージェンシー』の別名で、ニューヨークに本據を持つ同名の通信社の發行にかかるアメリカ最小の日刊新聞であるが、ロンドン、パリー、ベルリン、エルサレム等に事務所を持ち、世界的通信員組織を有し、諸種の新聞雜誌は勿論、ロイテルやA・P等の大通信社にも資料を提供してゐる。一九二四年に創刊され、現在六、〇〇〇以上の發行部數がある。

アメリカのユダヤ人は以上の如き尨大な通信機關を媒體として、アメリカの輿論形成の上に極めて重大なる役割をつとめて居り、その影響力は益々增大しつつある。アメリカ・ジャーナリズムに於けるユダヤ人の地位は映畫界に於けるほど壓倒的ではないが、何と云つても

世界の大通信社に於けるその勢力はアメリカの内外問題に恐るべき影響力を持つてゐるのである。

なほ通信界に於けるユダヤ人の勢力について無視することの出來ぬものはラジオ放送である。アメリカで有名なN・B・C放送會社の社長にして全米放送會社（Radio Corporation of America）の社長たるロシヤ系ユダヤ人デヴィッド・サルノフ（David Sarnoff）があり、コロンビア放送會社の社長もユダヤ人ウィリアム・ペリー（William Pelly）である。またフリード・アイゼマン・ラジオ會社（Freed Eiseman Radio Corporation）の社長デヴィッド・フリード（David Freed）もユダヤ人である。

第五節　ユダヤ人の組織

ユダヤ人は非常に協同體的、社會的な傾向を持つてゐるが、しかしまたその反面に於て、極めて個人主義的、對立的な性向を持つてゐる。この矛盾は多かれ少かれいかなる民族も持

つてゐるところのものではあるがユダヤ民族の場合は特に顯著である。それはユダヤ民族特有の歷史に結びついて成長した傾向である。卽ち彼等は商業民族特有の功利主義　個人主義と、その反面に於けるコスモポリタニズムの性格を併せ持つてゐるのであるが、紀元前數世紀にわたつて四圍の諸民族から屢々征服され、更にローマ帝國による最後的征服の後亡國流浪の民として世界各國の他民族、他國家間に生存するに至つたので、彼等の協同體的性向は對他的一面に偏したエゴイスティックな發展を見るに至つたのである。これは他のユダヤ人的性向であると云はれる陰謀、詐謀、虛僞等々と共に、彼等の境遇が生んだ一種の自然的自衞方法だと見てもいいであらう。彼等の不幸は極めて同情さるべきものがあり、また彼等の文化からは學ぶべき多くのものがあるが、その歪められた功利主義や唯物主義は人類文化の發展上飽くまでこれを克服しなければならない。彼等が世界に大をなせばなすほど彼等の流す害毒は大きいであらう。しかし、その發展には自ら大なる限界がある。ユダヤ民族がより以上の發展を望むならば、彼等はその極端なる民族エゴイズムや資本主義を揚棄して、正常なる世界史の發展に貢獻しなければならない。マルクスやゾムバルト等はこのことを明確に

自覺し、ユダヤ民族解放の新しい方法を考案した。しかし、數千年にわたつて培はれたユダヤ的性格は決して一朝の努力によつて克服し得るものではない。社會主義や共產主義の唯物的、對立的一面性はその點にも結びついて居り、ユダヤ人は何時の間にかまたそれを功利的に利用したのである。それには勿論非ユダヤ民族、特にヨーロッパ諸民族の功利主義や資本主義も亦作用してゐる。その意味ではユダヤ人問題は決して單にユダヤ民族のみの問題ではないのである。

ユダヤ人が組織的活動に大きな力を持つのも彼等の協同體的性向の結果である。特に秘密結社――フリー・メーソン(「自由石工」)は世界的に有名である――の組織に優れてゐるのは上述の如き彼等の歷史的環境の結果である。今日ユダヤ人は、むしろ組織されすぎてゐるほど組織されてゐると云つていい程である。

アメリカに於ても亦さうである。一九三〇年の『アメリカ・ユダヤ年鑑』("American Jewish Yearbook" 1930.)によれば、アメリカには一一一〇の大きなユダヤ人團體があつた。そのうち一五團體は宗教團體であり、教育團體一六、博愛團體一五、友愛團體(fraternal lod-

ge）一四、シオニスト團體一〇、大學の友愛團體或はクラブ二九、農業團體四、勞働團體三ユダヤ人の權利防衞團體二一、その他雜多の團體一二である。合衆國には約三、〇〇〇のユダヤ人會議體があり四〇〇、〇〇〇人のメンバーを擁してゐる。その中には一、三〇〇人のユダヤ法師が指導的な活動をして居り、また會議體の總計費は三〇、〇〇〇、〇〇〇ドルに達するといはれる。

宗教團體は大別して、改革派（Reform）、保守派（Conservative）、正統派（Orthodox）の三つのグループがある。その各々は教儀、勤行、生活樣式等に若干の差異を示してゐる。改革派は祈禱に英語を使用し、シナゴーグに於ける男女席は共通になつてゐる。全合衆國には約二九〇の改革派教會があり、これはアメリカ・ヘブライ教會聯合（Union of American Hebrew Congregations）を組織してゐる。これはアメリカで最も古く、且つ最もよく組織化されたユダヤ人團體で、そのメンバーは五七、〇〇〇人であるが、實際上の影響力は二五〇、〇〇〇人であると云はれる。會員は主として東部ヨーロッパ・ユダヤ人の子弟で、社會的、經濟的に安定した生活者が多いが、特にドイツ系が中心となつてゐる。

改革派の中心はシンシナチに於ける世界最大のユダヤ法師學校『ヘブリュウ・ユニオン・カレッヂ』(Hebrew Union College)で、ジュリアン・モーゲンシュターン(Julian Morgenstern)が學長である。それは一九二二年迄は改革派法師（ラビ）の唯一の供給者で、現在でも主たる供給者であるが、同年にステフェン・ワイズがニューヨーク市にユダヤ宗教學院(Jewish Institute of Region)を開設して以來、ここからも改革派の指導法師が送り出されるやうになつた。現在改革派の實際上の中心指導者はサロモン・シェヒター(Salomon Schechter)である。

改革派ユダヤ法師はアメリカ・ラビ中央會議(Central Conference of American Rabbis)を組織してゐる。メンバーは約二五〇人で、出版物によつて改革派哲學を普及してゐる。改革派はなほ種々の機關を持つてゐる。例へば「ナショナル・アソシェーション・オヴ・テムプル・シスターフッヅ」(National Association of Temple Sisterhoods)及び「ナショナル・フェデレーション・オヴ・テムプル・ブラザーフッヅ」(National Federation of Temple Brotherhoods)がある。前者は六〇、〇〇〇人、後者は二〇、〇〇〇人の會員を持ち、共に

若干社交的な性格を持つ團體である。

最近改革派は宗教的儀式や象徴に重きを置く傾向を生じ、勤行にもまた宗教學校でもヘブライ語が使用されるやうになつた。それは正統派との交流によるためと見られてゐる。改革派がシオニズムに對する反感を失ひ、漸次保守的になつたのもそのためだと云はれる。

保守派は恰度改革派と正統派との中間にあるといふことが出來る。勤行にはヘブライ語が用ゐられるが、若いユダヤ人の間ではいくらか英語が使用されてゐる。その哲學は正統派に酷似し殆ど區別し難い。そのシナゴーグも宗教教育については通例正統派と共同してやつてゐる。教課は熟練したヘブライ語教師によつて授けられ、ユダヤの聖典タルムード（Talmud）やトーラ（Torahs）を教へてゐる。保守派はシオニズムに賛同してゐる。

保守派の中心はニューヨークのアメリカ・ユダヤ神學學校（Jewish Teological Seminary of America）であるが、その校長は改革派の領袖シェヒターの友人サイラス・アドラー（Cyrus Adler）である。一九一三年にシェヒターが組織したアメリカ聯合シナゴーグ（United Synagogues of America）は保守派教會の母體となつた。現在約二百十餘の教會があ

る。會員は中產階級のビジネス・マンが多く、大體二世代位アメリカに住んだ者が多く、中にはアメリカ著名のユダヤ人も少くない。

正統派はポーランド、リトアニア或はウクライナ等で發展したユダヤ教の原則を變更することなく維持しようと力めてゐる。そのシナゴーグは、舊大陸系の人々によつて社會的集會所或はクラブと看做され、勤行の間の休憩時間にはビジネスや政治上の相談などが行はれる。男女席の區別が嚴格である。

正統派はロシヤ系ユダヤ人の大量移民によつてアメリカ・ユダヤ人の最も大きな組織の一つとなつたが、しかしその組織の强固さから云へば前二者よりも劣つてゐる。會員の大部分は外國生れで年配のものが多く、拙い英語も話す。近年になつて富裕なユダヤ人も會員に加はるやうになつたが、以前はすべて貧しい人々で小商店主や行商人が多かつた。

正統派のシナゴーグ數や教會數は不明である。中心はユダヤ法師アイザーク・エルチャーナン神學學校（The Rabbi Isaac Elchanan Theological Seminary）とニューヨーク・イエシヴァ大學（Yeshivah College in New York)で、これに次いでシカゴのヘブリュー神學大

學（Hebrew Theological College）がある。後者の學長はユダヤ法師ソール・シルヴァー（Saul Silver）である。正統派教會で重要なものはアメリカ正統派ユダヤ教會聯盟（Union of Orthodox Jewish Congregations of America）と合衆國及びカナダ正統派ユダヤ法師聯盟（The Union of Orthodox Rabbis of the United States and Canada）である。現在正統派の中心指導者はバーナード・ドラッチマン（Bernard Drachman）とM・マーゴリース（M. S. Margolies）である。

合衆國のユダヤ宗團は以上の如きものであるが、ユダヤ教の發展は近代的意識のために阻止される傾向が見えるので、これを防ぐために以上三派の指導者達は、一九二五年アメリカ・シナゴーグ會議（The Synagogue Council of America）を組織して共同活動を行ふことになつた。それは次の如きものを含んでゐる。卽ち正統派教會聯盟（Union of Orthodox Congregations）、アメリカ・ユダヤ正統派教會聯盟法師會議（Rabbinical Council of the Union of Jewish Orthodox Congregations of America）、アメリカ・ヘブライ教會聯盟、アメリカ・ラビ中央會議、アメリカ聯合シナゴーグ、ユダヤ神學大學ラビ集會（Rabbinical As-

sembly of the Jewish Theological College) がそれである。その他ドゥ・ソーラ・プール博士 (D. de Sola Pool) を議長とするセファーディック教會聯盟 (Union of Sephardic Congregations) がある。それはセファラデュウム・ユダヤ人の宗教的利益を促進することを目的とするもので嚴に正統派的なものである。

次に教育方面であるが、アメリカのユダヤ人の七十五パーセントは七歳から十三歳迄ユダヤ教の教育を受ける。それは主としてシナゴーグや宗教學校での教育で、そのために年々五十萬ドルの費用が支出されてゐる。さらにその上にヘブライ高等學校、ヘブライ大學がある。アメリカの大學——非ユダヤ的なものを含めて——には約四萬のユダヤ人が在學してゐるが、彼等は皆それぞれの組織を持つてゐる。その大部分は秘密組織であるが、これは當初ユダヤ人學生が大學からその入學を拒否されたために、これに對抗して生れたものである。その他ブナイ・ブリス系の有力な學生結社があり、これには各大學の學生が加入してゐる。

ユダヤ人はまた、他民族による迫害から同胞を護るために慈善事業を發展せしめた。これは後には政治的に利用される傾向を生じたが、當初は必ずしもさうではなかつた。多少とも

まとまつたユダヤ人社會を持つ都市には、必ずユダヤ慈善團體が存在する。孤兒院、養老院、自由葬儀社等々皆それである。また大都市にはユダヤ病院がある。一九三六年には全アメリカに五十九のユダヤ病院があつたが、そのうち二十五はニューヨーク市に存在してゐた。

次に合衆國ユダヤ人の公民權防衞の諸團體であるが、これは合衆國及び諸外國に於けるユダヤ人の諸權利を防衞し、受難者を救援する目的で作られ、現在四つの重要な團體がある。アメリカ・ユダヤ委員會、アメリカ・ユダヤ人會議、ブナイ・ブリス誹毀反對聯盟（The Anti—Defamation League of the B'nai Brith）及びユダヤ勞働委員會（The Jewish Labor Committee）がそれである。

アメリカ・ユダヤ委員會については、既に第三章で概說した。ユダヤ委員會の主なる活動は反セム主義を克服するにあるが、近年は專ら合衆國に於けるナチス宣傳の內面暴露を行ひ、ユダヤ人に對する差別待遇に抗爭するために力を盡してゐる。それは內外各地の政府官吏や私人、團體等と接觸を持ち、世界的規模の活動をなす力を持つてゐる。それはユダヤ國民主義には反對してゐるが、ユダヤ敎、ユダヤ文學、科學、美術等の中心としてのパレスタイン

を建設することには徹底的な力を致してゐる。ユダヤ委員會の主要な指導者のうちの若干は、「パレスタイン・ユダヤ・エイジェンシー」の重要な非シオニスト的メンバーを構成してゐる。

アメリカ・ユダヤ人會議についても上記の個所で述べた。指導者達はこの會議に「デモクラティックな組織」を要求してゐるが、實際に於ては、それの組織が確立されて以來一度も大衆的、民主的な選擧が行はれてゐない。この會議は執行委員會その他種々の委員會を持ち、合衆國の數都市に支部を設けてゐる。それはユダヤ委員會と同じ目的を持つものであるが、その行き方は前者とは異つて、大衆活動としてナチス政府に對する抗議、ドイツ商品のボイコット、民衆大會等をやつてゐる。

ブナイ・ブリスは世界的なユダヤ・フリー・メーソン組織である。ユダヤ人の公民權防衛といふその綱領の實現は、主としてその組織の一つたる誹毀反對聯盟を通じてやつてゐる。これは一九一三年に組織され、反セム主義運動に對して勢力的な抗爭を行つてゐる。聯盟の活動は新聞雜誌、舞臺、銀幕、ラジオ、學校教科書等を監視するにある。それはまた圖書、

パンフレット、講演などを通じて積極的な教育活動をやつてゐる。活動費はブナイ・ブリスから支給される。

ブナイ・ブリスは一八四三年、貧乏なドイツ系ユダヤ人のグループによつて組織され、相互扶助的、互惠的な會として發展し、次いで孤兒保護、養老等の博愛活動をも行ひ、現在では更に、教育及びユダヤ人防衞の事業をもやるやうになつてゐる。それは現在ではユダヤ人國際組織となり、八五、〇〇〇人以上の會員中その四分の一は外國に居住してゐる。誹毀反對聯盟は「ヒルレル・ファウンデーション」(The Hillel Foundation)――ユダヤ大學生のフリー・メーソン――と共に、ブナイ・ブリスの二大活動機關となつてゐる。ブナイ・ブリスは現在六〇三のロッヂと一つの年少者組織「アレフ・ツァディーク・アレフ」(Aleph Zadik Aleph)を持つてゐる。

ブナイ・ブリスに充分の親しみを感じなかつた東部ヨーロッパのユダヤ人は、一八八七年に「インデペンデント・オーダー・ブナイ・ブリス・アブラハム」(The Independent Order B'nai Brith Abraham)を組織した。それは一一〇、〇〇〇人の會員を持ち、アメリカ最大

のユダヤ友愛團體となつた。その他「インデペンデント・オーダー・ブナイ・ブリス・シローム」(The Independent Order B'nai Brith Sholom) は三三、〇〇〇人「ジュウイッシュ・ナショナル・ウァーカース・アライアンス」(The Jewish National Workers' Alliance) は約七、〇〇〇人「インデペンデント・オーダー・フリー・サンズ・オヴ・イスラエル」(The Independent Order Free Sons of Israel) は八、五〇〇人「プログレッシヴ・オーダー・オヴ・ザ・ウエスト」(The Progressive Order of the West) は一〇、〇〇〇人「インデペンデント・ウァークメンス・サークル」(The Independent Workmen's Circle) は六、〇〇〇人「ジュウイッシュ・ベテランズ・オヴ・ザ・ウォーズ・オヴ・ザ・レパブリック」(The Jewish Veterans of the Wars of the Republic) は二〇、〇〇〇人の會員を持つてゐる。

ユダヤ勞働委員會は一九三四年に組織され、上記三團體と同じ目的を持つものであるが、それは勞働者諸團體、特にアメリカ勞働總同盟（A・F・L）と密接な聯繫を持つ點で他のものと異つてゐる。ユダヤ勞働委員會は反ナチス・ボイコット運動に積極的な努力を傾注し

てゐる。

以上四つの大團體のうち、第一のものは一般に經濟的上層ユダヤ人を、第二のものは中流階級、第三は中流階級及び自由職業者のグループを、第四は中流以下の階級をその主たる構成員として居り、一般的にはユダヤ人の權利防衛といふ共通の目的を持つてゐるのであるが、實際的にはそれぞれ各層のユダヤ人の利害を代表してゐる。從つて、相互の間に意見の不一致や利害の抗爭などが行はれた。そこでさらに統一的な組織が要望されるに至り、遂に各種團體の代表者が集まつて聯合協議會（Joint Consultative Council）を持ち、共通の問題についいて共同の立場を採ることになつた。

以上の外に、諸種の團體に附屬した青年組織、婦人組織をはじめ、カントリー・クラブ、ゴルフ・クラブ、ランチ・クラブ、運動競技クラブ、職業クラブ、及びハンガリー、ポーランド、ルーマニア、ウクライナ等々諸系統のユダヤ人によつて地域的に組織された農業諸團體等がある。

第六節　經濟界に於けるユダヤ人

アメリカの經濟界に於けるユダヤ人の巨大な勢力は、すでに述べ來つた彼等の長い歴史が雄辯に物語つてゐる。茲では何等か纏つた形で眞相を捉へたいと思ふのであるが、遺憾ながら全アメリカの經濟界に於けるユダヤ人の地位を正確な統計によつて示すことは不可能である。存在する統計は斷片的であるばかりでなく、充分なる信頼を置くことが出來ない。商工業その他自由職業等に對するユダヤ人の人口分布狀態に關してさへ、全體的な統計は存在しないのである。しかし乍ら、このことは、アメリカ經濟に於けるユダヤ人の地位の重要性、特にユダヤ金權の巨大な勢力の存在を些かも否定することにはならない。

アメリカに於けるユダヤ人は、その全人口の割合から見ると、非常に多くのものが商業に從事してゐる。これはひとりアメリカには限らない、商業民族としてのユダヤ人としてはそれは寧ろ當然のことである。商業に次いでは工業、特に輕工業（マヌファクチュアー）が多

い。現在ユダヤ人が支配し或は支配してゐると稱せられる産業の主なるものは、キネマ産業、針工業、織物原料並に絹産業、衣服業、製糖業、煙草工業、遠洋漁業、製靴業、音樂器製造販賣業、寶石商、穀物商、棉花商、コロラド製煉工業、運輸業、アルコール飲料商、金貸業及びブローカー、新聞、雜誌、ラジオ、通信業等々で、極めて廣汎である。以上のうち、娛樂、ジャーナリズム等については既に述べた通りである。

ユダヤ人がアメリカに於ける衣服業を殆ど獨占してゐることは事實である。經營者としても勞働者としてもユダヤ人が壓倒的多數を占めてゐた。尤も、近年になつて、イタリー人、ポーランド人、スペイン人、ニグロ等の非ユダヤ人が被傭勞働者として斯業に從事する傾向が增大し、ユダヤ人勞働者の數は四十パーセント乃至五十パーセントに低下してゐる。しかし經營者、雇傭者は依然としてユダヤ人が絕對多數である。被服業に於けるユダヤ人勞働者數の比率の低下は、同業に於けるユダヤ人の支配の低下を意味しない。或はむしろ逆ではないかとさへ考へられる。針の生産並に販賣に於てもユダヤ人が斷然勢力を持つてゐる。

デパートメント・ストアに於けるユダヤ人の力は極めて大きく、重要なデパートの可なり

の數がユダヤ人の所有乃至支配下にある。例へばニューヨークのメーシー・デパート(Macy's Dept.)、フィラデルフィアのギムベル・デパート(Gimbel's Dept.)、ニューヨークのバムバーガー・デパート(Bamberger's Dept.)、ボストンのフィレーン・デパート(Filene's Dept.)、シカゴのマンデル・デパート(Mandel Dept.)等の著名大デパートをはじめ、その他「ストラウス」「アルトマン」「スターン」「ザックス」(以上ニューヨーク)等の百貨店はユダヤ人の所有するところである。

アメリカの國內金融並に國際金融に於てもユダヤ人は巨大な勢力を持つてゐる。しかしその實情を具體的に示すことは困難である。國際的ユダヤ銀行閥が世界の金融界を支配してゐるといふことが信ぜられるに至つたのは、主としてロスチャイルド家の勃興時代からのことである。フランクフルト、ロンドン、ネープルス、パリー、ウィーン等に於けるロスチャイルド家の基礎を作つた五人の兄弟は、曾て世界が有したことのないほどの歷史的な國際銀行閥を形成した。彼等が國際的な金融操作によつて莫大な利潤を擧げたことは云ふまでもないことである。ロスチャイルド家のこの國際的連鎖は今日では破壞されてしまつた。ネーブル

スとフランクフルトのロスチャイルド家は久しい以前に消滅した。ウィーンのそれはヒットラーの軍隊を從へたナチスによつてその財產を押收され、パリーのロスチャイルド家もフランスの敗北によつてその地位を喪失してしまつた。

しかしロスチャイルド家の國際連鎖の破壞によつてユダヤ國際金融財閥そのものは決してその跡を絕つたわけではない。現在世界最大の國際的銀行閥は、ロンドンとパリーに同盟商館を持つピールポント・モルガン商會（Pierpont Morgan & Co.）であるが、ユダヤ人のクーン・ローブ會社の存在も決して輕視することは出來ない。この會社はすでに述べたやうにジェーコブ・シッフの活動によつて、アメリカに於てモルガン商會に次ぐ大金融會社となつたもの(の)である。シッフは、最も貴族的なユダヤ人のゲットーを持つフランクフルト・アム・マインから渡米して、十八歲の時クーン・ローブ會社に入社したのであるが、その後彼はアメリカに於けるドイツ系ユダヤ諸銀行を結合した。これらの諸銀行は、クーン・ローブ會社を中心として、世界各地のユダヤ銀行と國際的な聯繫を持つたのである。クーン・ローブ會社の組合社員であるオットー・カーン、フェリックス・ウォーバーグ、ポール・ウォーバ

ーグ等はこれを發展せしめた。第一次世界戰爭後の經濟的不況のためにアメリカの銀行は多數倒壞したが、クーン・ローブ會社を中心とするユダヤ銀行閥は、それら破産銀行の一部を併合してその勢力を擴大した。

シッフを先頭とするアメリカ・ユダヤ人の活動によつて一九一一年米露通商條約が廢棄され、またユダヤ系銀行トラストの活動――その專斷的活動――に對するアメリカ人の批判攻擊の聲が大となつた。それが遂に上下兩院で問題となるに及んで、大統領ウイルソンはユダヤ銀行トラスト調査委員會を組織することを承認した。同委員會の調査の結果によれば、ユダヤ銀行トラストは百二十の重要銀行を統轄管理する五個の大銀行より成り、その資本金總額は二二、二四五、〇〇〇、〇〇〇ドルの巨額に達し、該トラストは全アメリカ並に海外の重要工業カルテル、金融カルテル等を支配してゐる。

アメリカの聯邦準備銀行が出來たのは、一八七〇年から一九〇〇年代の初頭にかけて起伏した恐慌のため、無制限な個人主義的、自由主義的傾向に對する改革運動の結果、各方面に統制が必要となり、金融方面に於ても多數銀行が個々別々に勝手な活動をすることを制約し

てこれを統一するためであつた。そしてその中には、暗默のうちにユダヤ資本のアメリカ金融支配を防歷せんとする意圖が含まれてゐると云はれてゐる。しかし、ウイルソン大統領が任命した聯邦準備銀行創立委員五名の中には、シッフの義弟にして同じくクーン・ローブ會社の社員たる前記ポール・ウォーバーグが居るのである。以てアメリカ金融界に於けるユダヤ人の絶大な勢力を覗ふに足るであらう。（安江仙弘氏著『ユダヤの人々』參照）

クーン・ローブ會社は、現在では銀行事務を停止して專ら證券會社として存在してゐるが、國際金融については依然として大きな勢力を持つてゐる。同社の組合會員は殆ど重役の地位に就かないで金融に關する技術上の助言を提供し、金融方面以外の經濟團體に對して大きな力を持つてゐる。

セリグマン兄弟商會（Seligman Brothers）も著名なユダヤ國際金融業者である。バヴァリアのデヴィッド・セリグマン（David Seligman）の八人の息子は、現在合衆國のあらゆる重要都市に支店を持つ國際的金融商會を創立した。彼等の物語は一八三七年にジョセフ・セリグマン（Joseph Seligman）がアメリカに渡來したときから始まる。彼に次いで二人の

兄弟が一八三九年に渡米した。それから更に二年後第三番目が渡米した。以上の四名はランカスターで仕立業を營んでゐたが、間もなくセルマアラ（Selma Ala）に移住し、その三都市に三個の支店を作つた。一八四八年頃、更にもう二人の兄弟がドイツから渡米し、これを加へた六名の兄弟は北部地方へ移動して行つた。一八五八年にはジェッセ・セリグマンがサンフランシスコで開業した。七年の後、衣服業の他に銀行業が開始され、一八六二年には早くも、セリグマン兄弟商會はニューヨーク、サンフランシスコ、ロンドン、パリー、フランクフルトに店を持つたのである。アイザック・セリグマン（Isac Seligman）はジェーコブ・シッフの娘と結婚して居り、クーン・ローブ會社とセリグマン商會とは密接な關係を持つてゐる。

以上の他國際的ユダヤ金融商館として有名なものに、サンフランシスコ、パリー、ロンドンにわたるラザード兄弟商會（Lazard Frères）をはじめサミュエル・モンターギュ會社（Samuel Montague & Co.）、S・ジャーフェット會社（S. Japhet & Co.）等がある。セリグマン商會以下の諸會社にはいづれも非ユダヤ人が有力なパートナーとなつてゐる。

『ブリテンのユダヤ人』の著者シドニー・サロモン（"The Jews of Britain" by Sidney Salomon, London, 1938.）によれば、かつてアメリカの新聞が國際貸借に參加してゐるアメリカ銀行の調査を行つたが、それによるとモルガン商會が十五億ドル、クーン・ローブ會社は二億二千萬ドルであつた。またアメリカの大銀行中の七行はキリスト教徒のもので、國際貸借の七十八パーセントを占めるが、これに對し四つの主要なユダヤ商館は、僅か九パーセントを占めるにすぎない。なほニューヨークに於ける四百二十人の銀行支配人中ユダヤ人の數は三十人であつた。但しユダヤ人シドニーは反セム主義を反駁するために全く都合のいい數字を利用した傾向がないでもない。

右の他アメリカ國内の金融界に勢力を持つユダヤ財閥として、ロサンゼルスのヘルマン家（Hellmans）とユージン・メイヤー（Eugene Mayer）、シカゴのグリーンバウム家（Greenbaums）とシュトラウス家（Strauses）、ニューヨークのレーマン家（Lehmans）、ザック家（Sachs）、ウンガーライダー（Ungerleider）及びバルーチ家がある。ロンドン・パリー・アメリカ銀行（The London, Paris, and American Bank）はユダヤ人シグムンド・グリーンバ

ウム（Sigmund Greenbaum）とリチャード・アルトシュール（Richard Altschul）の共營であり、アングロ・カリフォルニア銀行（The Anglo-Californian Bank）はフィリップ・リリエンタール（Philip N. Lilienthal）とイグナッツ・シュタインハルト（Ignatz Steinhart）の共營である。ネヴァダ銀行（The Nevada Bank）、ユニオン・トラスト會社（The Union Trust Company）、ロサンゼルス農・商人銀行（The Farmers' and Merchants' Bank of Los Angelos）等もユダヤ人の經營になるものである。またウォール・ストリートのブローカーの約五十パーセントはユダヤ人だと稱せられてゐる。

ファーチナンド・ランドバーグの著書『アメリカの六十家族』（Ferdinand Lundberg, "America's 60 Families" New York, 1937.）によれば、「今日アメリカ合衆國は最も富める六十家族によつて掌握、支配され、これに次いで富裕な僅々九十家族によつて支持されてゐる。更にこの他に、これら中心財閥の外廓には十萬ドル乃至それ以上の所得者の大部分を占める約三百五十の家族が存在する」と云はれてゐる。資本の集積がその獨占に導き、財閥が閨閥を構成することは何處の國でも同じことである。特に傳統的な血の觀念の濃いユダヤ人

が、その財産を基礎として強固な婚姻關係を作り出すのは當然であらう。われわれはすでに、クーン・ローブ會社の支配者達の國際的な血の聯繫を熟知してゐる。

六十家族の筆頭は、モルガン、ロックフェラー、フォード、ハークネス、メロン、ヴァンダーヴィルト、デュ・ポン等で、一九二四年の推定資產額はロックフェラーが二十五億ドルで最高、デュ・ポンが一億ドルで第九位となつてゐる。六十家族中ユダヤ人家族は第十三位のガッゲンハイム家、第十八位のレーマン家、第二十六位のウォーバーグ家、第三十位のカーン家、第四十四位のモルチマー・シッフ、第五十八位のジューリアス・ローゼンワルド、第五十九位のバーナード・バルーチの七家族で、全體の一一・六七パーセント弱を占めてゐる。今その資產狀態をランドバーグの揭げる表によつて、アメリカ最大の非ユダヤ人十大家族と比較すれば次の通りである。

順位	家族名並に租税申告者數	主要財源	一九二四年度納税額（ドル單位）	純課税總收入推定額（同上）	純課税資産額（同上）	三乘式總資産（同上）	最高推定總資産（同上）
1	ロックフェラー（Rockfeller）（21）	スタンダード石油	七、三〇九、九八九	一七、九五五、〇〇〇	三五九、一〇〇、〇〇〇	一、〇七七、三〇〇、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇
2	モルガン財閥（Morgan Ennergroup）（34）	モルガン商會	四、七九六、二六三	一三、六二〇、〇〇〇	二七六、〇〇〇、〇〇〇	七三八、三〇〇、〇〇〇	—
3	フォード（Ford）（2）	フォード自動車會社	四、七六六、八六三	一一、〇〇〇、〇〇〇	二二〇、〇〇〇、〇〇〇	六六〇、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
4	ハークネス（Harkness）（5）	スタンダード石油	二、七七六、七三五	七、五五〇、〇〇〇	一五〇、二〇〇、〇〇〇	四五〇、六〇〇、〇〇〇	八〇〇、〇〇〇、〇〇〇
5	メロン（Mellon）（3）	アルミニューム會社	三、二三七、八七六	七、五〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇、〇〇〇	四五〇、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
6	ヴァンダービルト（Vandarbilt）（22）	ニューヨーク中央鐵道	二、一四八、八九二	六、〇〇五、〇〇〇	一二〇、一〇〇、〇〇〇	三六〇、三〇〇、〇〇〇	八〇〇、〇〇〇、〇〇〇
7	ホイットニー（Whitney）（4）	スタンダード石油	二、一四三、九九二	五、三七五、〇〇〇	一〇七、五〇〇、〇〇〇	三二二、〇〇〇、〇〇〇	七五〇、〇〇〇、〇〇〇
8	スタンダード石油財閥（Standard Oil-group）（28）	スタンダード石油	一、七三七、八五七	五、四三五、〇〇〇	一二八、七〇〇、〇〇〇	三八六、〇〇〇、〇〇〇	—
9	デュ・ポン（Due Pont）（20）	デュ・ポン・ド・ネムール會社	一、二九四、六五一	三、九二五、〇〇〇	七九、五〇〇、〇〇〇	二三八、五〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
10	マッコーミック（MacCormick）（8）	インターナショナル・ハーヴェスター及シカゴ・トリビューン紙	一、四四一、五一七	三、五二〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇、〇〇〇	二一一、二〇〇、〇〇〇	—

13	グッゲンハイム (Guggenheim)(6)	アメリカ精錬會社	八二七、八三六	三、一八五、000	六三、七00、000	一九0、100、000	—
18	レーマン (Lehman) (17)	レーマン・ブラザーズ（投資金融）	六七三、八九七	三、一五0、000	四三、000、000	一三九、000、000	—
26	ウォーバーグ (Warburg) (8)	クーン・ローブ會社	五九八、三四六	一、六三0、000	三一、四00、000	九七、三00、000	—
30	カーン (Kahn) (4)	クーン・ローブ會社	五六五、六0八	一、四三0、000	二八、八00、000	八六、四00、000	—
44*	モルチマー・シッフ (Moltimar Schiff)	クーン・ローブ會社	四五九、四一0	一、100、000	三一、000、000	六六、000、000	—
58*	ジューリアス・ローゼンワルド (Julius Rosenwald)	**シアーズ・ローバック（通信販賣）	三0八、八三一	五00、000	10、000、000	三0、000、000	—
59*	バーナード・バルーチ (Bernard M. Baluch)	株式仲買	三六八、一四三	六三五、000	一二、五00、000	三七、五00、000	—

* 印は個人納税者

**Sears' Roebuck & Co. は世界最大の通信販賣店(Mail order house)でローゼンワルドはその社長である。

この表は決して完全なものではなく、ただ大體の傾向を示すにすぎない。財閥の大規模な脫稅は公然の秘密であつて、議會でも問題になつた位だから納稅額による資產の順位の如きは特に曖昧である。ユダヤ財閥の最高推定額が全然缺如してゐるのにも意味がないとは云へない。ユダヤ人はその道の達人である。諸種の事情を併せ考へるとき、アメリカ六十家族中に於けるユダヤ財閥の實際上の地位は、ランドバーグの揭げた表に於けるよりも遙かに重大なものであると云ふことが出來るであらう。これらのユダヤ財閥は、さらに他のアメリカ大財閥と婚姻や事業によつて密接な聯繫を持つてゐて、その影響力は極めて廣汎である。

例へばファースト・ナショナル銀行を支配するジョージ・F・ベイカー（George F. Baker）の孫娘のF・ベイカーはシッフへ嫁し、オットー・H・カーンの息子ギルバート・W・カーン（Gilbert W. Kahn）はユナイテッド・シガー・ストアの支配者ジョージ・ホィーラン（George Whelan）の娘と結婚してゐる。またオットー・カーンの娘マーガレット・D・カーン（Margaret D. Kahn）は株式ブローカーの大財閥たるトーマス・フォーテューン・ライアン（Thomas Fortune Ryan）の孫の二代目ジョーン・バリー・ライアン（John Barry

Ryan jr.）と結婚してゐる。

アメリカ流行作家の第一人者でまた作曲家であるブロードウェイのユダヤ人アーヴィングバーリン（Irving Berlin）は百萬長者の娘エリン・マッケイ（Elin Mackay）と結婚した。

シッフ並にウォーバーグ兩家が代表するクーン・ローブ會社はマンハッタン銀行に於てステフェン・ベイカー（Stephen Baker）財閥と結合し、またケミカル銀行信託會社を通じてゲリー・ゴーレット（Gerry Gorlett）家と結合してゐる。その他クーン・ローブ會社は長い間に打ち建てられた關係によつて、數個の鐵道會社その他に對して大勢力を扶植してゐる。シッフは鐵道事業に巨額の資本を投下した。アメリカの鐵道王で六十家族の中に這入つてゐるJ・ヒル（J. Hill）やE・H・ハリマン（Edward Henry Harriman）等の成功にはシッフの援助が與つて力があつたのである。クーン・ローブ會社が勢力を持つてゐる非ユダヤ人諸會社は、ウェスターン・ユニオン電信會社、ウェスティングハウス電氣製造會社――それはメロンと共營であり、今日では更にロックフェラーが加はつてゐる――、U・S・ゴム會社――デュ・ポンと共同――及びハドソン・アンド・マンハッタン鐵道會社等々である。

（註）シッフが在アメリカ・ユダヤ人のために盡したことは既に述べたところであるが、猶若干附加して置く。彼は慈善事業團、青年ヘブライ協會（Young Men's Hebrew Association）、バーナード大學（Barnerd College）、コーネル大學（Cornell University）、アメリカ・ユダヤ委員會等に財政的援助を與へ、またユダヤ神學學校の改組資金を提供した。彼はまたハーヴァードにセム博物館を設立し、ニューヨーク公共圖書館にユダヤ部を設け、バイブルやヘブライ語古典の英譯事業に多大の援助を與へた。

・アメリカ産業界に於ける指導的なユダヤ財閥としてクーン・ローブ會社に優るとも劣らぬものは、ガッゲンハイム家に屬する一族であらう。ガッゲンハイム家はアドルフ・レウィゾーン（Adolph Lewisohn）及びその家族と共同して銅鑛山業を支配し、現在金屬工業のあらゆる部門に關係してゐる。ガッゲンハイムの祖先は南北戰爭前にドイツから移住して陶器業を營んでゐた。彼の七人の息子達が今日アメリカに於ける最大のユダヤ財閥を作り上げたのである。ガッゲンハイム家はモルガン・ガッゲンハイム・ウター銅會社――その資産は一九一七年には八九、三五四、九一七ドルであつた――によつてモルガン財閥と強く結合してゐる。一族のシモン・ガッゲンハイム（Simon Guggenheirn）は上院議員となり、ダニエル・

ガッゲンハイム（Daniel Guggenheim）はリンドバーグ大佐のパトロンで航空事業に對して數百萬ドルの寄贈をしてゐる。その息子ハリー・ガッゲンハイム（Harry Guggenheim）はキューバ駐劄アメリカ大使となつた。

レーマン・ブラザーズ商會も前二者に劣らず重要である。その組合社員はニューヨーク州知事をはじめ、レーマン家一門の多數で構成されて居り、一九二四年標準のその合同資産額は少くとも一億二千九百萬ドルで、全アメリカで第十六位に在つた。彼等は多數の支店を持つ著名な大商業團體たるコーン・エクスチェインジ・バンク・アンド・トラスト（穀物取引銀行信託會社）の株式の約二十八パーセントを所有してゐる。ニューヨークのコムマーシャル・ナショナル銀行信託會社、資本一億ドルの投資信託會社たるレーマン・コーポレーション（Lehman Corporation）及び汎アメリカ信託會社（もとのハーバー・ステート銀行）等を支配してゐる。レーマン家は婚姻によつてラザール・フレール組合社員と結合してゐる。

ヘンリー・フォードは、アメリカ全人口の三パーセントに過ぎぬユダヤ人が巨大なる經濟的勢力を獲得した原因として、ユダヤ人の都市集中性と民族的協同性とを擧げてゐるが、そ

的勢力を獲得した原因として、ユダヤ人の都市集中性と民族的協同性とを擧げてゐるが、それは適評である。特にヨーロッパ大陸に於けるユダヤ人の經濟的支配力の延長が、これらアメリカ・ユダヤ人の成功の大きな源泉となつてゐるのである。しかし、アメリカに於けるユダヤ人の經濟的支配力が大であるといふことは、必ずしもユダヤ人のすべてが富裕であるといふことを意味しない。それどころか、アメリカ・ユダヤ人の絶對多數は、たとひ若干の所有はあるにしても、極めて貧乏な生活を營んでゐる。この點は他の資本主義的諸民族と變らないのみでなく、むしろそれ以上であると云つてもいい位である。彼等の住家のむさ苦しさとその仕事場の蒸風呂のやうな空氣は、一般のニューヨーク市民のユダヤ人嫌惡の一原因とさへなつてゐる。民族協同意識の强いユダヤ人にしてこのことあるは不思議のやうに思はれるかも知れぬが、これは彼等の協同體が飽くまで對外的關係に規定されてゐることと、根深い傳統的資本主義と結合してゐることを知れば容易に理解されるところである。右の大多數のユダヤ人は、各種產業部門の勞働に從事してゐるのであるが、アメリカ全體に於けるユダヤ人口の職業分布の統計は殆ど存在しない。

一九二九年にニューヨークにある五十の勞働組合に關する調査が行はれた。その組合員總

數は三九二、〇〇〇人で、そのうち約三分の一がユダヤ人であつた。それによると、ユダヤ人勞働者の五十四パーセントが食料品調理並に配給業に、五十九パーセントが針業、六十六パーセントが皮革業、二十四パーセントが建築業、十七パーセントが印刷業、三十七パーセントが娯樂業、三十五パーセントが寶石並に裝飾品業、二十四パーセントがその他の雜業に從事してゐた（"Jewish Community Organization in The United States" by Maurice J. Karpf, New York, 1938.）。これは全人口の三分の一がユダヤ人であるニューヨーク市の調査であるから、アメリカ全土について見れば右の比率はずつと下るわけである。しかしいづれにしてもこの調査はユダヤ人勞働者の方から見た數であるから、それだけでは右の諸產業に於けるニューヨーク市のユダヤ人の實際上の地位はわからない。

玆に別の統計がある（"Jewish Life" No.35, Harbin, 1938.）。それによるとニューヨーク市在住のユダヤ人は約二百萬に達するが、ニューヨークの工場三四、〇〇〇のうち、その三分の二はユダヤ人の所有であり、毛皮製造業の大部はユダヤ人の手に歸し、出來合服業の資本家の殆どすべて及び製紙業者の五十パーセント以上がユダヤ人である。食料品及び煙草製造業資

本家の四十九パーセント弱、金屬工業雇主の三十パーセント、出來合服・家具・家庭用器具の製造販賣でもその資本主の六十七パーセントがユダヤ人である。なほ建築請負師の四十パーセント、藥局主の約三分の二がユダヤ人である。

次頁の表は一九三〇年の聯邦國勢調査（Federal Census of 1930）に現はれたニューヨーク市の職業別男子總人口及びユダヤ人男子人口の統計である。

自由職業のうちでユダヤ人が最も多く活動してゐるのは醫藥、醫術、法律、教師及び經理等である。一九三八年、ニューヨークには一般醫師が七、〇〇〇人、齒科醫が四、〇〇〇人ゐた。辯護士は一二、〇〇〇人、初等及び第二級學校教師一〇、〇〇〇人、大學專門學校教授三〇〇人、その他著述家が三、五〇〇人、化學技師一、〇〇〇人、建築技師一、〇〇〇人及びその他各種技師が四、〇〇〇人である。アメリカ人がユダヤ人の就職を拒否する傾向を示し、特に各種の學校がユダヤ人教師や學生を制限してゐるにも拘らず——そしてユダヤ人がそのために困難してゐることは云ふまでもないが——このやうな有樣である。以て彼等の旺盛な發展力を覗ふに足るであらう。これらの自由職業並に政界に於ける著名なユダヤ人に

職業	ユダヤ人		總人口	
	人數	百分比	人數	百分比
總計	13,319	100.0	1,087,707	100.0
1 商業	4,594	34.5	230,326	21.0
2 手工業及機械工業	4,540	34.1	361,795	33.2
3 僧職	1,823	13.7	112,731	10.4
4 自由職業	887	6.6	79,961	7.4
5 家庭的及個人的職業	748	5.6	150,112	13.8
6 運輸及通信	594	4.5	124,348	11.4
7 公共事業	133	1.0	26,165	2.4
8 農業	——	——	1,722	.2
9 採鑛業	——	——	431	——
10 林業及漁業	——	——	116	——

同じく女子職業別人口は次の通りである。

職業	ユダヤ人		總人口	
	人數	百分比	人數	百分比
總計	3,417	100.0	457,223	100.0
1 僧職	1,494	52.5	110,727	24.2
2 手工業及機械工業	579	16.9	89,030	19.5
3 商業	514	15.0	36,573	8.0
4 自由職業	354	10.4	59,518	13.1
5 家庭的及個人的職業	144	4.2	146,913	32 0
6 運輸及通信	23	.7	13,843	3.1
7 公共事業	9	.3	566	.1
8 農業	——	——	51	——
9 採鑛業	——	——	2	——

ついては次節で述べる。

合衆國に於けるユダヤ人の農業活動は五十數年の昔に始まるが、しかし組織的な活動は今世紀への變り目頃から行はれた。アメリカ・ユダヤ人の經濟生活に關する最初の團體は、ヒルシュ男爵基金（The Baron de Hirsch Fund）によつて組織されたユダヤ農會（Jewish Agricultural Society）である。それは創立以來三十六年の間に、ユダヤ農民援助のために約三、八〇〇、〇〇〇ドルを支出した。このユダヤ農會の見積りによれば、一九三六年アメリカ農地のうち約一、五〇〇、〇〇〇エーカーがユダヤ人の所有であり、多かれ少かれ農業に從事するユダヤ人家族は一六、〇〇〇戸であつた。ユダヤ人農民の最も多いところはニューヨーク州のサイヴァン郡である。上記農會の發表によれば、一九三八年同會の斡旋によつてアメリカで新たに農業に從事したユダヤ人は八十四家族約四百人であつた。しかしユダヤ人の大規模な農業經營は存在しない。

この他農業機關として一九二四年ニューヨークで設立せられパリー、モスクワに支部を持つアメリカ聯合農業協會（American Joint Agricultural Corporation）があるが、それは元

來ロシヤ系ユダヤ人をソ聯邦へ移住せしめる目的を以て組織されたものであつて、アメリカ農業には深い關係を持つてゐない。

第七節　自由職業及政界に於ける著名ユダヤ人

先づ醫學界で有名なユダヤ人は、ロックフェラー醫學研究所の實驗所長シモン・フレクスナー博士（Simon Flexner）、南部の疫病たるイタリー癩（pellagra）の病源菌と治療法の發見者ジョセフ・ゴールドバーガー博士（Joseph Goldberger）、牝蛙の人工受胎に成功したジャック・ローブ博士（Jacques Loeb）、ジフテリアに對するシック反應の發明者ベラ・シック（Bela Schick）、不妊に對するフューナー試驗を發展させたマックス・フューナー（Max Huehner）、黴毒に對するカーン試驗の創始者たるバクテリヤ學者リューベン・レオン・カーン（Reuben Leon Kahn）等、その他多數ある。胃病の專門家アインホーン（Max Einhorn）はアインホーン胃管を發明した。ペンシルヴェニア大學醫科の助敎授メイヤー・ソリスコーヘン（Meyer Soliscohen）もユダヤ人である。醫學雜誌で有名な『アメリカン・メディカ

ヘン（Meyer Soliscohen）もユダヤ人である。醫學雜誌で有名な『アメリカン・メディカル・ジャーナル』（American Medical Journal）の發行者モーリス・フィッシュバイン（Morris Fishbein）も亦然る。

その他の學界では哲學方面にモーリス・コーヘン（Morris R. Cohen）及びホレース・カルレン（Horace M. Kallen）があり、心理學ではフロイドの飜譯者でアメリカ學界の第一人者といはれるアブラハム・ブリル（Abraham A. Brill）がある。ジョセフ・ジャストロウ（Joseph Jastrow）及びボーリス・サイディス（Boris Sidis）はウィスコンシン大學の名譽教授である。

アメリカの人類學者の主なる人々の中にはユダヤ人が多い。コロンビア大學のフランツ・ボアーズ（Franz Boas）、ニューヨーク社會研究新學校（New School for Social Research in New York）のアレキサンダー・ゴールデンワイザー（Alexander Goldenweiser）、レオ・ジョアチーム・フラハテンバーグ（Leo Joachim Frachtenberg）等はその1部である。またアメリカ東洋學者の間には、モーリス・ブルームフィールド（Maurice Bloomfield）、リチ

ャード・ジェームス（Richard James）、ホレーティオ・ゴットハイル（Horatio Gottheil）及び前記のジョセフ・ジャストロウ等がある。

經濟學及び社會學では、コロンビア大學の社會倫理、政治倫理の教授で倫理教化運動の指導者であるフェリックス・アドラー（Felix Adler）、ジョーンズ・ホプキンス大學（Johns Hopkins University）の政治經濟學教授ジェーコブ・ホランダー（Jacob H. Hollander）、曾てコロンビア大學で經濟學を講じたエドウィン・セリグマン（Edwin R. A. Seligman）、ミシガン大學經濟學教授アイザイア・レオ・シャーフマン（Isaiah Leo Sharfman）、社會學の權威ジューリアス・ドラッチスラー（Julius Drachsler）等がある。なほE・タウシング教授（E. Taussing）も經濟學者として知られ、その他若手の學者にレオ・ウォルマン（Leo Wolman）やアイザーク・アウルウィッチ教授等々がある。

その他自然科學や發明方面でもユダヤ人には有名な人が多い。ドイツ生れのチャールズ・シュタインメッツ（Charles P. Steinmetz）は人工電氣を造り、電氣の魔法使と稱せられてゐる。同じ領域で同様に有名なのは、これもドイツ生れのアルバート・アブラハム・マイケ

ルソンでアメリカ最大の物理學者の一人である。彼は一九〇七年にノーベル賞を授與された。

ルソンでアメリカ最大の物理學者の一人である。彼は一九〇七年にノーベル賞を授與された。ジューリアス・シュタイグリッツ（Julius Steiglitz）はアメリカ最大の化學者の一人であり、モーゼス・ゴムバーグ教授も亦同樣で組織化學の大家である。エミール・ベルリナー（Emile Berliner）は電話の送話機の發明者であり、また無翼飛行機――helicopter type――の實用化を促進した。フリッツ・ローウェンシュタイン（Fritz Lowenstein）は無線スヰッチ電波を發明し、ルイス・コーヘン博士はラジオ受信器からスタティックを取除くことを助長した。またアーサー・コーン博士（Arthur Korn）は傳送寫眞の發明者である。化學技師として知られたヘンリー・アルンシュタインも亦ユダヤ人である。

　次に建築界で有名なものを擧げよう。トムプソン・スターレット會社（Thompson Starrett Company）の社長ルイス・ホロウィッツ（Louis Horowitz）はアメリカ建築業界で知らぬ者はないであらう。その他チェーニン・ブラザーズ（Chanin Brothers）、ベンジャミン・ウィンター（Benjamin Winter）、フレデリック・ブラウン（Frederick W. Brown）、A・レフコート（A. E. Lefcourt）等はすべて同業界で目立つた存在である。アルバート・カーンは

指導的な建築師の一人であり、ソヴェート聯邦政府の建築顧問である。レオン・モイゼッフ（Leon M. Moisseff）は合衆國最大の橋梁技師の一人で、マンハッタン・ブリッヂ及びフィラデルフィアとニュージャアシィのキャムデンとの間に架したインターステート・ブリッヂの設計者である。

ユダヤ人がアメリカの大都市建設に可なりの力を持つたことは否定出來ない。ニューヨークの摩天樓はユダヤ人の建築界に於ける力を表象してゐるかのやうである。彼等は特に不動産の取扱人として活躍し、アメリカに於ける住宅財産の大きな部分を所有してゐる。

圖書の出版者としてもユダヤ人は非常に成功してゐる。ここにはただ特に著名な人名を列擧するにとどめる。アルフレッド・クノップフ（Alfred A. Knopf）、アルバート・ボニ及びチャールズ・ボニ（Albert and Charles Boni）、ホレース・リヴライト（Horace Liveright）、ニコラス・ブラウン（Nicholas L. Brown）、トーマス・セルツァー（Thomas Seltzer）、ヘンリー・シュニットキンド（Henry Schnittkind）、ベンジャミン・ヒューブシュ（Benjamin Huebsch）、チャールズ・エドワード・ブロッホ（Charles Edward Bloch）、エマニュエル・ハルドマン（Emanuel Haldeman）、アーサー・ブレンターノ及びローウェル・ブレンター

ハルドマン（Emanuel Haldeman）、アーサー・ブレンターノ及びローウェル・ブレンターノ（Arthur and Lowell Brentano）等がそれである。

ユダヤ人辯護士の多いことは前に記した通りであるが、法律界に於けるユダヤ人の役割は實に重大なものがある。フェリックス・クランクフルター、マックス・シュトイアー（Max Steuer）、サミュエル・ウンターマイヤー（Samuel Untermyer）、モント・レーマン（Monte Lemann）、ジュリアン・マック判事、ベンジャミン・カルドーゾ（Benjamin N. Cardozo）及びブランデイス等はいづれも樞位について重要な役割を果した。ルイス・マーシャルも亦憲法の專門家として知られてゐる。彼は老シッフの役割を引繼いでユダヤ人のために盡瘁し、多年アメリカ・ユダヤ委員會の議長として、アメリカ・ユダヤ人代表として、アメリカ國內のみならずまた世界的に活躍した。彼はシオニストではないが、ユダヤ・エイジェンシーの創立にはチャイム・ワイツマンと共に協力した。彼はまたエマニュエル寺院（Temple Emanu-El）の院長であり、ユダヤ神學學校の學長であつた。一九二九年に沒した。

政界ではユダヤ人は比較的近年迄は公然とは大きな役割を演じなかつた。しかし彼等の隱

れた政治力が偉大であつたことは歴史が證明してゐる。極く最近まで上院には六人のユダヤ人が議席を持つてゐた。フロリダ州のデヴィッド・ユーリー（David Yulee）、ルイジアナ州のジュダ・ベンジャミン（Judah P. Benjamin）とベンジャミン・フランクリン・ジョナス（Benjamin Franklin Jonas）、オレゴン州のジョセフ・シモン（Joseph Simon）、メリーランド州のイサドール・レイナー（Isador Rayner）、コロラド州のシモン・ガッゲンハイム（Simon Guggenheim）がそれである。下院には少くとも五十人以上のユダヤ人がゐた。現在ではニューヨーク州のソル・ブルーム（Sol Bloom）、サミュエル・ディックシュタイン（Samuel Dickstein）、エマニュエル・セラー（Emanuel Celler）、イリノイ州のアドルフ・サバス（Adoldh I. Sabath）、ペンシルヴァニア州のレオン・サックス（Leon Sacks）、コネティカット州のヘルマン・コップルマン（Herman Kopplerman）等がある。（鹿島健氏著『米國に於けるユダヤ人問題』同文館發行參照）

現藏相の父ヘンリー・モーゲンソー（Henry Morgenthau）をはじめアブラーム・エルクス（Abram I. Elkus）、オスカー・ストラウス（Oscar Straus）、ソモロン・ヒルシュ（Sol-

omon Hirsch）等は悉く曾てトルコ駐在アメリカ大使として活躍した。明確な資料は存在しないが、歴代トルコ大使にユダヤ人が多いのは何か背後の理由がありさうに思はれる。私はただトルコ近隣のパレスタインの存在を讀者に想起して戴くに止める。以上の他、公使では、スウェーデン駐在公使アイラ・ネルソン・モーリス（Ira Nelson Morris）、駐ペルシヤ公使ジョセフ・コーンフェルド（Joseph Kornfeld）――彼はユダヤ法師である――、駐チェコ・スロヴァキア公使リュイス・アインスタイン（Lewis Einstein）、駐アルバニア公使ハーマン・ベルンスタイン（Herman Bernstein）等がある。

一九三八年には二人のユダヤ人が州知事に選ばれた。ニューメキシコ州のアーサー・セリグマン（Arthur Seligman）とオレゴン州のジューリアス・メイヤー（Julius L. Meier）の兩人である。モーゼス・アレキサンダー（Moses Alexander）は一九一五年から一九年までアイダホ州知事であつた。シモン・バムバーガー（Simon Bamberger）は、モルモン教の繁榮してゐるユタ州を所管した唯一の非モルモン教徒知事である。ハーバート・レーマン（Herbert Lehman）は一九二九年にニューヨーク州副知事に選擧された。彼は一九三二年以

來ニューヨーク州知事となり現在に及んでゐる。なほ現イリノイ州知事ヘンリー・ホーナー（Henry Horner）及びカンサス州知事ペイン・ラトナー（Payne Ratner）も亦ユダヤ人である。オッティンガー（Ottinger）は、かつてニューヨーク州知事の選擧に共和黨立候補者として出馬して敗れたが、當選者との獲得投票數の差は比較的小さかつた。現在のニューヨーク市長ラ・ガーディア（F. H. La Guardia）もユダヤ人である。曾てデトロイト市の市長候補者となつたデヴィッド・ブラウン（David A. Brown）は、表面的にはアメリカ政界の要位についてはゐないが、アメリカ最大のユダヤ・オルガナイザーの一人で、その政治的勢力は無視することが出來ない。

以上で大體アメリカに於けるユダヤ人の狀勢を各部門にわたつて概觀したわけであるが、私はそこで非常に多くのことを割愛しなければならなかつたことを告白しなければならない。今日、われわれはユダヤ人なきアメリカを考へることが出來ない。否、ユダヤ人の特殊な意義を知ることなしにはアメリカを理解することは出來ない。『ユダヤ人アメリカに來る』のユ

ダヤ人兩著者は强い確信を以て、反セム主義はアメリカに於ては西歐のいかなる國よりも發展し得ない、「その理由は、(アメリカで) ユダヤ人憎惡がより少いからではなくて、ユダヤ人の物質的勢力が餘りにも强く成長してゐるからである」と斷定してゐるのである。ユダヤ人は人數から云へば全アメリカ人口の三十分の一に過ぎないが、産業、ビジネス、自由職業等の各分野に於ける指導的人物のうち、實に五人に一人はユダヤ人であると云はれてゐるのである。

第七章　第二次世界戰爭とアメリカ・ユダヤ人

第一節　ルーズヴェルト政權の成立とユダヤ人

第一次世界大戰後の世界恐慌の嵐の中に、ただ獨り「永久的繁榮」を誇つたアメリカ經濟も、一九二九年秋以來突風の如きパニックに捲き込まれた。それは數年來のフーヴァー景氣によつて投機熱の頂點に達してゐたニューヨーク株式取引所の破綻によつて口火をつけられ、全產業部門に飛火したのである。そのため、一九三三年二月デトロイトの銀行が破產し、それについで三月迄の間に、ニューヨーク、シカゴ、ボストン、フィラデルフィアをはじめ全アメリカにわたつて二萬以上の銀行が休業するの止むなきに至つた。深刻なる不況、嵐に勢を增す失業者の浪――年々七八百萬と稱せられる――、不氣味な社會不安等々の前に、ハーディング、クーリッヂ、フーヴァーと打續いて自黨から大統領を出して全盛を誇つた共和黨も遂に策の施しやうもなく民衆の不評を買ひ、一九三三年の大統領選擧には久しぶりで民主黨

が勢力を盛り返し、遂にフランクリン・ルーズヴェルト（Franklin D. Roosevelt）の當選を見るに至つた。

ルーズヴェルトはこの恐慌の嵐の中にあつて、アメリカ資本主義經濟の崩壞を防ぐために、國民の輿望を擔つてそのいはゆるニュー・ディール（New Deal）政策を敢行した。それは産業復興法（Nira or N. I. R. A.＝National Industrial Recovery Act）及び農業調整法（A. A. A.＝Agricultural Adjustment Act）を中心とする一連の諸政策である。この兩法は二ケ年ならずして合衆國大審院によつて無效の判決を受けて廢止されたが、しかし、これは一九三五年の勞働關係法卽ちいはゆるワグナー法（National Labor Relation Act）及び一九三八年の適正勞働標準法（Fair Labor Standards Act）となつて復活された。

共和黨政府の時代に於て、アメリカ經濟は重工業並にこれが資金供給者として密接な關係ある金融資本が支配してゐた。銀行はフーヴァー大統領の施政を通じて積極的な不況對策といふものを考慮しなかつた。不況の兆が深刻化するにも拘らず、彼等はそれを却つて自己の産業支配にとつて有利だとさへ考へた。苦境に陷つた輕工業及び商業經營は益々銀行の支配

下に屈從し、金融資本の經濟獨占を强化するに至るからである。デフレーションによる產業支配――それが重工業と金融資本の採つた方策であつた。それは大衆の購買力を抑制し、從つて輕工業及び商業にとつては大きな苦痛であるのみか、その產業上の獨立を失ふ怖れがあつた。そこで、フーヴァー景氣の破綻につれて共和黨政治の不評が昂まるや、これら輕工業者並に商業經營者等は民主黨の諸政策を支持し、遂にニューディールを採用せしめるに至つた。ニュー・ディールは大衆購買力によつて生存する小賣市場を支配する大資本家たる百貨店經營者、加工業者、配給業者、煙草製造業者、獨立產業資本家等の輕工業資本家、及び不動產賣買業者等によつて熱心に支持された。これらの產業を復興させるためには、同じく不況に喘いでゐた勞働者、農民層を救濟して大衆的購買力を增大しなければならない。ニュー・ディールに於ける大公共事業、大土木事業の計畫は、失業救濟と相俟つて尨大なる下層階級の經濟生活に光を與へ、一應その所期の目的を達したので勞働階級層も亦これを支持するに至つた。

ニュー・ディールの經濟改革は大銀行と重工業者の犧牲に於て行はれた。課稅の重點もそ

こに置かれた。輕工業者並に商業經營者と一般勤勞大衆との利害は一致してゐた。そのために前者はジョーン・ルイスとC・I・Oの勞働組合政策にも援助を與へた。C・I・Oは主として鐵鋼、石油化學、石炭、自動車等にその政策を集中してゐる。

ニュー・ディールについて少くとも以上の點を理解しなければ、ルーズヴェルト政權とアメリカ・ユダヤ人との關係を充分に理解することは出來ないであらう。アメリカの會社、商店等がユダヤ人を雇傭することを拒んでゐることは前に述べたが、フーヴァー景氣の崩壞による未曾有の不況は、爾來數ケ年にわたつて一般ユダヤ人の經濟的活動の機會を著しく制限するに至つた。事務所に於けるユダヤ人速記者、タイピスト、簿記係及び僧侶の仕事等はそれを獲得することが困難となつた。恐ろしい恐慌のために、ユダヤ人商館ですらユダヤ人勤勞者の採用を拒むといふやうなことさへ生じた。ユダヤ人に對するアメリカ人の經濟的拒否——或はユダヤ人とアメリカ人の間に於ける經濟鬪爭——は、第一次世界大戰前から存在してはゐたが、全體經濟が不況に陷ればこの資本主義的對立が激化するのは當然である。そして云ふまでもなくその結果は力の弱い點に重壓が加はるのは必然である。ユダヤ人の大多數

は勤勞者である。またユダヤ人資本家の大部分は輕工業並に商業に投資してゐる。その外ユダヤ人の文化的領域に於ける狀態も想起されなければならない。音樂家、俳優、畫家、文學者、監督等々は富豪達の援助を受け、新聞はこれらのパトロンを藝術の擁護者として讃美してゐたが、一九二九年の恐慌以來彼等の資金援助は絕え、尨大な文化勤勞者の生活にも大きな危機が襲來した。ルーズヴェルト政府の事業促進局はこれを救助するために文化計畫の一部を設けて可なりの成果を收めた。

これらの點を上述のニュー・ディールの特質と併せ考へるとき、全體的に見ていかにユダヤ人がルーズヴェルトの政策を支持したかは容易に推知されるであらう。勿論ユダヤ人の中にも金融並に重工業大財閥がある。彼等はニュー・ディールに對してどういふ態度を採つたか。アメリカ經濟の獨占支配を目指すこれらの大財閥が、非ユダヤ人金融資本並に重工業資本との鬪爭のためにこれを利用するといふことは論爭の餘地を持たぬところである。この制覇戰のためにユダヤ財閥がユダヤ人勞働者特にその指導者を利用して、非ユダヤ人資本家に對するストライキ、サボタージュ等を遂行せしめるといふ策謀を指摘してゐる人もある。こ

れは非ユダヤ人財閥の側から云つても同樣である。否、自由競爭の下に於ける資本家が、自己の優位を獲得するために他の工場、會社の爭議を煽動することはよく知られてゐることである。ガッゲンハイムの一族がデュ・ポン、ハークネス、ヴァンダービルト、フライシマン等等の財閥と共に一九三二年の大統領選擧に當つて、民主黨及び共和黨の双方に莫大な選擧資金を提供してゐるのも、彼等の究極の目的が奈邊にあるかを物語つてゐる。しかし金融並に重工業方面に於けるユダヤ大財閥がニュー・ディールによつて或る種の不安を持つたことは否定出來ない。フェリックス・ウォーバーグ、ジョーン・シッフ（John Schiff）、ダニエル・ガッゲンハイム夫人（Mrs. Daniel Guggenheim）、マリー・ガッゲンハイム（Mary Guggenheim）、S・R・ガッゲンハイム、シモン・ガッゲンハイム（Simon Guggenheim）等が、同年の選擧で共和黨に資金を寄贈して兩道をかけてゐるのはそれにも關係があるであらう。ウォール街の諸銀行も大體に於て共和黨の支持者である。

民族的見地或は國民感情の點から云へば、共和黨は概してアングロ・サクソン系並に北歐系の支持者が多い。國粹主義者やク・クックス・クランも、共和黨を目してその反對黨より

もより國粹的であると考へてゐる。共和黨のプロテスタント的性格や反世界主義的傾向はリンカーン以來傳統的なものである。ユダヤ人の民主黨支持にさうしたことがらが關係してゐないと云ふことは出來ない。しかしそれにも拘らずアメリカに於けるユダヤ人の立場は、究極に於てはアンドレー・シーグフリード（André Siegfried）が云つたやうに「彼等は定まつて勝ちさうな側の黨に傾く」といふことが出來るであらう。極言すれば、ユダヤ人にはユダヤの理想があつてアメリカの理想はないのである。

一九三二年の大統領選擧に當つてルーズヴェルトに選擧資金を寄附した富豪の筆頭第一は、四五、〇〇〇ドル提供のバーナード・バルーチである。彼は一九二八年に、ルーズヴェルトがニューヨーク州知事に當選するについても、ガッゲンハイムと共に多大の援助をなした。大統領選擧には、バルーチの他にエドワード・ガッゲンハイム（Edward A. Guggenheim）が一七、五〇〇ドル、ハリー・ワーナー（Harry Warner――映畫業）が五、〇〇〇ドル、ボストンの百貨店王エドワード・フィレーン（Edward A. Filene）が一、〇〇〇ドルを寄附してゐる。

一九三六年の大統領選擧に於て、ルーズヴェルトは再び當選の榮を得た。その資金提供者や支持者には個々的には多少變動があつたが、全體として見れば第一次當選のときの傾向と同樣、輕工業、商業及び勤勞階級を中心とするものであつた。ユダヤ人資金提供者の中には、ヘンリー・モーゲンソー（Henry E. Morgenthau）及びモーゲンソー夫人の名前が見え、共に五千ドル宛寄贈してゐる。各種勞働團體も資金を送つたが、そのうち特にユダヤ人に關係の深いものは、國際婦人服勞働組合（International Ladies Garment Workers Union）が五千ドル、合同衣服勞働組合聯合會（Amalgamated Clothing Workers Union）が同じく五千ドル、劇場及び映畫從業員國際同盟（International Alliance of Theatrical Stage Employees and Moving Pictural Operators）が一萬ドルである。（以上資金關係については木村禧八郎氏著『米國戰爭經濟の解剖』の附錄二を參照）

アメリカに於ける勞働運動はヨーロッパ先進諸國に比して著しく後れて發達し、第一次大戰前後に至つて漸く勢力を增大したが、その政治的進出はなほ著しく後れてゐた。アメリカの自然的資源の豐饒と植民地的成功の可能及び世界に對する孤立狀態或は超越狀態とは、勞資の對立を或る程度まで緩和する作用を持つたのである。しかし、一九二九年の恐慌は勞働

資の對立を或る程度まで緩和する作用を持つたのである。しかし、一九二九年の恐慌は勞働運動にも新しい發展の時期を劃した。ニューディールに於て極めて重要な社會立法や勞働法規が制定され、勤勞大衆の生活に深い影響を與へたのを見ては、從來政治的關心乏しく政黨との聯繫を拒んでゐたアメリカ勞働總同盟ですら、組合運動の發展の觀點から政治行動について新方針を採用し、ニューディール支持のために民主黨を援助する傾向を生じた。一九四〇年秋の大統領選擧前までの全國的選擧戰に於て、勞働組合側は中立勞働聯盟（Labor's Non-Partisan League）を結成してニューディール派候補者の援助に積極的な活動を行つた。ルーズヴェルトの三選も勞働者大衆の投票に負ふ所多大であつた。

ルーズヴェルトは、ジュウヨーク州（Jew York State）ともいはれるニューヨーク州の知事としてアメリカに於けるユダヤ人勢力の恐るべきことを身を以て知つたであらう。彼はユダヤ人の力に近づくことによつて自己の政治力を强化しようとしたのである。彼が特に自己の家系をユダヤ人から出てゐると述べたといふのもさうした意圖の現はれと見ることが出來よう（New York Times, March, 14 th, 1935.）。彼の祖先は一六四九年にオランダからニュー・ア

ムステルダムに渡來したクレース・マルテンスザン・ヴァン・ローゼンヴェルト（Claes Martenszan Van Rosenvelt）といふユダヤ人である。彼は渡米後ユダヤ婦人を娶り衣服商を營んだが、後に改名してニコラス・ローゼンヴェルト（Nicholas Rosenvelt）と稱した。彼の子孫はクンスト（Kunst）、ジェコブス（Jacobus）、ホフマン（Hoffman）、ハーデンバーグ（Hardenburg）、アイザーク（Isaac）及びジェームス（James）の諸家に分れた。現大統領フランクリン・ルーズヴェルトはこの最後のローゼンヴェルト家の後裔であつて、父はジェームス・ルーズヴェルトである。

ルーズヴェルト大統領は現在ニューヨークの第八和蘭ロッヂ（The Eighth Holland Lodge）の高級フリー・メーソンで「シュライニヤー」（Shrinyer）の稱號を授けられてゐる。彼の三人の息子も亦フリー・メーソンである。ルーズヴェルトが毎年ユダヤの新年祭とプーリム祭に際して、ユダヤ人達に祝辭を贈ることも周知のことである。一九三五年に全アメリカ・ユダヤ團體はルーズヴェルトに對して、「ユダヤ人のために盡すところ多大」であるとの理由でアメリカ・ヘブライ褒章を贈り、また三七年五月十七日にも同様の理由でゴットハ

イル・メダル（Gottheil Medal）第十回受領者となつた。更に一九三九年一月にもイスラエル全國評議會からメダルを贈呈してゐる。

一九三二年、ルーズヴェルトが大統領に就任すると間もなく、アメリカに於ける最大のユダヤ人指導者たるフェリックス・フランクフルター、バーナード・バルーチ、ヘンリー・モーゲンソー、ルイス・ブランデイス等が大統領の「ブレイン・トラスト」に任命された。この他デヴィッド・セバスチアン（David Sebastian）、ウィリアム・アレキサンダー・ジュリアン（William Alexander Julian）、シドニー・ヒルマン、フランセス・パーキンス女史（Mrs. Frances Ferkins）、ドナルド・リッチバーグ（Donald Richberg）等も亦同様にブレイン・トラストの構成員に含まれてゐる。

ヘンリー・モーゲンソーは、ドイツのマンハイム生れのヘンリー・モーゲンソーの息子である。父モーゲンソーは一八六五年に合衆國へ移住し、幾多大會社の社長又は重役となつて經濟界に要位を占め、また一九一三年から一六年までトルコ駐劄アメリカ大使となつた。息子のモーゲンソーも父の跡を繼いでアメリカ財界の重鎭となり、またルーズヴェルトとは早

くよりの親友で、ルーズヴェルトが大統領に就任すると間もなく一九三四年合衆國財務長官に任命された。彼はニュー・ディール藏相としてアメリカのユダヤ人に多大の利益を齎し、ユダヤ金權の確立に寄與するところ極めて大であつた。モーゲンソーがアメリカに於けるユダヤ金權支配を意識的に企圖したことは、一九三五年に彼が發行した一ドル紙幣の裏にフリー・メーソンの表象たるダヴィデの楯（✡）とエホバの符號（θ）とが印刷されてあるのを見ても推知することが出來よう。またニュー・ディール政策の下に發行された紙幣の國璽の中にも上部未完のピラミッドの上方に光を放つ三角形の中にエホバの眼が記されてある。

　モーゲンソーの輔佐役にはオーストリー系のユダヤ婦人ヘンリエッテ・クロッツ（Henriette Klotz）があり、また彼の支配下にある大藏省にも農事金融局長ローランス・ハワード審議部長バーナード・バーンスタイン（Bernard Bernstein）その他の有力ユダヤ人が居る。

　ウィリアム・アレキサンダー・ジュリアンは合衆國會計官で、モーゲンソーと共にアメリカ財政、金融界に於て重要な役割を演じてゐる。デヴィッド・セベスチアンはニューヨーク生れのユダヤ人で、全アメリカの證券取引を支配する證券爲替委員會の貿易並爲替分科會の

主任である。また總稅務局長の席にはフレッド・カーナハン（Fred Carnahan）が在るが、これらの點を併せ考へると、金融資本と重工業資本の犧牲を要求したニュー・ディールの租稅政策と云ひ、更にルーズヴェルト政府が大規模な稅制改革と共に嚴重な脫稅者告發を行つたにも拘らず大きな被告發者の中には全くユダヤ人が居ないことと云ひ、アメリカ政治經濟に於けるユダヤ人の統制ある活動の存在に大きな暗示を與へてゐるものだと主張することは强ち牽强附會ではあるまい。

現アメリカ勞働省長官はボストン生れのユダヤ婦人フランセス・パーキンスである。彼女の輔佐役としてユダヤ人エドワード・ワイザンスキー（Charles Edward Wyzanski jr.）が居るが、彼はまた司法省に於て檢事總長輔佐をやつてゐる。この他勞働省の要位にはイサドール・スプリング（Isador Spring）、ジェーコブ・パーマン（Jacob Perman）、ボーリス・スターン（Borris Stern）、ウィリアム・モーリス・レイザーソン（William Morris Leiserson）、ベネディクト・ウォルフ（Benedict Wolf）等が居る。

ドナルド・リッチバーグは著名な法律家で幾多の著作がある。彼はルーズヴェルトの忠告

者として知られてゐる。勞働運動の指導者シドニー・ヒルマンその他については既に記した通りである。

以上の大統領ブレイン・トラストを構成するユダヤ人指導者は、ニュー・ディール政策は勿論、アメリカの內治、外交上の諸政策全般にわたつて重大なる役割を演じたのである。ニュー・ディールはアメリカ大審院のブランデイスの發案になるものだとも云はれてゐる。合衆國大審院がニュー・ディールの產業復興法及び農業調整法に對して憲法上の見地から無効判決を行つたことは前に記したが、ウイルソン大統領の推薦で一九一六年に大審院判事となつて以來引き續き一九三九年二月まで該職に在つたルイス・ブランデイスは、これも亦憲法論の立場から旺んにニュー・ディールを合理化、辯護し、そのために大審院內の保守派たるマック・レーノルヅ判事と銳く對立してゐた。

（註）本稿執筆中ワシントン特電は、十月五日（一九四一年）ブランデイス（八十四歲）が死去したことを報じた。

ルーズヴェルトはそのはじめて大統領に就任すると間もなく、アメリカの經濟的危機の深

刻なることを理由として、大統領の權限擴張について上下兩院から白紙委任狀に等しい承認を受け、行政と立法との支配權を掌握するに成功した。元來アメリカ合衆國の憲法は三權分立の建前から、立法府としての上下兩院、立法府によつて決議された法律の實施並に行政を掌る大統領、及び右の兩者を監督する大審院の三者を設けたのである。然るにルーズヴェルトは先づ國會を牛耳り、然る後大審院の改革に手を着けて大統領の獨裁化を企圖した。彼の大審院改革案の骨子は、大審院の判事を增員し、これによつて大審院規約を變更することなくしてこれをニュー・ディール支持に導き、結局大審院を大統領の政治的支配下に置くにある。大審院は從來九名の判事から成り、憲法その他の法律問題に對する合衆國最高裁判所で、多數決主義によるその裁決は最後的、絕對的なものである。

ルーズヴェルトと實力あるユダヤ人との上述の如き緊密なる關係を考へるとき、われわれは大統領の獨裁化とその背後のアメリカ・ユダヤ權力の獨裁化とを切り離して考へることは困難である。ルーズヴェルト政府の下に於ける各省の中には、上記以外になほ多數のユダヤ人が實際的活動の要位を占めてゐる。

第二節　ナチス・ドイツの排ユダヤ運動

ナチス・ドイツのユダヤ人排斥運動は、眞の意味に於ける世界史的事件である。第一次世界戰爭後、ヨーロッパの最大資本主義國家の一つたる地位から一朝にして弱小被壓迫國家たるの地位に激墜せしめられたドイツが、ナチスの興起によつて再生し、英佛を中心とする世界資本主義、自由主義、民主主義體制、特にそのヨーロッパ支配の秩序たるヴェルサイユ體制に對して革命的抗爭を展開するに至つた。それはまた、世界資本主義の內在的矛盾の表現たる共產主義の本據ソヴェート・ロシヤ打倒の運動として獨ソ戰爭を導き出すと共に、さらに世界資本主義の最後の牙城たるアメリカとの戰爭をも不可避的たらしめた。

ナチスの運動はドイツ國內に於ける異分子――ユダヤ人――を追放してドイツ民族の純粹なる血の協同體を建設し、同時に英、佛、米、ソ聯邦その他の自由主義　民主主義諸國の背後にあつてユダヤ金融資本の世界制覇を計畫しつつある國際秘密力に對する鬪爭を遂行し、

以てナチス・ドイツを指導者とするヨーロッパの新秩序を建設せんとするものである。

ドイツに於けるユダヤ人の歴史は遠く第一回十字軍以前に始まり、その後幾回となくユダヤ人排斥運動が行はれたが、ナチスの排ユダヤ運動は在來の世界の自由主義、民主主義、資本主義的社會意識並に社會組織の變革に結びついてゐる點に於て、全く新しい世界史的意義を持つてゐるのである。

第一次世界戰爭を遂行した軍國主義ドイツの資本主義は戰後極度の革命的狀態に陷り、ドイツ及びハンガリーには僅か數日間だけではあつたがソヴェートが成立した。この獨、墺ソヴェート政權及びその前後の共產主義運動の中にユダヤ人が極めて重要な役割を占めてゐたことは事實であり、又ドイツを屈服せしめた聯合軍諸國に於てもユダヤ人が活躍し、國際聯盟がその樞要な地位を各國籍のユダヤ人によつて占められてゐたことも既述の通りである。

共產主義革命の失敗後、ドイツに出來上つたものは、戰爭の打擊によつて氣力を失つた資本主義と、共產主義から移行した社會主義との協合した弱體共和政府であつて、戰勝國たる聯合國側のためにヴェルサイユ條約によつて完全に屈服せしめられたものであつた。その後

ドイツは種々の、本質的には同樣の政府の下に戰後の極端な經濟荒廢から徐々に恢復したが、ヴェルサイユ條約による重壓は殆ど絕望的にドイツの經濟、政治、軍備を窒息せしめ、加ふるに階級鬪爭による國內の不安動搖は絕えなかつた。のみならず、世界經濟が漸く戰後の恢復期に入るや、資本主義諸國家の發展の不均衡、資本主義諸國とロシヤ社會主義國家との對立等により早くも第二の世界戰爭の脅威が迫り、ドイツとしてもこの新しき國際情勢に應じて國內の矛盾を統一すべき必要に迫られたが、在來の自由主義的共和政權は、この要求を充たすには餘りに日和見的、敗北的であつた。かかる一般的情勢に沿うて、特に次の條件の完備によつてヒットラーを先頭とするナチス黨が急速に進出し、遂に一九三三年の政權獲得となつたのである。

先づ、これは多少間接的であるが、「資本主義の永久的繁榮」を謳はれてゐたアメリカの經濟的破綻（一九二九年十月のニューヨーク株式市場の破綻）による恐慌の嵐が全世界特にヨーロッパに及ぼした新しい經濟恐慌はドイツの矛盾を一層增大せしめ、これに伴ふ國際對立の尖銳化はドイツのファッショ化に拍車をかけ、一九三〇年にはナチス議員は前年の十二名

から一躍一〇七名に增加した。世界經濟の波浪がドイツに於て最も敏感であつたことは注目すべき點であつて、アメリカ恐慌の影響を防止し惡性インフレーシヨンを阻止せんとするブリューニング政府の努力にも拘らず、一九三一年にはドイツの著名銀行ダーナート・バンクは破產し、金融恐慌のために國內產業は萎微荒廢し、失業者群は著しく增大した。

この恐慌の打擊は上述の如きドイツ自體の先行條件によつて特に甚大であつたのであつて、我々はこれを一九二三年にはじまる大惡性インフレーシヨンの中にも見出すことが出來る。卽ち同年一月、フランスのポアンカレー政府は、ドイツはヴェルサイユ條約に規定された賠償金を支拂ふ能力なしと稱してゐるが實際は能力がないのでなくてその意志がないのだと宣告して、遂に佛白聯合軍によつてルール地方を保證占領するに至つた。これに對してドイツ經濟共和政府が消極的手段をとつたために未曾有の惡性インフレーシヨンを惹起し、ドイツ經濟界は極度の混亂に陷つた。この餘燼が未だ消えない所へ、一九二九年の經濟恐慌が開始されたのであるからその困難は想像に絕するものがある。就中、中小商工業者、インテリゲンツィア等、中產階級の失業と就職難、生活難は深刻にその理想主義的意識を刺戟して、資本主

義不可、共產主義不可、この兩者協合の自由主義不可として新しい民族協同體の理想を謳歌せしめるに至つた。一面に於て共和政府の弱腰に慊らざる官吏、軍人等がサボタージュを行ひ、又將校の背後にある大地主、及び民族主義の必要とこれによるドイツ經濟の再建の必要とを痛感するに至つた大實業家等もヒットラーを先導とするナチス黨を支持するに至つた。

ナチスの政策がその民族主義に於て當初異民族を包容し得ずして徹底的にドイツ的であり、純粹なるゲルマンの血を問題としたことは、ドイツが敗戰によつてその下に統一すべき植民地異民族を完全に失つてゐたといふことによつて政治的にも極めて容易にされたのであるが、これが更に自國內に於けるユダヤ人、特にドイツ國籍を獲得しドイツ語を話し、その血族、文化關係に於てドイツ化してゐたユダヤ人に對してさへ排斥運動に出でざるを得ないほどドイツはその經濟に於て窮迫し、その秩序に於て混亂してゐたのである。

ナチスが特にユダヤ人に對して全面的排擊の「理論」――少くとも原理的には全面的排擊である――に基いて峻烈なる實際運動に出るに至つたのは、ドイツ國內に於けるユダヤ人の情勢及びドイツを奴隷化した四圍の諸國に於けるユダヤ人の活動が直接の原因をなしてゐる。

共産主義者や自由主義的な評論家等は往々この點を無視又は過少評價して、ナチスの排ユダヤ政策は一から十までナンセンスであり荒唐無稽であると考へるのであるが、それは全く一面的な見解である。

第一次世界大戰後の革命運動及び社會民主主義政府に於て、多數のユダヤ人が重要な役割を演じた。この政權の下にドイツへ入り來つたユダヤ人の數は夥しいものであつて、ナチス政權出現の直前には在獨ユダヤ人口約五十一萬となり、その後排ユダヤ運動によつて約十五萬を減じ獨墺合併(アンシユルス)前には約三十六萬乃至四十萬となつたといふ("Nineteenth Century and After" March, 1938.)。これはユダヤ人自身の計算であつて、ユダヤ教から他教(主としてキリスト教)へ改宗したユダヤ人口を含んでゐないのであつて、若し宗教を問題としないならば、混血兒等を合してナチス政權成立直前には實に百七十四萬で、獨墺合併前には百二十萬前後のユダヤ人が存在してゐたと稱せられてゐる。

ドイツ共産黨には著名なユダヤ人が樞位を占めてゐたことは周知のことであるが、一九一九年の革命政府にはヒルファーディング、ハーゼ、コーン、ヘルツェ、フェルド、シッフェ

ル、ベルンシュタイン、プロイス、コーエン等が居た。全ドイツ・ユダヤ人のうち、共産主義に同情を寄せたものは二乃至三パーセントだと見る人もある（"The Jew To-day" Sidney Dark, 1934.)。社會民主黨員としてのユダヤ人は遙かに多い。一九二八年の國會に於て、社會民主黨議員三十九名中實に三十八名までがユダヤ人であつたと云はれてゐる。大戰前からドイツにゐたユダヤ人のうち、スペインからアムステルダムに逃れ、更にハンブルグ、ウィーン等に這入つたものの多くは金融業を營んでゐたもので、この系統のものは現代ドイツの上層ユダヤ人を構成してゐた。元來ドイツには英、米、佛等に於けるやうなずば拔けて巨大なユダヤ財閥といふものは存在しないが、金融界には廣く根を張つてゐた。工業方面にも概して特別目立つた大勢力といふ程のものは有してゐない。しかし世界のあらゆる國の統計が示すやうに、ユダヤ人の都市集中生活の結果、ユダヤ人と各民族との對立は何時でも重要な問題となつてゐるのである。ドイツの主要都市に於ける經濟、學界、醫界、法律、文學界、キネマ界等々に於けるユダヤ人の勢力は極めて顯著であつた。それはソヴェート・ロシヤを除けば、諸種の事情との相對的關係に於ては、ドイツに於て最も著しいものがあつたとも云

へるのである。

一九三三年七月十日の『デーリー・メール』紙は「ヒットラー政權直前の頃には、戰前狀態に對する二十倍のユダヤ系官吏がゐた。國際ユダヤ人はドイツ統制機關の要所に巧みに入り込みつつあつた」と報じたが、ドイツ國に於けるユダヤ人勢力の增大とドイツを屈服せしめた歐米諸國の政策との間に重大なる關聯を見出すのは、決してドイツ的主觀にすぎないと稱することは出來ぬ。要するにナチス政權成立前のドイツは、政治、經濟、思想等の方面に於て混亂せる階級鬪爭の影響を受けたが、これらの諸對立の中に更に民族的對立が深刻に織込まれ、戰後の極度の經濟的窮迫がその對立を最も尖銳極端に顯現せしめたのである。

ナチスによつて放逐せられた數十萬のユダヤ人は、主として智識階級、中產階級及び勞働者で、これが排除はドイツの人口緩和、失業減少に相當の役割を演じたと思はれる。これによつてドイツ國内のユダヤ人中產者及び勞働者の窮乏による赤化混亂等の國内不安を除去し、ドイツの民族的統一の强化に役立つたことは明かである。これは、殆ど絕望的でさへあつた危機を切り拔けて、後日の雄飛をなすためにナチス・ドイツにとつては絕對的に必要である

とされたものである。次にユダヤ人排斥は資本主義並に共産主義を、共にユダヤ的なものとして排撃すべしといふことによつて、間接にドイツ人資本家及びドイツ人共産主義者、特に社會主義者及び自由主義者を制禦又は彈壓するところに特殊な政策的意義があるやうに思はれる。ユダヤ人に當てはめてドイツ民族資本家や社會主義、自由主義者を自戒せしめることは、その徹底せる民族主義を貫く上に效果的であつたことも否定出來ない。ここにまたナチズムの非合理性或は民族的エゴイズムといふものが見られるのであるが、これは云ふまでもなく歷史の發展によつて揚棄されざるを得ないところである。

ナチスの對外政策にも、ユダヤ人排擊は飽くまで現實的に利用されてゐる。對ソ政策にユダヤ・ボルシェヴィズムの極印が打ちつけられ、獨墺合併にもその特有の民族理論が利用され、オーストリー內部からもこれに呼應して猛烈な排ユダヤ運動が行はれた。チェコ問題、スペイン革命の場合も同樣であり、その他英、米、佛等との間の外交問題についても、つねに「ユダヤ的」なる極印が用意されてゐる。玆にも巧妙な政策的意義が存在するのであつて、例へばイギリスを攻擊する場合に、これを「ユダヤ的イギリス」と銘打つ反面に於て、巧みに

イギリス國内に於ける親獨分子と握手する餘地を殘さんとするものであるが、これも亦甚だ効果的である。

以上はナチスのユダヤ人排斥の現實的根據について検討したものであるが、これに關聯する現代ユダヤ人問題の世界史的意義、ナチス・ユダヤ人觀の批判等については、拙著『協同史觀への志向』に於て詳述したから參照を乞ふ。

次にナチスのユダヤ人排撃運動の發展を簡單にクロニック風に記述して見よう。

ヒットラーの『マイン・カムプフ』に示されたユダヤ人排斥の原則は餘りに有名であるから茲には述べない。一九二〇年二月二十四日、ナチス黨の結成と同時に掲げられた黨綱領は、ドイツ民族の統一とヴェルサイユ、サンゼルマン兩條約の廢棄を宣言し、新植民地の獲得を要求した。それはまたユダヤ人のドイツ國民たる資格を否定し、外國人のドイツ移住を禁止し、一九一四年八月二日以後に入國した非ドイツ人の國外退去を要求してゐる。その他新聞發行についても、ドイツ人以外のものはドイツ字を使用することを禁じ且つ許可制をとることを主張してゐる。しかし一九三三年二月頃までは實際上のユダヤ人排斥はそれほど顯著で

はなかつたのであるが、ナチス政權の成立と同時に右の綱領は直ちに實行にとりかかられ、ここに世界史上未曾有のユダヤ人排擊が遂行されるに至つた。

先づ一九三三年四月七日の「官吏身分保證復活に關する法律」によつてユダヤ人の官公職を剝奪し、總ての大學その他ドイツ國民全體の利益を目的とする自由職業にユダヤ人を入れることを拒絕した。のみならず、ユダヤ婦人を妻に持つキリスト敎徒の敎師、敎授、新聞雜誌記者等はその妻を離婚しなければその職を免ぜられることになつた。これによつて幾多の著名なユダヤ人學者、文學家、美術家、音樂家等がその地位を失つた。

同年五月十日、ベルリン國立オペラ劇場廣場に於て多數の一般ユダヤ書籍が焚かれた。

一九三五年九月十五日、ニューールンベルグ法の制定は、——ドイツ民族の血の純潔を保持し、ユダヤ人に對し極端なる生活上の制限を加へ、これを國外へ追放するのに拍車をかけた。

一九三六年七月九日、大藏省は、新婚者が國家から借用した結婚資金はドイツ市民商店からの家具購入のために使用すべきことを命じた。これはユダヤ商品のボイコットを意味する。

同日、ユダヤ人文化委員ハンス・ハンケル（Hans Hankel）は、ドイツに於ける映畫劇場の

所有者には、もはやユダヤ人は存在しなくなつたと聲明してゐる。七月十三日、ドイツ當局はユダヤ人の襤褸商人に對する免許狀の再交附を拒否した。九月二十四日、ユダヤ人及びカトリック敎徒の職業紹介所は十二月三十一日以後その活動を停止すべく命ぜられた。これは期日の到來と共に實行された。十月初旬、北方ドイツのポラメニア當局は、ドイツ人がユダヤ人に食物を賣ることを禁止した。同じく北方のグロヴィッツのナチス指導者も亦ユダヤ人に食物を與へてはならぬとの警告を發し、特に農民は彼等がユダヤ人と取引してゐることを發見された場合には、その地を追放されるか又は重い罰金に處せられることを言ひ渡した。十月四日、帝國文化省はベルリンのユダヤ美術商に對し、一九三六年中にその所有商品を全部賣却してその商賣を解消すべきことを命じた。同十八日『アングリッフ』紙（Der Angriff）は、ユダヤ人所有のデパートメント・ストアを黨の統制のために驅逐せよと主張したが、これは着々實行に移された。十一月には、ワイマールに於て國家會計官會議が開催され、ユダヤ人商會の「經濟検査」を行ふことによつて現存法規内でユダヤ人企業を排除する計畫を立てた。これはヒットラーのドイツ自給自足經濟四ケ年計畫の線に沿つて遂行されたもの

である。十二月には、ナチス當局指導の下に、前クリスマス・反セム主義ボイコット運動が大々的に行はれた。

その他同年中に、公の集合所に於けるヘブライ語の使用禁止、ユダヤ人共作映畫の外國映畫としての取扱、一部學校に於けるヘブライ語科目の廢止、ユダヤ人に對する學位授與の禁止等々、枚擧に遑がない。これらの實現は何等の磨擦なしに行はれたのではない。逮捕、監禁、投獄、襲擊、私刑、殺傷、自殺、行方不明、逃亡等々の諸事件はその都度世界の耳目を強く打つたのである。しかし玆では、アメリカに於けるユダヤ人問題について必要な限りに於てナチス排ユダヤ運動を概説したのであるから、これ以上記述することを差控へる。ナチス排ユダヤ運動について特に一節を割いたのは、それがヨーロッパ戰爭延いては第二次世界戰爭の世界史的意義、從つてこれに對するアメリカ政府並にアメリカ・ユダヤ人活動の意義決定に重大なる規準となるものだからである。その意味では、また同時に、ファッシスト・イタリーのユダヤ人排斥についても一應概觀しなければならないであらう。しかし、イタリーの排ユダヤ運動はナチスに比すれば問題にならぬほど小規模である。これについては、獨

墺合併以後のナチス排ユダヤ運動と共に後節に於て適宜記述することにする。

第三節　ナチス排ユダヤ運動に對するアメリカの抗爭

ドイツに於てナチスが政權を獲得したその同じ年の暮に、アメリカでルーズヴェルト政權が成立したことは、前者が世界で最も徹底した排ユダヤ國であるに對して、後者が世界最大のユダヤ國であるといふ點に於て、寔に運命的なものを感じさせる。現在に於けるドイツとアメリカの戰爭の可能或は必然性は、この一點から考察するだけでも充分に察知することが出來たのである。

一九三三年三月二十三日ナチスがユダヤ人排擊綱領を發表した翌日、イギリスのユダヤ系新聞『デーリー・エキスプレス』（Daily Express）は、「全世界のイスラエルの民がドイツに對して經濟戰爭」を宣言したことを報じた。これは間もなく諸種の重大事實となつて現はれ、

その發展は今次ヨーロッパ戰爭の要因となつた。當時アメリカの各新聞も一齊にナチスのユダヤ人排斥を攻擊論難し、民間に於ても種々の反獨示威運動が起つた。反獨運動の代表者等は諸會議の決議を合衆國國務省に提出したが、これに對して國務長官コーデル・ハル（Cordell Hull）は、駐獨アメリカ大使の報告に基いて、ドイツのユダヤ人彈壓は一時激烈であつたがその後平穩に歸しつつあると告げ、「余はかくまで全アメリカを憂慮せしめたドイツの狀態が速かに沈靜せんことを希望し、今後とも事態の推移に多大の關心を拂ふものである」と述べた。

しかし、ナチスに對する全世界ユダヤ人の挑戰が眞に大規模な形をとつて現はれたのは、一九三八年三月の獨墺合併によるオーストリー政府の激烈なるユダヤ人排斥――それはドイツ及びオーストリーのナチスが指導し、これと同時にドイツ國内のユダヤ人排斥も再び猛烈な勢で擡頭した――以來のことである。それはナチスの排ユダヤ運動の歷史から云つても劃期的な事件であると共に、第一次大戰以來の國内の混亂頹廢を急速に克服して新たなる攻擊態勢を整備したドイツのヴェルサイユ體制覆滅運動の最大の指標の一つともなつたものであ

る。この事件によつて全ヨーロッパは震撼した。英、佛の指導下にあつたヨーロッパ諸國は、彼等の秩序が全的に變革されるだらうといふことを直觀したのである。今や日本とイタリー、スペインを除く諸國は、ドイツを目して世界秩序の最大の破壞者としてこれに對抗せんとするに至つた。そして世界ユダヤ人の反ナチス戰線はこの機運に乘じて俄然攻勢的となつたのである。

由來オーストリーは世界に於けるユダヤ人の樂園とも稱せられてゐたほどで、特にハプスブルグ王國に於ては軍事、外交、政治、教育、經濟界に多數の有力なユダヤ人が最高位を占め、科學、醫術、美術、文學、音樂等の方面でも優位を保つてゐた。第一次世界戰爭前のオーストリーに於けるユダヤ人口は、約二十萬(これはユダヤ人の計算によるものでユダヤ教から他宗へ改宗したものは含まれてゐない)で、その四分の一は首都ウィーンに在住してゐた。以上のやうなわけで、オーストリーのユダヤ人は概して王黨派を支持する政治的見地を有し、ドルフュス首相やシュシュニック首相の支持も、ユダヤ人のハプスブルグ王朝復辟の夢や、その反ナチス、獨墺合併反對の運動に結びついてゐたのである。ドルフュスは王朝復辟

を目論でゐたと云はれる。しかしナチスの周到なる準備になつた突如たる獨墺合併は、これらユダヤ人の運動をすべて水泡に歸してしまつた。ユダヤ人が最後の望みをかけてゐたシュシュニック首相がその訣別の演説をラジオで放送してゐる間に、狼狽したユダヤ人の一部は早くもチェコ、ハンガリー、ポーランドの國境に逃走を企てたが、迅速周到なナチスの組織的活動は彼等の努力を徹底的に破壞した。オーストリー・ナチス支部がとつた第一の行動は實に國境閉鎖の擧であつた。二十數萬のユダヤ人は完全に袋の中の鼠となつてしまつた。かくてオーストリー・ユダヤ人に對する彈壓は徹底的であつた。僅か數日のうちにウィーンの知名銀行家、實業家等百五十餘名が逮捕された。オーストリーに於けるユダヤ人の權利は消失した。ユダヤ人所有オフィスの沒收、ユダヤ人からのあらゆる職業の剝奪、ニュールンベルグ法のオーストリーへの擴大適用等により、逃場を失つたユダヤ人の間には自殺者が續出した。その中には著名な人物も少くない。三月の或る日にはウィーンで五十四のユダヤ人の葬式が行はれた。同月には平均一日六乃至八の犧牲者（死者）があつたといふ。絕望的なユダヤ人等は群をなして在オーストリー英、米領事館を取かこんで救助を乞うた。ヘルマン・

ヴィルヘルム・ゲーリング（Herman Wilhelm Goering）將軍は、三月二十六日のラジオ放送演說によつて、すべてのユダヤ人はオーストリーを退去すべしと述べた。國境は閉ざされてゐる。ユダヤ人はただ裸でのみ國外に逃れることが出來るといふのであつた。ユダヤ新聞、ユダヤ諸團體は廢棄された。ウィトンの主要なシナゴーグは閉鎖され、オーストリー・シオニスト聯盟、ユダヤ民族財團、パレスタイン事務所等々は、ナチス突擊隊員の襲擊によつて家宅捜査を受けて財產を押收された上で閉鎖せしめられた。各都市の店舖には「アリアン人」のビラが貼られ、ユダヤ人所有者は店と商品を失つた。森林業者及び農業者の公的團體はすべてのユダヤ人を追放した。醫者は病院から、判檢事は法廷から罷免され、著名なユダヤ人學者はすべて停職處分に附せられた。オーストリー政府は新民族的法律を發表した。

獨墺合併によつて中央ヨーロッパに於けるユダヤ人の傳統的大據點は覆滅し、その餘勢はさらに全ヨーロッパに波及して、各國内の反ユダヤ戰線に强烈な活力を與へた。世界各國のユダヤ人は、これが對策及びユダヤ避難民救濟のために一齊に活動を開始したが、第一次世界戰爭以來世界ユダヤ人の指導的地位にあつたアメリカのユダヤ人は、恰もアメリカがヨー

ロッパから地理的に切り離されてゐるのみならず廣大な地域を擁して避難民收容の餘地も大であつたことも加はつて、最も重要な役割をつとめることになつたのである。アメリカ・ユダヤ人は彼等獨自の猛烈なる反ナチス運動並に避難民救助運動を展開すると共に、ルーズヴェルト大統領を動かして卽座にアメリカの國家的活動を開始せしめた。卽ち、獨墺合併が行はれたその同じ三月の二十三日、アメリカ合衆國國務省はヨーロッパ諸國の政治的避難民の移住の便宜を圖るためにドイツ、スペイン及びソヴェート・ロシヤを除く世界の二十九ケ國——その中にはイタリーも含まれてゐた——に對して國際委員會開催に關するメッセージを發した。その內容は大要次の如きもので、それにはルーズヴェルトの承認によるハル國務長官の署名があつた。

「わが政府は政治的避難民問題の緊要なるを感じ、ヨーロッパ並に東半球の諸政府に對して、オーストリー及びドイツよりの政治的避難民の移住の便宜を圖る目的を以てする特別委員會設置に協力する意向の有無を質すものである」

「關係諸政府が斯の如き代表者を指定すれば、緊迫せる移住に必要な資金の調整は各國國內

の私的諸團體によつて企圖さるるものと思惟する。尙、本書狀は、これによつて如何なる國と雖も、その現存法規が許容する以上の移民を承認することを期待又は要求されるものでないことを了解されたい」

「世界が當面せる本問題の緊要性と、この廣汎なる人類の受難が回避さるべきものとすれば政府の指導下に速かに協力する必要とのために本提案を急いだ次第である」

新聞記者に對するルーズヴェルトの回答によれば、この企ては單にドイツ、オーストリーの避難民のみならず、さらにロシヤ、イタリー等を含む全世界の被壓迫少數民族の救濟を目的とするものだといふ。しかし問題の中心がユダヤ人避難民の救濟にあつたことは云ふまでもないことであつて、ルーズヴェルト自身も一九三九年十月中旬、國際政府委員會へのステートメント（ヨーロッパ避難民問題に關する）に於て、「避難民中の大部分はユダヤ人である」と述べてゐる。

アメリカのユダヤ人組織及び私的團體、キリスト教諸團體等はアメリカ政府の擧に全面的な贊同をなし、移民事業の資金募集事務を分擔することになつた。アメリカ・ユダヤ委員會、

ブナイ・ブリス、アメリカ・ユダヤ人會議、アメリカ聯合配給委員會、アメリカ・ヘブライ同盟、ユダヤ人民委員會、ユダヤ戰爭老兵會、アメリカ勞働聯盟、アメリカ・キリスト敎會聯合會議、亡命地大學（ユダヤ系）、ヤコブの娘の家等は直ちに救援事業に着手した。四月一日發行の『アメリカン・ヘブリュウ誌』("The American Hebrew" April, 1st, 1938.)は、すべての在米ユダヤ人に對して、本問題への關心を煽つてこの救濟事業に對する精神的、物質的援助を奬勵し、ドイツ、オーストリーのユダヤ人をその國土の地獄から逃れしめて、彼等避難民をアメリカのユダヤ人團體へ吸收組織することは、卽ちやがて斯る迫害に對するユダヤ民族の挑戰となるのだ、と主張した。

上記アメリカ政府の提唱になる國際政府委員會（Inter-Governmental Committee）は、同年七月六日から十五日に至る十日間、フランスのエヴィアン（Evian）に於て開催せられた會議の内容は、（一）參加諸國の政府は、それぞれ自國の現行法規及び施行細則の内容と、その範圍内に於て入國せしめ得る移民に關する細目とを委員會に通告すること、（二）入國を許可せられた移民は、差當り當該國の生活條件に順應すること、（三）各國政府は避難移民に對

する費用を負擔する義務なきこと、（四）移民取扱當局は正規旅行劵に代る適當なる文書を認めること、（五）エヴィアン會議に參加せる各國政府の指名代表によつて、ロンドンに國際政府委員會を開催すること、等を申合せたものであつた。

右のロンドン會議は、八月三日三十二ケ國の代表が集まり、イギリス首席代表ウィンタートン卿（Lord Winterton）が議長となつて、イギリス外務省で開催せられた。會議の結果ルーズヴェルト大統領指名のアメリカ代表ジョージ・ラブリー（George Rublee）が對獨交渉並に避難民團組織のための常置委員會事務局長に選ばれ、同じくアメリカ代表ロバート・ペル（Robert Pell）がその輔佐役となつた。同事務局の費用は會議參加各國が分擔し、その活動力は國際聯盟の少數民族保護に關する活動よりも遙かに大であり、且つ事務的にも極めて簡捷である。アメリカの提唱になるこの國際政府委員會は、國際聯盟に加入せざるアメリカ政府の、ユダヤ避難民問題に對する國際的イニシアティーヴを保證するものとして特に注目すべきものがある。それは背面に於て、この問題に對するアメリカ・ユダヤ人の世界的指導力を物語るものである。なほ、常置委員會事務局と私設救濟團體との接觸は、國際聯盟のド

イツ避難民委員會を通じて行ふことに決定し、同委員會長官に對して移民入國並に私設團體に關する事務局協議會への出席を要望した。

三日の會議に於て、アメリカの首席代表ミロン・テイラー（Myron C. Taylor）は、アメリカ政府の意見として今後五六年の間にドイツから五六十萬の避難民を救出すること、アメリカ政府はこれに關して入國せしむべき移民比率の全割當を獨、墺避難民のために提供する意向であること、國際政府委員會はドイツ政府に對し避難民が資本を持出すことを許可するやうに要請すること、等を述べたが、最後の項目は全會一致で會議の意見として採擇された。

ここで、ナチス・ドイツのユダヤ人排斥に關聯してアメリカ國内の反セム主義について今一度瞥見しよう。

一九二七年にヘンリー・フォードが、ユダヤ人の抗議によつて、自己の主宰する『ディアボーン・インデペンデント』誌の反セム主義的内容に關する謝罪を表明したことは既に述べたが、その後、一九二九年の恐慌によるフーヴァー景氣の崩壞後殆ど七ケ年にわたる經濟的

不況の間に、ナチス的反ユダヤ主義をアメリカに持ち込まうとする努力は不斷に續けられた
特にルーズヴェルトの政治、行政に於けるユダヤ人並にユダヤ的影響力の强大なる點は、反
セム主義者にとつては大きな口實となつた。加ふるにドイツに於けるユダヤ人排斥運動の進
展と合衆國に於けるヒットラーの宣傳はアメリカの反セム主義運動に大きな刺戟を與へた。

一九三六年には合衆國には百餘の大小反ユダヤ團體があり、會員總數四百萬と號せられて
ゐたが、中には全く有名無實の存在もあつた。西部地方には白シャツ及十字軍（White Shirts
and Crusaders）、黑色部隊（Black Region）、キリスト教警醒社（Christian Vigilant）、新ドイ
ツの友（The Friends of New Germany）、アメリカ國民勞働黨（American National Labor
Party）等々が存在した。黑色部隊は一九三六年に俄かに勢力を增大したが、暴行、殺人事件等
のために解散せしめられた。しかし、それは間もなくシカゴでアメリカ愛國團（American
Patriot）として再建された。オハヨーでは合同アメリカ同胞（United Brotherhood of A-
merica）が活動してゐる。同じくオハヨー州のクリーヴランドには聯盟協會といふファッシ
ョ團體がある。ニューヨークには大學生の組織として「アメリカの哨兵」（Guard of America）

がある。それはナチスの影響を多分に受けたもので「我々はクリスト教のアリアンである」等のスローガンを宣傳してゐる。しかし正統的なファッシスト團としては、ニューヨークの「われ等はアメリカ人」(We are Americans)を擧げなければなるまい。これはニューヨーク市政界の名士ハービイの創立にかかるもので、ルーズヴェルトを目して「危險なる革命家」として攻擊してゐる。ドイツ系アメリカ人のファッシズム團體としては、アメリカ・ドイツ人同盟(German American Bund)があり、約二萬の會員を持つてゐる。イタリー系アメリカ人も亦イタリーのユダヤ人排斥進行と共に、アメリカ國内の反セム戰線で活動を開始してゐる。ヘンリー・フォードの影響はなほ繼續してゐる。「銀シャツ」(Silver Shirts)や黑色部隊等は曾て『ディアボーン・インデペンデント』誌に據つて旺んにユダヤ攻擊をやつたものである。一九三八年末、後述の如くヨーロッパの排ユダヤ運動が高潮に達したとき、ニューヨークでは市民防衞聯盟（Citizen Protective League）を中心とするファッショ團がアメリカに於ける反ユダヤ團體の統一戰線を策し、ドイツ系アメリカ人その他に對しビラ、演說等によつて猛烈なアヂテーションを行つた。彼等も亦フォードの影響を受けたのみならず、資金の

援助も受けたのであつて、一九三六年の總選擧に於てはフォードを大統領候補として推薦運動をやつた。當時のユダヤ人排斥には、大統領選擧に關する政治的意義も含まれてゐたことは注目すべき點である。但し、フォード自身はナチスのユダヤ人排擊を攻擊した聲明をやつてゐる。

これら内外のユダヤ人排斥運動に對して、アメリカ・ユダヤ人は猛烈な抗爭を遂行した。ナチスとナチス・レヂーメに對する反對の宣傳、ユダヤ人に對する差別待遇は直接間接に他の少數民族群に對する差別待遇と同一のものであり、またナチス・ドイツとその宣傳は勞働團體や自由主義團體への脅威であるとの論陣、ナチスのユダヤ人迫害は同時に彼等の世界平和攪亂を伴つてゐるとの主張、——これによつてユダヤ人は、ユダヤ人排斥問題を出來るだけ普遍的な問題として、全世界並にアメリカ國内の非ユダヤ人に呼びかけて反ナチス的意識を喚起し、ユダヤ人のみならず非ユダヤ人の對獨ボイコットやデモンストレーション等を組織したのである。實際またアメリカの反セム主義的諸團體は、同時にローマン・カトリック教徒やニグロ等に對しても反對運動を行つたことは既述の通りである。

獨墺合併によるナチスのユダヤ人排擊の嵐が捲き起つた時、在米ユダヤ人はルーズヴェルト政府を動かすと同時に、あらゆるユダヤ機關を動員して、反ナチス並に避難民救助の運動を展開した。同年七月中旬には、ピッツバーグに於て、アメリカ・ユダヤ人會議が中心となつてアメリカ・ユダヤ委員會、ブナイ・ブリス、ユダヤ勞働委員會等の代表者會議を開催し、反ユダヤ運動對策について重大な協議を行つた。同じ月にアメリカ・シオニスト團はデトロイト市に大會を開き對策を協議したが、その際ルーズヴェルト大統領並にハル國務長官に對し、エヴィアン會議開催について感謝決議を行ひ、且つその表彰文をユダヤ國民資金のゴールデン・ブック(Golden Book)に記入することになつた。「ファッシズム及反セム主義反對ユダヤ人民委員會(Jewish People's Committee Against Fascism and Anti-Semitism)は前記ピッツバーグ會議に於ける決議を承認し、あらゆるユダヤ團體はこの運動に合流すべきであるとのステートメントを發表した。ユダヤ協會會議(Council of Jewish Federation)も亦、內外に於けるユダヤ人壓迫に對してアメリカ・ユダヤ人の戰線を統一すべきことを提唱した。その他各種のユダヤ團體は夫々大會を催し、また相互の聯繫を圖り、その團結を强

化した。

第四節　獨・伊排ユダヤ運動の進展とアメリカ

一九三八年の九月に入るとチェコ問題が表面に押し出されて來た。同月十日ニューールンベルグで開催された勞働戰線（Arbeits-Front）大會に於けるヒットラー總統代理ゲーリング空相の演説は、チェコ政府のズデーテン・ドイツ人に對する壓迫とチェコに於けるユダヤ共産主義の跳梁とを攻擊し、新たなる反ユダヤ攻擊の開始を示唆した。實際、ドイツ、オーストリーを追はれた共産主義者は、ソ聯邦及びフランス等へも逃走したが、その大部分はチェコに逃れ、ドイツ共産黨の本部もプラーグに移され、チェコは宛然たるヨーロッパ赤化の新策源地となつてゐたのである。チェコ問題が起るや、チェコ並にフランスの共産主義者は旺んに對獨戰爭を主張したが、その背後にユダヤ・フリー・メーソンの暗躍があつたことは明かである。

第一次世界大戰後の國勢調査によると、チェコ國内にはドイツ人及びチェコ國籍ユダヤ人が極めて多數居住してゐた。一九三三年以來、ズデーテン・ドイツ人はナチス政府のユダヤ人排斥に應じて、チェコをユダヤ人の最上國家(State par excellence)だと稱してこれを攻擊するに至つた。これはチェコ政府がユダヤ人に對して法律的差別を設けず、チェコ・スロバァク地方の產業が多くユダヤ人の所有であり、鑛山、製紙工場等も多くユダヤ人の私有となつて居つたのみでなく、又ドイツからの避難ユダヤ人が續々と移住してその勢力を增大しつつあつたからである。ナチス・ドイツ人はユダヤ人のデモクラシーとボルシェヴィズムとを同一視し、ズデーテン・ドイツ人もその民族意識からそれをユダヤ人の「放れ業」(tour de force)だと看做した。遂にはチェコ語を學びチェコに忠實なドイツ人はユダヤ人であるとさへ云はれるに至つた。

一九三七年、チェコ政府がドイツ人を官吏として採用せんとした時、ユダヤ人の方が外國語がうまいとの理由でドイツ系ユダヤ人を多數採用しようとしてドイツ人との間に問題が重大化した。かくの如き利害の對立は以前から存在してゐた。一九四〇年にチェコの國勢調査

が行はれる豫定であつたが、さうなればチェコ在住の反ナチス・ユダヤ人等は自分等のドイツ國籍を取消すであらうが、その結果例へばブルノー市の如き都市のドイツ少數民族の數は二十パーセント以下となり、その政治的權利に著しい不利を齎すであらうと見られてゐた。

ズデーテン・ドイツ人は反セム・ボイコットを遂行した。ドイツ人同盟（Bund der Deutchen）はチェコ人及びユダヤ人から商品を買はずにドイツ人から買へと主張した。そのためエガー、ライヒェンベルグ及びルムブルグのユダヤ人老舗が閉鎖された。ユダヤ人も亦これに對抗してドイツ商品のボイコットを組織した。

かくてチェコ國内のズデーテン・ドイツ人は遂にドイツに呼應して各地に騷擾を起し、人民投票による大ドイツ復歸の要求を掲げた。彼等はユダヤ人に對し、「パレスタインへ歸れ」といふ標語を掲げてユダヤ商店を襲撃した。チェコ政府はそれを鎭壓するために軍隊を動かした。九月十八日、チェコ駐剳ドイツ公使は、ズデーテン・ドイツ人に對するチェコ政府の壓迫に關し、ドイツ政府の覺書内容をチェコ當局へ傳達した。その内容は次の如きものであつたと傳へられてゐる。「ドイツ政府はチェコ國内に於て逮捕されたズデーテン・ドイツ人と

同數に達する迄ドイツ國内に於けるチェコ人乃至チェコ國籍ユダヤ人を逮捕し、また戒嚴令によりドイツ人が銃殺處分に附された時は、ドイツに於てもこれと同數のチェコ人を銃殺するであらう」

かくて、チェコとドイツ間の國交は重大なる危局に近づいた。同年末、チェンバーレン英國首相のヒットラー訪問も甲斐なく、遂に翌一九三九年三月十四日に於けるドイツ軍のチェコ進軍となつたのである。

ヨーロッパの支配者たるイギリス帝國にとつては、これは對獨平和交渉の最後的一線を劃したものであつた。アメリカはチェコ問題については直接的な利害關係を有しなかつたので、これについて特別な態度は示さなかつたが、ユダヤ人排斥の激化については深い關心を示し、言論機關はアメリカ政府の對英協力について旺んに書き立てた。但し、ユダヤ人はチェコ問題に關する英・佛の讓歩、妥協を以て小國に對する完全なる背信行爲となしたが、この非難は發展してイギリスのパレンスタイン政策に及び、パレンスタインの委任統治をイギリスの手からアメリカに移すべき努力をルーズヴェルトに示唆する如き口吻をもらす者さへ現はれた。

チェコ問題が頻りに急迫を告げてゐた一九三八年の十一月七日は恰もドイツ・イタリー防共協定締結滿一周年記念日に當つたが、兩國の結合は愈々緊密化し、從來ユダヤ人問題については比較的穩和な態度を持してゐたイタリー政府も、遂にドイツと共に積極的なユダヤ人排斥の擧に出るやうになつた。

ムッソリーニは、かつて一九二一年に代議院の演說に於いて反セム主義を排斥し、ファッシスト當局もその後引き續いてイタリーに於ける反セム主義の存立を否定した。一九三八年二月十六日、イタリー外務省機關紙『インフォルマチオーネ・ディプロマティカ』(Informatione Diplomatica) は、ユダヤ人問題に關するイタリー當局のステートメントとして次の如き意味の一文を掲げた。「イタリー政府は曾てユダヤ人に對して何等政治的、經濟的、或は道德的手段の採用を考慮しなかつたし、また現在でも考慮してゐない。但しこれは勿論のことであるが、ファッシスト・レヂーメに敵意を抱く分子に對する場合は別である」

しかるに七月に入ると、イタリー諸大學の教授、講師から成る匿名ファッシスト科學者グループは、イタリー民衆教化省 (Ministero d. coltura popolare)、主唱の下に檢討した民族

問題のレポートを發表した。それは十項目から成る一種の「人種宣言」(Rasse-Manifest)であるが、アリアン・ノルディックとイタリー民族の優秀性を強調し、イタリー人とユダヤ人との差異を明かにしたものである。ファッシスト黨書記長アチルレ・スタラーセ(Achille Starace)は、右の「宣言」を基礎にして、イタリー民族を非アリアン民族から防衛するために活潑な民族運動を展開すると發表した。かくてイタリー政府もユダヤ人排斥の擧に出で、大學、官廳等からユダヤ人を追放したが、遂に九月一日、イタリー内務省に於て開催せられた閣議に於て、ムッソリーニ首相は内務大臣の資格によつて緊急勅令案を提出した。それは、一九一九年一月一日以後イタリーに入國したすべてのユダヤ人に對し、六ケ月以内にイタリー國外退去を命じたものである。

世界のユダヤ人特に英、佛、米、ソ聯のユダヤ人は、イタリーのこの新しい排ユダヤ運動に對して非難攻擊の矢を集中した。合衆國政府はイタリー駐劄アメリカ大使ウィリアム・フィリップス(William Philips)をしてイタリー政府に對し次の如き通告をなさしめた。卽ち、アメリカ合衆國政府はイタリーが在伊アメリカ市民たるユダヤ人に對して差別待遇を行はな

いであらうことを信ずる、アメリカに於けるイタリー人はその生命財産を保證され、職業、宗教、居住の自由を享有してゐる、在伊アメリカ・ユダヤ人も亦同樣の權利を保證されなければならない、といふのであつた。

これに對してイタリーの主要諸新聞は民族主義の正當性を主張し、却つて逆に英、佛、米等の自由主義的民族主義のエゴイズムを反撃した。卽ち、ファッシストのスポークスマンたるヴィルギニア・ガイーダ（Virginia Gayda）は、八月十三日の『ジョルナーレ・ディタリア』紙上（Giornale dItalia, 13th, 8, 1938.）に於て、「民族の防衞については、ひとり獨裁主義に於てのみならず、デモクラシー諸國に於てもその手段が講ぜられてゐる」ことを證明しようとしてゐる。彼は、容易に同化し得る者のみのフランス入國許可の法律を辯護するルネ・マルシェル博士（Dr. Rene Martiel）の諸著を引用してゐる。彼はまた、アングロサクソン人に對して帝國の尨大な領土を保有しようとするイギリスの努力について記し、最後に、一九二四年五月二十六日の合衆國移民法を、「好戰的、暴力的な民族主義主張」であると述べてゐる。

やうに述べてゐる。

『トリビューナ』紙（Tribuna）は、反セム主義と民族主義とを混同してはならぬとして次の

「反セム主義は反動的、保守的政策であつて、それを適用するには國家の自由になる通常の行政手段で充分である」。反セム主義は――と『トリビューナ』はつけ加へる――例へばスヰスの如くユダヤ人が公のオフィスを持つことを禁ぜられてゐるやうな多くの「所謂デモクラシー諸國」に於て採用されてゐる。

「北アメリカ合衆國の若干の州に於てはニグロは發展を阻止されてゐる。原始的な野獸的な本能に左右される獰猛な私刑法（リンチ）は、星條旗を有する共和國の領土に於て最初の數年間の植民地居住民を支配したのである。

「アメリカ共和國は國家ではあるが、嚴密な意味での國家ではない。だからアメリカ人には民族問題について我々やドイツ人に對して教訓を與へる權利はないのである」。なほ曰く、若しすべてのユダヤ人を送り込むやうなユダヤ國家があるとすれば、彼等の正しい出自が指示されてゐる特別旅行免狀をすべてのユダヤ人に與へることが出來るであらう、と。

因に當時イタリーの反ユダヤ法令の適用によつて脅威を受けたユダヤ・アメリカ市民は約二百名に過ぎなかつたのであるが、アメリカ政府の意圖は勿論單にこの二百名のユダヤ人保護のみを目的としたのでないことは云ふまでもないことである。一九三九年三月には、アメリカ四十萬のユダヤ人を組織するユダヤ人民委員會は、駐米イタリー大使フルヴィオ・スヴィッチ(Fulvio Suvich)並にハル國務長官に對して、イタリーのユダヤ人排斥について抗議を行つた。

イタリーの排ユダヤ運動は獨・伊對英・佛・ソ聯の對立關係を一段と明確ならしめ、ヨーロッパ戰爭のみならずまた第二次世界戰爭の可能性を促進せしめた點に於て注目すべきものである。

獨・伊防共協定一周年記念日たる十一月七日の朝、ポーランド系の一ユダヤ人青年グリュンシュパンが、パリーに於ける駐佛ドイツ大使館に侵入して大使館附書記官フォン・ラートを射撃した。犯人は直ちに逮捕されたが、犯行の理由はドイツに於けるユダヤ人迫害、特にポーランド系ユダヤ人迫害に憤激してこれに報復せんとするにあつたといはれてゐる。フォン・

ラートは十日に至つて遂に死亡したが、この事件のためにさらでだに頃來激化しつつあつたナチスのユダヤ人壓迫は俄然高潮に達し、八日から十日にかけてのナチスの對ユダヤ人暴行は、ヒットラー政權成立以來未だ見られざるほど猛烈なものであつた。ナチス突撃隊、ヒットラー・ユーゲント、その他の民衆團體や暴徒群は、ベルリンはじめ各地のユダヤ人商店、工場等を襲撃破壞し、多數のシナゴーグを燒打した。新聞は一齊に反ユダヤ記事を掲げ、フォン・ラートの射殺はユダヤ人の計畫的反獨陰謀であり、ヨーロッパ攪亂策であると論じた。ウィーンでも、十日早朝より反セム・デモンストレーションが行はれ、約二十のシナゴーグが燒かれ、多數のユダヤ商店が襲撃された。また、ナチス官憲はユダヤ人の家宅搜索を行ひ、多數の武器、彈薬、共產黨宣傳資料、無屆外貨等を發見してこれを押收し、ユダヤ人の新聞發行を禁止した。この排ユダヤ運動の飛ばつちりはカトリック教會並に教徒にも及んだ。

民衆の反ユダヤ人暴行が餘りに激烈を極めたので、十日夜に至つてゲッベルス宣傳相はドイツ民衆に布告し、ナチス政府は追つてユダヤ人に對して斷乎たる法令を發布する筈であるから民衆のデモンストレーション及び實力行使は自重するやうにと忠告した。その翌々日の

十二日、ゲッベルスの豫告通り、ゲーリング空相司會の下に、ゲッベルス宣傳相、フリック内相(Wilhelm Frick)、クロジック藏相(Schwering von Krosigk)、フンク經濟相(Walter Funk)、ギュルトナー法相(Dr. Gürtner)等が集まつて緊急會議を開いた結果、左の如き内容の三法令を採擇し、直ちにゲーリング空相の名でこれを發布した。

一、駐佛ドイツ大使館附ラート書記官がユダヤ系ポーランド人によつて暗殺された事件に對しては、ドイツ國居住のユダヤ人もその責任を分擔すべきであるとの見解に基き、ドイツ國内ユダヤ人全體に對して十億ライヒスマルクの罰金を課す。

一、最近ドイツ各地に勃發した反ユダヤ的騒擾はラート書記官暗殺に對する正當なる憤激の表現であるとの見解に基き、損害を蒙れるユダヤ人教會、商店等は早急にユダヤ人自身の手により修理すべきものとす。

一、一九三九年一月以降、ユダヤ人が小賣商店、通信販賣業、商業代理店及び手工業の經營に從事することを禁ず。

(註) 本事件の詳細については日本銀行調査局編『獨逸情况報告』(第十一號――昭和十三年)を參

照。

この未曾有のユダヤ人排撃は、イギリス、アメリカの神經を極度に刺戟し、その對獨共同戰線の結成に拍車をかけた。カトリック教徒が積極的なドイツ攻擊に乘り出したために、ユダヤ人の反獨運動は一層大規模なものとなつた。

アメリカの各新聞は激越なる論調を以て對獨攻擊を開始した。十二日のニューヨーク・タイムスは、今次ドイツのユダヤ人迫害は野蠻殘忍にして非人道極まるものであるが、これは單に自然發生的な民衆暴動ではなくて、ドイツ政府が使嗾、關與せるものだ、といふやうな各地諸新聞の論評を一括掲載してゐる。ニューヨーク・トリビューンやタイムスの社說は、ナチスはラート事件を口實に計畫的な對ユダヤ人課税をなして政府の財源を得んとしたのだと評し、またバルチモア・サン紙の社說は、ドイツのユダヤ人排斥は回教徒懷柔の野心をも含んでゐると論じた。

十一日夜、ニューヨークのY・M・C・Aのドイツ攻擊ラジオ放送には、ニューヨーク州前知事アルフレッド・スミス（Alfred Smith）以下知名の士が參加し、十三日にはフェデラ

ル・カウンシル・オヴ・チャーチェズ（Federal Council of Churches）は、前大統領フーヴァー、シンクレア・ルイス、マニング僧正、ウィリアム・グリーン（William Green）等の抗議聲明を發表、翌十四日の同カウンシル主催のドイツ攻撃全國ラジオ放送には、メソヂストのヒューズ僧正、フォータム大學總長、フーヴァー前大統領、ウィリアム・キング（William King）、ランドン前共和黨大統領候補、イックス內務長官等が放送演說を行つた。

また實際運動としては十一月二十七日から十二月四日にわたつてユダヤ人のドイツ商品ボイコットの强化斷行がなされ、アメリカ平和並民主主義聯盟（American League for Peace and Democracy）その他の反ナチス團體はルーズヴェルト大統領に對して、ユダヤ避難民のアメリカ入國を容易ならしめるために移民法及び移民入國手續の改正を要請した。その他各種團體の反獨抗議、反獨大會等々が續々と行はれた。

これらの反獨輿論並に運動に呼應して、合衆國政府は十四日に、その駐獨大使ヒュー・ウイルソン（Hugh R. Wilson）に對して、報告及び協議のため直ちに歸國せよとの訓令を發し、ドイツに對する暗默の抗議を表明した（註）。更にその翌十五日に至つて、ルーズヴェルト大

統領はワシントンのホワイト・ハウスに於ける新聞記者團との會見に於て、ドイツのユダヤ人排斥を痛烈に非難した。その要旨は次の如きものである。

――過去數日間のドイツよりの報道はアメリカを強く刺戟した。ユダヤ人彈壓のかくの如き報道は、必ずアメリカ各地に於て猛烈なる反對運動を惹起するであらう。予は二十世紀の今日かかる事態が起るとは殆ど信じ得ないところである。予は右に關するドイツ國内の新情勢を檢討する意味に於て、國務長官をして駐獨大使に召還を命ぜしめ、詳細な報告を聽取することとなつた。――

對外問題に關するかくの如く激しい發言は、ルーズヴェルト大統領としては未だ曾て見ないところのものであるが、注意すべきは同じ記者團への談話に於て同時に對獨方針、國防方針、軍備擴充について述べ、その中で同年十二月ペルーのリマに於て開催された汎米會議に對する合衆國の方針を示唆したことである。卽ち、合衆國の國防計畫はアメリカ大陸に對する他大陸からの可能的攻撃を防がんとするものであるが、アメリカ大陸の防衛は合衆國のみの問題でも合衆國のみの責任でもなく、北はカナダから南はケープ・ホーンに至る二十一の

ラテン・アメリカ諸共和國を含む南北全アメリカの連帶性に關するものである、といふのであつた。この示唆のやうに、十二月九日のリマ會議に於て、アメリカ合衆國は、獨・伊の南北アメリカ攻勢に對する全アメリカ共同防衞案を提出した。しかし、それは重大なる修正を加へられた結果、アメリカ各共和國の連帶性の再確認といふ程度の「リマ宣言」の作成發表となつたにすぎなかつたが、これを以て見ても合衆國の對獨・伊政策が、すでに明白に武力に依存せんとしつつあつたことを知るのである。それは實にアメリカ參戰への前哨行爲であつたのである。

（註）十一月下旬、ルーズヴェルトは小白亞館と呼ばれる彼の別莊――ウォーム・スプリングに在る――に於てウイルソン大使と會談するに際し、イタリー駐劄大使ウィリアム・フィリップスをもその席に加へた。ルーズヴェルトはヨーロッパ少數民族問題の將來の解決について、イタリー・ユダヤ人についてもナチス・ドイツ及びその支配する領域のユダヤ人同様に考慮することに決した。彼はヨーロッパ全域のユダヤ避難民救濟の問題をデモクラシーと獨裁との問題と同視しようとしたのである。(Mew York Herald Tribune, 27th, Nov. 1938.)

ドイツのユダヤ人彈壓に對して、カナダのユダヤ人は直ちにドイツ商品のボイコットを行つた。カナダのユダヤ人は合衆國のやうに强大な勢力は持たないが、背後にイギリス本國のユダヤ人が控へてゐるので、カナダと合衆國との提携についても重大な役割を持つてゐる。ラテン・アメリカ諸國との聯繫についても、それら諸國のユダヤ人が關係してゐたことは云ふまでもない。合衆國政府は、在獨ユダヤ系アメリカ人の壓迫に對して、ドイツ政府に抗議を發した。すでに獨墺合併によるユダヤ人排斥運動及びドイツ政府のユダヤ人財產登錄令に關して、アメリカ政府はユダヤ系アメリカ人保護のために再三抗議を提出したが、これに對してドイツ政府は年末に至るも何等回答を與へず、更にラート事件を契機としてユダヤ人壓迫を强化した。合衆國政府は、この在獨ユダヤ系アメリカ人の迫害とこの問題に對するドイツ政府の不誠意とを口實として、對獨・伊汎アメリカ共同戰線の形成について南アメリカ諸國を引き入れる工作を行つたのである。

右合衆國の抗議に對しては、一九三九年一月に至つて、ドイツは前年十二月三十日附公文書を以て、條約上認められたるアメリカ市民の權利を尊重する旨の回答を與へ、一時兩國間

の空氣を緩和させたかの觀があつたが、云ふまでもなくこれは全く一時的なものにすぎなかつた。

猶、イギリス、アメリカ兩國はユダヤ避難民の救濟についても相協力し、ルーズヴェルト政府は駐英アメリカ大使ケネディーをしてイギリスのチェンバーレン首相（Neville Chamberlain）、ハリファックス外相（Lord Hallifax）、マグドナルド自治領相等と協議せしめた。その結果アメリカは、ドミニカ共和國並にフィリッピン群島中のミンダナオ島に、ドイツ系ユダヤ避難民を大量に移住せしめる計畫を立てた。この計畫を遂行するためには、先づドミニカ及びフィリッピンに於ける人民のユダヤ人に對する同情と反ナチス意識を喚起する必要があるが、それは勿論極めて巧妙に工作された。

フィリッピンに於ては、特に前記のルーズヴェルト大統領の痛烈なるナチス攻擊談話の反響が大であつた。卽ち、その聲明に刺戟されたフィリッピン人特に首都マニラを中心とする宗教、思想、政治、教育界等の有力者は、續々とドイツの「非人道的行爲」に對する論難攻擊を開始するに至つた。フィリッピン在住の千五百名のユダヤ人がこれに對して積極的な參

加をなしたことは云ふまでもない。

十一月十九日にはマニラに新築されたスコッティッシュ・ライト寺院(Scottish Rite Temple)の獻堂式に於て、フリー・メーソンの會員が集合してユダヤ民族の偉大さを稱へ、各會員交々立つて民族、宗教を超越した寛容と兄弟愛の理想に邁進すべきことを强調して、ナチス・ドイツのユダヤ人排斥に對する示威を行つた。同じ日、中央學生寺院のホルスターを委員長とする各宗派及び思想團體指導者より成る人種宗教寛容委員會は、アテネオ大學内公會堂に於てファッシズムのユダヤ人迫害に對する「公憤會」と稱する民衆大會を開催し、十數名の知名の辯士が一千人の聽衆を前にして交々ナチスを攻擊しユダヤ人並に少數民族擁護を叫んだ。演說者の或る者は公然とフィリッピンをして迫害せられたるユダヤ人の安住地カナーンたらしめよと主張した。この大會にはフィリッピン大學總長ボゴボ、マニラ大學總長ロス・サントス、フィリッピン共產黨等のメッセージが贈られて朗讀せられた。上記人種宗教寛容委員會は少數民族迫害反對、ナチス反對を目的として九月中旬頃より組織に着手され、ラート事件を契機として一擧に結成されたものであるが、その主たる具體的目的は、ナチス

のユダヤ人並にカトリック教會、プロテスタント等に對する彈壓に抗爭するにある。

右の如き輿論の煽揚に乘じて、合衆國政府はフィリッピンに對して約三萬のユダヤ人を移住せしめる計畫を以て種々政治工作を行つたが、その結果翌一九三九年二月に至つてフィリッピン共和國ケソン大統領は國際政府委員會常置委員會に對して、フィリッピンは一萬人のドイツ系ユダヤ避難民を入國せしめる用意があるとの聲明を發して世界の注目を惹いた。それは、ミンダナオ島の一定區域にこれら移住民を收容して農耕に從事せしめ、この地域内の農業以外には、アメリカ人並にフィリッピン人の營む各種事業に進出妨害せざることを條件として將來公民權を賦與するといふ内容のものである。これに對して、ニューヨークの委員部では直ちに調査委員を派遣して實地調査に着手した。しかし、元來農耕を好まず、商業、金融に長じたユダヤ人が、しかも未開原始の荒涼たるミンダナオ島に永住してこれを開拓することは極めて困難であるとの說が行はれてゐた。因に合衆國は、これによつてユダヤ避難民を救濟すると共に在フィリッピン日本人（特にミンダナオに大多數がゐる）の勢力に對する對抗策を意圖してゐたとも傳へられてゐる。

ドミニカ共和國政府も亦國際政府委員會に對してユダヤ避難民移住地の提供を申込んだ。これに對してユダヤ人側では、アメリカ・ユダヤ人聯合農業協會（American Jewish Joint Agricultural Corporation）の農業技師ジョセフ・A・ローゼンフェルド（Joseph A. Rosenfeld）を委員長とする調査委員團を現地に派遣して移住の可能性を調査せしめた上、ドミニカ・セツルメント協會（Dominican Settlement Association）を組織してドミニカ政府との交涉及び移民指導の機關たらしめた。一九四〇年二月十二日右の正式交涉が成立したが、それによると、ドミニカ共和國は差當り二六、〇〇〇エーカーの土地をユダヤ人避難民のために無償で提供した上、移住民の宗教、民事、司法、經濟その他一切の人權を保證すると云ふのである。但しユダヤ人移住者は右に指定された植民地內で生活し、且つ砂糖、ココア、コーヒー、タバコ等の栽培に於て一般土着人と競爭をしないことを條件としてゐる。ドミニカへの移民は當初は約十萬と稱せられてゐたが、右の協定によれば約二萬五千人位の移住が可能であると云はれてゐる。

第五節　ヨーロッパ戰爭の勃發

第一項　ヨーロッパの危機とパレスタイン

一九三九年に入るとヨーロッパ政局は俄然急轉回を見せるに至つた。第一次世界戰爭以來のヨーロッパの矛盾はこの一年に凝集して爆發した。それは單純にユダヤ人問題として取扱ふには餘りに複雜巨大な内容を持つてゐる。しかし私は玆では專らその中に伏在するユダヤ人問題についてのみ記す。

一九三九年三月十四日、ドイツ軍は遂にチェコに進軍した。チェコの敗亡によつてナチス・ドイツのユダヤ人に關する定義はボヘミア及ビモラヴィアにも適用され、曾祖父がユダヤ人であつたチェコ人はすべて非アリアン人として排斥されるに至つた。當局はチェコに於けるユダヤ人所有財產の調査を行ひ、あらゆる種類のユダヤ財產の販賣には公式の證明を要求し

た。チェコのユダヤ人はドイツ、オーストリーのユダヤ人と共に續々ポーランドへ移住した。イギリス首相ネヴィル・チェンバーレンのベルヒテスガーテン訪問も水泡に歸したのである。

（註）チェンバーレンは母系ユダヤ人の血統で極めて親ユダヤ的であると云はれる。彼の父ジョセフ・チェンバーレン（Joseph Chamberlain）も有名な親ユダヤ主義者である。チェンバーレン内閣の陸軍大臣ホーア・ベリシア、外務大臣ハリファックスは共にユダヤ人である。

ドイツは實力を以て次々と前大戰による失地を恢復し、チェコに續いて、今度はポーランドに對しダンチッヒ回廊の返還を要求するに至つた。大ドイツ帝國の復歸を目指し、更に進んで「ドイッチュラント・ユーバー・アルレス」の理想に驀進せんとするナチス・ドイツの要請は無限であつた。ポーランドの後に來るものはバルカン諸國であることは明白であつた。バルカンは前大戰に於てもヨーロッパの火藥庫となつたものであるが、それはまた直ちに古來ヨーロッパの癌と稱せられてゐる「近東」―ヨーロッパ的な見地からの「近東」（Near East）であつて西南アジアのことである――を控へてゐる。インドに通ずる西南アジアはその豐富なる天然の資源と聖地エルサレムの存在とによつて古くからヨーロッパ諸强國の角逐の中心

となり、二十世紀以來アメリカ、日本も亦これに關與するところとなつたのである。特にこの地に最大の利權を擁するイギリス、フランスは新進國ドイツの東方進出を阻止せんとして遂に第一次ヨーロッパ戰爭の最大要因を作つたのである。戰後イギリス、フランス、アメリカはドイツ本國並に植民地を各國に割讓せしめてドイツを弱小國家とし、且つ民族自決に名を藉りてバルカン半島に政略的な獨立諸小國家を成立せしめてこれを自己の支配下に置き、以てドイツと西南アジアとの間に幾重もの防壁を構成した。

ドイツがポーランドを屈服せしめた後は、第一次世界戰爭勃發當時と同樣の危機が再び新しい姿體を以て現前することは明かであつた。特に一九三五年に於けるドイツの強壓的な對外通商振興策によつてバルカン諸國の對外貿易はドイツを第一位とするに至り、ドイツはルーマニアの石油、穀物、ブルガリアの穀物、トルコの羊毛、棉花等を獲得して實質的にバルカンにその勢力を扶植すると共に、益々その國防力を充實するに至つて事態は急速に尖銳化したのである。

しかも西南アジアはパレスタインをめぐる矛盾の發展によつて、ドイツ、イタリーの東方

進出に對して好都合な條件を具備しつつあつた。バルフォア宣言を中心とするアラビヤ人とユダヤ人との對立、やがてまたアラビヤ人とイギリス、ユダヤ人とイギリスとの對立は次第に激化し、謀略的なイギリス帝國主義の「分割して統治する」といふ鐵則はそれ自身の矛盾を暴露したのである。

前にも述べたやうに一九三〇年イギリスのマグドナルド政府は、パレスタインに對するユダヤ人の移住を制限することによつてアラビヤ人との衝突を防がんとしたが、ユダヤ人側の反對によつて一九三二年には早くもこれを緩和し、最少限二、五〇〇ドルを所有する商人及び農民の自由入國と月々一定の勞働者の入國を認めるに至つた。かくて一九〇〇年に約七萬であつたパレスタインのユダヤ人口は、三一年には一七四、六一〇人となり、三三年以來ドイツのユダヤ人排斥による避難民移住のためその數は飛躍的に增加して一九三七年には四十萬餘となつたのである。卽ち一九三一年の移住者四、〇七五人が三三年には九、五五三人、三四年には四二、三五九人、三五年には六一、八五四人に增大したのである。このため三三年には再びアラビヤ人の暴動が勃發した。しかもそれは從來と異つて單純なる對ユダヤ人暴動でなく、

同時に排英運動の色彩を帶びイギリス官憲との衝突を見るに至つたのである。そこにはファッシズムの影響を見逃すことが出來ない。更に一九三六年にはアラビヤ人のユダヤ人並にイギリス人に對する襲擊、殺害、ストライキ等が勃發し、イギリスは警察、軍隊の力によつてこれを鎭壓した。このためアラビヤ人の死者約千名、ユダヤ人死者八十二名を出した。ユダヤ人側も亦エルサレム、テラヴィヴ等に於てストライキ、暴動を起し、イギリス官憲と衝突してゐる。ユダヤ人の或る者はバルフォア宣言に對するイギリスの欺瞞に愛想をつかして、パレスタインの委任統治をアメリカの手に移すべしと主張した。

イギリス政府は調査委員團を派遣して騷擾の原因とアラビヤ、ユダヤ兩民族側の要求とを調査せしめた。その結果該委員團は、一九三七年七月、パレスタイン分離統治報告書を發表して問題の新たなる解決案を提示した。それはパレスタインをアラビヤ、ユダヤいづれか一方の國土とすることの不可能なることを主張し、これを三分して(一)北方海岸の平原及びガレリア地方（パレスタイン全面積の五分の一）をユダヤ獨立國とし、(二)キリスト教、回教の聖地を含む中部地帶（海岸に通ずる）をイギリスの委任統治地とし、(三)その他の大地域

この案に對しては、アラビヤ、ユダヤ双方が反對した。即ち、同年八月三日からチューリッヒに於て開催された第二十回シオニスト會議は次の如き決議を行つた。

一、イギリス政府のパレスタイン分離統治案に反對する。バルフォア宣言並に國際聯盟委任統治委員會によつて國際的に保證されたユダヤ民族の權益侵害に反對する。

二、パレスタインの委任統治を最早不可能とするイギリス調査委員會の主張を反駁し、委任統治の全的實行を要求する。

三、シオン聯盟執行委員會はイギリス政府に對し、更に明確な統治條件につき交渉を開始する。但し同委員會は決議を行ふに先立つて召集を開始する。

シオニスト大會はイギリス案を全面的には拒否せず、次のやうな變更條件を附して分割統治案につきイギリス政府と協議する用意があることを示した。

一、エルサレムのユダヤ區に對する監督權をユダヤ人に與へること。これなくしてはユダヤ國はシオンなきシオニズムの國となるであらう。

二、南方未開地ベーシェバに於てユダヤ人の土地所有を認めること。
三、ユダヤ人の居住するテラヴィヴ市をユダヤ人の港灣とすること。
四、死海の苛性加里採取及び水力電氣の利權を確保すること。

右の如きユダヤ人側の妥協的態度に反して、エルサレム回教總管長モハメッド・アミン・フッセーニを指導者とするアラビヤ人側はイギリス案に對して眞向から反對した。その理由は、イギリス案によればユダヤ人が豐沃な海岸地帶を取るに反しアラビヤ人は瘠地を與へられること、また聖地エルサレムをイギリスが支配するのは不當である、要するに同案はパレスタイン全部をアラビヤ人國家とするアラビヤ人の理想に反する、と云ふのであつた。

分割統治案についてはイギリス本國内に於ても反對があつた。そこで同年七月、イギリス議會はこれを國際聯盟常設委任統治委員會に附託した。これに基いて同委員會は、イギリス委任統治案維持案、委任統治修正案、聯邦制度採用案、分離統治案等を討議した結果、九月に至つて次の如き折衷案を發表した。卽ちそれは、パレスタインをアラビヤ人とユダヤ人との兩州に分離することを原則として承認するが、但し兩州が完全なる獨立國たるに充分なる

政治的成熟をなしたことの證左を示すに至るまでは過渡的に試験期間を設ける、といふのであつた。

しかしこの試案も勿論兩民族の受容れるところとならなかつた。かくて、パレスタインの騷擾は依然として續いたのみならず、その破壞、流血の慘事は益々重大化するに至り、イギリスはこれを鎭壓するために遂に守備隊の增派を行ふに至つた。

かくの如き事態に鑑みてイギリス政府も遂に分割統治案を斷念し、一九三九年二月に至つてロンドンにアラビヤ、ユダヤの代表者を招き、パレスタイン圓卓會議を開催して別個の妥協案を提示した。その要旨は、一定期間人口比率に應じてアラビヤ、ユダヤ双方の代表をパレスタイン行政及び諮問機關に參加せしめ、兩民族の協力の實蹟に鑑みてパレスタイン獨立期を定め、要求次第によつては聯合國家（Federal State）を作るといふのである、また向後五ケ年間のユダヤ移民數を七五、〇〇〇人以下に限定し、それ以後はアラビヤ人の同意するだけのユダヤ移民の入國を許すといふのである。

この案も始めから兩民族の容れるところとならなかつた。特にユダヤ人側の反對鋭く、ア

メリカ・ユダヤ人代表の如きは、會議の未だ終らざるにも拘らず前途を見限つて早々歸國したとさへ云はれてゐる。アメリカ政府はユダヤ人を支持し、ルーズヴェルト大統領はパレスタインに於けるアラビヤ人の暴動、襲撃に對する非難的聲明を發した。これに對して、アラビヤ人指導者イブン・サウドは反駁的な回答を與へてゐる。

イギリス政府は右案を更に具體化して、五月十七日に至りパレスタイン白書を發表したが、これは却つて聖地の騷擾に拍車をかける結果に終つた。アメリカ・ユダヤ人の指導者ステフェン・エス・ワイズはこのイギリス政府の白書に眞向から反對の意を表示した。彼は若干のユダヤ人代表者と共にハル國務長官に會見して、白書はバルフォア宣言の破棄であり、これによつてパレスタインに投資せる一億ドルのアメリカ資本は危殆に陷るものであるから、アメリカ政府はイギリスに對し該白書に關する抗議を提出されたいとの決議文を手交した。これに呼應して、――恰も五月二十八日ニューヨーク萬國博覽會のパレスチナ館の開館式を利用し、ニューヨーク市長ユダヤ人ラガーディア以下の人々は白書に關聯してイギリスの二重外交を糾彈し、また國會に於ても數名の議員がアメリカはイギリス政府の提案について何等

の打合せをも受けてゐないが故に、白書の實施はパレスタインに關する一九二四年の英米協定に反するのみならず、アメリカのパレスタインに於ける權益をも侵害する怖れがあると論じ、國務省に對してその主旨の對英聲明を要求した。

イギリスはその後も種々の方策を考究してゐるが、それはいづれも問題に對する本質的な解決策ではなく、アラビヤ、ユダヤ兩民族の對立及び兩民族とイギリスとの對立は益々重大化するばかりであつた。それは世界のユダヤ人のみならず全回教徒の關心を惹き、西方アジアから更にインド或は支那の回教徒も亦パレスタインのアラビヤ人側に深甚な同情を寄せるに至つた。のみならずこの問題は、日・獨・伊對英・佛・米等の新舊兩勢力の國際的對立と結合することによつて、一層深刻且つ廣汎な世界史的問題となるに至つたのである。

ドイツ、イタリーの全體主義國家とイギリス、フランスの自由主義國家との對立が激化すると共に、イギリスの東地中海制覇政策の大要衝としてのパレスタインの意義は益々重要性を加へ、從つてアラビヤ、ユダヤ兩民族に對する懷柔策はイギリスにとつて緊要缺くべからざるものとなつた。そしてそれだけにまた自由主義的見地からするパレスタイン問題の本質

的解決は困難なものとなつてゐるのである。イギリスとユダヤ人との結合は傳統的なものであるが、ドイツ、イタリーの排ユダヤ政策によつて國際ユダヤ人及び避難ユダヤ人の對獨・伊反感昂まるや、イギリスはフランスと共にこれを利用して獨・伊包圍陣の强化を計り對樞軸戰爭の準備工作を行つたが、これについては國際經濟特に軍需工業及び通信宣傳機關に巨大な勢力を有するユダヤ人の利用價値は實に莫大なものである。

ドイツはパレスタイン問題についてその「近東政策」のために反ユダヤ、反イギリス宣傳並に政治工作を行ひ、イラン、イラク、アフガニスタン等の回敎徒を自分との共同戰線に參加せしめんと努力した。特にイタリーはその東地中海政策並に東方貿易政策の見地から積極的な回敎徒懷柔を試みつつあるが、これはいふまでもなくイギリス、ユダヤの支配と對立するものである。一九三三年以來、パレスタインに於けるアラビヤ人のユダヤ人に對する抗爭が反英運動に轉化しはじめたことについては、かくの如きドイツ、イタリーの回敎政策と切り離して考へることは出來ないのである。近年に於ける西南アジアの回敎徒間に於ける新しい國家主義思想の勃興は寔に顯著なるものであつて、一九三七年に締結されたトルコ、イラ

ン、イラク、アフガニスタン四國間の不可侵條約、更にサウヂ・アラビヤ王イブン・サウドの提唱指導にかかるアラビヤ聯盟運動（アラビヤ人全體を統合せる大アラビヤ帝國の建設を目的とする）等はその現はれである。

パレスタインのユダヤ人口はドイツ、イタリーからの避難民の移住によつて急速に增大したが、これはユダヤ・パレスタイン・ナショナル・ホームの對獨・伊戰爭挑發について重大な役割を演ずるに至つた。パレスタインをはじめ世界各種の自由主義國へ避難したドイツ、イタリー系のユダヤ人は、國際ユダヤ金融財閥や世界シオニストと結合してドイツ、イタリーに對する報復を英・佛・米・ソ等の力によつて企圖せんとしてゐた。ナチスの政權獲得以來、ユダヤ及びイギリスの最も重要なる國際秘密機關たるフリー・メーソンはドイツ、イタリー、ポルトガル、ハンガリー等の諸國に於て次々に禁止され、更にユダヤ人の主催するロータリー・クラブも禁止又は抑壓された。

パレスタイン問題をめぐる英・佛・米對獨・伊の對立の他に、更にもう一つ忘れてならないものはソヴェート・ロシヤの存在である。中央アジアから南下して「近東」の石油と海港

とを獲得せんとする活動は帝政時代から繼續されたものであつて、このためにソヴェート・ロシヤも亦パレスタイン問題を利用することを忘れはしなかつた。全體主義國家と民主主義國家との戰爭を誘發して戰後の荒廢に乘じて一擧ヨーロッパを赤化しようと企圖したロシヤは、パレスタインに於けるアラビヤ、ユダヤ兩民族の對立に對しても首鼠兩端の態度を以て臨んだ。卽ち一方に於て回敎徒懷柔のためアラビヤ人を支持し、また一方全體主義國に於けるユダヤ人迫害反對の見地からユダヤ人をも支持せんとするものであるが、ユダヤのシオニスト運動はイギリスを、またアラビヤ獨立運動はイタリー及びドイツを背景としてゐる關係上、ロシヤの政策はアラビヤ、ユダヤ兩民族の反感を英伊兩國に向けしめ、パレスタイン兩民族共同の赤色民主主義政權を樹立せしめんとするに在つたのである。コミンテルンの機關誌インプレコール並にパレスタイン共產黨の機關紙コルハーン（Colhaan. 民衆の聲）は盛んにこの主旨の宣傳を行つてゐる。かくの如くソヴェート・ロシヤが英・佛・（米）對獨・伊・（日）の對立の上に自己の世界赤化政策を實現せんとするそのまた背後に於て、世界のユダヤ人はこれら世界列强間の抗爭を利用して自己の世界制覇を達成しようと試みてゐるのである。

最近十數年間に於けるユダヤ國際秘密力の現實暴露とその敗北とは、世界情勢の極端なる行詰りに乘じて新たなる世界戰爭を誘發し、諸民族の相剋と疲憊に乘じてユダヤの世界支配を再建しようといふシオニストの渇望を喚起するに至つたものであると云はれてゐる。

一九三六年六月十九日の『アメリカン・ヘブリュウ』――アメリカに於けるユダヤ人の重要な機關誌の一つ――は、ドイツ避難ユダヤ人指導者ゲオルク・ベルンハルト(Georg Bernhart)が「反ユダヤ運動は單なる反ユダヤ運動に終らずして、必ずや第二次世界戰爭を齎すであらう」と述べ民主主義諸國の對獨包圍陣整備の必要を力說した記事を掲載してゐる。また一九三八年六月三日の同誌はユダヤ人の未來世界觀を掲載したが、それによると英・佛・ソの三國民はリトヴィノフ(ソ)、レオン・ブルーム(佛)、ホーア・ベリシア(Leslie Hore Belisha. 英)の三ユダヤ人の活動によつてナチスに對する宣戰を布告し、三國の勝利の後で最後にユダヤの讃美歌が合唱されるであらう、といふのであつた。

第二項　ヨーロッパ戰爭の勃發とアメリカ・ユダヤ人

一九三九年九月一日、ドイツは武力を以てダンチッヒを併合した。三日にはイギリス、フランスが對獨宣戰を布告した。イタリーの參戰、獨ソ開戰等々戰火は燎原の火の如く擴大して行つた。ヨーロッパは第一次世界戰爭の終結以來二十年にして再び恐るべき大戰爭の渦中に捲き込まれたのである。そしてこれは恰も二年前に勃發した東亞に於ける支那事變と共に第二次世界戰爭の双翼を形成することになつたのである。

ポーランドには四百萬のユダヤ人が住んで居り、その經濟的勢力は絕大であつたが、特にドイツ、イタリー、チェコその他諸國のユダヤ人排斥によつて故國を追はれたユダヤ避難民の多數が潮のやうにポーランドへ流れ込んで來た。一九三八年十一月にはポーランド政府はナチス排ユダヤ運動の影響を受けてフリー・メーソンの解散を命じ、「ブナイ・ブリス」の領袖を逮捕、多數の秘密文書を押收したが、ダンチッヒ問題起ると共にポーランドの對獨感情惡化し、ユダヤ人は盛んに對獨戰爭を煽動した。特に英・佛・ソの對獨共同戰線の結成の可能が表面化したのでポーランドの對獨態度は一層硬化したため、ユダヤ人の活動は益々旺盛となつたものである。多分に政治的意義があつたことと思はれるが、ドイツ軍のポーランド

攻撃が開始されるや、ドイツ爆撃機は特にワルソーのユダヤ人街に對して爆彈の洗禮を與へたと報ぜられてゐる。

ヨーロッパ戰爭の勃發と同時にアメリカの參戰問題が現實化して來た。それは世界的な論議の中心の一つとなつたが、結局アメリカの參戰は必然であつたのである。ヨーロッパ戰爭及び第二次世界戰爭へのアメリカの參加については種々の原因がある。一般的にはアメリカがイギリス、フランスと共に世界に於ける最大の自由・民主主義國家として古き世界秩序を維持しようとしたのみか更にその帝國主義的支配の强化擴大を試みつつあつたのであるが、これは日・獨・伊の新興勢力との衝突を必然ならしめたのである。アメリカは多數民族の寄合世帶の國であるが、その實權は白色人種が握り就中アングロサクソン（ユダヤ系イギリス人を含む）がその支配者となつてゐる。彼等は獨立戰爭によつてイギリス本國から分離獨立したものでその後も絕えずイギリスと對立して來たものではあるが、その民族的血緣關係及びその經濟的、文化的共通關係は、一度兩國以外の國家との對立關係が强化すれば直ちに有力な結合を作り出すものであつた。地理的に見てもイギリスはアメリカの對獨・伊關係に於

てはその前哨線であると見られてゐる。
しかしまたアメリカとイギリスとの樞軸國に對する共同戰線は、アメリカ内部に於ける民族支配の關係からも規定されてゐる。自由主義的な寄合國家たる合衆國や南米諸國に於ける英、佛、ソ、獨、伊その他多數のヨーロッパ民族、日本、支那等の東洋民族、及び黑色人種たるニグロ等の間に於ける對立競爭關係は極めて複雜であるが、その政治的な支配はアングロサクソン民族が掌握してゐるのである。イギリスの世界諸民族に對する支配關係が、アメリカに於て合衆國といふ一國家の形で再生產せられてゐると云つても過言ではない。イギリスの世界特にヨーロッパに對する支配關係の動搖或は沒落は直ちにまたアメリカに於けるアングロサクソン民族の支配の動搖或は沒落を意味するものと云はねばならない。これは實に重要な點であつて、アメリカに於ける資本主義、民主主義、自由主義の崩壞後のアメリカ協同體の民族的指導關係についても示唆するところ大なるものがある。
アングロサクソン民族とユダヤ民族との結合關係は、長い歷史的傳統によつて牢固たるものになつてゐる。イギリスに於けるユダヤ人の歷史の發端は明確ではないが、少くとも十一

世紀の後半ウィリアム一世の治世中に多數のユダヤ人が移住して來たことは明かである。彼等はイギリスに於ても異民族、異教徒としてその生活上種々の制限を受け、また一再ならず大規模の迫害も蒙つたが、その蓄積せる高利貸資本の力によつて宮廷と結びつき、産業革命による自由主義、資本主義の發展と共にその勢力は不動のものとなつた。特にクロムウェルの政治革命後ユダヤ人の政治、經濟上の地位は全く安定するに至つたのである。現在ではロンドンをはじめとしてマンチェスター、リーヅ、リヴァプール、バーミンガムその他の主要大都市に集中生活してゐるが、これを世界的に見ればその數は必ずしも大きくはないが、イギリスの貴族並に金融界に大勢力を扶植して資本主義帝國の金融寡頭支配に參加してゐる。世界シオニストの本據がイギリスに存在してゐたことは前にも記したところであるが、パレスタインに於けるユダヤ・ナシ■ナル・ホームの出現の如きも、主として右の如きイギリス・ユダヤ人の勢力活動の結果である。イギリス系のフリー・メーソンは代々イギリス皇帝を最高の「マスター」として居り、ユダヤとアングロサクソンの緊密なる共同關係を構成してゐる。『シオンのプロトコール』によれば、ユダヤ金權による他民族國家の滅亡の後にはユダ

ヤ人は秘かに用意せるソロモンの王統を曳くユダヤ王を擁立してユダヤ民族の世界統治を實現すると記してゐるが、現在イギリスのウィンザー宮殿にはイギリス王室がダビデやソロモンの後裔であることを證明する系圖が存在してゐるとさへ云はれてゐる。

しかし、ユダヤ民族とアングロサクソン民族との關係はかかる緊密なる結合にも拘らず決して一體的のものではないのである。ユダヤ人は飽くまでイギリス帝國に寄生してゐるのであつて、その結合はユダヤ民族の世界制覇のための手段となつてゐるといふことは言ひ過ぎであらうか。

・第一次世界大戰後世界の政治、經濟の中心がイギリスからアメリカへ移ると同時にユダヤ人の本據も亦アメリカへ移動した。アメリカがアングロサクソンの支配する國であることはユダヤ人にとつて寔に好都合であつたと云はねばならぬ。アメリカがイギリス的な自由主義原理に基く民族、階級間の對立抗爭の溫床となつてゐるところに、ユダヤ人が特殊の發展をなす條件があるのである。しかし、一國家としてのアメリカは假令アングロサクソンの支配する自由主義國家であるにしても、その中に多數の異民族を包括するアメリカの國家的成長

はもはやイギリスの如き純粋なるアングロサクソン帝國と同一ではあり得ない。更にアメリカの地理的、自然的諸條件が作用してゐる。アメリカの傳統的「モンロー主義」——それはアメリカ資本主義が帝國主義化するにつれて實質上崩壞するに至つたが——の如きも、アメリカ大陸の孤立とその豐饒なる資源がその自然的條件となつてゐるのである。

ユダヤ民族とイギリスとの結合關係は、パレスタイン問題に對するイギリスの破約やドイツ、イタリーの排ユダヤ運動及びその全ヨーロッパへの波及に對するイギリス政府の消極的態度、その無力さ等によつて急速に弱められ、ユダヤ人の反英的感情をさへ醞釀するに至つた。從つて今日アメリカに於けるユダヤ人の對英關係は決して單純ではなく、アメリカの參戰問題に關する彼等の態度も必ずしも參戰主張一本槍ではなかつたのである。勿論究極的な見地からすれば、排ユダヤ國であるドイツ、イタリーに對して英米はじめ世界のユダヤ人が英米の共同戰線を希望することは當然であつて、その一點から見る限りイギリスの危機切迫につれてアメリカの參戰は必至であつたと云はなければならぬ。

シレジヤ、ポーランド、ロシヤ地方からアメリカに移住したポーランド系ユダヤ人はアメ

リカに於て强固な地盤を形造つてゐるが、彼等がダンチッヒ問題を契機としてアメリカの對獨强硬態度を煽つたことは云ふまでもないことである。ナチスのユダヤ人排斥政策に對してポーランド系のユダヤ人が如何に激怒したかは、例のラート事件によつてもその片鱗を覗ふことが出來る。同事件の勃發と共に全アメリカ十四ケ國のポーランド系ユダヤ人代表がニューヨークに會合して、世界ポーランド系ユダヤ人同盟第二年度大會を開催し、ポーランド系ユダヤ避難民救濟のために全世界の代表より成る救濟委員會を設置することを決議して一大運動を展開した。なほそれと同時に該同盟の改組を行ひ、本部をアムステルダムからニューヨークに移し、更に南米への避難民移住の可能性を調査するために調査委員會を設置した。

一九三九年五月十一日の『ニューヨーク・ヘラルド・トリビューン』紙は、「アメリカ東部に於ける戰爭熱」なる記事を掲げて、ニューヨークを中心とする東部方面にはアメリカの戰爭參加を要求するものが極めて多いが、シカゴを中心とする西部のアメリカ人は依然としてアメリカの孤立主義を主張してゐると報じてゐる。同紙はニューヨーク方面のアメリカ人は特に西歐との血緣的感情が强いと書いてゐるが、これにはニューヨーク州に於けるユダヤ人

の强大な勢力が强く作用してゐることと思はれる。因にシカゴにはドイツ系アメリカ人が非常に多い。

ヨーロッパ戰爭の勃發は、アメリカ・ユダヤ人並にアメリカ政府の避難民救濟計畫に大支障を齎した。ルーズヴェルトは十月に開催された國際政府委員會に對して避難民救濟に關するステートメントを發したが、その中で、避難民の大部分はユダヤ人であるがドミニカ共和國並にフィリッピン政府の態度は非常に良好で避難民の實際的定住を可能ならしめるに至つたと述べ、更に「ヨーロッパ戰爭迄は萬事都合よく進捗しつゝあつたが、戰爭はそれを妨げた」と述べてゐる。

戰爭の勃發とドイツ、イタリー軍の戰勝とはアメリカの參戰熱に拍車をかけ、アメリカ政府は尨大なる軍備擴充計畫に狂奔した。同年秋の大統領選擧には選擧政策上ルーズヴェルトも戰爭不介入論など口にしたがそれは勿論單なる謀略にすぎなかつた。

ルーズヴェルトは三たび大統領に當選した。アメリカの參戰はこれによつて決定的となつたのである。

第八章　大東亞戰爭とアメリカ・ユダヤ人

第一節　日本とユダヤ人の關係

昭和十六年（一九四一年）十二月八日、日本は遂に米英と戰端をひらいた。これによつて從來の支那事變は大東亞戰爭に發展し、續く獨・伊の對米宣戰によつて、玆に東西の二大戰爭は完全に合流して第二次世界戰爭の段階に入つたのである。現在樞軸國が戰ひつつある世界新秩序建設戰に對するアメリカの參戰は樞軸國側のイニシアティーヴによつて決定せられた形になつたが、それは單に必然且つ不可避的な事態に對する制機の問題にすぎないのであつて、これを以て樞軸國に戰爭の唯一最大の原因があるといふ聯合國側の主張は全く當を得ないものである。

米英の日本に對する攻勢は、遠く西歐資本主義の東洋侵略の時代に始まるのであつて、その間彼等が最も親日的であつた時でさへ、その眞實の意圖は決して友誼的なものではなかつた。それは多分に帝國主義的資本主義の功利的、政略的な友好關係であつたのである。

アメリカの對日攻勢はわが幕末時代に於ける黑船の來襲以來のことであるが、アメリカ・ユダヤ人の對日活動も亦その前後から始まつてゐる。アメリカ人は十八世紀の末（わが寬政年間）より頻りに北太平洋方面からわが近海に出現するやうになつた。それは主として捕鯨に從事する人々であつたが、そのうちに難船漂流してわが國に來るものが漸く多くなり、またわが國の遭難漁民が偶々アメリカ汽船に救助される等のことがあつて、彼我の間に交涉が生ずるやうになつた。アメリカの船がわが沿岸で航海に必要な物資の供給を要求したことは度々あつたが、それの交涉には主として各地の奉行などが當つてゐた。嘉永年間には年々松前を通過する黑船八十數隻に及んだといふのだから日米の國家的接衝の條件はすでに熟してゐたのである。

かくて嘉永五年（一八五二年）アメリカ政府は對日貿易を企圖してペリー（Matthew Calbraith Perry）を使節として浦賀に來訪せしめた。幕府が交易を拒んだのでペリーは一旦歸米したが嘉永七年再び來訪し、更に安政三年（一八五六年）にはハリス（Townsend Harris）が下田に來り世界の大勢を論じて開港を求め、若し容れなければ武力を以てする他なしと强

要した。狼狽した幕府は安政五年勅許を得ずしてアメリカの要請に應じたが、そのために幕府と朝廷との間に對立を生じ、これはやがて明治維新への重大な政治的契機を構成するに至つた。

アメリカの日本に對する開國の要求は、單に北太平洋の捕鯨船に對する物資の供給といふことを目的としただけでなく、それは實に十八世紀末葉から十九世紀初頭にかけて行はれた歐米資本主義諸國の東洋に於ける植民地獲得鬪爭の現はれの一つであつた。産業革命を經過したアメリカは西部諸州の開發を行ひ、遂にはハワイ、フィリッピン等太平洋の西方へ發展し來つた。イギリスは一八三九—四二年の阿片戰爭によつて香港、九龍を獲得して東亞に於ける最大の足場を築いたが、アメリカの棉花はすでに十八世紀末から淸國を重大な市場としてゐたので、アメリカ政府はイギリスとの對抗上東亞に於て强固な根據地を獲得する必要を感じてゐた。ペリーはすでに早くから琉球、小笠原島に目をつけ、これを武力によつて占領しようと企圖してゐた。しかし、アメリカはその後南北戰爭が勃發したために充分に東洋に進出することが出來ず、その間イギリス、フランス兩國が殆ど東洋の植民地を獨占するに至

つたのである。

これらの事情をすでに述べたアメリカ・ユダヤ人の歴史と併せ考へるとき、アメリカの東洋進出に於て、ユダヤ人がその背後の力として直接間接にいかに重要な役割を演じたかを推知するに難くないであらう。しかし、長い鎖國の夢を破つて一擧にして複雜廣汎な國際舞臺に登場したわが日本は幸にして悠遠なる國體と自然的、地理的條件によつて歐米諸國の日本侵略の野望を打ち挫くことが出來たとはいへ、滔々たる西洋文化の流入に乘じて行はれる彼等の謀略を完全に察知防壓することは極めて困難であつた。特に固有の國際秘密組織を持つユダヤ的對日謀略に於て然りであつた。わが國の外交史に於て極く近年までユダヤ人問題が明かにせられなかつたのもそのためである。この點一部先覺者の研究の努力と苦心に對して充分なる敬意を表さなければならないと思ふ。

日清戰爭後英、佛、獨、露等の諸國は支那に進出して互に角逐したが、就中東洋に最大の利權を得たイギリスと東洋進出に立ち後れたアメリカとの兩國は、共に日本を利用して他の諸强國を牽制しようと計つた。日英同盟に於けるイギリスの意圖の中には、日本をして自己の

東洋植民地の番犬たらしめんとする計畫があつたのであり、またルーズヴェルト大統領（Theodore Roosevelt）が日露戰爭に當つて日本に對して好意的であつたのは、アメリカがロシヤの滿洲進出を好まなかつたからであつた。

日露戰爭の際に戰費捻出のため財務官高橋是淸が渡米して外債の募集を行つたとき、ジェーコブ・シッフは莫大な資金を調達して貸與した。第一回貸附は戰爭の勃發した明治三十七年春の一千萬ポンドでクーン・ローブ會社系銀行がその半額を引受け、同年十一月の第二回の時は一千二百萬ポンド、第三回は翌年五月に三千萬ポンドで、いづれもその半額はクーン・ローブ會社關係で引受けた。戰後（一九〇六年）シッフは妻のテレサと共に日本を訪問して大歡迎を受け、歸米の際高橋氏の息女を同伴して自宅から三ケ年アメリカの學校へ通學せしめた。クーン・ローブ會社は日本の外債募集のために、アメリカは勿論、ドイツ、イギリスからも多額の資金を吸收したのである。このアメリカ・ユダヤ人の經濟的指導者はその對日援助の蔭に、滿洲に於ける利權の獲得と、ユダヤ人壓迫を試みつつあつたロシヤのロマノフ王朝に對する復讐の底意を藏してゐたのである。シッフ並にクーン・ローブ會社が一九一七年

のロシヤ革命に當つてトロツキーはじめロシヤ共産黨指導者に多額の資金を提供したことや（註）、また日露戰爭の終局に際してアメリカの鐵道王ハリマンがわが國に對し南滿洲鐵道の日米共同管理を提案し來つたこと等はそれを證明するものである。ハリマンの背後にはシッフの支配するクーン・ローブ會社が控へてゐた。尤もシッフがはじめて日本に財政的援助を與へたのは、戰爭に於て日本が未だ一度も重要な勝利を得ない間のことであり、且つ當時一般的には日本がロシヤに對してあのやうな大勝利を收めるとは考へられてゐなかつたので、當初はロシヤに對する報復とロシヤの東方進出阻止といふ消極的意圖の方が優つてゐたであらう。

（註）日露媾和會議の直前、シッフが駐伊アメリカ大使並にユダヤ・フリー・メーソン、「ブナイ・ブリス」の指導者と三人でロシヤ全權セルゲイ・ジュレヴィッチ・ウキッテ伯（Sergei Juliewitch Witte）に會見し、若しロシヤ政府がユダヤ人に對して平等なる市民權を與へるならばロシヤ國內に頻發する不祥事を直ちに根絶することが出來ると提言して、それ等の不祥事が彼等の計畫によつて發生したものなることを告白したといふ。これはウキッテ伯自身の『回想錄』に記されてゐる事柄である。

アメリカ大陸横斷鐵道に着手したハリマンはこれに更に滿鐵、シベリヤ鐵道を連絡する世界一周路の計畫を樹て、該計畫の一部として滿鐵の共同管理を策した。彼は明治三十八年(一九〇五年)八月自らわが國に渡來して政府の要人と會見して右の提案を試みたのである。その要旨は大體次の如きものであつた。

日本が新たに獲得した滿鐵の經營資金を調達するために「シンディケート」を組織し、その收益に對しては日米兩當事者が「共同且つ均等の所有權」を有するものとする。鐵道に關聯する炭坑採掘の特許會社を作り、その利益と代表權も兩當事者が均等に獲得し、その他滿洲に於ける各種企業の開發についても原則として均等の利益權を有する。但し同會社は日本の監督下に置く、といふのであつた。

ハリマンのこの提案は幸にも小村外相の反對によつて實現するに至らなかつたが、その後アメリカは更に清國に手を延ばして、滿洲の經濟經營にアメリカ並にヨーロッパの資本を介入せしめようと計つた。卽ち明治四十二年アメリカは清朝と米英資本家との間に錦愛鐵道の敷設並に借款に關する豫備協定を結び、これをわが國に通告して次の如き提案を行つた。滿

鐵を中立させてその所有權を淸國に歸せしめ、その資金は希望諸國よりの借款によつて調達せしめる。而して該借款の償還迄の間主なる關係者が鐵道の敷設及び運用を監視する權利を獲得する。その他。

わが國はこれに對し、錦愛鐵道の件は贊成であるが滿鐵を列國の管理下に置くことは承認し難いと回答した。

アメリカ並にその背後にあるユダヤ財閥の東洋支配の野望はかくも執拗で且つ益々募る一方であつたが、日露戰爭後の日本の急速なる成長發展はそれに對して大きな障壁を形成するに至つた。第一次世界大戰の際、アメリカはその參戰に臨んで、太平洋の安全と物資供給についてわが國に協調を申込んで來た。日本はこれを承諾したのであるが、そのとき同時にアメリカ在住邦人差別待遇の是正と支那に於けるわが國の特殊關係の確認とを要求した。大正六年（一九一七年）に結締されたいはゆる石井・ランシング協定は、アメリカが參戰により その太平洋艦隊を大西洋へ廻航した後の太平洋に於ける日本の優位を牽制しようとの意圖を盛つてゐたことは云ふまでもない。このことは大戰終局後のワシントン軍縮會議（一九二一

一二年）に於て米・英兩國が日本に對して五・五・三の主力艦比率を强要したことによつて決定的となつた。

第一次世界戰爭後東洋に於ける列國の勢力關係は著しく變化し、從來支那貿易に於て第一位を占めてゐたイギリスをはじめとして佛、獨の勢力後退し、これに代つて大戰中異常の經濟發展を來した日本が支那貿易の第一人者となり、アメリカも亦全東洋に對して未曾有の進出を見るに至つた。かくて東洋に於ける日、米、英の對立抗爭は漸く顯著になつて來たのであるが、戰後の國内經濟の再建とヨーロッパの經營に忙殺されてゐたイギリスは、對支貿易に於て自國を凌いで第一位に上つた日本を牽制するにアメリカの力を以てし、また米・英兩國は蔣政權を傀儡として日本の大陸進出を阻止せんと圖つたのである。これには更にソ聯の勢力が加はつて複雜な關係を展開したが、それらの經緯はすでに周知のことであるから玆では述べないことにする。

滿洲事變と滿洲國の創建は英・佛・米・ソの諸國並にその背後の國際ユダヤ人に對して大きな衝擊を與へた。それはやがて東洋の西洋からの解放を齎し東洋諸民族の協同による新し

き世界史創造の革命的運動にまで發展したものであるが、古き自由主義的世界秩序を維持せんとするこれら諸國民並に國際ユダヤ人はこれに對して俄然共同戰線を形成するに至つた。彼等の支配する國際聯盟はリットンを委員長とする調査團を東亞に派遣したが、その結果になるいはゆるリットン報告書は徹底的に日本の態度を攻撃したものであつた。それはフランス系ユダヤ人ハースの執筆したものであるが、イギリスのユダヤ人ドラモンド（Sir James Eric Drummond）を事務長とし多數ユダヤ人を要職に持つ國際聯盟總會はこの反日報告書を絶對多數で採擇した。かくて日本は遂に歴史的な最初の國際聯盟脱退を敢行したのである。

やがて獨・伊の聯盟脱退から日・獨・伊防共協定の成立に發展するに及んで、玆に國際ユダヤ人と日本との對立は全く決定的なものとなつた。ユダヤ人は徹底的なユダヤ排撃國たる獨・伊との日本の提携を目して日本のファッショ化であり、獨・伊に對する日本の追隨であると考へた。しかし昭々たる現實の歴史が示すやうに古き自由主義的世界秩序の破壞と新しき民族協同秩序の建設はつねに日本が國際的先端を切つてゐるのであつて、わが國のユダヤ對策の如きも究極に於てはその固有の民族理想に基いて創造的に樹立遂行せらるものであ

ることは明かである。

昭和十二年（一九三七年）七月七日蘆溝橋に勃發した戰火は遂に日支兩國の全面的衝突となり、これは更に抗日支那の背後にあつた米・英との戰爭を含む大東亞戰爭にまで發展するに至つた。この大東亞戰爭とアメリカ・ユダヤ人との關係は、大東亞に於けるユダヤ人全般の活動と關聯することとなしに理解することは困難である。しかし、これは優に數巻の書を構成する大主題である。本章に於てはただそれの粗雜な概觀を試みるにとどめざるを得ないわけである。

第二節　ユダヤ勢力の東漸

ユダヤ人がはじめて東方アジアに來たのは何時頃のことであるか明かでない。イスラエル十二支族中の一支族が東方に移住したことは舊約に見え、ゾムバルトは彼等が日本に這入つたのではないかとの臆測を述べてゐるが勿論信ずるに足りない。わが國でも言語學的な符合

や宗敎的暗示からユダヤ・日本人同祖論を試み、或は太古ユダヤ人が日本に渡來したと說くもの或は遂に日本人の一部がアラビヤ半島へ移住したと臆斷するものがある。最近ではキリストの日本渡來說さへ行はれた。これは靑森縣十和田湖附近の某村にキリストの遺跡があると云ふのである("The Pictorial Orient" Oct. 1939.)。しかしそれは比較的近世になつてヨーロッパ人の流入によつて創られた傳說のやうに考へられる。

十一世紀の中葉にはヨーロッパ人はすでに小アジア經由の隊商路によつて支那に入り、生糸や絹の貿易に從事してゐた。その中には、東洋と西洋の中間に位する「近東」に於て、有史以前から商業民族を形成し、そのパレスタイン亡國以後も各國に於て商業、貿易に從事してゐたユダヤ人が多數存在してゐたであらうことは想像に難くない。彼等は爾來數世紀にわたつて東洋に往復し、その一部は主として支那の開封、廣東、寧波、南京等に定住してユダヤ系支那人を遺した。――それは尨大な支那民族の血液の中に混入されて殆ど見分け難い存在になつてゐる。

十三世紀末葉蒙古に來つて元朝に仕へ、その著『東方見聞錄』に於て絹の支那、黃金の日

本(Zipangu)をヨーロッパに紹介したヴェニスの商人マルコ・ポーロも亦ユダヤ人であつた。多數のユダヤ人を乘せたコロンブスの船も元來は日本の黄金を目當てに航行したのであるが、圖らずもアメリカ大陸を發見したのであつた。コロンブスはマルコ・ポーロの著書によつて刺戟されたのであるが、彼は日本の所在をフローレンスの天文學者パオロ・トスカネリ(Paolo Toscanelli)の書物によつてリスボンの西方百三十度の點にあると誤解してゐたのであつた。

中世紀に於てヨーロッパで外國貿易に從事する者の大多數は、ユダヤ人であるかまたはユダヤ人を代理人としたものであつた。當時東印度諸國にはすでに多數のユダヤ人が居住してゐたと考へられる。十五世紀の末葉以來ヨーロッパの諸國民が印度へ進出したとき、その以前から印度に入り込んでゐたユダヤ商人等をヨーロッパ主權の藩屏として歡待した。當時全盛を極めたポルトガル、オランダの船舶が自國の屬領地へユダヤ移住民を運んで行つたことは勿論である。これは、當時ヨーロッパ諸國では頻々としてユダヤ人追放が行はれてゐたことを併せ考へれば容易に推知される事柄である。ゾムバルトによれば、東洋のそれを含むすべてのオランダ人セツルメントにはユダヤ人が參加してゐたといふ。またオランダ東印度

會社の大株主や取締役中にもユダヤ人の名が見え、ジャバのオランダ政廳確立に盡力した初代總督コーン（Cohn or Coen）をはじめとして若干のジャバ總督もユダヤ人であつたと記してゐる。

（註）これには反對說があつて、一六〇二年オランダ東印度會社創立に當つて、その最初の資本金拂込に於けるユダヤ人の投資金額は拂込全額の千分の一にも足らず、またユダヤ人は東印度會社の高級役員たることを許されずユダヤ人取締役は一人も存在しなかつたと述べてゐる。これは一アメリカ人の主張である。『猶太研究』第二卷第一號所載「資本主義に於ける猶太人の影響」

十七世紀末から十八世紀にかけてヨーロッパに於ける政治、經濟の中心がスペイン、ポルトガル、オランダ等の諸國からイギリス、フランス兩國に移つて以來、ユダヤ人の東洋進出に於てもこれら兩國のユダヤ人が勢力を占めるに至つた。

わが國に於ては天文十八年（一五四九年）スペインのキリスト敎宣敎師ザビェール（Xavier）が渡來したのが、歷史に見えるヨーロッパ人來訪のはじめであり、同二十四年にはポルトガ

ル人が種ケ島に漂着して砲術を傳へてゐる。恐らくこの時代にはすでに、スペイン、ポルトガル、オランダ等の船は屢々日本の沿海に往來してゐたであらう。天文十一年にはポルトガル人水夫三名が種ケ島に漂着してゐる。わが國へのユダヤ人の渡來もこの時代にはじまつたと考へていいであらう。わが國渡來のいはゆる「南蠻人」の中にもユダヤ人があつたことは想像に難くないが、今日のところでは具體的にそれを證明する資料は發見されてゐない。德川氏の鎖國時代に交易を許されてゐたポルトガル、オランダ人についても同樣である。日本に於てキリスト敎の布敎に從事したヨーロッパの傳道師達の報告によれば、十七世紀の初頭に於て日本人キリスト敎徒の數は百八十萬人に達してゐたといふ。キリスト敎を通じて舊敎のユダヤ思想がわが國民の間に及ぼした暗默の影響は恐らく想像以上のものがあつたであらう。このことは、キリスト敎傳道者等がユダヤ人を强慾非道の人間として賤しめてゐたことと矛盾するものではない。ポルトガルの宣敎師はポルトガル商人と一體となつて日本に於て活動したのである。貿易を主たる目的としてわが國に渡來したオランダ人に至つてはいふまでもない。

わが戰國時代に渡來して奴隷貿易に從事し、長崎を中心として盛んにわが國民を奴隷として海外に輸出したポルトガル商人は正しく「キリスト敎徒」であつた。當時わが國民の奴隷として輸出せられることの多數なるため、アフリカ黑人奴隷の相場に變動を來したとさへいはれてゐる。（長崎市役所編『長崎と海外文化』）

アメリカの黑船襲來後間もなき安政六年（一八五九年）幕府は神奈川、長崎、函館を開港して、アメリカの他にロシヤ、オランダ、フランス、イギリスとの貿易を命じ、翌萬延元年（一八六〇年）には更に横濱を拓いてこれを開港場とした。そして文久二年（一八六二年）には早くもユダヤ人エリアス・サッスーン（Elias Sassoon, 1819—1910）が横濱と長崎にその父デヴィッド・サッスーン（David Sassoon 1792—1864）の經營する商館の支店を設置するために渡來してゐる。エリアスは上海にあつて全支那の經濟を支配するヴィクター・サッスーン（Victor）の祖父である。サッスーン家は元來スペインからサロニカに移住したジョセフ・ソロモン・ソスシャンデを遠祖とし、十六世紀更にバグダッドに移住した。デヴィッド・サッスーンは印度が英領となると共にバグダッドからボンベイに移住し、そこから更に支那に進

出してその子孫と共に大東亞全域にわたる經濟的支配を確立したのであつた。

エリアス・サッスーンの渡來後二年の元治元年（一八六四年）にはイギリス系フリー・メーソン極東結社――それは阿片戰爭前から香港に存在してゐたイギリス系のフリー・メーソンである――がそのロンドン總本部に對して日本に於けるフリー・メーソン創立の請願文を送つて居り、これに基いて翌年（慶應元年）十一月ロンドン總結社登錄番號一〇九二號ヨコハマ・ロッヂの認可狀が橫濱に到着、更にその翌年マソニック・ホールの獻堂式を擧行した。これが現在までに知られてゐる日本に於けるフリー・メーソンの發端である。

（註）大澤鷺山氏著『日本に現存するフリー・メーソンリー』、同書はフリー・メーソンを專ら「イギリス帝國主義のフラクション」であるとし、フリー・メーソンとユダヤ人との關係を否定してゐるが、それは誤謬である。勿論、近世自由主義の世界的發展の中心勢力がイギリス帝國であり、ユダヤ的フリー・メーソンがこの線に沿うて大きな發展をなしたことは云ふまでもないことである。

アメリカ・ユダヤ人としてはじめて日本に渡來したものは、ペリー來訪直後の一八七〇年

はじめ、横濱に於て『ジャパン・エキスプレス』といふ日本最初の英字新聞を發行したR・シヨイヤーである。アメリカ、イギリスのユダヤ人は主として横濱を中心として東京、長崎等に居住し、シベリヤ、支那、印度等の貿易に從事してゐた。わが國に來訪した英、米以外の諸國人にもユダヤ人が存在してゐたことは云ふまでもあるまい。

明治十六年（一八八三年）二月十七日、アメリカ南區系フリー・メーソン（The Ancient and Accepted Scottish Rite of Freemasonry of the Southern Jurisdiction of the United States of America）の日本ロッヂが横濱に設置せられた（同上書）。これはスコットランド系のフリー・メーソンで矢張りイギリス系であるが、獨立戰爭によつて生れたアメリカ合衆國が依然としてアングロサクソンの支配下にあることを思へば、イギリス系のユダヤ・フリー・メーソンがアメリカでも重要な役割を演じたであらうことは容易に理解されるところである。

一八八〇年代の長崎では主としてイギリス、アメリカ、ロシヤ系ユダヤ人が貿易に從事し、その
ユダヤ禮拜堂や共同墓地を作つて小さい乍らも一つのユダヤ共同社會を形成してゐた。その

後わが國貿易の中心地が橫濱、神戸に移ると共にユダヤ人活動の中心地も亦この兩地に移動した。橫濱ではアメリカ・ユダヤ人の聯合配給委員會支部が設置され、一九一七年のロシヤ革命によるロシヤ系ユダヤ避難民救助のために旺んに活動した。

一九二六年にはわが國に約二千人のユダヤ人が居住してゐた。一九三一年には本州だけで約五百人餘がゐたが、そのうち約三百人は橫濱に、約二百人が神戸にゐた。その他の少數が主として東京にゐた。一九四一年のはじめには約一千人位のユダヤ人が存在してゐたと推定されてゐる。一九三一年末、滿洲事變において奉天が陷落すると共に約一千人のユダヤ人がわが國の影響下に這入り、一九三二年ハルビン占領と同時に更に一萬三千人のユダヤ人が加はつた("The Jews in East Asia" by Albert Darry, "Asia" Sept. 1936.)。彼等は殆ど白系露人としてのユダヤ人であるが、ハルビンを中心とする極東ユダヤ中央會議の指導下に在つて支那特に上海のユダヤ人とも密接な聯繫を持ち、滿洲國の發展、東亞共榮圈の建設に協力してゐる(勿論これについては充分な檢討と適宜な工作が必要であるが、わが當局としても遺憾なくこれに對處して居られることと思ふ)。これらロシヤ系ユダヤ人はその大部分がアシケナジ

ームの派に屬してゐる。以上のやうな關係から、滿洲事變以來ロシヤ系ユダヤ人のわが國に來訪或は移住するものが極めて多くなつた。加ふるに大東亞戰爭の切迫につれアメリカ、イギリス系ユダヤ人の歸國するものが續出し、ロシヤ系ユダヤ人が完全に日本在留ユダヤ人の中心勢力となつてゐる。特に大東亞戰爭の切迫によつて在留米英人の引揚げが行はれた結果、右の傾向は一層決定的なものになつたのである。

支那のユダヤ人口は一九三五年に合計約二萬と云はれ、そのうち五千五百は上海に居住してゐた。天津のユダヤ人口は約三千五百であつた。一九三九年の春ドイツ系ユダヤ避難民約一萬人が上海に移住した。

シベリヤを除いて印度、ビルマ、印度支那を加へ、東部アジア全體で約五萬五千人のユダヤ人が存在する。

第三節　支那事變とアメリカ・ユダヤ人

蔣政權の背後に英・米・ソ聯の對日攻勢の魔手が動いてゐたことは早くから看取されてゐたところであるが、それは同時にこれら諸國に於けるユダヤ國際財閥の對日共同戰線でもあつたのである。彼等は支那事變の背後の抗日勢力であつたが、日本は大東亜戰爭の開始によつて果然これらの諸勢力と正面衝突を演ずるに至つた。ソ聯邦は獨ソ開戰以來その國力の大部分を歐露に傾注することになつたが、しかし、滿洲北邊と支那共產主義の問題はなほ等閑視するを許さぬものがある。

支那に於けるイギリス資本主義の進出は殆どユダヤ財閥によつて支配された。阿片戰爭に於てイギリス軍を指揮し、また長髮賊の平定に大功をたてたユダヤ人ゴールドン將軍は、印度植民地の經濟を支配してゐたサッスーン、カードリー(Kardoory)、アーノルド、ジョセフ、ハードン(Hardoon)等のユダヤ財閥を支那に進出せしめた。第一次世界大戰前にはイギリス系ユダヤ資本は支那全土にわたつてその經濟的收奪の觸手を延ばしてゐた。大戰後日本がイギリスを凌いで對支貿易の第一位を占め、アメリカがこれに對して强力な競爭者となるや、イギリスは同じくアングロサクソンの支配するアメリカの力によつて日本の大陸進出を

牽制して自己の既得權を擁護せんとし、ここに英米資本の對日共同戰線が成立するに至つた。彼等は更に爾餘のヨーロッパ諸國を誘つてヨーロッパの東洋支配を企圖したのであるが、これについては國際ユダヤ財閥が積極的な役割を演じた。

大戰後間もなき一九二〇年十月十五日、列國の對支投資を統制する機關として國際金融資本團（International Finance Consortium）が成立した。その加盟資本團は日本の橫濱正金銀行、フランスの印度支那銀行（Banque de L'Indo-China. ユダヤ系）、イギリスの香港・上海匯豐銀行（Hongkong & Shanghai Banking Corporation. ユダヤ系）及び次のアメリカ金融諸會社である。卽ちＪ・Ｐ・モルガン商會、クーン・ローブ會社、花旗銀行（National City Bank of New York）、リー・ヒギンソン商會、ニューヨーク・チェーズ國立金融會社、ニューヨーク保證信託會社、大陸信託貯蓄銀行がそれである。純ユダヤ系たるクーン・ローブ會社の他、モルガン商會、ニューヨーク・チェーズ國立金融會社その他にも重要なるユダヤ人が背景をなしてゐる。要するにこの國際金融資本團は日本を除く他はすべてユダヤ國際金融資本をその背後に控へてゐるのである。

しかし、支那經濟の內部に實際的に深く喰入つてゐるのは、何と云つても上海に本據を持つイギリス系のサッスーン財閥である。それはサッスーン・バンキング・コーポレーション(Sassoon Banking Corporation)で、E・D・サッスーン會社(E. D. Sassoon & Co. Ltd.)、デヴィッド・サッスーン會社（David Sassoon & Co. Ltd.）を中心に全支にわたつて他數の會社、商館を支配してゐる。その在支總資本額は三十億元と稱せられてゐるが明確ではない。しかし最小限十億元を下ることはないであらうと思はれる。デヴィッド・サッスーンが總支配者であるが、彼はロンドンに居住してゐるので、實際上は支那に於けるサッスーン財團は彼の實弟たるヴィクター・サッスーン（Victor Sassoon）が指導してゐる。サッスーン財閥は蔣政權の建設事業をはじめ香港、シンガポール、印度、南洋その他の銀行取引を支配し、國際取引機關としてアメリカ、イギリスの財團と緊密な聯繫を持つてゐる。

一九三五年十一月、イギリスは支那の全經濟を自己の金融資本によつて支配せんがために經濟特使としてユダヤ人リース・ロスを支那に派遣し、蔣政權の經濟的背景をなす宋子文、孔祥熙等の浙江財閥をして幣制改革を行はせた。即ち、從來支那に於て流通してゐた銀塊を

悉く金と引換へに英米へ輸送し、英米より送り來つた金を保證準備としてアメリカ銀行をして法幣を發行せしめ、金が不足すれば英米が對支借款に應ずることになつたのである。そのために一般民衆並に在支各國銀行は、保有銀を現價六割の比率を以て中央銀行、中國銀行、交通銀行の兌換券と引換へに引渡を要求されたが、上海の日本銀行はこれを拒んだために保有銀の處分に窮して大損害を蒙つた。これに反して、英米銀行並に支那の浙江財閥は、豫め保有銀を賣却して巨利を博した。その蔭には明かに英米ユダヤ財閥の策謀があつたのであつて、サッスーンは事前たる同年七月にアメリカに渡り、ナショナル・シティー・バンクの重役たるユダヤ人エマーソン（Emerson）及び訪支の途にあつたリース・ロスと會見して打合せをやつてゐる。（長谷川泰造氏著『國際秘密力の研究』參照）

幣制改革によつて、支那經濟は完全にユダヤ的英米金融資本の支配に隷從することになつた。

蔣政府は昭和十三年の三中全會に於て尨大なる中國經濟建設五ヶ年計畫を發表したが、それは全支にわたる道路、鐵道、航空、水利、農業、工業等の建設を企圖したものでその資本

は主として英、米、佛、獨及び支那浙江財閥の負擔するものであつた。しかも英、米、佛、獨資本の主たるものは殆どすべてユダヤ財閥の投資にかかるものであつた。

以上の如きが抗日支那の經濟的基調であつた。

中國國民革命の父遜逸仙はハワイのアメリカ・ミッション・スクールで教育を受け、その革命運動に當つては上海、香港を中心に活躍してゐたユダヤ・シオニスト、モーリス・コーヘン（Morriss Cohen）を通じてニューヨークから莫大なる資金を獲得してゐた。コーヘンはクーン・ローブ會社の支配者ポール・ウォーバーグの配下である。因に遜逸仙は在上海ブナイ・ブリスの高級フリー・メーソンである。彼の後繼者たる蔣介石も亦アメリカ、マサチューセッツ州パーゴタ結社のフリー・メーソンである。滿洲事變以來パリーで抗日のために活躍した顧維鈞、王正廷の兩人も亦フリー・メーソンであり、蔣の顧問ドナルド（Donald）はシドニー生れのユダヤ人である。前の駐支イギリス大使ヒューゲッセン（Hugessen）をはじめ、曾てアメリカの支那公使であつたシンプソン（Simpson）、國際聯盟の衞生部長にして支那の衞生顧問となつたライヒマン（Reichman）、一代の富豪たりしイギリス系のエドワー

ド・エズラ（Edward Ezra）の長男で國民政府實業部顧問たるセシル・エズラ（Secil Ezra）等もすべてユダヤ人であつて、彼等の活動はその異れる國籍の背後に於てはすべて一元的な聯繫を持つてゐたのである。

支那に於けるユダヤ人は主として上海、香港、天津等に居住してゐるが、世界的な國際都市上海はその最大の據點となつてゐた。一九三五年上海在住ユダヤ人五千五百名中約半數は、ボンベイ、バグダッド、カイロ、ギリシヤ、イギリス等から移住したものである。彼等はスペインなまりのヘブライ語を話すシェファラデューム派であつて、これが上海のユダヤ人社會を支配してゐた。それに對してアシケナジーム派に屬するユダヤ人は、滿洲事變の勃發によりハルビン、奉天、大連方面から避難して來たものが多い。

支那事變前の上海には約四千四百名のアメリカ人がゐたが、事變勃發後著しくその數を減じて昭和十五年一月には二千四百三十八名となつた。そのうち何程がユダヤ系であつたかは明かでないが、一九三八年十一月十四日の上海『イーヴニング・ポスト』（Evening Post）に掲載されたロベート・ベルコフ（Robert H. Berkov）の一文によれば、アメリカ系ユダ

ヤ人はその數少く、一般ユダヤ人活動分野の外に置かれてゐたといふ。彼等の大部分はヘブライ語を知らぬためにシェファラデューム派の敎會には出席しなかつた。アメリカ系ユダヤ人は一般にアメリカ人として取扱はれ、彼等自身もむしろそれを望んでゐたのであつた。特にアメリカン・クラブに屬するアメリカ系ユダヤ人はアメリカ人の料理店で食事をし、その子弟をアメリカ人學校に入學させる等、殆ど純粹アメリカ人としてのみ交際してゐたと云ふ。「アメリカの大都市に住む極少數のシェファラデューム系ユダヤ人を特異の目を以て見てゐるアメリカ人は、上海に於けるシェファラデューム系ユダヤ人がイスラエル人の世界を支配してゐることを聞いて驚歎するであらう」とベルコフは述べてゐる。

しかし、上海に於けるアメリカ系ユダヤ人が果してそれほどまでに無力であつたか、また彼等がアメリカ市民としてそのユダヤ人たる特性をどの程度まで滅却してゐたかは全く疑問である。上海共同租界工部局の事務總長であつたスターリング・フェッセンデン（Sterling Fessenden）――彼は日本軍の上海占領後發行停止を命ぜられた反日紙『チャイナ・プレス』（China Press）の社長であつた――、及び工部局市參事會議長たりしC・S・フランクリン

（C. S. Franklin）は共にアメリカ系ユダヤ人であつた。

上海の興業界特にアメリカ映畫は殆どユダヤ人の手に握られてゐた。アメリカ・ユダヤ人はアメリカ映畫配給會社や株式取引所に於て活動する者や新聞記者等があり、他の大部分は貿易に從事してゐた。

昭和十一年（一九三六年）十一月二十五日、日・獨・伊防共協定の締結以來英・米を先頭とする世界ユダヤ人の對日態度は急速に惡化し、その結果は必然に蔣政府の對日挑戰激化となつた。かくて翌十二年七月七日の蘆溝橋事件勃發となり、その戰火は忽ち全支に波及して行つたのである。支那事變によつてサッスーン財閥をはじめ歐米諸國の對支投資が蒙つた打擊は莫大なものである。歐米諸國並にその背後のユダヤ財閥が抗日支那援助のために大々的な活動を開始したのは云ふまでもないことである。

英・佛の反日運動に呼應して、アメリカでもルーズヴェルト大統領は「侵略國日本」を怒號し、外交委員長ピットマンは日米國交斷絶をさへ辭せずと言明した。更に財務長官モーゲンソーもアメリカは對支借款に應ずる用意があることを聲明した。歐米人等は彼等特有の經

濟主義的な見地から、日本の經濟的基礎は極めて脆弱であるから二ケ年も戰爭を續ければ國内的な破綻を來すであらうと宣傳した。その宣傳に於て世界の新聞界に重きをなすユダヤ人が大きな役割を演じたことは云ふまでもないことである。勿論それは謀略的宣傳には違ひないが、しかし彼等の多數は實際に右の如きことがあり得べきことであると信じてゐたのである。事變勃發後一年半ばかり經過した頃、ヴィクター・サッスーンはニューヨークに於て、日本國内は經濟的重壓によつて赤化の可能性が增大してゐる、日本の必需物資の七割は英、米、佛が供給してゐるから、三國が共同して對日禁輸を斷行すれば日本は支那から手を引くであらう、と述べたと傳へられてゐる。昭和十三年のアメリカの對日武器禁輸、昭和十五年の日米通商條約廢棄等はすべてかうした認識に基いて行はれたのである。

昭和十三年十一月二十五日、日・獨・伊防共協定締結二周年記念日に當つて新たに日獨文化協定が締結された。その內容は日獨相互の民族原則の承認並に文學、美術、音樂、劇、映畫、ラジオ、スポーツ等の文化運動にわたる廣汎な協力を規定したもので、防共協定の擴大强化を意味したものと云ふことが出來る。因に、第二次世界戰爭に關聯する日獨伊三國の結

合には少くとも二つの重要なる發展の段階があつた。その一は防共協定であつて、これは專ら共產主義に對する防衞のための提携であつた。ところがこの關係は更に發展して、世界に於ける資本主義的舊秩序の牙城たる英・佛・米を克服せんとする協力關係にまで發展した。防共協定が日・獨・伊軍事同盟にまで發展したとき、それはもはや單純なる防共協定ではなくなつたのである。資本主義は共產主義の溫床であり、兩者は本來その歷史的性格を同じうしてゐることが暴露されるに至つたのである。

日獨文化協定の締結は、恰も同月七日に勃發したフォン・ラート事件を契機とするナチス・ドイツの猛烈なるユダヤ人排斥直後のことであつたために、世界ユダヤ人の關心を惹くことが殊に强かつたやうである。またこの年はわが國としてもユダヤ問題が主體的な問題として重大なる意義を持つに至つた年であるから、ユダヤ問題に對する日本の政策は世界ユダヤ人の特別の注意を惹いたのである。卽ち同年三月、獨墺合併によつて尨大なる獨墺系ユダヤ避難民の一部が海陸兩面から滿洲、支那、日本等へ續々と流入して來た。夏頃からはイタリー系ユダヤ人の排ユダヤ政策によつてイタリー系ユダヤ人の避難民もこれに加はつた。十一月のフォン・

ラート事件は更に新しい避難者の高潮を作つた。そのために、事變前には約四千人と推定されてゐた上海のユダヤ人は、昭和十四年末には一六、二五四人の多數に達し、四倍以上に增加したのである。

當時は恰も東亞新秩序の建設が漸くその緒に着かんとしつつあつた折柄で、大陸の治安については幾多困難な問題が山積してゐたので、特殊の民族的性格を持つ流浪無宿のユダヤ人がかくも多數わが警備區域に流入し來ることは、一般治安の上から云つてもまた軍事的見地から見ても極めて重大な問題でなければならなかつた。わが國がユダヤ避難民の東亞大陸移住に對して若干の條件を附したのは寧ろ當然のことと云はなければならぬ。

以上のやうな事情を背景として締結された日獨文化協定に關し、ユダヤ人が日本に對して猜疑の念を抱き、種々の宣傳策謀を巡らしたことは云ふまでもないことである。アメリカ、上海等のユダヤ系諸新聞は、日獨文化協定によつて日本は獨伊に倣つて排ユダヤ政策を採用するに至つたとか、日本はユダヤ避難民の滿洲、支那移住を禁止したとか、甚だしきは大連に於てユダヤ人虐殺が行はれたなどと宣傳した。合衆國ではフォン・ラート事件以來ドイツ

商品に對するボイコットが行はれてゐたが、それは更に日本商品に波及しまた日貨排斥まで行はれた。アメリカ・ユダヤ人がその背後で活動してゐたことは勿論であるが、彼等はかくの如き反日運動を煽動する反面に於て、日本は明治維新以來人種平等の立場を採用した國だから日獨文化協定はその傳統的方策を變へるものではないとの見解を公表して巧みに日本懷柔の手段を講じた。しかし彼等の反日的傾向は益々强化する一方であつた。昭和十三年末にはアメリカのモーゲンソー藏相は二千五百萬ドルの對支借款を發表し、これと前後してイギリスも亦一千萬ポンドの對支クレディットを設定した。

日本軍の打續く戰捷によつて支那に最大の利權を擁するサッスーン財閥は動搖した。昭和十五年二月二十六日の上海諸新聞によれば、當時アメリカ各地を旅行中であつたヴィクター・サッスーンは、ニューヨークに於ける公開の席上で東亞問題に言及し「日支戰爭による日本經濟力の消耗は豫想以上であつて……今やアメリカは正に日本に對して生殺與奪の權を握つてゐる」と述べ、アメリカの對日攻勢を煽揚してゐる。彼はイギリスの貴族に列せられイギリス人として活動してゐるが、それは恐らく大英帝國が彼の資產と地位とを庇護し得る限り

に於てであつて、イギリスが支那に於ける實力を喪失すれば或はそのユダヤ人の本性を暴露して英を米に乘りかへる用意をしてゐるかも知れぬ。サッスーンは曾てインドに本據を有してゐたが、インドの國民運動の擡頭とイギリス政府の租税增徵を忌避して支那へ移轉したのであるが、日本の大陸進出と共に今度はアメリカ大陸、特に南米にその據を移すことを計畫してゐるのである。

フランスの敗亡によつて大英帝國が孤城落日の觀を呈しつつあるとき、ユダヤ的アメリカがこれに代つて世界自由主義の最後の牙城と化しつつあるのである。

アメリカ・ユダヤ人問題　完

昭和十七年八月廿五日　初版印刷
昭和十七年八月卅一日　初版發行
【三〇〇〇部】

アメリカ・ユダヤ人問題
定價 三 圓

著者　神谷茂
大森區田園調布二ノ八三六
發行者　小林五郎
東京市麹町區飯田町一ノ二二
印刷者　兼平小治
東京市麹町區飯田町一ノ二二
印刷所　兼平印刷所

檢印

(出文協承認あ170303號)

東京市芝區琴平町三七　喜多ビル
發行所　國民評論社
電話芝(43)一六二五番
振替口座東京七三三五四番
文協會員番號一一〇〇六八

配給元　東京市神田區淡路町二ノ九　日本出版配給株式會社

(東東 968)

森本忠著

神風連のこころ

B6判三三三頁　定價二・二〇（送料二〇）

神風連の地、熊本に育つた著者は、神風連が偏狹頑冥の暴擧として巷間喧傳されてゐる現狀に痛憤を感じ、秋霜烈日の鋭き鋒致を以て神風連の思想的意義を闡明し、この中に尊王攘夷の血脈を探り求めた。

【内容】 第一部　神風連論　神風連論　神風連の歌　神風連の墓を覓めて　石原醜男先生　神風連の孫　或る遺族　第二部　明治の精神　明治人の精神　官僚主義と在野精神　匹夫の心　明治時代の尊攘文學　儀禮精神　第三部　新しき構想　新しき國學の構想　愛國文學　國體は文學を孕む　轉向の問題　文學精神の終焉　臣民と臣民文學　精神的貴族としての文藝人　古典への道　和歌について　和歌の本態　日本語のために　國語整理の思想　末期の哀歌　文藝雜感